

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	全学年	2 単位	必修
担当教員			
花尻 奈緒子			
	演習		
添付ファイル			

ディプロマ・ポリシー	<p>大学DP</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 創造性豊かな人間性と優れた専門性を身につけた学生 <input type="checkbox"/> 2. 実社会で活躍できる知的・人間的資質を身につけた学生 <input type="checkbox"/> 3. 地域社会を主体的に担う態度を身につけた学生 <input checked="" type="checkbox"/> 4. 国際社会に対する理解とコミュニケーション能力や情報社会に対応できる能力を身につけた学生 <p>法経科第1部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 法律・政治・経済・経営など社会科学の基幹分野に関する基本的な知識を修得し、最新の学問的到達についても一定の理解をもっている。 <input type="checkbox"/> 2. 現代社会の諸問題について、専門的知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 <input checked="" type="checkbox"/> 3. 修得した学識を職業生活上の実践的課題に適用することができる。 <input type="checkbox"/> 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 <input type="checkbox"/> 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>法経科第2部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 社会科学について広く基礎的な素養を身につけている。 <input type="checkbox"/> 2. 現代社会の諸問題について、学修した知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 <input checked="" type="checkbox"/> 3. 多様な目的意識を持つ幅広い年齢層の学生がともに学生生活を送ることを通じて、豊かな人間関係を構築できるコミュニケーション能力を身につけている。 <input type="checkbox"/> 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 <input type="checkbox"/> 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>食物栄養学科食物栄養学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 栄養士として必要な食に関する幅広い専門知識と技能を有している。 <input type="checkbox"/> 2. 食と健康に関する様々な課題に対して、科学的根拠に基づいた多面的・総合的な理解及び判断ができる。 <input checked="" type="checkbox"/> 3. 豊かな教養、高い倫理観、優れたコミュニケーション力を備え、栄養士として適切な栄養管理・指導を実践できる。 <input type="checkbox"/> 4. 習得した専門知識と技能を基に、地域社会と連携して食と健康の分野で主体的に活躍できる能力を備えている。 <p>生活科学科生活科学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 「いのち」と「暮らし」に関わるニーズが多様化する社会にあって、それらについての基礎的な教養を身につけている。 <input type="checkbox"/> 2. 生活福祉・心理コースにあっては、社会福祉学と心理学を総合した視点に立って、社会や人間に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 <input type="checkbox"/> 3. 居住環境コースにあっては、住生活や環境という視点に立って、生活環境に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 <input checked="" type="checkbox"/> 4. 高い公共性と倫理性を備え、地域や社会に主体的、積極的に貢献していこうとする態度が身につけている。 <p>※■が該当項目</p>
------------	--

授業概要/授業目的	中国語は中国以外にもアジアの各国・地域で公用語とされ、また第二外国語としても世界中に学習者を持つ言語です。この授業では、中国語の発音方法を習得するほか、基礎的な文法・単語、中国語の背景にある文化や社会についても学びます。
授業計画	<p>1 ガイダンス・声調</p> <p>2 単母音と複母音</p> <p>3 子音・鼻母音</p>

	4	軽声・声調の変化
	5	アール化・人称代名詞
	6	「是」述語文
	7	名前の言い方・答え方
	8	動詞述語文
	9	疑問詞疑問文
	10	副詞「也」・省略疑問文
	11	指示詞・助詞「的」
	12	副詞「都」・語気助詞
	13	数字・所有を表す「有」・程度副詞
	14	形容詞述語文
	15	前期の総復習
	16	前期の復習
	17	年齢の言い方とたずね方・量詞
	18	数をたずねる疑問詞
	19	比較の表現・3桁以上の数字の言い方
	20	中国の通貨・値段のたずね方
	21	年月日と曜日・時刻の表現
	22	助動詞「想」・連動文
	23	方位詞・存在文
	24	前置詞①・反復疑問文
	25	完了形
	26	文末につける「了」・前置詞②
	27	助動詞②・助動詞③
	28	二重目的語をとる動詞
	29	進行形・動詞「～が好きだ」
	30	後期の総復習
到達目標	中国語で簡単な文を作文し、かつ正しい字で表記できるようになり、単純な文を聞いて意味を理解できるようになることを目標とします。	
予習内容/復習内容	予習：教科書の次回に学習する部分を読んてくる。 復習：教科書付属問題を使用し知識を確認する。	
教科書	『シンプルチャイニーズ 北京文法篇』（朝日出版社）	

成績評価	出席時の取り組みの姿勢50%、前・後期の期末試験50%で成績評価を行います。
実務経験	なし
その他特記事項	予習復習を欠かさずに行うこと。

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	全学年	2 単位	必修
担当教員			
今本 幸平			
	演習		
添付ファイル			

ディプロマ・ポリシー	<p>大学DP</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 創造性豊かな人間性と優れた専門性を身につけた学生 <input type="checkbox"/> 2. 実社会で活躍できる知的・人間的資質を身につけた学生 <input type="checkbox"/> 3. 地域社会を主体的に担う態度を身につけた学生 <input checked="" type="checkbox"/> 4. 国際社会に対する理解とコミュニケーション能力や情報社会に対応できる能力を身につけた学生 <p>法経科第1部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 法律・政治・経済・経営など社会科学の基幹分野に関する基本的な知識を修得し、最新の学問的到達についても一定の理解をもっている。 <input type="checkbox"/> 2. 現代社会の諸問題について、専門的知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 <input checked="" type="checkbox"/> 3. 修得した学識を職業生活上の実践的課題に適用することができる。 <input type="checkbox"/> 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 <input type="checkbox"/> 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>法経科第2部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 社会科学について広く基礎的な素養を身につけている。 <input type="checkbox"/> 2. 現代社会の諸問題について、学修した知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 <input checked="" type="checkbox"/> 3. 多様な目的意識を持つ幅広い年齢層の学生がともに学生生活を送ることを通じて、豊かな人間関係を構築できるコミュニケーション能力を身につけている。 <input type="checkbox"/> 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 <input type="checkbox"/> 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>食物栄養学科食物栄養学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 栄養士として必要な食に関する幅広い専門知識と技能を有している。 <input type="checkbox"/> 2. 食と健康に関する様々な課題に対して、科学的根拠に基づいた多面的・総合的な理解及び判断ができる。 <input checked="" type="checkbox"/> 3. 豊かな教養、高い倫理観、優れたコミュニケーション力を備え、栄養士として適切な栄養管理・指導を実践できる。 <input type="checkbox"/> 4. 習得した専門知識と技能を基に、地域社会と連携して食と健康の分野で主体的に活躍できる能力を備えている。 <p>生活科学科生活科学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 「いのち」と「暮らし」に関わるニーズが多様化する社会にあって、それらについての基礎的な教養を身につけている。 <input type="checkbox"/> 2. 生活福祉・心理コースにあっては、社会福祉学と心理学を総合した視点に立って、社会や人間に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 <input type="checkbox"/> 3. 居住環境コースにあっては、住生活や環境という視点に立って、生活環境に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 <input checked="" type="checkbox"/> 4. 高い公共性と倫理性を備え、地域や社会に主体的、積極的に貢献していこうとする態度が身につけている。 <p>※■が該当項目</p>
------------	--

授業概要/授業目的	初めてドイツ語を学習する人のための科目です。文字（アルファベット）、単語の読み方から始まり、簡単な文の組み立て方や読解を学びます。 教員が文法等の説明をした後、自分で練習問題を解き、答えを口頭で発表したり音読の練習をすることで、文法と発音を身につけます。板書をノートに書き写すだけという受け身の姿勢ではなく、説明に基づいて自分でやってみて、分からないことは自ら調べたり、質問したりするという、能動的な受講態度が必要です。
授業計画	<p>1 ガイダンス、アルファベットの読み方</p> <p>2 アルファベットの読み方、単語の読み方</p>

	3	単語の読み方（あいさつ、数字など）
	4	第1課 文の作り方（動詞について）
	5	第1課 重要な動詞、語順の原則
	6	第1課 練習問題、会話文読解（出会いと自己紹介）
	7	第2課 名詞について（名詞の性別）
	8	第2課 名詞の「格」について
	9	第2課 重要な動詞②
	10	第2課 練習問題、会話文読解（家族について尋ねる）
	11	復習、中間テスト
	12	第3課 不規則動詞
	13	第3課 不規則動詞の練習問題、命令形
	14	第3課 練習問題、会話文読解（明日の予定を尋ねる）
	15	前期の復習
	16	前期の復習
	17	第4課 定冠詞の仲間
	18	第4課 練習問題
	19	第4課 不定冠詞の仲間
	20	第4課 練習問題、会話文読解（買い物に行く1）
	21	第5課 名詞の複数形
	22	第5課 人称代名詞
	23	第5課 練習問題、会話文読解（買い物に行く2）
	24	復習、中間テスト
	25	第6課 前置詞の使い方
	26	第6課 練習問題
	27	第6課 練習問題、会話文読解（週末の予定を尋ねる）
	28	第8課 話法の助動詞
	29	第8課 練習問題
	30	総復習
到達目標	①ドイツ語の単語や簡単な文（ドイツ語検定試験5級程度）を音読できる。 ②簡単なドイツ語の文（ドイツ語検定試験5級程度）を理解し、自分でも作ることができる。	
予習内容/復習内容	予習：学習している「課」に出てくる単語の意味を辞書で調べ、音読する。 復習：授業で出てきた文を音読する。学習した個所の練習問題（宿題）を解き、音読する。	

教科書	①『PANORAMA Deutsch (パノラマ 初級ドイツ語ゼミナール)』、白水社 ②独和辞典 (4月中は使用しない。詳細は初回講義で説明) ※5月以降は必ず①②の両方を持参すること。
成績評価	前期試験と後期試験の点数 (各50%)。授業中に行う小テスト、中間テスト等の点数は参考程度 (マイナスの評価材料としては使用しない)。 前・後期とも10回以上講義に出席しないと評価対象外となる (遅刻・早退は0.5回の出席とみなす)。
実務経験	
その他特記事項	例えば野球ができるようになりたいければ、ルールを教わるだけでなく、実際にボールを投げたりバットを振ったりしなければできるようにならないのと同じで、外国語も説明を聴くだけでなく、自分で発音したり、文を書いたりしてみなくては身につけません。その時に、間違えることを気にする必要はありません。失敗と修正を繰り返しながら学ぶ、というつもりで取り組んでください。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	全学年	2 単位	必修
担当教員			
井出 勉			
	演習		
添付ファイル			

ディプロマ・ポリシー	<p>大学DP</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 創造性豊かな人間性と優れた専門性を身につけた学生 <input type="checkbox"/> 2. 実社会で活躍できる知的・人間的資質を身につけた学生 <input type="checkbox"/> 3. 地域社会を主体的に担う態度を身につけた学生 <input checked="" type="checkbox"/> 4. 国際社会に対する理解とコミュニケーション能力や情報社会に対応できる能力を身につけた学生 <p>法経科第1部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 法律・政治・経済・経営など社会科学の基幹分野に関する基本的な知識を修得し、最新の学問的到達についても一定の理解をもっている。 <input type="checkbox"/> 2. 現代社会の諸問題について、専門的知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 <input checked="" type="checkbox"/> 3. 修得した学識を職業生活上の実践的課題に適用することができる。 <input type="checkbox"/> 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 <input type="checkbox"/> 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>法経科第2部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 社会科学について広く基礎的な素養を身につけている。 <input type="checkbox"/> 2. 現代社会の諸問題について、学修した知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 <input checked="" type="checkbox"/> 3. 多様な目的意識を持つ幅広い年齢層の学生がともに学生生活を送ることを通じて、豊かな人間関係を構築できるコミュニケーション能力を身につけている。 <input type="checkbox"/> 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 <input type="checkbox"/> 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>食物栄養学科食物栄養学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 栄養士として必要な食に関する幅広い専門知識と技能を有している。 <input type="checkbox"/> 2. 食と健康に関する様々な課題に対して、科学的根拠に基づいた多面的・総合的な理解及び判断ができる。 <input checked="" type="checkbox"/> 3. 豊かな教養、高い倫理観、優れたコミュニケーション力を備え、栄養士として適切な栄養管理・指導を実践できる。 <input type="checkbox"/> 4. 習得した専門知識と技能を基に、地域社会と連携して食と健康の分野で主体的に活躍できる能力を備えている。 <p>生活科学学科生活科学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 「いのち」と「暮らし」に関わるニーズが多様化する社会にあって、それらについての基礎的な教養を身につけている。 <input type="checkbox"/> 2. 生活福祉・心理コースにあっては、社会福祉学と心理学を総合した視点に立って、社会や人間に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 <input type="checkbox"/> 3. 居住環境コースにあっては、住生活や環境という視点に立って、生活環境に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 <input checked="" type="checkbox"/> 4. 高い公共性と倫理性を備え、地域や社会に主体的、積極的に貢献していこうとする態度が身につけている。 <p>※■が該当項目</p>
------------	---

授業概要/授業目的	フランス語の発音にまず慣れてもらうよう十分に練習します。フランス語は思ったより日本語の中に取り入れられていることがわかり身近に感じられるはず。実際のコミュニケーションにも対応できる会話文を通して、フランスの文化も紹介します。また、旅行でも役に立つ日常会話を習得することで、特に仏検5級の聞き取り問題にも対応できるようになってもらうことを目的とする。
授業計画	1 授業の進め方、フランスの紹介・発音 2 綴り字の読み方・出会ったときの挨拶

3	発音練習・別れの挨拶
4	自己紹介の仕方
5	名詞の性と数・不定冠詞
6	形容詞の性と数
7	特殊な変化の形容詞・定冠詞
8	基本動詞の活用
9	3通りの疑問文の作り方
10	指示代名詞・～が好き（大好き）
11	否定文
12	動詞～を持つとその慣用表現
13	疑問形容詞
14	動詞～をするとその慣用表現
15	前期の総括
16	数字（特に1～20）と年齢
17	部分冠詞
18	飲み物：カフェでの注文・精算の仕方
19	食べ物：レストランでの注文・精算の仕方*仏検5級受講希望者がいる場合：仏検対策①
20	～に行く・～から来た仏検対策②
21	所有形容詞・人称代名詞強勢形
22	比較級
23	命令形
24	曜日と日付の表記の仕方
25	天候・時刻
26	近接未来・近接過去
27	過去分詞の作り方
28	複合過去（助動詞avoir）
29	複合過去（助動詞être）
30	後期の総括
到達目標	①仏検5級合格レベルの初級文法や、簡単な日常的コミュニケーションを取れるようになること。 ②フランス語を学ぶことを通して、アメリカ文化とは違った、ヨーロッパの異文化を分析・解釈できるようになること。
予習内容/復習内容	予習：配布した講義資料に基づき、教科書の音声データをダウンロードして聞いたりしておくこと。 復習：前回の講義ノートなどに目を通し、疑問点などを明らかにしておくこと。

	音声データも繰り返し聞き、自宅でも発音練習を各自でやっておくこと。
教科書	藤田裕二『パリのクール・ジャパン』朝日出版社
成績評価	平常点（積極的な学習態度を評価する）30%、試験（中間・期末）70% 年間10回を超える欠席をした場合、評価の対象外とします。
実務経験	
その他特記事項	辞書・参考文献については、第1回の講義や講義中に随時紹介する。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	全学年	2単位	選択
担当教員			
Jon Richards			
	演習		
添付ファイル			

ディプロマ・ポリシー	<p>大学DP</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 創造性豊かな人間性と優れた専門性を身につけた学生 <input type="checkbox"/> 2. 実社会で活躍できる知的・人間的資質を身につけた学生 <input type="checkbox"/> 3. 地域社会を主体的に担う態度を身につけた学生 <input checked="" type="checkbox"/> 4. 国際社会に対する理解とコミュニケーション能力や情報社会に対応できる能力を身につけた学生 <p>法経科第1部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 法律・政治・経済・経営など社会科学の基幹分野に関する基本的な知識を修得し、最新の学問的到達についても一定の理解をもっている。 <input type="checkbox"/> 2. 現代社会の諸問題について、専門的知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 <input checked="" type="checkbox"/> 3. 修得した学識を職業生活上の実践的課題に適用することができる。 <input type="checkbox"/> 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 <input type="checkbox"/> 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>法経科第2部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 社会科学について広く基礎的な素養を身につけている。 <input type="checkbox"/> 2. 現代社会の諸問題について、学修した知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 <input checked="" type="checkbox"/> 3. 多様な目的意識を持つ幅広い年齢層の学生がともに学生生活を送ることを通じて、豊かな人間関係を構築できるコミュニケーション能力を身につけている。 <input type="checkbox"/> 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 <input type="checkbox"/> 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>食物栄養学科食物栄養学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 栄養士として必要な食に関する幅広い専門知識と技能を有している。 <input type="checkbox"/> 2. 食と健康に関する様々な課題に対して、科学的根拠に基づいた多面的・総合的な理解及び判断ができる。 <input checked="" type="checkbox"/> 3. 豊かな教養、高い倫理観、優れたコミュニケーション力を備え、栄養士として適切な栄養管理・指導を実践できる。 <input type="checkbox"/> 4. 習得した専門知識と技能を基に、地域社会と連携して食と健康の分野で主体的に活躍できる能力を備えている。 <p>生活科学科生活科学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 「いのち」と「暮らし」に関わるニーズが多様化する社会にあって、それらについての基礎的な教養を身につけている。 <input type="checkbox"/> 2. 生活福祉・心理コースにあっては、社会福祉学と心理学を総合した視点に立って、社会や人間に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 <input type="checkbox"/> 3. 居住環境コースにあっては、住生活や環境という視点に立って、生活環境に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 <input checked="" type="checkbox"/> 4. 高い公共性と倫理性を備え、地域や社会に主体的、積極的に貢献していこうとする態度が身につけている。 <p>※■が該当項目</p>
------------	--

授業概要/授業目的	<p>This course is designed for beginner to low-intermediate students and will focus on spoken English. The goal of this course is to give students the opportunity to challenge their English ability in a positive environment while also building upon the fundamental skills of reading, hearing, and speaking. Basic grammar will be taught and reviewed over the duration of this course.</p> <p>Both individual and group projects will be assigned in this course.</p> <p>As much as possible students are expected to speak only English in this course</p>
授業計画	

1	Introductions and orientation
2	Assessment of Students Abilities
3	Unit 1 Hello Everybody
4	Unit 1 Hello Everybody
5	Unit 2 Meeting people
6	Unit 2 Meeting people
7	Unit 3 The world of work
8	Unit 3 The world of work
9	Unit 4 Take it easy!
10	Unit 4 Take it easy!
11	Unit 5 Where do you live?
12	Unit 5 Where do you live?
13	Unit 6 Can you speak English?
14	Unit 6 Can you speak English?
15	End of first semester test
16	Unit 7 Then and now
17	Unit 7 Then and now
18	Unit 8 A date to remember
19	Unit 8 A date to remember
20	Unit 9 Food you like!
21	Unit 9 Food you like!
22	Unit 10 Looking Good!
23	Unit 10 Looking Good!
24	Unit 11 Life is an adventure
25	Unit 11 Life is an adventure
26	Unit 12 Have you ever?
27	Unit 12 Have you ever?
28	This day is reserved for unfinished work in the textbook.
29	This day is reserved for unfinished work in the textbook.
30	End of second semester test

到達目標	My goal is to encourage students to develop their communication skills and to gain the confidence necessary to maintain an intermediate level of communication in English.
予習内容/復習内容	In this class students will be taught grammatical patterns as well as conversational terminology. Students will be expected to use these language points in both written and interpersonal activities. During each class students will work in pairs and small groups to communicate in English.
教科書	American Headway 1 (3rd edition. ISBN 978-0-19-472565-1) By Riz and John Soars (Oxford University Press)
成績評価	Homework -50% Mid Term Exam - 20% Final Exam - 30%
実務経験	
その他特記事項	It is my experience that an active, positive atmosphere is necessary for learning to speak a new language. Students are expected to maintain a supportive atmosphere so that everyone may advance. Mistakes during class are not to be feared as they are part of the learning process.

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	全学年	2 単位	選択
担当教員			
村井 美代子			
	演習		
添付ファイル			

ディプロマ・ポリシー	<p>大学DP</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 創造性豊かな人間性と優れた専門性を身につけた学生 <input type="checkbox"/> 2. 実社会で活躍できる知的・人間的資質を身につけた学生 <input type="checkbox"/> 3. 地域社会を主体的に担う態度を身につけた学生 <input checked="" type="checkbox"/> 4. 国際社会に対する理解とコミュニケーション能力や情報社会に対応できる能力を身につけた学生 <p>法経科第1部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 法律・政治・経済・経営など社会科学の基幹分野に関する基本的な知識を修得し、最新の学問的到達についても一定の理解をもっている。 <input type="checkbox"/> 2. 現代社会の諸問題について、専門的知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 <input checked="" type="checkbox"/> 3. 修得した学識を職業生活上の実践的課題に適用することができる。 <input type="checkbox"/> 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 <input type="checkbox"/> 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>法経科第2部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 社会科学について広く基礎的な素養を身につけている。 <input type="checkbox"/> 2. 現代社会の諸問題について、学修した知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 <input checked="" type="checkbox"/> 3. 多様な目的意識を持つ幅広い年齢層の学生がともに学生生活を送ることを通じて、豊かな人間関係を構築できるコミュニケーション能力を身につけている。 <input type="checkbox"/> 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 <input type="checkbox"/> 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>食物栄養学科食物栄養学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 栄養士として必要な食に関する幅広い専門知識と技能を有している。 <input type="checkbox"/> 2. 食と健康に関する様々な課題に対して、科学的根拠に基づいた多面的・総合的な理解及び判断ができる。 <input checked="" type="checkbox"/> 3. 豊かな教養、高い倫理観、優れたコミュニケーション力を備え、栄養士として適切な栄養管理・指導を実践できる。 <input type="checkbox"/> 4. 習得した専門知識と技能を基に、地域社会と連携して食と健康の分野で主体的に活躍できる能力を備えている。 <p>生活科学科生活科学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 「いのち」と「暮らし」に関わるニーズが多様化する社会にあって、それらについての基礎的な教養を身につけている。 <input type="checkbox"/> 2. 生活福祉・心理コースにあっては、社会福祉学と心理学を総合した視点に立って、社会や人間に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 <input type="checkbox"/> 3. 居住環境コースにあっては、住生活や環境という視点に立って、生活環境に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 <input checked="" type="checkbox"/> 4. 高い公共性と倫理性を備え、地域や社会に主体的、積極的に貢献していこうとする態度が身につけている。 <p>※■が該当項目</p>
------------	--

授業概要/授業目的	<p>・科学技術や文化、環境問題など、現代社会の様々な話題を、各ユニット読み切り形式でまとめたテキストを使用する。1つのユニットを2～3回の授業で読了する予定。</p> <p>・1ユニット400語程度のリーディング課題の読解を通して、英文の内容を速く的確に把握できる力を養う。各ユニットには、内容の理解度を問う問題や、語彙に関する問題などが用意されている。課題への取り組みを通して、これまでの英語学習の基礎の上に、英文の内容を正確に把握できる実践的な読解力を身につけることを目的とする。</p>
授業計画	<p>1 オリエンテーション（テキスト・授業の進め方・成績評価などについて）</p> <p>2 Unit 1 Pro Gaming</p>

	3	Unit 1 Pro Gaming
	4	Unit 2 The Blogosphere
	5	Unit 2 The Blogosphere
	6	Unit 3 Organic Food
	7	Unit 3 Organic Food
	8	Unit 4 Franchises
	9	Unit 4 Franchises
	1 0	Unit 5 Character Culture
	1 1	Unit 5 Charcter Culture
	1 2	Unit 6 Language Change
	1 3	Unit 6 Language Change
	1 4	Unit 7 Unlocking Motivation
	1 5	Unit 7 Unlocking Motivation
	1 6	前期定期試験の返却Unit 8 Yellow Dust Storms
	1 7	Unit 8 Yellow Dust Storms
	1 8	Unit 9 The End of Privacy
	1 9	Unit 9 The End of Privacy
	2 0	Unit 10 Going Carbon Neutral
	2 1	Unit 10 Going Carbon Neutral
	2 2	Unit 11 Retro Style
	2 3	Unit 11 Retro Style
	2 4	Unit 12 It pays to be the CEO.
	2 5	Unit 12 It pays to be the CEO.
	2 6	Unit 13 London
	2 7	Unit 13 London
	28	Unit 14 Web 2.0
	2 9	Unit 14 Web 2.0
	3 0	Unit 15 Troubled Stars
到達目標	①400語程度の英文内容を正確に把握できる実践的な読解力をつける。 ②語彙や文法、イディオムに関する知識を確認し、実践で活用できる応用力をつける。	
予習内容/復習内容	予習：テキストに目を通して単語やイディオムの意味を調べ、内容を一定程度理解して出席する。 復習：提出課題がある場合は課題に取り組み、読了したテキスト内容を確認して次回分の予習につなげる。	

教科書	『Reading Pass 3』 (南雲堂)
成績評価	期末試験 (前期と後期に実施) 70% + 平常点 (出席状況、提出課題、学習態度、発言等) 30% 前期と後期それぞれ3分の2以上の出席がない場合は、評価の対象外とする。
実務経験	
その他特記事項	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	全学年	2 単位	選択
担当教員			
伊藤 怜			
	演習		
添付ファイル			

ディプロマ・ポリシー	<p>大学DP</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 創造性豊かな人間性と優れた専門性を身につけた学生 <input type="checkbox"/> 2. 実社会で活躍できる知的・人間的資質を身につけた学生 <input type="checkbox"/> 3. 地域社会を主体的に担う態度を身につけた学生 <input checked="" type="checkbox"/> 4. 国際社会に対する理解とコミュニケーション能力や情報社会に対応できる能力を身につけた学生 <p>法経科第1部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 法律・政治・経済・経営など社会科学の基幹分野に関する基本的な知識を修得し、最新の学問的到達についても一定の理解をもっている。 <input type="checkbox"/> 2. 現代社会の諸問題について、専門的知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 <input checked="" type="checkbox"/> 3. 修得した学識を職業生活上の実践的課題に適用することができる。 <input type="checkbox"/> 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 <input type="checkbox"/> 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>法経科第2部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 社会科学について広く基礎的な素養を身につけている。 <input type="checkbox"/> 2. 現代社会の諸問題について、学修した知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 <input checked="" type="checkbox"/> 3. 多様な目的意識を持つ幅広い年齢層の学生がともに学生生活を送ることを通じて、豊かな人間関係を構築できるコミュニケーション能力を身につけている。 <input type="checkbox"/> 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 <input type="checkbox"/> 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>食物栄養学科食物栄養学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 栄養士として必要な食に関する幅広い専門知識と技能を有している。 <input type="checkbox"/> 2. 食と健康に関する様々な課題に対して、科学的根拠に基づいた多面的・総合的な理解及び判断ができる。 <input checked="" type="checkbox"/> 3. 豊かな教養、高い倫理観、優れたコミュニケーション力を備え、栄養士として適切な栄養管理・指導を実践できる。 <input type="checkbox"/> 4. 習得した専門知識と技能を基に、地域社会と連携して食と健康の分野で主体的に活躍できる能力を備えている。 <p>生活科学学科生活科学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 「いのち」と「暮らし」に関わるニーズが多様化する社会にあって、それらについての基礎的な教養を身につけている。 <input type="checkbox"/> 2. 生活福祉・心理コースにあっては、社会福祉学と心理学を総合した視点に立って、社会や人間に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 <input type="checkbox"/> 3. 居住環境コースにあっては、住生活や環境という視点に立って、生活環境に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 <input checked="" type="checkbox"/> 4. 高い公共性と倫理性を備え、地域や社会に主体的、積極的に貢献していこうとする態度が身につけている。 <p>※■が該当項目</p>
------------	---

授業概要/授業目的	TOEIC受験を意識しつつ、TOEIC形式の（あるいは、それに類似した）リスニング問題やリーディング問題を解いていきます。その際、正解を導き出すために必要となる語彙・文法・語法を基礎から学び、それらを正しく理解することで英語運用能力の向上を目指します。TOEICの問題に準拠した、テーマ別20ユニットの実践的な練習問題を積み重ねることにより、英語の基礎力向上とTOEICの得点アップにつなげます。ユニット毎に確認小テストを貸します。
授業計画	<p>1 授業の説明・TOEIC出題形式の概観</p> <p>2 Unit 1: Shopping</p>

	3	Unit 2: Health
	4	Unit 3: Travel
	5	ここまでの復習
	6	Unit 4: Weather
	7	Unit 5: Communication
	8	Unit 6: Home & Family
	9	ここまでの復習
	10	Unit 7: Requests & Negotiation
	11	Unit 8: Transportation
	12	ここまでの復習
	13	Unit 9: Production & Control
	14	Unit 10: Economy & Management
	15	ここまでの復習
	16	前期の復習・前期期末試験の解説
	17	Unit 11: Office Equipment
	18	Unit 12: Entertainment
	19	Unit 13: Personnel Affairs & Job Hunting
	20	ここまでの復習
	21	Unit 14: Contracts
	22	Unit 15: Shipment & Delivery
	23	Unit 16: Meetings
	24	ここまでの復習
	25	Unit 17: Environment & Energy
	26	Unit 18: Hotels & Restaurants
	27	ここまでの復習
	28	Unit 19: PR & Advertising
	29	Unit 20: Events & Parties
	30	ここまでの復習
到達目標	実践力を身につけ、TOEIC L&R テストで400点以上をとることができる。	
予習内容/復習内容	予習：各ユニットStep 1の単語を確認し、「英語の仕組み」を読んで並び替え問題をやっておく。 復習：授業後に問題をすべて解き直し、次回授業冒頭で行う確認小テストの準備をしておく。	
教科書	STEP-BY-STEP PREP FOR THE TOEIC L&R TEST Basic Course	

	TOEIC L&R TEST ステップ式徹底演習〈初級〉編 (アルク)
成績評価	「前期・後期 期末試験」50% (50点*2回：計100点) + 「小テスト」50% (5点*20回：計100点) 出席状況や授業態度は、成績評価のボーダーライン上にある場合の参考資料とする。
実務経験	
その他特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回出席をとる。前期・後期のどちらかで「欠席5回」を超えた場合、評価の対象外とする。 ・小テストがある授業回に遅刻・欠席した場合、小テストの受験は認めない。 ・授業中の携帯電話その他通信機器の使用は禁じる。

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	全学年	2 単位	選択
担当教員			
花尻 奈緒子			
	演習		
添付ファイル			

ディプロマ・ポリシー	<p>大学DP</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 創造性豊かな人間性と優れた専門性を身につけた学生 <input type="checkbox"/> 2. 実社会で活躍できる知的・人間的資質を身につけた学生 <input type="checkbox"/> 3. 地域社会を主体的に担う態度を身につけた学生 <input checked="" type="checkbox"/> 4. 国際社会に対する理解とコミュニケーション能力や情報社会に対応できる能力を身につけた学生 <p>法経科第1部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 法律・政治・経済・経営など社会科学の基幹分野に関する基本的な知識を修得し、最新の学問的到達についても一定の理解をもっている。 <input type="checkbox"/> 2. 現代社会の諸問題について、専門的知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 <input checked="" type="checkbox"/> 3. 修得した学識を職業生活上の実践的課題に適用することができる。 <input type="checkbox"/> 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 <input type="checkbox"/> 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>法経科第2部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 社会科学について広く基礎的な素養を身につけている。 <input type="checkbox"/> 2. 現代社会の諸問題について、学修した知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 <input checked="" type="checkbox"/> 3. 多様な目的意識を持つ幅広い年齢層の学生がともに学生生活を送ることを通じて、豊かな人間関係を構築できるコミュニケーション能力を身につけている。 <input type="checkbox"/> 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 <input type="checkbox"/> 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>食物栄養学科食物栄養学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 栄養士として必要な食に関する幅広い専門知識と技能を有している。 <input type="checkbox"/> 2. 食と健康に関する様々な課題に対して、科学的根拠に基づいた多面的・総合的な理解及び判断ができる。 <input checked="" type="checkbox"/> 3. 豊かな教養、高い倫理観、優れたコミュニケーション力を備え、栄養士として適切な栄養管理・指導を実践できる。 <input type="checkbox"/> 4. 習得した専門知識と技能を基に、地域社会と連携して食と健康の分野で主体的に活躍できる能力を備えている。 <p>生活科学科生活科学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 「いのち」と「暮らし」に関わるニーズが多様化する社会にあって、それらについての基礎的な教養を身につけている。 <input type="checkbox"/> 2. 生活福祉・心理コースにあっては、社会福祉学と心理学を総合した視点に立って、社会や人間に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 <input type="checkbox"/> 3. 居住環境コースにあっては、住生活や環境という視点に立って、生活環境に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 <input checked="" type="checkbox"/> 4. 高い公共性と倫理性を備え、地域や社会に主体的、積極的に貢献していこうとする態度が身につけている。 <p>※■が該当項目</p>
------------	--

授業概要/授業目的	中国語Ⅰで学習した文法事項を確認しながら、より多彩な中国語の表現を学びます。教科書は初中級レベルのものを使用し、無理なくじっくり進めていきます。リスニング、簡単な会話・音読や自由作文など、中国語を実際に使うトレーニングを行います。また、中国語の背景にある文化や社会についても、引き続き学びます。
授業計画	<p>1 ガイダンス・一年次の復習</p> <p>2 比較文・『～以外に』</p>

3	動詞を使った名詞句・結果補語
4	第1課トレーニング
5	第1課スキット発音練習・本文訳読
6	『～のとき』・方向補語「起来」
7	副詞「才」・動詞「知道」
8	第2課トレーニング
9	第2課スキット発音練習・本文訳読
10	『～したばかり』・「把」構文
11	「因為」・「原来」
12	第3課トレーニング
13	第3課スキット発音練習・本文訳読
14	前置詞「对」・二つの「要」
15	前期の総復習
16	前期の復習・『なぜ』・『～だけれども…だ』
17	第4課トレーニング
18	第4課スキット発音練習・本文訳読
19	『～とは思わなかった』・蓋然性の助動詞「会」
20	『～と思う』・『～だそうだ』
21	第5課トレーニング
22	第5課スキット発音練習・本文訳読
23	『もうすぐ～だ』・『過ごす』
24	動詞「祝」・前置詞「為了」
25	第6課トレーニング
26	第6課スキット発音練習・本文訳読
27	『たとえ～でも』・『～もあれば～もある』
28	「一定要～」・自由作文
29	第7課トレーニング
30	後期の総復習
到達目標	語彙や表現を増やし、中国語を使用した日常的な会話、作文ができるようになることを目標とします。
予習内容/復習内容	予習：教科書の次回に学習する部分を読んてくる。 復習：教科書付属問題を使用し知識を確認する。
教科書	鄭高咏著『音読&会話で深める中国語 中級アイテム15』（朝日出版社）

成績評価	出席時の取り組みの姿勢50%、前・後期の期末試験50%で成績評価を行います。
実務経験	なし
その他特記事項	予習復習を欠かさずに行うこと。 ※「中国語Ⅰ」の単位を取得していることを前提に授業を行いますので、中国語の学習経験が無い方には履修をおすすめしません。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	全学年	2単位	選択
担当教員			
今本 幸平			
	演習		
添付ファイル			

ディプロマ・ポリシー	<p>大学DP</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 創造性豊かな人間性と優れた専門性を身につけた学生 <input type="checkbox"/> 2. 実社会で活躍できる知的・人間的資質を身につけた学生 <input type="checkbox"/> 3. 地域社会を主体的に担う態度を身につけた学生 <input checked="" type="checkbox"/> 4. 国際社会に対する理解とコミュニケーション能力や情報社会に対応できる能力を身につけた学生 <p>法経科第1部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 法律・政治・経済・経営など社会科学の基幹分野に関する基本的な知識を修得し、最新の学問的到達についても一定の理解をもっている。 <input type="checkbox"/> 2. 現代社会の諸問題について、専門的知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 <input checked="" type="checkbox"/> 3. 修得した学識を職業生活上の実践的課題に適用することができる。 <input type="checkbox"/> 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 <input type="checkbox"/> 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>法経科第2部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 社会科学について広く基礎的な素養を身につけている。 <input type="checkbox"/> 2. 現代社会の諸問題について、学修した知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 <input checked="" type="checkbox"/> 3. 多様な目的意識を持つ幅広い年齢層の学生がともに学生生活を送ることを通じて、豊かな人間関係を構築できるコミュニケーション能力を身につけている。 <input type="checkbox"/> 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 <input type="checkbox"/> 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>食物栄養学科食物栄養学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 栄養士として必要な食に関する幅広い専門知識と技能を有している。 <input type="checkbox"/> 2. 食と健康に関する様々な課題に対して、科学的根拠に基づいた多面的・総合的な理解及び判断ができる。 <input checked="" type="checkbox"/> 3. 豊かな教養、高い倫理観、優れたコミュニケーション力を備え、栄養士として適切な栄養管理・指導を実践できる。 <input type="checkbox"/> 4. 習得した専門知識と技能を基に、地域社会と連携して食と健康の分野で主体的に活躍できる能力を備えている。 <p>生活科学科生活科学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 「いのち」と「暮らし」に関わるニーズが多様化する社会にあって、それらについての基礎的な教養を身につけている。 <input type="checkbox"/> 2. 生活福祉・心理コースにあっては、社会福祉学と心理学を総合した視点に立って、社会や人間に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 <input type="checkbox"/> 3. 居住環境コースにあっては、住生活や環境という視点に立って、生活環境に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 <input checked="" type="checkbox"/> 4. 高い公共性と倫理性を備え、地域や社会に主体的、積極的に貢献していこうとする態度が身につけている。 <p>※■が該当項目</p>
------------	--

授業概要/授業目的	「ドイツ語Ⅰ」と同程度のドイツ語学習歴がある方のための科目です。講義で扱う文法事項は「ドイツ語Ⅰ」で扱ったものと重複する部分がありますが、この講義では口頭での表現を中心に学びます。聴き取り、発音、会話表現、読解などの練習を行い、簡単なドイツ語（ドイツ語検定試験5～4級程度）を使った、口頭でのコミュニケーションができるようになることを目指します。
授業計画	<p>1 ガイダンス、発音の復習</p> <p>2 発音の復習、あいさつ</p>

	3	第1課 挨拶、自己紹介の表現
	4	第1課 聞き取り、自己紹介の練習
	5	第1課 読解、文法の確認（動詞の現在人称変化、動詞の位置）
	6	第2課 職業をたずねる／答える表現、数字
	7	第2課 聞き取り、職業、国籍の表現の練習
	8	第2課 読解、文法の確認（sein動詞、接続詞、ja/nein/doch）
	9	第3課 友人を紹介する表現
	10	第3課 聞き取り、友人を紹介する練習
	11	第3課 読解、文法の確認（3人称の現在人称変化、人物を表す形容詞）
	12	第4課 レストランでの注文
	13	第4課 聞き取り、注文、支払いの練習
	14	第4課 読解、文法の確認（定冠詞、不定冠詞、不規則動詞）
	15	前期の復習
	16	第5課 住まい、値段の表現、数字
	17	第5課 聞き取り、数字、値段の表現の練習
	18	第5課 読解、文法の確認（人称代名詞、名詞の複数形）
	19	第6課 家族について話す
	20	第6課 聞き取り、会話表現の練習
	21	第6課 読解、文法の確認（所有冠詞、否定冠詞）
	22	第7課 趣味について話す
	23	第7課 聞き取り、趣味の表現の練習
	24	第7課 読解、文法の確認（不規則動詞、頻度の表現）
	25	第8課 プレゼントをする／探す、数字
	26	第8課 聞き取り、プレゼントの表現の練習
	27	第8課 読解、文法の確認（3格の冠詞）
	28	第9課 予定、規則、願望などについて話す
	29	第9課 聞き取り、予定の決める表現の練習
	30	第9課 読解、文法の確認（助動詞）
到達目標	①初歩的なドイツ語（検定試験5～4級程度）を聴いて理解することができる。 ②初歩的なドイツ語を自ら使用することができる。	
予習内容/復習内容	予習：学習する「課」に出てくる単語の意味を辞書で調べる。教科書の音声を聴き、音読する。 復習：学んだ表現の音読練習をする。市販の参考書や「ドイツ語Ⅰ」で使用した教科書などで文法の復習をする。	

教科書	①『Spitze! 1』（シュピッツェ！ 1）朝日出版社 ②独和辞典（「ドイツ語 I」で使用したものがあれば購入不要）
成績評価	各学期末に出す課題（口頭で行う予定）で成績評価を行う。（前・後期合わせて70%） 普段の授業での参加態度、発言、練習成果（30%） 成績評価を受けるには、前後期ともに10回以上の出席が必要。（遅刻、早退は0.5回分の欠席とみなす。）
実務経験	
その他特記事項	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	全学年	2単位	選択
担当教員			
内田 智秀			
	演習		
添付ファイル			

ディプロマ・ポリシー	<p>大学DP</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 創造性豊かな人間性と優れた専門性を身につけた学生 <input type="checkbox"/> 2. 実社会で活躍できる知的・人間的資質を身につけた学生 <input type="checkbox"/> 3. 地域社会を主体的に担う態度を身につけた学生 <input checked="" type="checkbox"/> 4. 国際社会に対する理解とコミュニケーション能力や情報社会に対応できる能力を身につけた学生 <p>法経科第1部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 法律・政治・経済・経営など社会科学の基幹分野に関する基本的な知識を修得し、最新の学問的到達についても一定の理解をもっている。 <input type="checkbox"/> 2. 現代社会の諸問題について、専門的知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 <input checked="" type="checkbox"/> 3. 修得した学識を職業生活上の実践的課題に適用することができる。 <input type="checkbox"/> 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 <input type="checkbox"/> 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>法経科第2部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 社会科学について広く基礎的な素養を身につけている。 <input type="checkbox"/> 2. 現代社会の諸問題について、学修した知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 <input checked="" type="checkbox"/> 3. 多様な目的意識を持つ幅広い年齢層の学生がともに学生生活を送ることを通じて、豊かな人間関係を構築できるコミュニケーション能力を身につけている。 <input type="checkbox"/> 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 <input type="checkbox"/> 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>食物栄養学科食物栄養学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 栄養士として必要な食に関する幅広い専門知識と技能を有している。 <input type="checkbox"/> 2. 食と健康に関する様々な課題に対して、科学的根拠に基づいた多面的・総合的な理解及び判断ができる。 <input checked="" type="checkbox"/> 3. 豊かな教養、高い倫理観、優れたコミュニケーション力を備え、栄養士として適切な栄養管理・指導を実践できる。 <input type="checkbox"/> 4. 習得した専門知識と技能を基に、地域社会と連携して食と健康の分野で主体的に活躍できる能力を備えている。 <p>生活科学学科生活科学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 「いのち」と「暮らし」に関わるニーズが多様化する社会にあって、それらについての基礎的な教養を身につけている。 <input type="checkbox"/> 2. 生活福祉・心理コースにあっては、社会福祉学と心理学を総合した視点に立って、社会や人間に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 <input type="checkbox"/> 3. 居住環境コースにあっては、住生活や環境という視点に立って、生活環境に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 <input checked="" type="checkbox"/> 4. 高い公共性と倫理性を備え、地域や社会に主体的、積極的に貢献していこうとする態度が身につけている。 <p>※■が該当項目</p>
------------	---

授業概要/授業目的	教科書『Spirale Nouvelle Edition』はフランス語初心者向けの教科書です。最初は「フランス語Ⅰ」で学んだことを、みなさん同士でやり取りしながら復習していきます。「書く」練習よりも「聴く・話す」練習をおこなっていきます。復習がおわったら、必要最低限の文法を学び、フランス語の能力を伸ばしていきます。
授業計画	<p>1 オリエンテーション（授業の進め方・成績評価） Initiation1、数詞1-20</p> <p>2 Initiation2発音の復習</p> <p>3 Unité1, Leçon1職業（1）、職場、日本におけるフランスの存在</p>

4	Unité1, Leçon2職業 (2) 、国籍、言語名
5	Unité1, Leçon3国名、観光名所、フランス語とフランス語圏
6	Unité2, Leçon4食べもの・飲みもの (1) 、場所 (1) 、余暇、スポーツ、現フランスのテレビ・チャンネル
7	Unité2, Leçon5行動 (動詞)
8	Unité2, Leçon6(1)形容詞
9	Unité2, Leçon6(2)比較の表現
10	Unité3, Leçon7(1)数字 (21-100) 、学年、科目、時間割、曜日
11	Unité3, Leçon7(2)計算、現フランスの大学のシステム
12	Unité3, Leçon8物・動物、文房具、フランス人とペット
13	Unité3, Leçon9(1)フランスの観光名所、フランスの地名
14	Unité3, Leçon9(2)日常よく行く場所、場所を示す前置詞
15	前期のまとめ
16	Unité4, Leçon10余暇などにとすること、余暇の過ごし方、略語
17	Unité4, Leçon11余暇 (スポーツ・音楽・ゲーム) 、頻度を表す表現、人々、フランス人とスポーツ
18	Unité4, Leçon12家族、過去にしたこと (1) 、時を示す表現、フランス人と家族
19	Unité5, Leçon13(1)場所 (2) 、時刻の表示、公共機関の営業時間
20	Unité5, Leçon13(2)過去にしたこと (2)
21	Unité5, Leçon14できないこと・すべきこと、外出の目的、電話の応対、フランス人と祭り
22	Unité5, Leçon15余暇や休暇に行く場所と四季、月名と日付、休暇の過ごし方、フランス人の休暇
23	Unité6, Leçon16(1)毎日の行為、1日の時間帯・習慣
24	Unité6, Leçon16(2)順番を表す表現、フランス人の生活リズム
25	Unité6, Leçon17交通手段、交通の拠点、avant…、数字 (2000まで) 、フランス人と交通手段
26	Unité6, Leçon18移動する、列車の席の種類、支払い方法、夏時間について
27	Unité7, Leçon19天候・気温、観光に関する語、パリの観光、フランス人と天気
28	Unité7, Leçon20食べもの、飲みもの (2) 、数量・値段、レストランで、チップについて
29	Unité7, Leçon21方向、トラブルと遺失物、色、フランスの観光
30	後期のまとめ
到達目標	①フランス語 (検定試験 5～4 級程度) を聴いて理解することができる。 ②フランス語で発表や応答ができる。 ③日本語でフランス (フランス語圏の国々) の歴史、社会、文化などが説明できる。
予習内容/復習内容	予習：各課 (Leçon) の音声を聴き読めるようにする。翻訳ソフトなど活用し、文の意味を理解し、答えなどを予測する。

	復習：小テストに備える。具体的には授業で取りあげた音声を聴き直し、練習問題をすべて見直す。動詞の活用があれば覚える。
教科書	CREPIEUX, CALLENS, TAKASE, NEGISHI 『Spirale Nouvelle Edition』 (Hachette)
成績評価	授業での取り組み、小テストを50%、前期・後期の学期末に行う筆記試験を50%として評価します。
実務経験	
その他特記事項	フランス語検定受験のためには別途練習問題に取り組む必要がある。希望者は申し出てください。前後期とも10回以上の出席が必要です（遅刻・早退は減点の対象になる場合もあります）。

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	全学年	1 単位	選択
担当教員			
盛田 健人			
	実習		
添付ファイル			

ディプロマ・ポリシー	<p>大学DP</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 創造性豊かな人間性と優れた専門性を身につけた学生 <input type="checkbox"/> 2. 実社会で活躍できる知的・人間的資質を身につけた学生 <input type="checkbox"/> 3. 地域社会を主体的に担う態度を身につけた学生 <input checked="" type="checkbox"/> 4. 国際社会に対する理解とコミュニケーション能力や情報社会に対応できる能力を身につけた学生 <p>法経科第1部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 法律・政治・経済・経営など社会科学の基幹分野に関する基本的な知識を修得し、最新の学問的到達についても一定の理解をもっている。 <input type="checkbox"/> 2. 現代社会の諸問題について、専門的知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 <input checked="" type="checkbox"/> 3. 修得した学識を職業生活上の実践的課題に適用することができる。 <input type="checkbox"/> 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 <input type="checkbox"/> 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>法経科第2部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 社会科学について広く基礎的な素養を身につけている。 <input type="checkbox"/> 2. 現代社会の諸問題について、学修した知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 <input type="checkbox"/> 3. 多様な目的意識を持つ幅広い年齢層の学生がともに学生生活を送ることを通じて、豊かな人間関係を構築できるコミュニケーション能力を身につけている。 <input checked="" type="checkbox"/> 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 <input type="checkbox"/> 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>食物栄養学科食物栄養学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 栄養士として必要な食に関する幅広い専門知識と技能を有している。 <input type="checkbox"/> 2. 食と健康に関する様々な課題に対して、科学的根拠に基づいた多面的・総合的な理解及び判断ができる。 <input checked="" type="checkbox"/> 3. 豊かな教養、高い倫理観、優れたコミュニケーション力を備え、栄養士として適切な栄養管理・指導を実践できる。 <input type="checkbox"/> 4. 習得した専門知識と技能を基に、地域社会と連携して食と健康の分野で主体的に活躍できる能力を備えている。 <p>生活科学学科生活科学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 「いのち」と「暮らし」に関わるニーズが多様化する社会にあって、それらについての基礎的な教養を身につけている。 <input type="checkbox"/> 2. 生活福祉・心理コースにあっては、社会福祉学と心理学を総合した視点に立って、社会や人間に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 <input type="checkbox"/> 3. 居住環境コースにあっては、住生活や環境という視点に立って、生活環境に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 <input checked="" type="checkbox"/> 4. 高い公共性と倫理性を備え、地域や社会に主体的、積極的に貢献していこうとする態度が身につけている。 <p>※■が該当項目</p>
------------	---

授業概要/授業目的	現在、職場などでコンピュータを利用した書類作成が頻繁に行われている。この実習では、書類作成に頻繁に用いられるMicrosoft社の基本ソフト(Windows)およびオフィスソフト(Word, Excel)を対象として各種課題をこなすことで、コンピュータの基本操作を習得することをめざす。
授業計画	<p>1 導入、コンピュータリテラシー</p> <p>2 コンピュータの基本操作</p> <p>3 Wordの基礎(1)：文書の見た目の整え方</p>

	4	Wordの基礎(2) : 表の使い方
	5	Wordの基礎(3) : 図の使い方
	6	Wordの基礎(4) : レポートとしての体裁の整え方
	7	演習(1) : Wordのまとめ
	8	Excelの基礎(1) : シートの見た目の整え方
	9	Excelの基礎(2) : 数式・関数の使い方
	10	Excelの基礎(3) : グラフの使い方
	11	Excelの基礎(4) : データベースの使い方
	12	演習(2) : Excelのまとめ
	13	WordとExcelの連携
	14	資料を作る際の心構え
	15	演習(3) : 総合演習
到達目標	目的に合わせてWord・Excelを正しく使い分けて資料を作成できる。	
予習内容/復習内容	予習 : 教科書の学習内容の該当箇所に目を通しておくことが望ましい。 復習 : 演習時間中に終わらなかった課題に取り組み理解を深める。	
教科書	『リファレンス動画付き!実践ドリルで学ぶOffice活用術』 noa出版、2019	
成績評価	課題・演習(Wordのまとめ・Excelのまとめ・総合演習)の結果を総合して判定する。配点の比率は、毎回の課題あわせて40%、演習はそれぞれ20%である。なお、課題・演習を期日までに提出しなかった回が、3回以上となった場合は成績評価を不可とする。	
実務経験	なし	
その他特記事項	コンピュータの操作は、本を読んだだけでは修得できない。そのため、この授業では、実習に参加し課題をこなすことに評価の主眼がある。受講する場合は、この点に留意すること。	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期/後期	全学年	1 単位	選択
担当教員			
高瀬 治彦			
	実習		
添付ファイル			

ディプロマ・ポリシー	<p>大学DP</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 創造性豊かな人間性と優れた専門性を身につけた学生 <input type="checkbox"/> 2. 実社会で活躍できる知的・人間的資質を身につけた学生 <input type="checkbox"/> 3. 地域社会を主体的に担う態度を身につけた学生 <input checked="" type="checkbox"/> 4. 国際社会に対する理解とコミュニケーション能力や情報社会に対応できる能力を身につけた学生 <p>法経科第1部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 法律・政治・経済・経営など社会科学の基幹分野に関する基本的な知識を修得し、最新の学問的到達についても一定の理解をもっている。 <input type="checkbox"/> 2. 現代社会の諸問題について、専門的知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 <input checked="" type="checkbox"/> 3. 修得した学識を職業生活上の実践的課題に適用することができる。 <input type="checkbox"/> 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 <input type="checkbox"/> 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>法経科第2部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 社会科学について広く基礎的な素養を身につけている。 <input type="checkbox"/> 2. 現代社会の諸問題について、学修した知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 <input type="checkbox"/> 3. 多様な目的意識を持つ幅広い年齢層の学生がともに学生生活を送ることを通じて、豊かな人間関係を構築できるコミュニケーション能力を身につけている。 <input checked="" type="checkbox"/> 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 <input type="checkbox"/> 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>食物栄養学科食物栄養学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 栄養士として必要な食に関する幅広い専門知識と技能を有している。 <input type="checkbox"/> 2. 食と健康に関する様々な課題に対して、科学的根拠に基づいた多面的・総合的な理解及び判断ができる。 <input checked="" type="checkbox"/> 3. 豊かな教養、高い倫理観、優れたコミュニケーション力を備え、栄養士として適切な栄養管理・指導を実践できる。 <input type="checkbox"/> 4. 習得した専門知識と技能を基に、地域社会と連携して食と健康の分野で主体的に活躍できる能力を備えている。 <p>生活科学科生活科学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 「いのち」と「暮らし」に関わるニーズが多様化する社会にあって、それらについての基礎的な教養を身につけている。 <input type="checkbox"/> 2. 生活福祉・心理コースにあっては、社会福祉学と心理学を総合した視点に立って、社会や人間に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 <input type="checkbox"/> 3. 居住環境コースにあっては、住生活や環境という視点に立って、生活環境に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 <input checked="" type="checkbox"/> 4. 高い公共性と倫理性を備え、地域や社会に主体的、積極的に貢献していこうとする態度が身につけている。 <p>※■が該当項目</p>
------------	--

授業概要/授業目的	現在、職場などでコンピュータを利用した書類作成が頻繁に行われている。この実習では、書類作成に頻繁に用いられるMicrosoft社の基本ソフト(Windows)およびオフィスソフト(Word, Excel)を対象として各種課題をこなすことで、コンピュータの基本操作を習得することをめざす。
授業計画	<p>1 導入, コンピュータリテラシー</p> <p>2 コンピュータの基本操作</p> <p>3 Wordの基礎: 文字の装飾</p>

	4	Wordの基礎：表
	5	Wordの基礎：図
	6	Wordの基礎：文書の書式
	7	演習 Wordのまとめ
	8	Excelの基礎：セルの書式
	9	Excelの基礎：グラフ
	10	Excelの基礎：データベース
	11	Excelの基礎：実務向け機能
	12	演習 Excelのまとめ
	13	WordとExcelの連携
	14	資料を作る際の心構え
	15	総合演習
到達目標	Microsoftのオフィスソフトを用いて，レポート・プレゼンテーション資料等を，作成できるようになる。	
予習内容/復習内容	予習：教科書の関連範囲を事前に読んでおくこと。 復習：実習で取り上げなかった教科書の演習課題に取り組むこと。	
教科書	『実践ドリルで学ぶOffice活用術』 noa出版，2019 ISBN978-4-908434-34-1	
成績評価	成績は，各回の課題・演習(Wordのまとめ・Excelのまとめ・総合演習)の結果を総合して判定する。それぞれ，指示の達成状況(正確さ)・提出までの時間(速さ)を主に評価する。配点の比率は，課題あわせて40点程度，演習はそれぞれ20点程度である。	
実務経験	なし	
その他特記事項	なし	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期/後期	全学年	1 単位	選択
担当教員			
眞田 耕輔			
	実習		
添付ファイル			

ディプロマ・ポリシー	<p>大学DP</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 創造性豊かな人間性と優れた専門性を身につけた学生 <input type="checkbox"/> 2. 実社会で活躍できる知的・人間的資質を身につけた学生 <input type="checkbox"/> 3. 地域社会を主体的に担う態度を身につけた学生 <input checked="" type="checkbox"/> 4. 国際社会に対する理解とコミュニケーション能力や情報社会に対応できる能力を身につけた学生 <p>法経科第1部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 法律・政治・経済・経営など社会科学の基幹分野に関する基本的な知識を修得し、最新の学問的到達についても一定の理解をもっている。 <input type="checkbox"/> 2. 現代社会の諸問題について、専門的知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 <input checked="" type="checkbox"/> 3. 修得した学識を職業生活上の実践的課題に適用することができる。 <input type="checkbox"/> 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 <input type="checkbox"/> 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>法経科第2部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 社会科学について広く基礎的な素養を身につけている。 <input type="checkbox"/> 2. 現代社会の諸問題について、学修した知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 <input type="checkbox"/> 3. 多様な目的意識を持つ幅広い年齢層の学生がともに学生生活を送ることを通じて、豊かな人間関係を構築できるコミュニケーション能力を身につけている。 <input checked="" type="checkbox"/> 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 <input type="checkbox"/> 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>食物栄養学科食物栄養学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 栄養士として必要な食に関する幅広い専門知識と技能を有している。 <input type="checkbox"/> 2. 食と健康に関する様々な課題に対して、科学的根拠に基づいた多面的・総合的な理解及び判断ができる。 <input checked="" type="checkbox"/> 3. 豊かな教養、高い倫理観、優れたコミュニケーション力を備え、栄養士として適切な栄養管理・指導を実践できる。 <input type="checkbox"/> 4. 習得した専門知識と技能を基に、地域社会と連携して食と健康の分野で主体的に活躍できる能力を備えている。 <p>生活科学学科生活科学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 「いのち」と「暮らし」に関わるニーズが多様化する社会にあって、それらについての基礎的な教養を身につけている。 <input type="checkbox"/> 2. 生活福祉・心理コースにあっては、社会福祉学と心理学を総合した視点に立って、社会や人間に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 <input type="checkbox"/> 3. 居住環境コースにあっては、住生活や環境という視点に立って、生活環境に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 <input checked="" type="checkbox"/> 4. 高い公共性と倫理性を備え、地域や社会に主体的、積極的に貢献していこうとする態度が身につけている。 <p>※■が該当項目</p>
------------	---

授業概要/授業目的	現在、コンピュータの操作は必須技術であり、職場等ではコンピュータを利用した書類や資料作成が頻繁に行われている。この実習では、書類作成に頻繁に用いられるMicrosoft社の基本ソフト(Windows)およびオフィスソフト(Word, Excel, PowerPoint)を対象として各種課題をこなすことで、コンピュータの基本操作および情報リテラシーに対する習得することをめざす。
授業計画	<p>1 導入. コンピュータリテラシー</p> <p>2 コンピュータの基本操作</p>

	3	Wordの基礎(1): 基本操作
	4	Wordの基礎(2): 表の作成
	5	Wordの基礎(3): 図の挿入
	6	Wordの基礎(4): Wordを用いたレポート作成
	7	演習 Wordのまとめ
	8	Excelの基礎(1): 基本操作
	9	Excelの基礎(2): 関数の使い方
	10	Excelの基礎(3): 図の作成
	11	Excelの基礎(4): データベース
	12	演習 Excelのまとめ
	13	Excel 演習の復習, Power Point実習(プレゼンテーションスライド作成)
	14	Power Pointを用いたプレゼンテーション演習 (1): 発表 1日程
	15	Power Pointを用いたプレゼンテーション演習 (2): 発表 2日程
到達目標	情報リテラシーおよびコンピュータ基本操作を理解したうえで、Word、Excel、PowerPointの基本ソフトウェアを使用して、資料作成およびプレゼンテーションができること。	
予習内容/復習内容	予習のために教科書を読んでおくこと。毎回の演習課題を取り組みながら講義内容の復習をすること。	
教科書	『実践ドリルで学ぶOffice活用術 2019対応』noa出版、2019 ISBN978-4908434341	
成績評価	成績は、課題・演習(Wordのまとめ・Excelのまとめ・プレゼンテーション実習)の結果を総合して判定する。なお、最終回の講義の時点で課題の未提出が3個以上の場合は成績を不可とする。配点は、word、Excel、プレゼンテーションの3回の演習(各回30%程度)の合計点で評価する。	
実務経験	なし	
その他特記事項	第14回、第15回ではプレゼンテーション演習を行う。第13回で発表用スライドをPower Pointで作成し、第14回、第15回では2週にわたって発表演習と受講者間での発表評価採点を行う。	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	全学年	1 単位	選択
担当教員			
笠 浩一郎			
		実習	
添付ファイル			

ディプロマ・ポリシー	<p>大学DP</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 創造性豊かな人間性と優れた専門性を身につけた学生 <input type="checkbox"/> 2. 実社会で活躍できる知的・人間的資質を身につけた学生 <input type="checkbox"/> 3. 地域社会を主体的に担う態度を身につけた学生 <input checked="" type="checkbox"/> 4. 国際社会に対する理解とコミュニケーション能力や情報社会に対応できる能力を身につけた学生 <p>法経科第1部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 法律・政治・経済・経営など社会科学の基幹分野に関する基本的な知識を修得し、最新の学問的到達についても一定の理解をもっている。 <input type="checkbox"/> 2. 現代社会の諸問題について、専門的知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 <input checked="" type="checkbox"/> 3. 修得した学識を職業生活上の実践的課題に適用することができる。 <input type="checkbox"/> 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 <input type="checkbox"/> 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>法経科第2部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 社会科学について広く基礎的な素養を身につけている。 <input type="checkbox"/> 2. 現代社会の諸問題について、学修した知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 <input type="checkbox"/> 3. 多様な目的意識を持つ幅広い年齢層の学生がともに学生生活を送ることを通じて、豊かな人間関係を構築できるコミュニケーション能力を身につけている。 <input checked="" type="checkbox"/> 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 <input type="checkbox"/> 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>食物栄養学科食物栄養学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 栄養士として必要な食に関する幅広い専門知識と技能を有している。 <input type="checkbox"/> 2. 食と健康に関する様々な課題に対して、科学的根拠に基づいた多面的・総合的な理解及び判断ができる。 <input checked="" type="checkbox"/> 3. 豊かな教養、高い倫理観、優れたコミュニケーション力を備え、栄養士として適切な栄養管理・指導を実践できる。 <input type="checkbox"/> 4. 習得した専門知識と技能を基に、地域社会と連携して食と健康の分野で主体的に活躍できる能力を備えている。 <p>生活科学科生活科学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 「いのち」と「暮らし」に関わるニーズが多様化する社会にあって、それらについての基礎的な教養を身につけている。 <input type="checkbox"/> 2. 生活福祉・心理コースにあっては、社会福祉学と心理学を総合した視点に立って、社会や人間に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 <input type="checkbox"/> 3. 居住環境コースにあっては、住生活や環境という視点に立って、生活環境に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 <input checked="" type="checkbox"/> 4. 高い公共性と倫理性を備え、地域や社会に主体的、積極的に貢献していこうとする態度が身につけている。 <p>※<input checked="" type="checkbox"/>が該当項目</p>
------------	--

授業概要/授業目的	現在、情報をもとに問題解決に取り組む能力が社会で求められている。本講義では、問題解決能力を高めるために必要となる情報の収集、情報の分析、情報の可視化に関する基礎知識、及び、基本操作を習得することを目的とする。講義の前半では、Excelを用いて、データ分析やデータの可視化（表やグラフの作成）を行う。講義の後半では、RESAS（地域経済分析システム）を利用して、情報の収集、分析について学ぶ。
授業計画	<p>1 情報処理演習室の利用方法とコンピュータの基本操作</p> <p>2 Excelの基本操作（データの入力、表の作成、基本的な関数）</p>

	3	Excelの応用1 (統計的な関数、プルダウンメニュー)
	4	Excelの応用2 (情報の可視化、グラフの作成方法)
	5	Excelの応用3 (相関分析、CORREL関数、オープンデータ)
	6	Excelの応用4 (データによる予測、e-Stat)
	7	Excelの応用5 (データベース、クロス集計、ピボットテーブル)
	8	中間課題
	9	RESASの基本操作1 (RESASを用いたデータ収集)
	10	RESASの基本操作2 (RESASを用いたデータ分析)
	11	最終課題の作成1 (最終課題の内容説明、分析の模式図の作成)
	12	最終課題の作成2 (分析の模式図の修正と発表資料の作成)
	13	最終課題の作成3 (発表資料の作成)
	14	最終課題の発表
	15	最終課題の発表と本講義のまとめ
到達目標	問題解決能力で必要となる情報の収集、情報の分析、情報の可視化に関する基礎知識や基本操作を習得することを到達目標とする。	
予習内容/復習内容	授業前に情報処理実習Ⅰの復習などをして予習しておくこと。 毎回の小課題は授業内だけでは終わらないので、授業外でも課題に取り組むこと。	
教科書	適宜資料を配布する。	
成績評価	小課題 (30%)、中間課題 (20%)、最終課題 (50%)	
実務経験	なし	
その他特記事項	パソコン操作に不慣れな人は、予習と復習を積極的に取り組むこと。 情報処理実習Ⅰを履修済みであることが望ましい。	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	全学年	2単位	選択
担当教員			
笠 浩一郎			
		講義	
添付ファイル			

ディプロマ・ポリシー	<p>大学DP</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 創造性豊かな人間性と優れた専門性を身につけた学生 <input type="checkbox"/> 2. 実社会で活躍できる知的・人間的資質を身につけた学生 <input type="checkbox"/> 3. 地域社会を主体的に担う態度を身につけた学生 <input checked="" type="checkbox"/> 4. 国際社会に対する理解とコミュニケーション能力や情報社会に対応できる能力を身につけた学生 <p>法経科第1部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 法律・政治・経済・経営など社会科学の基幹分野に関する基本的な知識を修得し、最新の学問的到達についても一定の理解をもっている。 <input type="checkbox"/> 2. 現代社会の諸問題について、専門的知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 <input type="checkbox"/> 3. 修得した学識を職業生活上の実践的課題に適用することができる。 <input checked="" type="checkbox"/> 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 <input checked="" type="checkbox"/> 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>法経科第2部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 社会科学について広く基礎的な素養を身につけている。 <input type="checkbox"/> 2. 現代社会の諸問題について、学修した知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 <input type="checkbox"/> 3. 多様な目的意識を持つ幅広い年齢層の学生がともに学生生活を送ることを通じて、豊かな人間関係を構築できるコミュニケーション能力を身につけている。 <input checked="" type="checkbox"/> 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 <input type="checkbox"/> 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>食物栄養学科食物栄養学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 栄養士として必要な食に関する幅広い専門知識と技能を有している。 <input type="checkbox"/> 2. 食と健康に関する様々な課題に対して、科学的根拠に基づいた多面的・総合的な理解及び判断ができる。 <input checked="" type="checkbox"/> 3. 豊かな教養、高い倫理観、優れたコミュニケーション力を備え、栄養士として適切な栄養管理・指導を実践できる。 <input type="checkbox"/> 4. 習得した専門知識と技能を基に、地域社会と連携して食と健康の分野で主体的に活躍できる能力を備えている。 <p>生活科学科生活科学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 「いのち」と「暮らし」に関わるニーズが多様化する社会にあって、それらについての基礎的な教養を身につけている。 <input type="checkbox"/> 2. 生活福祉・心理コースにあっては、社会福祉学と心理学を総合した視点に立って、社会や人間に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 <input type="checkbox"/> 3. 居住環境コースにあっては、住生活や環境という視点に立って、生活環境に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 <input checked="" type="checkbox"/> 4. 高い公共性と倫理性を備え、地域や社会に主体的、積極的に貢献していこうとする態度が身につけている。 <p>※<input checked="" type="checkbox"/>が該当項目</p>
------------	---

授業概要/授業目的	現在の情報社会では、インターネットを日常生活で利用することは必要不可欠になっている。加えて、数理・データサイエンス・AIは、今後のデジタル社会の基礎知識として捉えられている。そこで本講義は、インターネット、数理・データサイエンス・AIのリテラシーに関して学ぶことを目的に、以下の二つの内容を扱う。一つ目は、インターネットにおける情報倫理・リテラシーに関することである。他人の権利を侵すことなく、互いが快適に過ごすためのインターネットの活用方法を解説する。二つ目は、数理・データサイエンス・AIに関することである。数理・データサイエンス・AIを活用した事例を紹介する。また、数理・データサイエンス・AIの利活用にあたり、留意すべき事項について解説する。さらに、データを適切に収集、分析するために、データリテラシーに関して学ぶ。
授業計画	1 ガイダンス、情報技術の進歩と社会で起きている変化（ビッグデータ、IoT、生成AIなど）

	2	インターネットの仕組み
	3	インターネットの利用におけるマナー
	4	社会で活用されているデータと情報技術
	5	AIの歴史と現在のデータ・AI活用領域の広がり
	6	データ・AI利活用のための技術（データ解析、データ可視化など）
	7	データ・AI・情報技術の利活用の現場（データサイエンスのサイクル）
	8	データ・AI・情報技術の利活用の最新動向（生成AIの仕組みなど）
	9	データ・AI・情報技術を扱う上での留意事項1（個人情報とプライバシー）
	10	データ・AI・情報技術を扱う上での留意事項2（知的財産権とメディアリテラシー）
	11	データを守る上での留意事項1（ネットワーク不法行為）
	12	データを守る上での留意事項2（情報技術とセキュリティ）
	13	データを読む（データの種類、データの分布、データを読む上での基礎知識）
	14	データを説明する（データの表現、データの比較、不適切なグラフ表現、優れた可視化事例の紹介）
	15	データを扱う（データの取得、データの集計、データの並び替え）
到達目標	本講義は、現在の情報社会で求められる「インターネット、及び、数理・データサイエンス・A Iに関する知識」と、「インターネット、及び、数理・データサイエンス・A Iを扱う上で求められる情報倫理」を習得することを到達目標とする。	
予習内容/復習内容	授業の最後に次回の講義の内容の一部を紹介するので、予習してくること。前回の復習の小テストを毎回実施するので、復習しておくように。	
教科書	資料を毎回配布する。参考文献は講義内で紹介する。	
成績評価	4回(第5回、第9回、第10回、第12回)の小テスト(80%)、課題(20%)	
実務経験	なし	
その他特記事項	なし	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	全学年	2単位	選択
担当教員			
川戸 湧也			
	講義		
添付ファイル			

ディプロマ・ポリシー	<p>大学DP</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 創造性豊かな人間性と優れた専門性を身につけた学生 ■ 2. 実社会で活躍できる知的・人間的資質を身につけた学生 <input type="checkbox"/> 3. 地域社会を主体的に担う態度を身につけた学生 <input type="checkbox"/> 4. 国際社会に対する理解とコミュニケーション能力や情報社会に対応できる能力を身につけた学生 <p>法経科第1部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 法律・政治・経済・経営など社会科学の基幹分野に関する基本的な知識を修得し、最新の学問的到達についても一定の理解をもっている。 <input type="checkbox"/> 2. 現代社会の諸問題について、専門的知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 <input type="checkbox"/> 3. 修得した学識を職業生活上の実践的課題に適用することができる。 ■ 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 <input type="checkbox"/> 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>法経科第2部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 社会科学について広く基礎的な素養を身につけている。 <input type="checkbox"/> 2. 現代社会の諸問題について、学修した知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 <input type="checkbox"/> 3. 多様な目的意識を持つ幅広い年齢層の学生がともに学生生活を送ることを通じて、豊かな人間関係を構築できるコミュニケーション能力を身につけている。 ■ 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 <input type="checkbox"/> 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>食物栄養学科食物栄養学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 栄養士として必要な食に関する幅広い専門知識と技能を有している。 <input type="checkbox"/> 2. 食と健康に関する様々な課題に対して、科学的根拠に基づいた多面的・総合的な理解及び判断ができる。 ■ 3. 豊かな教養、高い倫理観、優れたコミュニケーション力を備え、栄養士として適切な栄養管理・指導を実践できる。 <input type="checkbox"/> 4. 習得した専門知識と技能を基に、地域社会と連携して食と健康の分野で主体的に活躍できる能力を備えている。 <p>生活科学学科生活科学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 1. 「いのち」と「暮らし」に関わるニーズが多様化する社会にあって、それらについての基礎的な教養を身につけている。 <input type="checkbox"/> 2. 生活福祉・心理コースにあっては、社会福祉学と心理学を総合した視点に立って、社会や人間に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 <input type="checkbox"/> 3. 居住環境コースにあっては、住生活や環境という視点に立って、生活環境に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 ■ 4. 高い公共性と倫理性を備え、地域や社会に主体的、積極的に貢献していこうとする態度が身につけている。 <p>※■が該当項目</p>
------------	--

授業概要/授業目的	五輪をはじめとするメガ・スポーツイベントに伴って生じた諸問題は、報道で取り沙汰され私たちの生活に入り込んでくる。また近年の生成AIの発展は人と機械の境界を曖昧にしたが、私たちは以前として自分の体でしか生きることにはできない。本科目では、体育・スポーツ・身体活動に着目して私たちの生活との関わりについて学ぶ。本科目を通して、体育・スポーツ・身体活動に関する教養を深めることを目的とする。
授業計画	<p>1 オリエンテーション</p> <p>2 スポーツの起こりと近代スポーツ</p>

	3	メガ・スポーツイベントの概要
	4	オリパラの歴史と日本の関わり
	5	「日本代表」を支える仕組み
	6	アスリートを取り巻く諸問題（身体性）
	7	アスリートを取り巻く諸問題（メディア）
	8	「健康」の概念について
	9	生活習慣と疾病
	10	スポーツと栄養
	11	スポーツ外傷と応急措置
	12	トレーニングの基礎（体力の構成要素）
	13	トレーニングの方法と計画
	14	スポーツの「プレイ」と「修行」
	15	まとめ
到達目標		①生活習慣が健康に及ぼす影響について考えることができ、日常生活に応用することができる（知識・技能） ②トレーニングの概念について理解し、筋力トレーニングについての原理原則および方法を実践・説明できる（知識・技能） ③授業で提起された問題について、自らの意見を持ちそれを共有・討議することができる（思考・判断・表現） ④授業に積極的に参加し、体育・スポーツ・身体活動に関する諸問題について考えることができる（主体的に学習に取り組む態度）
予習内容/復習内容		予習：次回の講義に向けて、授業内で提示したキーワードについてあらかじめ調べておく。 復習：毎回の授業後に提示する小レポートに取り組む。
教科書		教科書は指定しない。
成績評価		定期試験（筆記試験）は実施せず、毎回の小レポート（50%）と学期末のまとめレポート（50%）によって成績評定を決定する。 小レポートでは当該時間の目標および内容の理解度について確認・評価する。まとめレポートでは本科目全体を通して得た新たな学び・気づきおよびそれらの理解度について確認・評価する。 ただし、成績評価の対象となる学生は授業の3分の2（10回）以上出席した学生に限り、その基準に満たないものは成績評価を行わない。 なお、就学態度が著しく不良な場合は上記によらず成績評価の対象としない場合がある。
実務経験		該当なし
その他特記事項		特になし

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	全学年	1 単位	選択
担当教員			
石川 拓次			
		講義	
添付ファイル			

ディプロマ・ポリシー	<p>大学DP</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 創造性豊かな人間性と優れた専門性を身につけた学生 <input checked="" type="checkbox"/> 2. 実社会で活躍できる知的・人間的資質を身につけた学生 <input type="checkbox"/> 3. 地域社会を主体的に担う態度を身につけた学生 <input type="checkbox"/> 4. 国際社会に対する理解とコミュニケーション能力や情報社会に対応できる能力を身につけた学生 <p>法経科第1部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 法律・政治・経済・経営など社会科学の基幹分野に関する基本的な知識を修得し、最新の学問的到達についても一定の理解をもっている。 <input type="checkbox"/> 2. 現代社会の諸問題について、専門的知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 <input type="checkbox"/> 3. 修得した学識を職業生活上の実践的課題に適用することができる。 <input checked="" type="checkbox"/> 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 <input type="checkbox"/> 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>法経科第2部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 社会科学について広く基礎的な素養を身につけている。 <input type="checkbox"/> 2. 現代社会の諸問題について、学修した知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 <input type="checkbox"/> 3. 多様な目的意識を持つ幅広い年齢層の学生がともに学生生活を送ることを通じて、豊かな人間関係を構築できるコミュニケーション能力を身につけている。 <input checked="" type="checkbox"/> 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 <input type="checkbox"/> 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>食物栄養学科食物栄養学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 栄養士として必要な食に関する幅広い専門知識と技能を有している。 <input type="checkbox"/> 2. 食と健康に関する様々な課題に対して、科学的根拠に基づいた多面的・総合的な理解及び判断ができる。 <input checked="" type="checkbox"/> 3. 豊かな教養、高い倫理観、優れたコミュニケーション力を備え、栄養士として適切な栄養管理・指導を実践できる。 <input type="checkbox"/> 4. 習得した専門知識と技能を基に、地域社会と連携して食と健康の分野で主体的に活躍できる能力を備えている。 <p>生活科学科生活科学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 「いのち」と「暮らし」に関わるニーズが多様化する社会にあって、それらについての基礎的な教養を身につけている。 <input type="checkbox"/> 2. 生活福祉・心理コースにあっては、社会福祉学と心理学を総合した視点に立って、社会や人間に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 <input type="checkbox"/> 3. 居住環境コースにあっては、住生活や環境という視点に立って、生活環境に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 <input checked="" type="checkbox"/> 4. 高い公共性と倫理性を備え、地域や社会に主体的、積極的に貢献していこうとする態度が身につけている。 <p>※<input checked="" type="checkbox"/>が該当項目</p>
------------	--

授業概要/授業目的	様々な球技、レクリエーションゲームに親しみ、スポーツの楽しさを体感し、その特性を理解する。また、運動やトレーニングを通して、自らの健康管理や体力作りの方法を習得するとともに、運動を習慣化する態度を身につける。さらにスポーツを通して、社会性、協調性、コミュニケーション力を身につけ、自らの人生におけるスポーツの意義について受講生全体でディスカッションを行い、生涯スポーツの基礎を作る。
授業計画	<p>1 オリエンテーション・体力測定</p> <p>2 バドミントン (1) 基本的なストローク</p>

	3	バドミントン (2) シングルス総当たり戦1
	4	バドミントン (3) ダブルス総当たり戦2
	5	バスケットボール (1) 基本動作 (パス, ドリブル, シュート)
	6	バスケットボール (2) 男女別の試合
	7	バスケットボール (3) 男女混合の試合
	8	バレーボール (1) 基本動作 (アンダー・オーバーハンド) ソフトバレーボール
	9	バレーボール (2) ソフトバレーボールによる試合
	10	バレーボール (3) バレーボールによる試合
	11	卓球 (1) 基本的なストロークの練習・シングルス
	12	卓球 (2) シングルス総当たり戦1
	13	ニュースポーツ (1) インディアカ
	14	ニュースポーツ (2) アルティメット
	15	体力測定・まとめ
到達目標	①	健康の保持増進に加えて、スポーツを通して心身の調和について理解することができる。(知識・理解)
	②	それぞれのライフスタイルに応じたスポーツ活動を考え、参加することができる。(思考・判断)
	③	生涯スポーツを自主的にプランニングする能力と態度を養うことができる。(思考・判断)
予習内容/復習内容		【予習】 授業で行う種目について、インターネットや図書でルール等を調べる。(毎回90分程度) 【復習】 実施された講義内容についてのリフレクションシートを作成する。(毎回90分程度)
教科書		指定しない
成績評価		定期試験(筆記)は行わない。 授業への積極的態 度 30% 体力測定 40% レポート 30% 評価基準: 体力測定は受講生の到達目標すべてに対応して、学修到達度を最終的に確認するためのテストである。レポート課題は、授業内容を踏まえて的確に自己表現できているかを評価する。
実務経験		
その他特記事項		なし

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	全学年	2 単位	選択
担当教員			
狩野 幹人			
	講義		
添付ファイル			

ディプロマ・ポリシー	<p>大学DP</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 創造性豊かな人間性と優れた専門性を身につけた学生 <input checked="" type="checkbox"/> 2. 実社会で活躍できる知的・人間的資質を身につけた学生 <input type="checkbox"/> 3. 地域社会を主体的に担う態度を身につけた学生 <input type="checkbox"/> 4. 国際社会に対する理解とコミュニケーション能力や情報社会に対応できる能力を身につけた学生 <p>法経科第1部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 法律・政治・経済・経営など社会科学の基幹分野に関する基本的な知識を修得し、最新の学問的到達についても一定の理解をもっている。 <input type="checkbox"/> 2. 現代社会の諸問題について、専門的知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 <input type="checkbox"/> 3. 修得した学識を職業生活上の実践的課題に適用することができる。 <input checked="" type="checkbox"/> 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 <input checked="" type="checkbox"/> 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>法経科第2部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 社会科学について広く基礎的な素養を身につけている。 <input type="checkbox"/> 2. 現代社会の諸問題について、学修した知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 <input type="checkbox"/> 3. 多様な目的意識を持つ幅広い年齢層の学生がともに学生生活を送ることを通じて、豊かな人間関係を構築できるコミュニケーション能力を身につけている。 <input checked="" type="checkbox"/> 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 <input type="checkbox"/> 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>食物栄養学科食物栄養学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 栄養士として必要な食に関する幅広い専門知識と技能を有している。 <input type="checkbox"/> 2. 食と健康に関する様々な課題に対して、科学的根拠に基づいた多面的・総合的な理解及び判断ができる。 <input checked="" type="checkbox"/> 3. 豊かな教養、高い倫理観、優れたコミュニケーション力を備え、栄養士として適切な栄養管理・指導を実践できる。 <input type="checkbox"/> 4. 習得した専門知識と技能を基に、地域社会と連携して食と健康の分野で主体的に活躍できる能力を備えている。 <p>生活科学科生活科学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> 1. 「いのち」と「暮らし」に関わるニーズが多様化する社会にあって、それらについての基礎的な教養を身につけている。 <input type="checkbox"/> 2. 生活福祉・心理コースにあっては、社会福祉学と心理学を総合した視点に立って、社会や人間に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 <input type="checkbox"/> 3. 居住環境コースにあっては、住生活や環境という視点に立って、生活環境に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 <input checked="" type="checkbox"/> 4. 高い公共性と倫理性を備え、地域や社会に主体的、積極的に貢献していこうとする態度が身につけている。 <p>※<input checked="" type="checkbox"/>が該当項目</p>
------------	--

授業概要/授業目的	<p>生命科学 (Life Science) は、21世紀の科学技術を担う重点分野の1つである。2003年、ヒトの遺伝子の解読が終了したが、「いのち」の仕組みの全てが解明されたわけではない。遺伝子外の領域に着目したエピジェネティクス、免疫などの生体防御機構をはじめ、その解明が待たれる研究は現在も世界で継続されている。また、環境問題、生物の多様性などを考えるうえでも、生物学・生命科学の知識が必要となる。本講義では、生物の基本構造である「細胞」と「細胞」内に存在する「分子」に焦点をあてる。「細胞」内の「分子」のうち、とくにタンパク質を中心とした機能・役割、細胞から多細胞生物個体への展開、細胞間の情報交換についても解説を加えることにより、生物学の基本的な枠組みを理解してもらいたい。</p>
授業計画	1 ガイダンス (科学とは？自然科学とは？生命科学とは？を中心に)

	2	細胞の構造
	3	細胞の形質、機能
	4	細胞の活動
	5	タンパク質の役割
	6	多細胞生物への展開 (1) -細胞間の情報交換
	7	多細胞生物への展開 (2) -体細胞分裂とDNAの複製
	8	免疫システム (1) -生体防御機構の概要
	9	免疫システム (2) -T細胞と細胞性免疫
	10	免疫システム (3) -B細胞と体液性免疫
	11	細胞の再生と死
	12	環境の認識、調節
	13	生物の進化と多様性、生物多様性条約とは
	14	生命科学と知的財産 (1) -知的財産とは
	15	生命科学と知的財産 (2) -生命科学の発展と知的財産の役割
到達目標	①地球上の生物全体に対するマクロな視点と、生物個々の現象に対するミクロな視点を持つ。 ②生物学、生命科学の成り立ちについて、物理学や化学の知識も使いながら、歴史的に捉えられる。 ③生物の基本構造である「細胞」内に存在する「分子」の機能・役割を科学的に理解、説明できる。	
予習内容/復習内容	予習：教科書の該当ページや図表に目を通すなど。 復習：ノートを整理するなどし、講義内容を暗記するのではなく、理解すること。	
教科書	「基礎から学ぶ生物学・細胞生物学（第4版）、和田勝、羊土社（2020）」を教科書として用いる。 また講義において、参考文献を紹介するほか、必要な補足資料を随時配布する。	
成績評価	①毎回出席をとる（講義終了時に、講義で理解したこと、感想・質問を記入した出席票を提出してもらう）。出席率が3分の2以上の者を成績評価の対象とする。 ②その上で、レポート（2回を予定）により成績を評価する。全体で100%。	
実務経験	2022年度から「ナショナルバイオリソースプロジェクト（文部科学省）」における分担機関の課題管理者として従事。グローバルな視点での生物、遺伝資源、それらの多様性についても解説する。	
その他特記事項	単なる内容の暗記ではなく、科学的に理解・考えてもらえるよう工夫したい。	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	全学年	2 単位	選択
担当教員			
松井 博和			
	講義		
添付ファイル			

ディプロマ・ポリシー	<p>大学DP</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 創造性豊かな人間性と優れた専門性を身につけた学生 <input checked="" type="checkbox"/> 2. 実社会で活躍できる知的・人間的資質を身につけた学生 <input type="checkbox"/> 3. 地域社会を主体的に担う態度を身につけた学生 <input type="checkbox"/> 4. 国際社会に対する理解とコミュニケーション能力や情報社会に対応できる能力を身につけた学生 <p>法経科第1部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 法律・政治・経済・経営など社会科学の基幹分野に関する基本的な知識を修得し、最新の学問的到達についても一定の理解をもっている。 <input type="checkbox"/> 2. 現代社会の諸問題について、専門的知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 <input type="checkbox"/> 3. 修得した学識を職業生活上の実践的課題に適用することができる。 <input checked="" type="checkbox"/> 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 <input checked="" type="checkbox"/> 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>法経科第2部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 社会科学について広く基礎的な素養を身につけている。 <input type="checkbox"/> 2. 現代社会の諸問題について、学修した知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 <input type="checkbox"/> 3. 多様な目的意識を持つ幅広い年齢層の学生がともに学生生活を送ることを通じて、豊かな人間関係を構築できるコミュニケーション能力を身につけている。 <input checked="" type="checkbox"/> 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 <input type="checkbox"/> 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>食物栄養学科食物栄養学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 栄養士として必要な食に関する幅広い専門知識と技能を有している。 <input type="checkbox"/> 2. 食と健康に関する様々な課題に対して、科学的根拠に基づいた多面的・総合的な理解及び判断ができる。 <input checked="" type="checkbox"/> 3. 豊かな教養、高い倫理観、優れたコミュニケーション力を備え、栄養士として適切な栄養管理・指導を実践できる。 <input type="checkbox"/> 4. 習得した専門知識と技能を基に、地域社会と連携して食と健康の分野で主体的に活躍できる能力を備えている。 <p>生活科学科生活科学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 「いのち」と「暮らし」に関わるニーズが多様化する社会にあって、それらについての基礎的な教養を身につけている。 <input type="checkbox"/> 2. 生活福祉・心理コースにあっては、社会福祉学と心理学を総合した視点に立って、社会や人間に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 <input type="checkbox"/> 3. 居住環境コースにあっては、住生活や環境という視点に立って、生活環境に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 <input checked="" type="checkbox"/> 4. 高い公共性と倫理性を備え、地域や社会に主体的、積極的に貢献していこうとする態度が身につけている。 <p>※<input checked="" type="checkbox"/>が該当項目</p>
------------	---

授業概要/授業目的	自然と科学について、いわゆる理系の人でも理解していない現象も、簡単な説明や実験で理解してもらおう。講義の間に、毎回の授業において、主として計算問題を解き、レポートとして提出してもらおう。これにより、主体的に現象理解に取り組めるようにする。私自身が体験した事象や、ニュースなど世間で注目されるものについて、科学的に説明できるものであれば、適宜授業に取り込む。
授業計画	<p>1 長さ、速さ、時間などの単位と定義について</p> <p>2 天体（地球と月と太陽）について</p>

	3	天体（恒星と惑星）について
	4	機械機構（車輪など）について
	5	電気（電力量と生活）について
	6	私の研究紹介と中間試験
	7	光と色について（物理的説明）
	8	光と色について（生体的説明）
	9	音（周波数・音量・デシベル）について
	10	音（音声）について
	11	波動と量子力学について
	12	生命と遺伝について
	13	人工知能について
	14	天体（宇宙と科学）について
	15	自然と科学についてのまとめ・期末試験について
到達目標	身近な生活の中で体験したり、利用する自然現象や科学技術を理解してもらう。	
予習内容/復習内容	予習内容：各学習内容の項目をキーワードにネットなどで簡単に調べてみる。 復習内容：講義内容に対して疑問をまとめる。	
教科書	教材・テキスト等は特になく、授業中に用いたプレゼン資料をネット上で取得できるようにする。	
成績評価	各回提出する授業内レポート計40(=2点*15回+10)点満点（レポート提出が7回以下は成績不可とする）。中間試験(追試無し)と期末試験で(10:50)の60点満点。合計100点満点で成績評価する。	
実務経験		
その他特記事項		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	全学年	2 単位	選択
担当教員			
高橋 彩			
		講義	
添付ファイル			

ディプロマ・ポリシー	<p>大学DP</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 創造性豊かな人間性と優れた専門性を身につけた学生 <input checked="" type="checkbox"/> 2. 実社会で活躍できる知的・人間的資質を身につけた学生 <input type="checkbox"/> 3. 地域社会を主体的に担う態度を身につけた学生 <input type="checkbox"/> 4. 国際社会に対する理解とコミュニケーション能力や情報社会に対応できる能力を身につけた学生 <p>法経科第1部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 法律・政治・経済・経営など社会科学の基幹分野に関する基本的な知識を修得し、最新の学問的到達についても一定の理解をもっている。 <input type="checkbox"/> 2. 現代社会の諸問題について、専門的知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 <input type="checkbox"/> 3. 修得した学識を職業生活上の実践的課題に適用することができる。 <input checked="" type="checkbox"/> 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 <input checked="" type="checkbox"/> 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>法経科第2部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 社会科学について広く基礎的な素養を身につけている。 <input type="checkbox"/> 2. 現代社会の諸問題について、学修した知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 <input type="checkbox"/> 3. 多様な目的意識を持つ幅広い年齢層の学生がともに学生生活を送ることを通じて、豊かな人間関係を構築できるコミュニケーション能力を身につけている。 <input checked="" type="checkbox"/> 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 <input type="checkbox"/> 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>食物栄養学科食物栄養学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 栄養士として必要な食に関する幅広い専門知識と技能を有している。 <input type="checkbox"/> 2. 食と健康に関する様々な課題に対して、科学的根拠に基づいた多面的・総合的な理解及び判断ができる。 <input checked="" type="checkbox"/> 3. 豊かな教養、高い倫理観、優れたコミュニケーション力を備え、栄養士として適切な栄養管理・指導を実践できる。 <input type="checkbox"/> 4. 習得した専門知識と技能を基に、地域社会と連携して食と健康の分野で主体的に活躍できる能力を備えている。 <p>生活科学科生活科学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 「いのち」と「暮らし」に関わるニーズが多様化する社会にあって、それらについての基礎的な教養を身につけている。 <input checked="" type="checkbox"/> 2. 生活福祉・心理コースにあっては、社会福祉学と心理学を総合した視点に立って、社会や人間に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 <input type="checkbox"/> 3. 居住環境コースにあっては、住生活や環境という視点に立って、生活環境に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 <input checked="" type="checkbox"/> 4. 高い公共性と倫理性を備え、地域や社会に主体的、積極的に貢献していこうとする態度が身につけている。 <p>※■が該当項目</p>
------------	--

授業概要/授業目的	心理学は一般に生活体（人や動物）の行動の科学と言われている。行動は人の内的要因とその人がおかれている環境的要因によって決まるが、こうした行動を引き起こすような心の仕組みや働きを科学的に明らかにし、人間そのものの理解を目指す学問が心理学といえる。この講義では、心理学の各分野の基本的概念について紹介する。心理学の基本的な考え方や、研究方法やその背景などを理解することを目的とする。
授業計画	<p>1 心理学とはどのような学問か</p> <p>2 知覚（大きさの恒常性、錯視）</p>

	3	学習（古典的条件づけ、オペラント条件づけ、観察学習）
	4	記憶（短期記憶、長期記憶、記憶の変容）
	5	動機づけ（内発的動機づけ、外発的動機づけ、自己効力）
	6	感情（感情の機能、ストレス）
	7	パーソナリティ（パーソナリティの調べ方、ビッグ・ファイブ理論）
	8	臨床 精神的健康
	9	知能（知能検査とIQ）
	10	思考（推論、ヒューリスティックス）
	11	対人認知（印象形成、対人魅力）
	12	発達（遺伝と環境）
	13	集団1（社会的促進と抑制、集団規範、同調）
	14	集団2（リーダーシップ、態度変容）
	15	心理学の応用
到達目標	①心理学の基本的な概念、用語を説明できる。 ②人間の行動や心の働きについて、心理学的な視点から理解できる。	
予習内容/復習内容	予習：講義中に指示した文献を読む 復習：授業課題で分からなかった部分を調べる	
教科書	二宮克美（編著）2017 ベーシック心理学第2版 医歯薬出版 ISBN978-4-263-42223-6	
成績評価	定期試験70%と授業内での課題レポート30%で評価する。	
実務経験		
その他特記事項		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	全学年	2単位	選択
担当教員			
南 有哲			
		講義	
添付ファイル			

ディプロマ・ポリシー	<p>大学DP</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 創造性豊かな人間性と優れた専門性を身につけた学生 <input checked="" type="checkbox"/> 2. 実社会で活躍できる知的・人間的資質を身につけた学生 <input type="checkbox"/> 3. 地域社会を主体的に担う態度を身につけた学生 <input type="checkbox"/> 4. 国際社会に対する理解とコミュニケーション能力や情報社会に対応できる能力を身につけた学生 <p>法経科第1部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 法律・政治・経済・経営など社会科学の基幹分野に関する基本的な知識を修得し、最新の学問的到達についても一定の理解をもっている。 <input type="checkbox"/> 2. 現代社会の諸問題について、専門的知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 <input type="checkbox"/> 3. 修得した学識を職業生活上の実践的課題に適用することができる。 <input checked="" type="checkbox"/> 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 <input checked="" type="checkbox"/> 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>法経科第2部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 社会科学について広く基礎的な素養を身につけている。 <input type="checkbox"/> 2. 現代社会の諸問題について、学修した知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 <input type="checkbox"/> 3. 多様な目的意識を持つ幅広い年齢層の学生がともに学生生活を送ることを通じて、豊かな人間関係を構築できるコミュニケーション能力を身につけている。 <input checked="" type="checkbox"/> 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 <input type="checkbox"/> 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>食物栄養学科食物栄養学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 栄養士として必要な食に関する幅広い専門知識と技能を有している。 <input type="checkbox"/> 2. 食と健康に関する様々な課題に対して、科学的根拠に基づいた多面的・総合的な理解及び判断ができる。 <input checked="" type="checkbox"/> 3. 豊かな教養、高い倫理観、優れたコミュニケーション力を備え、栄養士として適切な栄養管理・指導を実践できる。 <input type="checkbox"/> 4. 習得した専門知識と技能を基に、地域社会と連携して食と健康の分野で主体的に活躍できる能力を備えている。 <p>生活科学科生活科学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 「いのち」と「暮らし」に関わるニーズが多様化する社会にあって、それらについての基礎的な教養を身につけている。 <input type="checkbox"/> 2. 生活福祉・心理コースにあっては、社会福祉学と心理学を総合した視点に立って、社会や人間に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 <input checked="" type="checkbox"/> 3. 居住環境コースにあっては、住生活や環境という視点に立って、生活環境に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 <input checked="" type="checkbox"/> 4. 高い公共性と倫理性を備え、地域や社会に主体的、積極的に貢献していこうとする態度が身につけている。 <p>※<input checked="" type="checkbox"/>が該当項目</p>
------------	--

授業概要/授業目的	環境問題は今日、人類が直面する最重要課題のひとつであるとみなされるに至っている。本講義においては、気候変動、生物多様性、原子力問題という3つの大きなテーマについて概観することで、環境問題にかかわるニュースを理解し、環境問題について市民として考察し、発言や行動することを可能ならしめるための、基本的な知識を講じるものである。
授業計画	<p>1 はじめに——講義内容の概要説明</p> <p>2 気候変動のメカニズム——温室効果とは何か</p>

	3	気候変動のメカニズム—気候システムについて
	4	気候変動の現状と憂慮される未来
	5	再生可能エネルギー概観…そのメリットとデメリットについて
	6	地球温暖化懐疑論を考える
	7	生物多様性と生物進化
	8	生物多様性と生態系サービス
	9	生物多様性破壊の現状と背景
	10	生物多様性破壊がもたらすもの
	11	核エネルギーとは何か——核分裂と核融合
	12	核エネルギーとは何か——原子力発電の仕組み
	13	核燃料サイクルについて
	14	放射線と、その人体・環境への影響について
	15	原発と地震・津波
到達目標	気候変動、生物多様性破壊や原子力問題についての基礎的知識を獲得し、新聞やテレビ・ニュースサイトで報道される内容の基本的な部分が理解できるようになること。	
予習内容/復習内容	予習に関しては、あらかじめ配布した資料の次回該当部分の提示を受け、学習する。復習に関しては、毎回小レポートで当日の講義の振り返りを行い、疑問・質問について次回講義で回答を受ける。	
教科書	教科書は使用せず、適宜資料を配布する。	
成績評価	毎回小レポート…50% 定期テスト…50%	
実務経験	なし	
その他特記事項		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	全学年	2 単位	選択
担当教員			
伊東 直人			
	講義		
添付ファイル			

ディプロマ・ポリシー	<p>大学DP</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 創造性豊かな人間性と優れた専門性を身につけた学生 <input checked="" type="checkbox"/> 2. 実社会で活躍できる知的・人間的資質を身につけた学生 <input type="checkbox"/> 3. 地域社会を主体的に担う態度を身につけた学生 <input type="checkbox"/> 4. 国際社会に対する理解とコミュニケーション能力や情報社会に対応できる能力を身につけた学生 <p>法経科第1部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 法律・政治・経済・経営など社会科学の基幹分野に関する基本的な知識を修得し、最新の学問的到達についても一定の理解をもっている。 <input type="checkbox"/> 2. 現代社会の諸問題について、専門的知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 <input type="checkbox"/> 3. 修得した学識を職業生活上の実践的課題に適用することができる。 <input checked="" type="checkbox"/> 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 <input checked="" type="checkbox"/> 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>法経科第2部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 社会科学について広く基礎的な素養を身につけている。 <input type="checkbox"/> 2. 現代社会の諸問題について、学修した知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 <input type="checkbox"/> 3. 多様な目的意識を持つ幅広い年齢層の学生がともに学生生活を送ることを通じて、豊かな人間関係を構築できるコミュニケーション能力を身につけている。 <input checked="" type="checkbox"/> 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 <input type="checkbox"/> 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>食物栄養学科食物栄養学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 栄養士として必要な食に関する幅広い専門知識と技能を有している。 <input type="checkbox"/> 2. 食と健康に関する様々な課題に対して、科学的根拠に基づいた多面的・総合的な理解及び判断ができる。 <input checked="" type="checkbox"/> 3. 豊かな教養、高い倫理観、優れたコミュニケーション力を備え、栄養士として適切な栄養管理・指導を実践できる。 <input type="checkbox"/> 4. 習得した専門知識と技能を基に、地域社会と連携して食と健康の分野で主体的に活躍できる能力を備えている。 <p>生活科学学科生活科学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 「いのち」と「暮らし」に関わるニーズが多様化する社会にあって、それらについての基礎的な教養を身につけている。 <input type="checkbox"/> 2. 生活福祉・心理コースにあっては、社会福祉学と心理学を総合した視点に立って、社会や人間に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 <input type="checkbox"/> 3. 居住環境コースにあっては、住生活や環境という視点に立って、生活環境に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 <input checked="" type="checkbox"/> 4. 高い公共性と倫理性を備え、地域や社会に主体的、積極的に貢献していこうとする態度が身につけている。 <p>※■が該当項目</p>
------------	--

授業概要/授業目的	教育の暫定的な規定や、子ども達が最初に出会う社会である学校教育の位置・役割について理解するとともに、教育行政の基本原則や教育委員会制度の仕組みについて学習する。さらに、生涯学習社会の構築の必要性とその体制の整備について学ぶ。加えて、実際に就職した際に求められる力量の基礎を身に付けるため、グループディスカッションを行うなど参加型の授業の手法を取り入れ、グループによる課題調査・討論を実施する。
授業計画	<p>1 オリエンテーション、教育の意義と本質</p> <p>2 教育の必要性と可能性</p>

	3	社会化と学校教育の位置・役割
	4	教育関連法制度、及び教育行政機関の役割と学校との関わりについて
	5	国における教育政策の動向
	6	教育行政の変容
	7	教育委員会制度の見直し
	8	生涯学習体系への移行
	9	学校の経営と学校評価
	10	令和の日本型学校教育
	11	教育の機会均等Ⅰ 義務教育制度を踏まえて
	12	教育の機会均等Ⅱ 子どもをめぐる課題を踏まえて
	13	学校危機管理
	14	GIGAスクール構想と学校におけるICT活用
	15	子ども・子育て支援制度と幼児期の教育
到達目標	1) 教育の暫定的な規定や、子ども達が最初に出会う社会である学校教育の位置・役割について説明することができる。 2) 教育行政の基本原則や教育委員会制度の仕組みを説明することができる。 3) 生涯学習社会の構築の必要性とその体制の整備について説明することができる。 4) グループ討議・発表において、積極的に議論へ参加することができる。	
予習内容/復習内容	最新の教育時事や教育情報収集を日常的に行う。また、事前学習として参考資料等を活用し、まとめを2時間、事後学習として授業スライドのまとめを2時間程度行うこと。講義受講用のノートを作成し、テキスト内容をまとめるなどの事前学習、授業後のまとめを行うこと。	
教科書	適宜資料を配布する。	
成績評価	最終レポート（40%）、小レポート・授業振り返り（40%）、授業の参加意欲・討議への参加度（20%）	
実務経験	18年間の小学校教諭を経て、平成14～21年度指導主事（8年）、平成22～23年度小学校教頭（2年）、平成24～令和元年度小学校長（8年）として勤務	
その他特記事項	なし	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	全学年	2単位	選択
担当教員			
長島 洋			
		講義	
添付ファイル			

ディプロマ・ポリシー	<p>大学DP</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 創造性豊かな人間性と優れた専門性を身につけた学生 <input checked="" type="checkbox"/> 2. 実社会で活躍できる知的・人間的資質を身につけた学生 <input type="checkbox"/> 3. 地域社会を主体的に担う態度を身につけた学生 <input type="checkbox"/> 4. 国際社会に対する理解とコミュニケーション能力や情報社会に対応できる能力を身につけた学生 <p>法経科第1部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 法律・政治・経済・経営など社会科学の基幹分野に関する基本的な知識を修得し、最新の学問的到達についても一定の理解をもっている。 <input type="checkbox"/> 2. 現代社会の諸問題について、専門的知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 <input type="checkbox"/> 3. 修得した学識を職業生活上の実践的課題に適用することができる。 <input checked="" type="checkbox"/> 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 <input checked="" type="checkbox"/> 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>法経科第2部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 社会科学について広く基礎的な素養を身につけている。 <input type="checkbox"/> 2. 現代社会の諸問題について、学修した知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 <input type="checkbox"/> 3. 多様な目的意識を持つ幅広い年齢層の学生がともに学生生活を送ることを通じて、豊かな人間関係を構築できるコミュニケーション能力を身につけている。 <input checked="" type="checkbox"/> 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 <input type="checkbox"/> 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>食物栄養学科食物栄養学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 栄養士として必要な食に関する幅広い専門知識と技能を有している。 <input type="checkbox"/> 2. 食と健康に関する様々な課題に対して、科学的根拠に基づいた多面的・総合的な理解及び判断ができる。 <input checked="" type="checkbox"/> 3. 豊かな教養、高い倫理観、優れたコミュニケーション力を備え、栄養士として適切な栄養管理・指導を実践できる。 <input type="checkbox"/> 4. 習得した専門知識と技能を基に、地域社会と連携して食と健康の分野で主体的に活躍できる能力を備えている。 <p>生活科学科生活科学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> 1. 「いのち」と「暮らし」に関わるニーズが多様化する社会にあって、それらについての基礎的な教養を身につけている。 <input type="checkbox"/> 2. 生活福祉・心理コースにあっては、社会福祉学と心理学を総合した視点に立って、社会や人間に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 <input type="checkbox"/> 3. 居住環境コースにあっては、住生活や環境という視点に立って、生活環境に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 <input checked="" type="checkbox"/> 4. 高い公共性と倫理性を備え、地域や社会に主体的、積極的に貢献していこうとする態度が身につけている。 <p>※<input checked="" type="checkbox"/>が該当項目</p>
------------	--

授業概要/授業目的	<p>1 生涯学習の基礎を学ぶとともに、現代的課題をとりあげ、生涯学習の重要性を学びます。</p> <p>2 教育基本法 第3条における、生涯学習の理念を学ぶとともに生涯学習社会の実現に向けての様々な取り組みを理解し、自らが生涯学習プログラムの作成をします。</p> <p>3 地域課題を解決するための、生涯学習プログラムを企画し、地域を見つめなおし、ウェルビーイングの実現に向けた「学び」とおした具体的プログラムを作成することにより、自分自身が生涯を通して学ぶ重要性を理解します。</p>
授業計画	<p>1 オリエンテーション 生涯学習とは何か</p> <p>2 生涯学習の基礎</p>

	3	社会教育と生涯学習
	4	まちづくりと生涯学習
	5	社会教育施設等と生涯学習
	6	人権学習と生涯学習
	7	青少年教育と生涯学習
	8	防災学習と生涯学習
	9	ウェルビーイングと生涯学習
	10	生涯学習プログラムの作成 1
	11	生涯学習プログラム作成の実際 2
	12	生涯学習プログラム作成 地域課題 3
	13	生涯学習プログラムの作成 具体的企画 4
	14	生涯学習プログラムの作成 企画実施
	15	生涯学習プログラムの作成 プログラムの完成 試験
到達目標	1	生涯学習について国・地方公共団体等の政策を知ることにより、生涯学習の基礎知識を身につける
	2	モデル市町村を選択し、その地域の課題を把握し、その課題解決のための生涯学習プログラムを作成することができる
	3	地域の課題解決を学びを通して解決に向けての力をつけ、行動することができる
	4	生涯学習を自ずから生涯をとおして実践することができ、生涯学習社会の実現にむけて取り組むことができる
予習内容/復習内容	予習	自らが選んだ、モデル市町村の地域情勢および生涯学習の現状を把握し、情報を収集すること
	復習	毎回だされる 課題を整理し、自ら作成するためのプログラムに活かす
教科書		資料は、毎回配布します。 教科書は使用しません。 参考文献については、毎回だされる資料に提示
成績評価		毎授業提出してもらったレポートを全体の60%を評価します。 各自、作成する「生涯学習プログラム」を全体の40%を評価します 6回以上の欠席については、無資格となります
実務経験		文部科学省生涯学習局専門職員、国立社会教育研究実践センター 指導主事、三重県教育委員会生涯学習課 社会教育主事・主幹、三重県熊野少年自然の家課長、三重県生涯学習センター 所長 三重県社会教育委員、みえ生涯学習ネットワーク 委員長等 生涯学習にかかわる勤務および役職を経て、生涯学習についての実務経験と共に、生涯学習の重要性を理解している
その他特記事項		地域の課題解決に向けた、魅力ある学生のオリジナルな「生涯学習プログラム」の作成を期待しています。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	全学年	2単位	選択
担当教員			
伊藤 信也			
	講義		
添付ファイル			

ディプロマ・ポリシー	<p>大学DP</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 創造性豊かな人間性と優れた専門性を身につけた学生 <input checked="" type="checkbox"/> 2. 実社会で活躍できる知的・人間的資質を身につけた学生 <input type="checkbox"/> 3. 地域社会を主体的に担う態度を身につけた学生 <input type="checkbox"/> 4. 国際社会に対する理解とコミュニケーション能力や情報社会に対応できる能力を身につけた学生 <p>法経科第1部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 法律・政治・経済・経営など社会科学の基幹分野に関する基本的な知識を修得し、最新の学問的到達についても一定の理解をもっている。 <input type="checkbox"/> 2. 現代社会の諸問題について、専門的知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 <input type="checkbox"/> 3. 修得した学識を職業生活上の実践的課題に適用することができる。 <input checked="" type="checkbox"/> 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 <input checked="" type="checkbox"/> 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>法経科第2部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 社会科学について広く基礎的な素養を身につけている。 <input type="checkbox"/> 2. 現代社会の諸問題について、学修した知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 <input type="checkbox"/> 3. 多様な目的意識を持つ幅広い年齢層の学生がともに学生生活を送ることを通じて、豊かな人間関係を構築できるコミュニケーション能力を身につけている。 <input checked="" type="checkbox"/> 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 <input type="checkbox"/> 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>食物栄養学科食物栄養学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 栄養士として必要な食に関する幅広い専門知識と技能を有している。 <input type="checkbox"/> 2. 食と健康に関する様々な課題に対して、科学的根拠に基づいた多面的・総合的な理解及び判断ができる。 <input checked="" type="checkbox"/> 3. 豊かな教養、高い倫理観、優れたコミュニケーション力を備え、栄養士として適切な栄養管理・指導を実践できる。 <input type="checkbox"/> 4. 習得した専門知識と技能を基に、地域社会と連携して食と健康の分野で主体的に活躍できる能力を備えている。 <p>生活科学科生活科学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> 1. 「いのち」と「暮らし」に関わるニーズが多様化する社会にあって、それらについての基礎的な教養を身につけている。 <input type="checkbox"/> 2. 生活福祉・心理コースにあっては、社会福祉学と心理学を総合した視点に立って、社会や人間に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 <input type="checkbox"/> 3. 居住環境コースにあっては、住生活や環境という視点に立って、生活環境に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 <input checked="" type="checkbox"/> 4. 高い公共性と倫理性を備え、地域や社会に主体的、積極的に貢献していこうとする態度が身につけている。 <p>※<input checked="" type="checkbox"/>が該当項目</p>
------------	--

授業概要/授業目的	<p>1. この科目では、基本的人権と差別の問題を考えていきます。人権とは何か、人権はなぜ重要なのか、私たちの人権の実態はどのようになっているのか、その歴史と現状について考えていきます。基本的人権という考え方は、フランス人権宣言などにおいて明文化されてきましたが、こうした人権の歴史的な形成の経過を学ぶとともに、その内容の発展を知ること、人権の普遍的な意味を考えたいと思います。</p> <p>2. テーマ別に現代の差別問題について考えていきます。どのテーマから取り上げるかは講義開始時にお知らせしますが、人種差別、性差別、国籍差別、部落差別、「障害者」差別など、世界と日本の様々な差別問題を取り上げる予定です。理解を深めるために、随時映像資料を上映する予定です。</p>
授業計画	1 講義概説：現代社会と人権

	2	基本的人権の成立史：トーマス・ホッブズの思想と近代人権概念の誕生
	3	基本的人権の成立史：宗教改革と自由
	4	基本的人権の成立史：近代的人権の特徴と課題
	5	基本的人権の成立史：フランス人権宣言への批判者たち
	6	基本的人権の成立史：人権から取り残された女性たちのたたかい
	7	基本的人権の成立史：人権から取り残された「植民地」「先住民」の実態
	8	基本的人権の成立史：現代の人権思想の到達点と課題
	9	現代の差別問題：人種差別の歴史と現在～アメリカの場合～
	10	現代の差別問題：「障害者」差別と優生思想～「ナチス」ドイツ、そして日本でも～
	11	現代の差別問題：現代の性差別～「女性差別」から「ジェンダー平等」へ～
	12	現代の差別問題：在日外国人差別と「ヘイトスピーチ」問題
	13	現代の差別問題：「部落」差別問題の構造
	14	現代の差別問題：感染症の差別問題の歴史
	15	21世紀の人権問題への視点を考える
到達目標		①学生は、人権問題の歴史を正しく知り、人権概念の基本的知識を身につけることができる。 ②学生は、現代の差別問題の基本的様相を理解することができる。 ③学生は、「デマ」や「フェイクニュース」に流されず、正確な知識と根拠を知って人権や差別問題と向き合うことができる。
予習内容/復習内容		予習：事前に指示した資料や参考文献に目を通しておく。 復習：毎回、ミニレポートで当日の講義の振り返りを行う。前回のミニレポートについて次回の講義で受講生の意見や質問に答える。
教科書		なし（毎回プリントを配布）。必要な資料等もプリントで配布します。その他、参考文献等は講義中に指示します。
成績評価		1. 講義中に実施する「ミニレポート」（意見提出。配点は約40%） 2. 講義の最終日に提出する「期末レポート」（配点は約40%） 3. 積極的な受講姿勢（配点は約20%）
実務経験		なし
その他特記事項		1. 歴史（特に世界史）の知識の多寡は問いません。 2. 講義は可能な限り工夫して進めていきます。映像資料はドキュメンタリー・ビデオなどを予定しています。 3. 人権問題や差別問題に関心のある受講生の積極的な参加と、教室環境の保持を求めます。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	全学年	2単位	選択
担当教員			
松田 いらあ			
		講義	
添付ファイル			

ディプロマ・ポリシー	<p>大学DP</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 創造性豊かな人間性と優れた専門性を身につけた学生 <input checked="" type="checkbox"/> 2. 実社会で活躍できる知的・人間的資質を身につけた学生 <input type="checkbox"/> 3. 地域社会を主体的に担う態度を身につけた学生 <input type="checkbox"/> 4. 国際社会に対する理解とコミュニケーション能力や情報社会に対応できる能力を身につけた学生 <p>法経科第1部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 法律・政治・経済・経営など社会科学の基幹分野に関する基本的な知識を修得し、最新の学問的到達についても一定の理解をもっている。 <input type="checkbox"/> 2. 現代社会の諸問題について、専門的知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 <input type="checkbox"/> 3. 修得した学識を職業生活上の実践的課題に適用することができる。 <input checked="" type="checkbox"/> 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 <input checked="" type="checkbox"/> 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>法経科第2部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 社会科学について広く基礎的な素養を身につけている。 <input type="checkbox"/> 2. 現代社会の諸問題について、学修した知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 <input type="checkbox"/> 3. 多様な目的意識を持つ幅広い年齢層の学生がともに学生生活を送ることを通じて、豊かな人間関係を構築できるコミュニケーション能力を身につけている。 <input checked="" type="checkbox"/> 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 <input type="checkbox"/> 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>食物栄養学科食物栄養学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 栄養士として必要な食に関する幅広い専門知識と技能を有している。 <input type="checkbox"/> 2. 食と健康に関する様々な課題に対して、科学的根拠に基づいた多面的・総合的な理解及び判断ができる。 <input checked="" type="checkbox"/> 3. 豊かな教養、高い倫理観、優れたコミュニケーション力を備え、栄養士として適切な栄養管理・指導を実践できる。 <input type="checkbox"/> 4. 習得した専門知識と技能を基に、地域社会と連携して食と健康の分野で主体的に活躍できる能力を備えている。 <p>生活科学科生活科学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> 1. 「いのち」と「暮らし」に関わるニーズが多様化する社会にあって、それらについての基礎的な教養を身につけている。 <input type="checkbox"/> 2. 生活福祉・心理コースにあっては、社会福祉学と心理学を総合した視点に立って、社会や人間に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 <input type="checkbox"/> 3. 居住環境コースにあっては、住生活や環境という視点に立って、生活環境に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 <input checked="" type="checkbox"/> 4. 高い公共性と倫理性を備え、地域や社会に主体的、積極的に貢献していこうとする態度が身につけている。 <p>※■が該当項目</p>
------------	--

授業概要/授業目的	この授業では、ジェンダーに関わる私たちの一般的な認識が、一定の歴史的社会的条件下で定着したものであること、またその認識が世代を越えて伝えられる仕組みを、国内外の事例とともに解説する。授業は基本的に講義形式で行う。随時授業内課題を実施し、提出された課題をもとに学生とともに考える機会を設ける。
授業計画	<p>1 はじめに：授業の進め方、成績評価、科目の概要について</p> <p>2 ジェンダーとは</p>

	3	ジェンダーの社会化
	4	ジェンダーと子育て、教育
	5	セクシュアリティとは
	6	パートナーシップとジェンダー
	7	ジェンダーと労働
	8	ジェンダーと身体
	9	ジェンダーとスポーツ
	10	ジェンダーと空間
	11	ジェンダーに関する条約、法律
	12	「男性性」と男性学
	13	広報・広告におけるジェンダー表象
	14	ファッション・メディアにおけるジェンダー表象
	15	まとめ
到達目標	この授業では、学生が現在のジェンダーをめぐる課題を理解するだけでなく、社会生活全般においてジェンダーに関心を持つことが目標になる。	
予習内容/復習内容	予習：前回の授業内容の確認。 復習：授業資料や参考文献を参照して、学習内容の理解を深める。不明な点は質問すること。	
教科書	教科書は使用せず、担当者作成のスライドを用いる。参考図書等は授業内で紹介する。	
成績評価	授業内課題…50% 学期末レポート…50% 全15回のうち10回以上の出席者が成績評価の対象となる。	
実務経験	なし	
その他特記事項		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	全学年	2 単位	選択
担当教員			
望月 秀人			
	講義		
添付ファイル			

ディプロマ・ポリシー	<p>大学DP</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 創造性豊かな人間性と優れた専門性を身につけた学生 <input checked="" type="checkbox"/> 2. 実社会で活躍できる知的・人間的資質を身につけた学生 <input type="checkbox"/> 3. 地域社会を主体的に担う態度を身につけた学生 <input type="checkbox"/> 4. 国際社会に対する理解とコミュニケーション能力や情報社会に対応できる能力を身につけた学生 <p>法経科第1部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 法律・政治・経済・経営など社会科学の基幹分野に関する基本的な知識を修得し、最新の学問的到達についても一定の理解をもっている。 <input type="checkbox"/> 2. 現代社会の諸問題について、専門的知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 <input type="checkbox"/> 3. 修得した学識を職業生活上の実践的課題に適用することができる。 <input checked="" type="checkbox"/> 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 <input type="checkbox"/> 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>法経科第2部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 社会科学について広く基礎的な素養を身につけている。 <input type="checkbox"/> 2. 現代社会の諸問題について、学修した知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 <input type="checkbox"/> 3. 多様な目的意識を持つ幅広い年齢層の学生がともに学生生活を送ることを通じて、豊かな人間関係を構築できるコミュニケーション能力を身につけている。 <input checked="" type="checkbox"/> 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 <input type="checkbox"/> 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>食物栄養学科食物栄養学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 栄養士として必要な食に関する幅広い専門知識と技能を有している。 <input type="checkbox"/> 2. 食と健康に関する様々な課題に対して、科学的根拠に基づいた多面的・総合的な理解及び判断ができる。 <input checked="" type="checkbox"/> 3. 豊かな教養、高い倫理観、優れたコミュニケーション力を備え、栄養士として適切な栄養管理・指導を実践できる。 <input type="checkbox"/> 4. 習得した専門知識と技能を基に、地域社会と連携して食と健康の分野で主体的に活躍できる能力を備えている。 <p>生活科学科生活科学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 「いのち」と「暮らし」に関わるニーズが多様化する社会にあって、それらについての基礎的な教養を身につけている。 <input type="checkbox"/> 2. 生活福祉・心理コースにあっては、社会福祉学と心理学を総合した視点に立って、社会や人間に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 <input type="checkbox"/> 3. 居住環境コースにあっては、住生活や環境という視点に立って、生活環境に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 <input checked="" type="checkbox"/> 4. 高い公共性と倫理性を備え、地域や社会に主体的、積極的に貢献していこうとする態度が身につけている。 <p>※■が該当項目</p>
------------	--

授業概要/授業目的	西洋近代は明治時代以来、長らく日本にとっては追いつくべき模範でしたが、現在ではそうした西洋中心主義は批判され、むしろ他地域と対等に比較すべき一対象となっています。本講義ではそうした状況を踏まえつつ、西洋近代社会の成り立ちと展開を概説的に講義することで、日本にとって何を見習うべきであり、何を見習うべきでないのか、学生の皆さんと考えていきたいと思っております。
授業計画	<p>1 ガイダンス：歴史学とは</p> <p>2 大航海時代と世界の一体化</p>

	3	宗教改革と宗派分裂
	4	宗教戦争と世俗化
	5	中世の封建制
	6	中世封建制から近世の「絶対王政」へ
	7	「絶対王政」の意義と限界
	8	フランス革命の勃発
	9	「市民革命」と近代国家
	10	革命とナショナリズムの時代
	11	工業化とその影響
	12	第一次世界大戦の衝撃
	13	戦後処理方法の変化
	14	大恐慌とファシズム
	15	近代という時代について
到達目標	西洋近代史の大きな流れを理解でき、日本社会との比較や現代とのつながりが理解できる。	
予習内容/復習内容	予習内容は、新聞等で時事問題への関心をもつこと。あとは、授業内容の復習をしてください。	
教科書	テキストは特に定めません。毎回のレジュメに掲載されている出典を参考にして下さい。ただ、山川出版社の高校世界史教科書程度のもは持っていた方が良いでしょう。	
成績評価	定期試験60%、レポート40%で判断します。試験は紙媒体持ち込み可の論述試験で、講義内容に即して回答するものとします。レポートについては講義の際に説明します。6回以上の欠席はその時点で単位を失うものとします。	
実務経験		
その他特記事項	言うまでもなく、講義中の私語や徘徊は原則禁止とします。学生としてふさわしい受講態度をとるようにして下さい。また、時事ネタ等を通じて、社会の課題に敏感になるようにして下さい。	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	全学年	2 単位	選択
担当教員			
山崎 智博			
		講義	
添付ファイル			

ディプロマ・ポリシー	<p>大学DP</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 創造性豊かな人間性と優れた専門性を身につけた学生 <input checked="" type="checkbox"/> 2. 実社会で活躍できる知的・人間的資質を身につけた学生 <input type="checkbox"/> 3. 地域社会を主体的に担う態度を身につけた学生 <input type="checkbox"/> 4. 国際社会に対する理解とコミュニケーション能力や情報社会に対応できる能力を身につけた学生 <p>法経科第1部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 法律・政治・経済・経営など社会科学の基幹分野に関する基本的な知識を修得し、最新の学問的到達についても一定の理解をもっている。 <input type="checkbox"/> 2. 現代社会の諸問題について、専門的知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 <input type="checkbox"/> 3. 修得した学識を職業生活上の実践的課題に適用することができる。 <input checked="" type="checkbox"/> 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 <input checked="" type="checkbox"/> 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>法経科第2部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 社会科学について広く基礎的な素養を身につけている。 <input type="checkbox"/> 2. 現代社会の諸問題について、学修した知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 <input type="checkbox"/> 3. 多様な目的意識を持つ幅広い年齢層の学生がともに学生生活を送ることを通じて、豊かな人間関係を構築できるコミュニケーション能力を身につけている。 <input checked="" type="checkbox"/> 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 <input type="checkbox"/> 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>食物栄養学科食物栄養学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 栄養士として必要な食に関する幅広い専門知識と技能を有している。 <input type="checkbox"/> 2. 食と健康に関する様々な課題に対して、科学的根拠に基づいた多面的・総合的な理解及び判断ができる。 <input checked="" type="checkbox"/> 3. 豊かな教養、高い倫理観、優れたコミュニケーション力を備え、栄養士として適切な栄養管理・指導を実践できる。 <input type="checkbox"/> 4. 習得した専門知識と技能を基に、地域社会と連携して食と健康の分野で主体的に活躍できる能力を備えている。 <p>生活科学科生活科学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 「いのち」と「暮らし」に関わるニーズが多様化する社会にあって、それらについての基礎的な教養を身につけている。 <input type="checkbox"/> 2. 生活福祉・心理コースにあっては、社会福祉学と心理学を総合した視点に立って、社会や人間に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 <input type="checkbox"/> 3. 居住環境コースにあっては、住生活や環境という視点に立って、生活環境に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 <input checked="" type="checkbox"/> 4. 高い公共性と倫理性を備え、地域や社会に主体的、積極的に貢献していこうとする態度が身につけている。 <p>※■が該当項目</p>
------------	---

授業概要/授業目的	日本国内を中心にして都市・地域を人文地理学の立場から考察する。私たちが生活している都市や地域は単独で存在しているのではなく他の都市や地域との結びつきの中で存在している。またその内部構造も単一ではなく様々な要素により構成されている。歴史的な経緯を踏まえてこうした結びつきや構造を理解することにより、私たちが生活する地域の特徴や問題を考えていくことができるようになってもらいたい。
授業計画	<p>1 オリエンテーション（都市・地域の人文地理学）</p> <p>2 都市・地域とは</p>

	3	都市・地域の歴史
	4	都市・地域の結合関係
	5	都市の内部構造
	6	都市の商業・サービス業
	7	都市の工業
	8	都市のオフィス立地
	9	都市・地域の交通
	10	都市のエスニック集団
	11	大都市圏構造
	12	住宅と住居
	13	都市問題・都市計画
	14	都市を歩く
	15	地域・都市の人文地理学まとめ
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・都市・地域を人文地理学の立場から理解できるようになる。 ・都市・地域の性格や抱えている問題を説明できるようになる。 	
予習内容/復習内容	予習：講義中に示す文献等に目を通す等。 復習：ノートやレジュメ等の見直し等。	
教科書	テキストは使用しない。参考文献は講義中に提示します。	
成績評価	定期試験(80%)、小テスト(20%)で成績評価を行います。 6回以上欠席した場合、試験の受験資格はありません。	
実務経験	なし	
その他特記事項	1回の授業で1つのテーマを扱う予定です。ただしテーマに関する資料などを使うことにより進度を調整する場合があります。	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	全学年	2 単位	選択
担当教員			
吉本 陵			
		講義	
添付ファイル			

ディプロマ・ポリシー	<p>大学DP</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 創造性豊かな人間性と優れた専門性を身につけた学生 <input checked="" type="checkbox"/> 2. 実社会で活躍できる知的・人間的資質を身につけた学生 <input type="checkbox"/> 3. 地域社会を主体的に担う態度を身につけた学生 <input type="checkbox"/> 4. 国際社会に対する理解とコミュニケーション能力や情報社会に対応できる能力を身につけた学生 <p>法経科第1部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 法律・政治・経済・経営など社会科学の基幹分野に関する基本的な知識を修得し、最新の学問的到達についても一定の理解をもっている。 <input type="checkbox"/> 2. 現代社会の諸問題について、専門的知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 <input type="checkbox"/> 3. 修得した学識を職業生活上の実践的課題に適用することができる。 <input checked="" type="checkbox"/> 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 <input type="checkbox"/> 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>法経科第2部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 社会科学について広く基礎的な素養を身につけている。 <input type="checkbox"/> 2. 現代社会の諸問題について、学修した知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 <input type="checkbox"/> 3. 多様な目的意識を持つ幅広い年齢層の学生がともに学生生活を送ることを通じて、豊かな人間関係を構築できるコミュニケーション能力を身につけている。 <input checked="" type="checkbox"/> 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 <input type="checkbox"/> 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>食物栄養学科食物栄養学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 栄養士として必要な食に関する幅広い専門知識と技能を有している。 <input type="checkbox"/> 2. 食と健康に関する様々な課題に対して、科学的根拠に基づいた多面的・総合的な理解及び判断ができる。 <input checked="" type="checkbox"/> 3. 豊かな教養、高い倫理観、優れたコミュニケーション力を備え、栄養士として適切な栄養管理・指導を実践できる。 <input type="checkbox"/> 4. 習得した専門知識と技能を基に、地域社会と連携して食と健康の分野で主体的に活躍できる能力を備えている。 <p>生活科学科生活科学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> 1. 「いのち」と「暮らし」に関わるニーズが多様化する社会にあって、それらについての基礎的な教養を身につけている。 <input type="checkbox"/> 2. 生活福祉・心理コースにあっては、社会福祉学と心理学を総合した視点に立って、社会や人間に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 <input type="checkbox"/> 3. 居住環境コースにあっては、住生活や環境という視点に立って、生活環境に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 <input checked="" type="checkbox"/> 4. 高い公共性と倫理性を備え、地域や社会に主体的、積極的に貢献していこうとする態度が身につけている。 <p>※■が該当項目</p>
------------	---

授業概要/授業目的	現代の科学技術は私たちの社会に大きな影響を与え続けています。この授業では科学技術が私たちの（誕生と死を含む）生命に与える影響に焦点を当て、科学技術時代における生と死の意味という問題について哲学的に考察することを試みます。
授業計画	<p>1 ガイダンス&イントロダクション</p> <p>2 哲学的・倫理的なものの考え方（1）功利主義と義務論</p> <p>3 哲学的・倫理的なものの考え方（2）理論を学ぶ意味</p>

	4	現代社会と動物の問題（1）ペットについて
	5	現代社会と動物の問題（2）家畜について
	6	現代社会と動物の問題（3）肉食について
	7	出生前診断と優生思想（1）医療倫理の原則
	8	出生前診断と優生思想（2）出生前診断の歴史と現状
	9	出生前診断と優生思想（3）旧優生保護法と内なる優生思想
	10	脳死臓器移植の倫理（1）脳死について
	11	脳死臓器移植の倫理（2）脳死臓器移植について
	12	未来に対する責任（1）核燃料サイクルの問題
	13	未来に対する責任（2）高レベル放射性廃棄物処分の経緯と現状
	14	未来に対する責任（3）高レベル放射性廃棄物処分の課題
	15	未来に対する責任（4）「100,000年後の安全」は可能か？
到達目標	科学技術が私たちの（誕生と死を含む）生命に対する影響に関する論点を理解すること。 上記の論点について自ら文献資料を調べ、考えたことを論述できるようになること。	
予習内容/復習内容	予習：学習内容に記載されている用語を調べておくこと。 復習：適宜配布する参考文献表を参考にしながら、毎週配布する講義資料の振り返りをする。	
教科書	教科書は使用しない。参考文献は適宜指示する。	
成績評価	定期試験(80%)に、平常点(20%)を加味して評価する。	
実務経験		
その他特記事項	各回の授業後、講義内容についての基本的な質問に対する解答の提出を求める。平常点はそれをもとに評価する。	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	全学年	2 単位	選択
担当教員			
今本 幸平			
		講義	
添付ファイル			

ディプロマ・ポリシー	<p>大学DP</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 創造性豊かな人間性と優れた専門性を身につけた学生 <input checked="" type="checkbox"/> 2. 実社会で活躍できる知的・人間的資質を身につけた学生 <input type="checkbox"/> 3. 地域社会を主体的に担う態度を身につけた学生 <input type="checkbox"/> 4. 国際社会に対する理解とコミュニケーション能力や情報社会に対応できる能力を身につけた学生 <p>法経科第1部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 法律・政治・経済・経営など社会科学の基幹分野に関する基本的な知識を修得し、最新の学問的到達についても一定の理解をもっている。 <input type="checkbox"/> 2. 現代社会の諸問題について、専門的知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 <input type="checkbox"/> 3. 修得した学識を職業生活上の実践的課題に適用することができる。 <input checked="" type="checkbox"/> 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 <input type="checkbox"/> 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>法経科第2部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 社会科学について広く基礎的な素養を身につけている。 <input type="checkbox"/> 2. 現代社会の諸問題について、学修した知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 <input type="checkbox"/> 3. 多様な目的意識を持つ幅広い年齢層の学生がともに学生生活を送ることを通じて、豊かな人間関係を構築できるコミュニケーション能力を身につけている。 <input checked="" type="checkbox"/> 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 <input type="checkbox"/> 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>食物栄養学科食物栄養学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 栄養士として必要な食に関する幅広い専門知識と技能を有している。 <input type="checkbox"/> 2. 食と健康に関する様々な課題に対して、科学的根拠に基づいた多面的・総合的な理解及び判断ができる。 <input checked="" type="checkbox"/> 3. 豊かな教養、高い倫理観、優れたコミュニケーション力を備え、栄養士として適切な栄養管理・指導を実践できる。 <input type="checkbox"/> 4. 習得した専門知識と技能を基に、地域社会と連携して食と健康の分野で主体的に活躍できる能力を備えている。 <p>生活科学科生活科学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 「いのち」と「暮らし」に関わるニーズが多様化する社会にあって、それらについての基礎的な教養を身につけている。 <input type="checkbox"/> 2. 生活福祉・心理コースにあっては、社会福祉学と心理学を総合した視点に立って、社会や人間に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 <input type="checkbox"/> 3. 居住環境コースにあっては、住生活や環境という視点に立って、生活環境に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 <input checked="" type="checkbox"/> 4. 高い公共性と倫理性を備え、地域や社会に主体的、積極的に貢献していこうとする態度が身につけている。 <p>※■が該当項目</p>
------------	--

授業概要/授業目的	この講義ではヨーロッパの有名な文学作品を取り上げます。時代も国も、私たちからは遠く離れた作品ですが、そこに描かれる人間の姿は、現代の私たちにも通じる部分が多々あると思います。とはいえ、何の手がかりもなく読んでも分かりにくい部分も出てくると思います。講義では、適宜画像などの資料も使いながら、作者、当時の時代背景、文化など、周辺の事柄も視野にいれつつ、作品をより身近に感じて味わうための要点を示してゆきたいと思います。
授業計画	<p>1 ガイダンス（講義概要、イタロ・カルヴィーノ『なぜ古典を読むのか』）</p> <p>2 シェイクスピア『ロミオとジュリエット』第1幕一出会い</p>

	3	シェイクスピア『ロミオとジュリエット』第2幕—バルコニー・シーン
	4	シェイクスピア『ロミオとジュリエット』第3幕—波乱の始まり
	5	シェイクスピア『ロミオとジュリエット』第4、5幕—死と和解
	6	シェイクスピア『夏の夜の夢』第1幕—森へ行く人々
	7	シェイクスピア『夏の夜の夢』第2、3幕—妖精のいたずら
	8	シェイクスピア『夏の夜の夢』第4、5幕—大団円
	9	ドイツの民衆本『ティルオイレンシュピーゲルのゆかいないたずら』
	10	シェリー『フランケンシュタイン』①怪物の誕生
	11	シェリー『フランケンシュタイン』②人間を追う怪物
	12	シェリー『フランケンシュタイン』③怪物を追う人間
	13	メリメ『カルメン』
	14	デュマ・フィス『椿姫』①出会いと別れ
	15	デュマ・フィス『椿姫』②別れの理由
到達目標	①文学作品に親しみ、読書を楽しめるようになる。 ②読んだ作品の要約や意見などを、分かりやすい文章で伝えられるようになる。	
予習内容/復習内容	予習：自分が楽しく読める文学作品を見つける。（作者は不問） 復習：講義で紹介した作品を読む。	
教科書	教科書は使用せず、資料（本文の抜粋）を配布する。	
成績評価	学期末の筆記試験70%、毎回のコメント30%。欠席が5回を超えた場合は成績評価の対象外。講義開始20分以降の入室は欠席扱いとする（列車遅延等の不可抗力は除く）。	
実務経験		
その他特記事項	取り上げる作品と講義の順序は予告なく変更する場合がある。 「文学Ⅰ」と「文学Ⅱ」はどちらを先に履修しても構わない。どちらか一つだけの履修も可。	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	全学年	2単位	選択
担当教員			
今本 幸平			
		講義	
添付ファイル			

ディプロマ・ポリシー	<p>大学DP</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 創造性豊かな人間性と優れた専門性を身につけた学生 <input checked="" type="checkbox"/> 2. 実社会で活躍できる知的・人間的資質を身につけた学生 <input type="checkbox"/> 3. 地域社会を主体的に担う態度を身につけた学生 <input type="checkbox"/> 4. 国際社会に対する理解とコミュニケーション能力や情報社会に対応できる能力を身につけた学生 <p>法経科第1部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 法律・政治・経済・経営など社会科学の基幹分野に関する基本的な知識を修得し、最新の学問的到達についても一定の理解をもっている。 <input type="checkbox"/> 2. 現代社会の諸問題について、専門的知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 <input type="checkbox"/> 3. 修得した学識を職業生活上の実践的課題に適用することができる。 <input checked="" type="checkbox"/> 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 <input type="checkbox"/> 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>法経科第2部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 社会科学について広く基礎的な素養を身につけている。 <input type="checkbox"/> 2. 現代社会の諸問題について、学修した知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 <input type="checkbox"/> 3. 多様な目的意識を持つ幅広い年齢層の学生がともに学生生活を送ることを通じて、豊かな人間関係を構築できるコミュニケーション能力を身につけている。 <input checked="" type="checkbox"/> 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 <input type="checkbox"/> 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>食物栄養学科食物栄養学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 栄養士として必要な食に関する幅広い専門知識と技能を有している。 <input type="checkbox"/> 2. 食と健康に関する様々な課題に対して、科学的根拠に基づいた多面的・総合的な理解及び判断ができる。 <input checked="" type="checkbox"/> 3. 豊かな教養、高い倫理観、優れたコミュニケーション力を備え、栄養士として適切な栄養管理・指導を実践できる。 <input type="checkbox"/> 4. 習得した専門知識と技能を基に、地域社会と連携して食と健康の分野で主体的に活躍できる能力を備えている。 <p>生活科学科生活科学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 「いのち」と「暮らし」に関わるニーズが多様化する社会にあって、それらについての基礎的な教養を身につけている。 <input type="checkbox"/> 2. 生活福祉・心理コースにあっては、社会福祉学と心理学を総合した視点に立って、社会や人間に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 <input type="checkbox"/> 3. 居住環境コースにあっては、住生活や環境という視点に立って、生活環境に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 <input checked="" type="checkbox"/> 4. 高い公共性と倫理性を備え、地域や社会に主体的、積極的に貢献していこうとする態度が身につけている。 <p>※■が該当項目</p>
------------	--

授業概要/授業目的	この講義ではドイツ語圏の文学作品を取り上げます。難しそうな印象があるかもしれませんが、文学の読み方に正解はないので、皆さんの理解が及ぶ範囲で、等身大の読み方をしてください。講義では文学作品をすこしでも身近に感じてもらえるように、適宜映像などの資料も使い、作者、当時の社会背景、文化などの周辺事情も視野に入れて、作品の紹介をしてゆきます。
授業計画	<p>1 ガイダンス（講義概要、文章作成上の注意点）</p> <p>2 ゲーテ『若きウェルテルの悩み』第1部一恋の苦しみ</p>

	3	ゲーテ『若きウェルテルの悩み』第2部—新天地での苦しみ
	4	ドイツの民衆本『ファウスト博士』
	5	ゲーテ『ファウスト 悲劇』第1部前半—学者悲劇
	6	ゲーテ『ファウスト 悲劇』第1部後半—グレートヒェン悲劇
	7	ゲーテ『魔王』
	8	グリム童話
	9	シャミッソー『影をなくした男』
	10	ホフマン『砂男』
	11	シュペーリ『ハイジの修業遍歴時代』
	12	シュペーリ『ハイジは習ったことを役立てる』
	13	カフカ『変身』
	14	シュリンク『朗読者』第1部—出会い、朗読、別れ
	15	シュリンク『朗読者』第2、3部—秘密
到達目標	①文学作品に親しみ、読書を楽しめるようになる。 ②読んだ作品の要約や意見などを、分かりやすい文章で伝えられるようになる。	
予習内容/復習内容	予習：自分が楽しく読める文学作品を見つける。（作者は不問） 復習：講義で紹介した作品を読む。	
教科書	教科書は使用せず、資料（本文の抜粋）を配布する。	
成績評価	学期末の筆記試験70%、毎回のコメント30%。欠席が5回を超えた場合は成績評価の対象外。講義開始20分以降の入室は欠席扱いとする（列車遅延等の不可抗力は除く）。	
実務経験		
その他特記事項	取り上げる作品と講義の順序は予告なく変更する可能性がある。 「文学Ⅰ」と「文学Ⅱ」はどちらを先に履修しても構わない。どちらか一つだけの履修も可。	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	全学年	2 単位	選択
担当教員			
岡野 智子			
		講義	
添付ファイル			

ディプロマ・ポリシー	<p>大学DP</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 創造性豊かな人間性と優れた専門性を身につけた学生 <input checked="" type="checkbox"/> 2. 実社会で活躍できる知的・人間的資質を身につけた学生 <input type="checkbox"/> 3. 地域社会を主体的に担う態度を身につけた学生 <input type="checkbox"/> 4. 国際社会に対する理解とコミュニケーション能力や情報社会に対応できる能力を身につけた学生 <p>法経科第1部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 法律・政治・経済・経営など社会科学の基幹分野に関する基本的な知識を修得し、最新の学問的到達についても一定の理解をもっている。 <input type="checkbox"/> 2. 現代社会の諸問題について、専門的知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 <input type="checkbox"/> 3. 修得した学識を職業生活上の実践的課題に適用することができる。 <input checked="" type="checkbox"/> 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 <input type="checkbox"/> 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>法経科第2部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 社会科学について広く基礎的な素養を身につけている。 <input type="checkbox"/> 2. 現代社会の諸問題について、学修した知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 <input type="checkbox"/> 3. 多様な目的意識を持つ幅広い年齢層の学生がともに学生生活を送ることを通じて、豊かな人間関係を構築できるコミュニケーション能力を身につけている。 <input checked="" type="checkbox"/> 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 <input type="checkbox"/> 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>食物栄養学科食物栄養学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 栄養士として必要な食に関する幅広い専門知識と技能を有している。 <input type="checkbox"/> 2. 食と健康に関する様々な課題に対して、科学的根拠に基づいた多面的・総合的な理解及び判断ができる。 <input checked="" type="checkbox"/> 3. 豊かな教養、高い倫理観、優れたコミュニケーション力を備え、栄養士として適切な栄養管理・指導を実践できる。 <input type="checkbox"/> 4. 習得した専門知識と技能を基に、地域社会と連携して食と健康の分野で主体的に活躍できる能力を備えている。 <p>生活科学科生活科学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 「いのち」と「暮らし」に関わるニーズが多様化する社会にあって、それらについての基礎的な教養を身につけている。 <input type="checkbox"/> 2. 生活福祉・心理コースにあっては、社会福祉学と心理学を総合した視点に立って、社会や人間に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 <input type="checkbox"/> 3. 居住環境コースにあっては、住生活や環境という視点に立って、生活環境に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 <input checked="" type="checkbox"/> 4. 高い公共性と倫理性を備え、地域や社会に主体的、積極的に貢献していこうとする態度が身につけている。 <p>※■が該当項目</p>
------------	--

授業概要/授業目的	日本の調度や衣装には、古来様々な意匠=デザインが施されてきた。それらは四季折々の花鳥風月をはじめ、物語や和歌などの古典文学なども深い関わりをもつ。本講義では日本の美意識を象徴する意匠の成立と展開につき、絵画や工芸品を通じて多方面から考察、人々の暮らしや人生、社会における美の在り様に理解を深める。
授業計画	<p>1 オリエンテーション・1-1 日本の美ーその成立と展開ー 入門編</p> <p>2 1-2 日本の美ーその成立と展開ー 縄文時代～平安時代</p>

	3	1-3 日本の美ーその成立と展開ー 鎌倉時代～桃山時代
	4	1-4 日本の美ーその成立と展開ー 江戸時代
	5	2 吉祥の意匠ー福を招く意匠ー
	6	3 桜の意匠ー花への想いと其の表象ー
	7	4 涼を呼ぶ意匠ー実用と装飾の出会いー
	8	5 秋を彩る意匠ー情趣と洗練の美ー
	9	6 冬を楽しむ意匠ー雪の姿さまざまー
	10	7-1 月次の花鳥と行事ー歌絵の広がりー
	11	7-2 月次の花鳥と行事ー江戸に息づく伝統ー
	12	8-1 『伊勢物語』の意匠ー物語絵の展開ー
	13	8-2 『伊勢物語』の意匠ー燕子花と問えばー
	14	9-1 『源氏物語』の意匠ー名場面の絵画化ー
	15	9-1 『源氏物語』の意匠ー留守模様遊ぶー
到達目標	伝統的な意匠への知見を深め、講義毎に作品と対峙して自己の内なる感性を培い課題に表し、その積み重ねを以て自己の美意識を豊かに築き明確に表現する力を養う事ができる。	
予習内容/復習内容	予習：各回のテーマに基づき、日本の美術品の中で該当すると思われる作品を検索、イメージを把握しておく。 復習：各自で美術館・博物館等で実作品を鑑賞し、授業内容を振り返りつつ作品と向き合う経験を通して自らの「見る力」を養う（経費は自己負担、自己責任で行う）。さらに展覧会カードに感想をまとめ、提出することを強く推奨する。	
教科書	教科書は使用しない。資料を毎回配布。	
成績評価	①授業出席時に提出するコメント内容50% ②展覧会等の見学レポート内容20% ③期末レポート内容30%（②については比率を③と調整することがある）	
実務経験		
その他特記事項	オリエンテーションで重要な連絡を行う。受講希望者は必ず初回の授業に出席し、そこで提示の受講注意に同意の上、履修すること。毎回講義で触れた作品の中から手書きでコメント提出を求める。期末レポートも手書きで詳細な記述を求める。受講者は提出回数が原則として10回以上の者のみ③の提出資格が得られる。	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	全学年	2単位	選択
担当教員			
嶋田 宏司			
	講義		
添付ファイル			

ディプロマ・ポリシー	<p>大学DP</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 創造性豊かな人間性と優れた専門性を身につけた学生 <input checked="" type="checkbox"/> 2. 実社会で活躍できる知的・人間的資質を身につけた学生 <input type="checkbox"/> 3. 地域社会を主体的に担う態度を身につけた学生 <input type="checkbox"/> 4. 国際社会に対する理解とコミュニケーション能力や情報社会に対応できる能力を身につけた学生 <p>法経科第1部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 法律・政治・経済・経営など社会科学の基幹分野に関する基本的な知識を修得し、最新の学問的到達についても一定の理解をもっている。 <input type="checkbox"/> 2. 現代社会の諸問題について、専門的知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 <input type="checkbox"/> 3. 修得した学識を職業生活上の実践的課題に適用することができる。 <input checked="" type="checkbox"/> 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 <input checked="" type="checkbox"/> 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>法経科第2部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 社会科学について広く基礎的な素養を身につけている。 <input type="checkbox"/> 2. 現代社会の諸問題について、学修した知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 <input type="checkbox"/> 3. 多様な目的意識を持つ幅広い年齢層の学生がともに学生生活を送ることを通じて、豊かな人間関係を構築できるコミュニケーション能力を身につけている。 <input checked="" type="checkbox"/> 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 <input type="checkbox"/> 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>食物栄養学科食物栄養学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 栄養士として必要な食に関する幅広い専門知識と技能を有している。 <input type="checkbox"/> 2. 食と健康に関する様々な課題に対して、科学的根拠に基づいた多面的・総合的な理解及び判断ができる。 <input checked="" type="checkbox"/> 3. 豊かな教養、高い倫理観、優れたコミュニケーション力を備え、栄養士として適切な栄養管理・指導を実践できる。 <input type="checkbox"/> 4. 習得した専門知識と技能を基に、地域社会と連携して食と健康の分野で主体的に活躍できる能力を備えている。 <p>生活科学科生活科学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 「いのち」と「くらし」に関わるニーズが多様化する社会にあって、それらについての基礎的な教養を身につけている。 <input type="checkbox"/> 2. 生活福祉・心理コースにあっては、社会福祉学と心理学を総合した視点に立って、社会や人間に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 <input type="checkbox"/> 3. 居住環境コースにあっては、住生活や環境という視点に立って、生活環境に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 <input checked="" type="checkbox"/> 4. 高い公共性と倫理性を備え、地域や社会に主体的、積極的に貢献していこうとする態度が身につけている。 <p>※■が該当項目</p>
------------	---

授業概要/授業目的	1850年頃からヨーロッパ、特にフランスで起こったレアリズム（写実主義）から印象主義への展開を概観したあと、印象主義を取り入れた日本の洋画に目を転じます。この明治期の日本の洋画界では留学組の黒田清輝をリーダーとして、印象主義を穏やかな写実主義に取り合わせた絵画が主流として現れます。日本の洋画家たちは、さらにヨーロッパにおける他の美術（アール・ヌーヴォー、ポスト印象主義、フォーヴィスム、キュビスム）を研究しながら、新しい表現を次々に開発していきます。授業では、より詳しい美術史については時間的に難しいのですが、よく知られている印象主義の技術的・理論的側面を知り、明治・大正期の画家たちの努力や新発想を理解してもらえることと思います。この授業の過程で、作品をしっかりと観察する、その内容を言葉にする、という作業もあわせて行います。
授業計画	1 レアリズム（写実主義）そしてギュスターヴ・クールベ 授業の初回として、レアリズムという美術史用語について「写実主義」ないしは「自然主義」の

2	<p>解説から始めます。そして続く印象主義までが、この考え方で理解できること、さらに明治期の日本にフランスへの留学を通じて、西洋近代の絵画が本格的に入ってくることを説明します。これらのフランス近代の絵画では、風景画をおもに扱います。そうして日本の洋画界において、この「写実」を乗り越えて自由な個人の感性と創意に発した美術が展開してゆくことを概説します。このような前段階からいよいよ個人の画家の作品を観察してゆくことにします。第1回目はギュスターヴ・クールベです。</p> <p>2 ギュスターヴ・クールベ：初期代表作品の観察 クールベの初期の代表的な作品を詳細に観察します。作品を「詳しく観察する」ことで、絵というものの主題内容を把握・理解するということが可能である、と気づいてもらうことが初回の主眼です。そしてクールベに関連する資料も引きながら、彼独自のリアリズム（写実主義）を考察します。</p> <p>3 バルビゾン派（1）：森林地帯の風景を描いた画家たち クールベとも交流があった、バルビゾン派の画家たちを扱います。ここには約七人の画家がいるので、そのうちから二ないし三人を選んで授業で扱います。バルビゾン派は森林地帯の村バルビゾンに暮らして、主に風景画を描きました。彼らの自然風景の扱い方を観察し、この画家たちと関わっていた若い世代の中から、どうして印象主義の画家たちが出てきたのか、それを考えることがバルビゾン派を取り上げる理由です。</p> <p>4 バルビゾン派（2）：水辺の風景を描いた画家たち バルビゾン派との付き合いがあり、水面のある風景の描き方に特徴のあるウジェーヌ・ブーダン、ヨハン・バルトルト・ヨンキントを取り上げます。そのことで次の印象派へのつながり、つまり色彩の新技法が確立される前段階を作品の中に見出していきます。</p> <p>5 クロード・モネ（1）：モネと印象主義の要点 印象主義を生涯にわたって追求した画家、クロード・モネを取り上げます。まずは略歴を紹介し、印象主義的特徴を明確にしてゆくモネの制作の要点をつかみます。</p> <p>6 クロード・モネ（2）：印象主義的技法（色調分割）の確立 モネの初期作品を観察しながら、やがて印象主義へとつながってゆく、彼の風景の観察方法について考察します。この回でとくに重要なことは、モネと友人のオーギュスト・ルノワールによって新しい色彩の技法が確立されてゆくことです。この理論的な内容と作品をもとにした実践の様子を見てゆきます。</p> <p>7 黒田清輝（1）：初期作品の観察ー西洋式の人体デッサンの習得と発展、そして外光派 法律を学ぶためにフランスに留学しながら、途中で画家に転向した黒田清輝ですが、当時主流となりつつあったリアリズムと印象主義を経験します。彼の制作は外光派とも呼ばれる、印象主義的な技法をわずかに取り入れた穏やかな写実でした。しかし、帰国後に東京美術学校の教授職につくと、彼が学んできたフランスの新しい美術を後進に伝え、日本の洋画壇を刷新していきます。この授業計画に書かれてある黒田以降の画家たちは、全て彼と関係がありました。そうした黒田の略歴を紹介し、初期作品を観察してゆきます。</p> <p>8 黒田清輝（2）：日本の画家が西欧的な絵画を制作すること 黒田清輝の前期および後期の代表的な作品を観察し、彼が日本の洋画界に伝えた新しい美術の内容、そして黒田作品のサインの仕方、また人体デッサンの特質から日本の洋画における問題点を考察します。</p> <p>9 藤島武二（1）：年譜とデザイン的な初期作品ー西洋と日本の意匠 津の中学校で教鞭を執っていたこともある藤島武二を取り上げます。藤島は黒田清輝に引き立てられて東京美術学校で教授職に就きますが、黒田の芸術を尊重しながらも彼自身の性質に合った作品を創作します。こうした藤島の生涯を概観し、彼の初期制作におけるデザイン的な要素を観察します。</p> <p>10 藤島武二（2）：日本古代文化をテーマにした「洋画」という制作方法 藤島が天平時代の文化を洋画の技法・構成で描いた《天平の面影》を中心に観察します。その中で藤島独自の性質を表す創作の特徴を考察します。</p> <p>11 青木繁（1）：初期神話作品、そして西洋美術の刺激 黒田清輝の教え子であり、尊敬してはいたものの、黒田とは異なる独自の芸術構想を抱いて創作を続けた、青木繁の生涯をまず概観します。そして、神話を主題にした作品にオリジナリティーを発揮する、青木の初期作品の観察を行います。</p> <p>12 青木繁（2）：問題作《わだつみのいろこの宮》と西洋的な構図法、そして後期作品の観察・評価 青木の短い画家人生の中でも問題作とされる《わだつみのいろこの宮》を中心に取り上げ、西洋的な描写と構図における独自のアイデアを考察します。この作品の不評を機に、青木は失意の中で放浪生活を送ることになるのですが、それにもかかわらず風景画においては光の感受性に優れ、色彩の感覚はみずみずしさを保ちます。こうした内容を後期の作品に観察してゆきたいと思えます。</p> <p>13 萬鉄五郎（よろず てつごろう）（1）：初期制作の人体デッサンにおける日本洋画界への問題提起 造形（色の塗り方や形の作り方など）において日本の美術に見られなかったフォーヴィスムやキュビズム、また表現主義といった、ヨーロッパの新しい潮流をいち早く取り入れながら、一方で人体形式の描写に日本独自の内容も盛り込もうとした画家、萬の初期作品を紹介します。</p> <p>14 萬鉄五郎（2）：日本的モダニズムのさきがけとなる絵画制作と東洋的な文化への帰帰 萬が人体をキュビズムあるいは構成主義的に描いた後期作品を取り上げて観察し、技法や造形の新しさを考えます。また、萬は東洋的・日本的な南画も手がけるようになってゆきます。そこで日本の洋画家が西洋的な絵画から離れる、という意義も考察したいと思えます。</p> <p>15 授業内容の振り返り これまでの作品観察や主題内容の考察をまとめて、ヨーロッパの初期モダニズムが日本で独自の発展を遂げてきた様を改めて俯瞰したいと思えます。</p>
到達目標	美術作品を前にして、芸術家の表現と意味内容をつかむためにも重要な「自覚的に作品を観察」する方法を知り、より理解を深めるために「観察結果をもとにして作品を記述する（言葉でとらえる）」ということを目標にしたい。この到達度は期末のレポートで問うことにする。
予習内容/復習内容	配布する資料を読み、授業を受けて三重県立美術館や名古屋の美術館を訪れたり、図書館などで知識を定着させ、いっそう芸術についての理解を深めてください。展覧会の紹介もしますので、実作品を見る（これは作品の調査になります）ことに努めてください。

教科書	教科書は使用せず、独自の参考資料を配布する予定です。
成績評価	授業内容に相応する期末レポート90%、授業についての関心の持ち方（授業中のこちらからの質問に対する反応、あるいは終了時になされる質問など）10%。ただし学校の規定にもとづいて、授業回数の3分の1を超える欠席（約6回以上）がある場合には成績評価の対象外となります。
実務経験	
その他特記事項	授業の進度は各時間のテーマの重要度によって異なります。学生の理解の様子に応じて調整しますので、シラバスとは異なる場合があることを承知しておいてください。

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	全学年	2 単位	選択
担当教員			
石原 洋介			
		講義	
添付ファイル			

ディプロマ・ポリシー	<p>大学DP</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 創造性豊かな人間性と優れた専門性を身につけた学生 <input type="checkbox"/> 2. 実社会で活躍できる知的・人間的資質を身につけた学生 <input checked="" type="checkbox"/> 3. 地域社会を主体的に担う態度を身につけた学生 <input type="checkbox"/> 4. 国際社会に対する理解とコミュニケーション能力や情報社会に対応できる能力を身につけた学生 <p>法経科第1部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 法律・政治・経済・経営など社会科学の基幹分野に関する基本的な知識を修得し、最新の学問的到達についても一定の理解をもっている。 <input type="checkbox"/> 2. 現代社会の諸問題について、専門的知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 <input type="checkbox"/> 3. 修得した学識を職業生活上の実践的課題に適用することができる。 <input type="checkbox"/> 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 <input checked="" type="checkbox"/> 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>法経科第2部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 社会科学について広く基礎的な素養を身につけている。 <input type="checkbox"/> 2. 現代社会の諸問題について、学修した知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 <input type="checkbox"/> 3. 多様な目的意識を持つ幅広い年齢層の学生がともに学生生活を送ることを通じて、豊かな人間関係を構築できるコミュニケーション能力を身につけている。 <input type="checkbox"/> 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 <input checked="" type="checkbox"/> 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>食物栄養学科食物栄養学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 栄養士として必要な食に関する幅広い専門知識と技能を有している。 <input type="checkbox"/> 2. 食と健康に関する様々な課題に対して、科学的根拠に基づいた多面的・総合的な理解及び判断ができる。 <input checked="" type="checkbox"/> 3. 豊かな教養、高い倫理観、優れたコミュニケーション力を備え、栄養士として適切な栄養管理・指導を実践できる。 <input checked="" type="checkbox"/> 4. 習得した専門知識と技能を基に、地域社会と連携して食と健康の分野で主体的に活躍できる能力を備えている。 <p>生活科学科生活科学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 「いのち」と「暮らし」に関わるニーズが多様化する社会にあって、それらについての基礎的な教養を身につけている。 <input type="checkbox"/> 2. 生活福祉・心理コースにあっては、社会福祉学と心理学を総合した視点に立って、社会や人間に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 <input type="checkbox"/> 3. 居住環境コースにあっては、住生活や環境という視点に立って、生活環境に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 <input checked="" type="checkbox"/> 4. 高い公共性と倫理性を備え、地域や社会に主体的、積極的に貢献していこうとする態度が身につけている。 <p>※■が該当項目</p>
------------	---

授業概要/授業目的	この講義は、津市長をはじめ津市の職員によるリレー式の講義であり、本学の「地域連携講義」の一つとして行われる特色ある講義である。また、地方議会の傍聴も予定しており、自治体行政の仕組み等を理解することが、本講義の目的となる。 法経科では行政法、行政学、地方政治論、財政学など地方行財政を取り扱う講義科目、生活科学科では、地域政策論、地域福祉論、地域環境学、都市計画論、環境政策論など、自治体行政に関わる講義科目があり、それらをあわせて受講することで理解が深まる。無論、自治体行政に関心のある食物栄養学科の学生の履修も歓迎する。
授業計画	1 オリエンテーション、津市の概況、防災について（防災室）

	2	津市の政策について（政策財務部）
	3	財政について（政策財務部）
	4	津市シティプロモーション（広報課）
	5	都市計画について（都市計画部）
	6	参加と協働のまちづくりについて（市民部）
	7	津市の教育について（教育委員会事務局）
	8	津市の福祉について（健康福祉部）
	9	選挙について（選挙管理）、津市議会傍聴にむけて
	10	文化・スポーツについて（スポーツ文化振興部）
	11	産業振興（農林水産業）について（農林水産部）
	12	産業振興（商工業／観光）について（商工観光部）
	13	産業振興（商工業／観光）について（商工観光部）
	14	津市議会傍聴【12月】※津市議会HPの映像配信の視聴
	15	自治体経営（市長）
到達目標		津市をモデルに現在の地方行政に関する施策や課題などを学び、地方自治体に関する基礎知識を深めることができる。
予習内容/復習内容		予習：各講義内容について津市HP等を活用し、担当部課の業務内容に目を通しておくこと。 復習：毎回配布する資料を復習するとともに、講義中の重要なキーワードを理解しておくこと。
教科書		教科書・参考文献の指定はない。 毎回の講義時に配布される各講師が準備したレジュメ・資料をもとに進めていく。
成績評価		出席時の講義ノート（60%）、議会傍聴レポート（40%）を併せて評価。 1/3を超えて欠席した場合は評価の対象外とする。
実務経験		講師は、現職の津市長をはじめ各課の専門職員であることから、それぞれの専門分野で実務を経験し各種の専門計画・事業に携わっている。授業では、これらの実務経験を活かし、実践的で具体的な自治体行政の基礎知識が修得できるよう講義を行う。
その他特記事項		毎回、講義の概要、感想等をまとめた「講義ノート（A4判）」を提出する。 12月津市議会を傍聴し、「議会傍聴レポート（A4判）」を提出する。 講義の順序や内容は、講師の都合により変更の可能性がある。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	全学年	2単位	選択
担当教員			
古畑 淳			
		講義	
添付ファイル			

ディプロマ・ポリシー	<p>大学DP</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 創造性豊かな人間性と優れた専門性を身につけた学生 <input checked="" type="checkbox"/> 2. 実社会で活躍できる知的・人間的資質を身につけた学生 <input checked="" type="checkbox"/> 3. 地域社会を主体的に担う態度を身につけた学生 <input type="checkbox"/> 4. 国際社会に対する理解とコミュニケーション能力や情報社会に対応できる能力を身につけた学生 <p>法経科第1部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 法律・政治・経済・経営など社会科学の基幹分野に関する基本的な知識を修得し、最新の学問的到達についても一定の理解をもっている。 <input type="checkbox"/> 2. 現代社会の諸問題について、専門的知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 <input checked="" type="checkbox"/> 3. 修得した学識を職業生活上の実践的課題に適用することができる。 <input type="checkbox"/> 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 <input checked="" type="checkbox"/> 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>法経科第2部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 社会科学について広く基礎的な素養を身につけている。 <input type="checkbox"/> 2. 現代社会の諸問題について、学修した知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 <input type="checkbox"/> 3. 多様な目的意識を持つ幅広い年齢層の学生がともに学生生活を送ることを通じて、豊かな人間関係を構築できるコミュニケーション能力を身につけている。 <input type="checkbox"/> 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 <input checked="" type="checkbox"/> 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>食物栄養学科食物栄養学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 栄養士として必要な食に関する幅広い専門知識と技能を有している。 <input type="checkbox"/> 2. 食と健康に関する様々な課題に対して、科学的根拠に基づいた多面的・総合的な理解及び判断ができる。 <input checked="" type="checkbox"/> 3. 豊かな教養、高い倫理観、優れたコミュニケーション力を備え、栄養士として適切な栄養管理・指導を実践できる。 <input checked="" type="checkbox"/> 4. 習得した専門知識と技能を基に、地域社会と連携して食と健康の分野で主体的に活躍できる能力を備えている。 <p>生活科学科生活科学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 「いのち」と「暮らし」に関わるニーズが多様化する社会にあって、それらについての基礎的な教養を身につけている。 <input type="checkbox"/> 2. 生活福祉・心理コースにあっては、社会福祉学と心理学を総合した視点に立って、社会や人間に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 <input type="checkbox"/> 3. 居住環境コースにあっては、住生活や環境という視点に立って、生活環境に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 <input checked="" type="checkbox"/> 4. 高い公共性と倫理性を備え、地域や社会に主体的、積極的に貢献していこうとする態度が身につけている。 <p>※■が該当項目</p>
------------	---

授業概要/授業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・職場、家庭、地域の構成員として、将来の自分自身の在り方を考えます。 ・多様な分野の専門家、人生の先輩たちの話を通じて、自分自身の人生を選び取っていく能力を身に着けます。 ・講師は毎回変わる「オムニバス形式」です。 ・各講師の仕事や人生観について具体的に触れながら、自分自身の職業観、人生観を獲得し、今後の進路選択に役立てます。
授業計画	<p>1 ガイダンス（学生部長）/就職活動と目標設定</p> <p>2 起業について</p>

	3	企業から求められる人材とは
	4	地域を知る、地域で働く
	5	プログテスト解説会
	6	ライフプランとプレコンセプションケアについて
	7	変化の激しい時代にやるべきこと
	8	税を知る
	9	防災とまちづくりに関わる
	10	ライフプランと金融リテラシー
	11	地域とゲーム～遊びと学びの仕組みをつくる仕事
	12	中小企業と信用保証協会の役割
	13	労働関連の法律を知る
	14	公的年金制度を学ぶ
	15	まとめ
到達目標	全講義を通じて学ぶことで、自分自身のキャリアイメージを形成していきます。毎回の小レポート、最後のまとめレポートを執筆することで、文章を簡潔にまとめ、適切に表現する能力を身に着けることをめざします。	
予習内容/復習内容	事前に告知された各講師のテーマについて調べ、配布されるワークシートやレポート執筆のためのメモを復習してください。	
教科書	テキストは使用せず、毎回、各講師から配布される資料を使用します。	
成績評価	毎回小レポート（14回分）…70%　まとめのレポート…30% 6回以上欠席した場合、評価の対象外とします。	
実務経験	各分野の専門職や行政機関職員といった方々やそれぞれの実務経験から獲得された職業観や人生観、現在の職業を選択するにいたった経緯などをお話します。	
その他特記事項	2025年4月の開講時点で、あらためてシラバスを配布する予定です。 1年生の履修を原則とします。	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期／後期	全学年	1・2	選択
担当教員			
古畑淳			
添付ファイル			

ディプロマ・ポリシー	<p>大学DP</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 創造性豊かな人間性と優れた専門性を身につけた学生 <input type="checkbox"/> 2. 実社会で活躍できる知的・人間的資質を身につけた学生 <input type="checkbox"/> 3. 地域社会を主体的に担う態度を身につけた学生 <input type="checkbox"/> 4. 国際社会に対する理解とコミュニケーション能力や情報社会に対応できる能力を身につけた学生 <p>法経科第1部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 法律・政治・経済・経営など社会科学の基幹分野に関する基本的な知識を修得し、最新の学問的到達についても一定の理解をもっている。 <input type="checkbox"/> 2. 現代社会の諸問題について、専門的知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 <input type="checkbox"/> 3. 修得した学識を職業生活上の実践的課題に適用することができる。 <input type="checkbox"/> 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 <input type="checkbox"/> 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>法経科第2部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 社会科学について広く基礎的な素養を身につけている。 <input type="checkbox"/> 2. 現代社会の諸問題について、学修した知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 <input type="checkbox"/> 3. 多様な目的意識を持つ幅広い年齢層の学生がともに学生生活を送ることを通じて、豊かな人間関係を構築できるコミュニケーション能力を身につけている。 <input type="checkbox"/> 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 <input type="checkbox"/> 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>食物栄養学科食物栄養学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 栄養士として必要な食に関する幅広い専門知識と技能を有している。 <input type="checkbox"/> 2. 食と健康に関する様々な課題に対して、科学的根拠に基づいた多面的・総合的な理解及び判断ができる。 <input type="checkbox"/> 3. 豊かな教養、高い倫理観、優れたコミュニケーション力を備え、栄養士として適切な栄養管理・指導を実践できる。 <input type="checkbox"/> 4. 習得した専門知識と技能を基に、地域社会と連携して食と健康の分野で主体的に活躍できる能力を備えている。 <p>生活科学科生活科学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 「いのち」と「暮らし」に関わるニーズが多様化する社会にあって、それらについての基礎的な教養を身につけている。 <input type="checkbox"/> 2. 生活福祉・心理コースにあっては、社会福祉学と心理学を総合した視点に立って、社会や人間に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 <input type="checkbox"/> 3. 居住環境コースにあっては、住生活や環境という視点に立って、生活環境に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 <input type="checkbox"/> 4. 高い公共性と倫理性を備え、地域や社会に主体的、積極的に貢献していこうとする態度が身につけている。 <p>※■が該当項目</p>
------------	---

授業概要/授業目的	<p>三重県内の高等教育機関が参加する「高等教育コンソーシアムみえ」が実施する単位互換制度を利用し、本学以外の高等教育機関で履修した科目を最大2科目まで、本学の「単位互換科目」（共通科目）の単位として認定します。</p> <p>①個別の科目の内容・方法および到達目標は、当該科目を開設している高等教育機関が公表しているシラバスを参照してください。</p> <p>②単位互換の対象科目やその履修申告方法は、掲示または「高等教育コンソーシアムみえ」のホームページにある「単位互換に係るポスター」を参照してください。ただし、解放科目一覧に掲載されている科目のうち、「三重学（食と観光実践）」、「日本理解特殊講義（医療・健康・福祉実践）」、「現代社会理解実践</p>
-----------	---

	<p>(次世代産業実践)」及び本学の開設科目(自治体行政特論)については、本学のカリキュラム上、単位互換制度とは別枠での履修となります。</p> <p>③単位互換科目は、履修科目が開設されている高等教育機関において受講することになります。授業料は無料(一部体験型授業を除く)ですが、交通費や受講に伴い発生する諸費用は各自の負担となります。また、本学の履修の妨げにならないよう、開講時間等を事前によく確認してください。履修申告の時期や方法についても、高等教育機関によって異なるので、ご注意ください。</p>
授業計画	
到達目標	単位互換制度は、県内各高等教育機関が開設する特色ある授業科目を他の高等教育機関で学ぶ学生に解放することによって教育課程の充実、学生の幅広い視野の育成、学習意欲の向上を図ることを目的としています。
予習内容/復習内容	科目によって指示が異なるので、科目に応じて予習・復習を行ってください。
教科書	科目によって異なります。
成績評価	科目によって異なります。
実務経験	
その他特記事項	<p>①単位互換科目の履修を希望する学生は、学生部または学生部長までご相談ください。</p> <p>②「高等教育コンソーシアムみえ」のホームページをご参照ください。</p> <p>③単位互換制度で単位取得可能な科目数の上限は2科目です。ただし、「農林体験セミナー」、「食と観光実践」、「次世代産業実践」、「医療・健康・福祉実践」は単位互換制度とは別枠として扱います(単位互換制度の2科目とは別に履修可)。</p>

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期／後期	全学年	1・2	選択
担当教員			
古畑淳			
添付ファイル			

ディプロマ・ポリシー	<p>大学DP</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 創造性豊かな人間性と優れた専門性を身につけた学生 <input type="checkbox"/> 2. 実社会で活躍できる知的・人間的資質を身につけた学生 <input type="checkbox"/> 3. 地域社会を主体的に担う態度を身につけた学生 <input type="checkbox"/> 4. 国際社会に対する理解とコミュニケーション能力や情報社会に対応できる能力を身につけた学生 <p>法経科第1部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 法律・政治・経済・経営など社会科学の基幹分野に関する基本的な知識を修得し、最新の学問的到達についても一定の理解をもっている。 <input type="checkbox"/> 2. 現代社会の諸問題について、専門的知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 <input type="checkbox"/> 3. 修得した学識を職業生活上の実践的課題に適用することができる。 <input type="checkbox"/> 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 <input type="checkbox"/> 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>法経科第2部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 社会科学について広く基礎的な素養を身につけている。 <input type="checkbox"/> 2. 現代社会の諸問題について、学修した知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 <input type="checkbox"/> 3. 多様な目的意識を持つ幅広い年齢層の学生がともに学生生活を送ることを通じて、豊かな人間関係を構築できるコミュニケーション能力を身につけている。 <input type="checkbox"/> 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 <input type="checkbox"/> 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>食物栄養学科食物栄養学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 栄養士として必要な食に関する幅広い専門知識と技能を有している。 <input type="checkbox"/> 2. 食と健康に関する様々な課題に対して、科学的根拠に基づいた多面的・総合的な理解及び判断ができる。 <input type="checkbox"/> 3. 豊かな教養、高い倫理観、優れたコミュニケーション力を備え、栄養士として適切な栄養管理・指導を実践できる。 <input type="checkbox"/> 4. 習得した専門知識と技能を基に、地域社会と連携して食と健康の分野で主体的に活躍できる能力を備えている。 <p>生活科学科生活科学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 「いのち」と「くらし」に関わるニーズが多様化する社会にあって、それらについての基礎的な教養を身につけている。 <input type="checkbox"/> 2. 生活福祉・心理コースにあっては、社会福祉学と心理学を総合した視点に立って、社会や人間に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 <input type="checkbox"/> 3. 居住環境コースにあっては、住生活や環境という視点に立って、生活環境に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 <input type="checkbox"/> 4. 高い公共性と倫理性を備え、地域や社会に主体的、積極的に貢献していこうとする態度が身につけている。 <p>※■が該当項目</p>
------------	---

授業概要/授業目的	<p>三重県内の高等教育機関が参加する「高等教育コンソーシアムみえ」が実施する単位互換制度を利用し、本学以外の高等教育機関で履修した科目を最大2科目まで、本学の「単位互換科目」（共通科目）の単位として認定します。</p> <p>①個別の科目の内容・方法および到達目標は、当該科目を開設している高等教育機関が公表しているシラバスを参照してください。</p> <p>②単位互換の対象科目やその履修申告方法は、掲示または「高等教育コンソーシアムみえ」のホームページにある「単位互換に係るポスター」を参照してください。ただし、解放科目一覧に掲載されている科目のうち、「三重学（食と観光実践）」、「日本理解特殊講義（医療・健康・福祉実践）」、「現代社会理解実践</p>
-----------	---

	<p>(次世代産業実践)」及び本学の開設科目(自治体行政特論)については、本学のカリキュラム上、単位互換制度とは別枠での履修となります。</p> <p>③単位互換科目は、履修科目が開設されている高等教育機関において受講することになります。授業料は無料(一部体験型授業を除く)ですが、交通費や受講に伴い発生する諸費用は各自の負担となります。また、本学の履修の妨げにならないよう、開講時間等を事前によく確認してください。履修申告の時期や方法についても、高等教育機関によって異なるので、ご注意ください。</p>
授業計画	
到達目標	単位互換制度は、県内各高等教育機関が開設する特色ある授業科目を他の高等教育機関で学ぶ学生に解放することによって教育課程の充実、学生の幅広い視野の育成、学習意欲の向上を図ることを目的としています。
予習内容/復習内容	科目によって指示が異なるので、科目に応じて予習・復習を行ってください。
教科書	科目によって異なります。
成績評価	科目によって異なります。
実務経験	
その他特記事項	<p>①単位互換科目の履修を希望する学生は、学生部または学生部長までご相談ください。</p> <p>②「高等教育コンソーシアムみえ」のホームページをご参照ください。</p> <p>③単位互換制度で単位取得可能な科目数の上限は2科目です。ただし、「農林体験セミナー」、「食と観光実践」、「次世代産業実践」、「医療・健康・福祉実践」は単位互換制度とは別枠として扱います(単位互換制度の2科目とは別に履修可)。</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	全学年	2	選択
担当教員			
石原 洋介			
		実習・講義	
添付ファイル			

ディプロマ・ポリシー	<p>大学DP</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 創造性豊かな人間性と優れた専門性を身につけた学生 <input type="checkbox"/> 2. 実社会で活躍できる知的・人間的資質を身につけた学生 <input type="checkbox"/> 3. 地域社会を主体的に担う態度を身につけた学生 <input type="checkbox"/> 4. 国際社会に対する理解とコミュニケーション能力や情報社会に対応できる能力を身につけた学生 <p>法経科第1部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 法律・政治・経済・経営など社会科学の基幹分野に関する基本的な知識を修得し、最新の学問的到達についても一定の理解をもっている。 <input type="checkbox"/> 2. 現代社会の諸問題について、専門的知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 <input type="checkbox"/> 3. 修得した学識を職業生活上の実践的課題に適用することができる。 <input type="checkbox"/> 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 <input type="checkbox"/> 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>法経科第2部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 社会科学について広く基礎的な素養を身につけている。 <input type="checkbox"/> 2. 現代社会の諸問題について、学修した知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 <input type="checkbox"/> 3. 多様な目的意識を持つ幅広い年齢層の学生がともに学生生活を送ることを通じて、豊かな人間関係を構築できるコミュニケーション能力を身につけている。 <input type="checkbox"/> 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 <input type="checkbox"/> 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>食物栄養学科食物栄養学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 栄養士として必要な食に関する幅広い専門知識と技能を有している。 <input type="checkbox"/> 2. 食と健康に関する様々な課題に対して、科学的根拠に基づいた多面的・総合的な理解及び判断ができる。 <input type="checkbox"/> 3. 豊かな教養、高い倫理観、優れたコミュニケーション力を備え、栄養士として適切な栄養管理・指導を実践できる。 <input type="checkbox"/> 4. 習得した専門知識と技能を基に、地域社会と連携して食と健康の分野で主体的に活躍できる能力を備えている。 <p>生活科学科生活科学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 「いのち」と「くらし」に関わるニーズが多様化する社会にあって、それらについての基礎的な教養を身につけている。 <input type="checkbox"/> 2. 生活福祉・心理コースにあっては、社会福祉学と心理学を総合した視点に立って、社会や人間に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 <input type="checkbox"/> 3. 居住環境コースにあっては、住生活や環境という視点に立って、生活環境に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 <input type="checkbox"/> 4. 高い公共性と倫理性を備え、地域や社会に主体的、積極的に貢献していこうとする態度が身につけている。 <p>※■が該当項目</p>
------------	---

授業概要/授業目的	<p>①農場コース（土は生きています）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・土は、自然環境の構成要素としての側面と食糧生産の基盤としての側面を併せ持つ。水田、畑地、果樹園、茶園、畜産ならびに農産物加工などの学習を通して、作物生産において土が示す両側面の相互関係について理解するとともに、両側面の持続的発展の方向を探る。また、地域の特産物を講義対象とすることで、三重の地域農業・社会との関わりに気付き、地産地消の精神を学ぶ。 <p>②演習林コース（森は生きています）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・源流域の森林環境の成り立ちや仕組みを理解し、流域環境保全における森林の重要性について現場教育を通して体験的に学習するため、三重大学で最大面積を占める平倉演習林（津市美杉町）において3日間の実地演習・講義を実施する。林業の実際と林産加工の実践について学ぶ。 ・森林で安全に行動するための基本を学び、また、演習林の役割や自然状態が維持されている現場で山地・森
-----------	---

	<p>林・溪流の意義を理解する。また、林業の実際と林産加工の実践を学ぶ。特に近年の学生に不足しがちなホンモノの自然環境のなかでの実体験に裏打ちされた、感性、知的好奇心、行動力、課題発見力、問題解決力を培い、将来、社会行政、自然環境、教育研究、医療福祉、地域づくりなどに関わるための基礎知識と感性を身につける。</p> <p>・土と食糧生産の関係について三重の地域特産物を素材にし入門的かつ包括的知識を獲得する。</p>
授業計画	<p>第1-15回 農場コース（土は生きている）</p> <p>開講期間（予定）：2025/8/27（水）-29（金）の2泊3日 開講場所：附属農場</p> <p>第1回 授業の概要説明 第2回 三重の特産農産物の概要 第3回 ダイズの栽培管理 第4回 世界と日本の食料事情 第5回 イネの収穫 第6回 肉牛（松阪牛）の肥育管理 第7回 豆腐作り 第8回 食の安全・安心と社会 第9回 茶（伊勢茶）の加工Ⅰ（茶の栽培、歴史、加工の原理など） 第10回 茶（伊勢茶）の加工Ⅱ（茶の加工の実践） 第11回 ウンシュウミカン（南紀ミカン）の栽培管理Ⅰ（一年を通したウンシュウミカンの栽培管理の概要） 第12回 ウンシュウミカン（南紀ミカン）の栽培管理Ⅱ（摘果、水管理など栽培管理の実践） 第13回 うどん作りⅠ（うどん作りの歴史、加工の原理など） 第14回 うどん作りⅡ（うどん作りの実践） 第15回 授業の総括</p> <p>第1-15回 演習林コース（森は生きている）</p> <p>夏期休暇中に3日間で実施（例年9月中）、日程は別途アナウンス。</p> <p>1回目～5回目（1日目）： 演習林の概要、宿舎利用に関する注意事項の説明 森林の多面的機能についての林内学習 天然生林・二次林の林分構造と植生観察 紀伊半島暖帯に位置する演習林の特徴的な樹木を覚える 人工林施業の解説、溪流沿いの土砂災害見学</p> <p>6回目～10回目（2日目）： 日本の森林・林業の課題解説 身近な木製品とトレーサビリティについて調べる 林業体験：人工林内での間伐・伐倒から玉伐り 林産加工：コースター加工、丸太ベンチ製作</p> <p>11回目～15回目（3日目） 環境学習：涼しい森林溪流環境での散策学習とふりかえり レポート作成 ディスカッション、最終レポート作成。 帰路：木材市場などを經由し帰学</p> <p>※山歩きができる服装・靴で参加して下さい。また、天候の急変に備え雨具・防寒も十分に考慮して下さい。 警報発令時は大学の基準により対応します。</p>
到達目標	<p>①農場コース（土は生きている） ・土と食糧生産の関係、三重の地域特産物の歴史と現在、食糧を取り巻く世界ならびに国内情勢、食の安全・安心などに関する認識を高めることで、農や食を正しく理解する。</p> <p>②演習林コース（森は生きている） ・平倉演習林で3日間の学習をとおして、1）森林環境と森林資源が広く人間生活を支えていることを知る。2）地球上の自然環境は有限だが維持再生可能な部分もある。自然災害や環境荒廃を避け持続可能な範囲で利用することを学ぶ。3）森林で安全に行動するための基本を学ぶ。4）演習林の役割や自然状態が維持されている現場での教育・研究の重要性を理解する。</p>
予習内容/復習内容	<p>①農場コース（土は生きている） 予習：moodleに授業で使用する資料（テキスト、記事、動画、外部URLなど）を予め載せておくので、予習をしておく。 復習：授業項目で課される課題について、授業内容を基に授業で使った資料に加え、関連事象を自分で調査するなど復習をしておく。</p> <p>②演習林コース（森は生きている） 予習：森林・林業林産業・環境保全に関する話題や時事問題について調べておく。具体的なテーマ・キーワードを事前に示すので、課題に沿った予習を行い各自プレゼンテーションができる準備をしておく。 復習：授業項目で示される課題について、講義・実習の学習内容をふまえて最終レポートにまとめること。 ※映画「WOODJOB!」のロケ地となった当演習林と周辺地域が学習対象です。以下を見ておくことをお勧めします。 1）三浦しをん著「神去なあなあ日常」 2）映画「WOODJOB!」のDVDまたはBD ※1,000 m級の峰々に囲まれ、天の川や流れ星などのスターウォッチングに適しています。夏の星座について予習し、比較のため都市域の夜空を見ておくこと（宿泊可能な状況のみ）。</p>
教科書	<p>①農場コース（土は生きている） なし。</p> <p>②演習林コース（森は生きている） 必要に応じ資料等を配布する。</p>
成績評価	<p>①農場コース（土は生きている） ・レポートならびに授業態度を総合判断する。</p>

	②演習林コース（森は生きている） 演習への取り組み態度(50%)、レポート(50%)。
実務経験	①農場コース（土は生きている） なし ②演習林コース（森は生きている） 渕上佑樹：京都府地球温暖化防止活動推進センター（特定非営利活動法人京都地球温暖化防止府民会議）で2004年から2015年まで勤務。京都府内の温暖化防止に向けた取り組みをサポートする組織で、森林の多面的機能のうち地球環境保全機能に関連する活動を行っていました。具体的には、木材の地産地消を促進するための産地認証制度の制度設計業務、制度運営に関するコンサルティング業務、普及啓発業務などです。
その他特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・この授業科目は、三重大大学の夏季集中授業に本学の学生も参加し、生物資源学部の農場や演習林での講義・実習・体験学習を行うものです。本講義は、①農場コースと、②演習林コースの2コースがありますが、両コースを同時受講はできません。 ・演習林コースの日程は、三重大学から発表があり次第掲載します。 ・天候等の状況により日程が変更になる可能性があるため、ご注意ください。 ・希望者多数の場合は選考により受講生を決定します。 ・受講生を対象とした事前ガイダンスがあります（日程後日通知）。必ず参加してください。 ・受講要件 学生教育研究賠償責任保険に加入すること。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2	選択
担当教員			
石原 洋介			
		実習	
添付ファイル			

ディプロマ・ポリシー	<p>大学DP</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 創造性豊かな人間性と優れた専門性を身につけた学生 <input type="checkbox"/> 2. 実社会で活躍できる知的・人間的資質を身につけた学生 <input type="checkbox"/> 3. 地域社会を主体的に担う態度を身につけた学生 <input type="checkbox"/> 4. 国際社会に対する理解とコミュニケーション能力や情報社会に対応できる能力を身につけた学生 <p>法経科第1部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 法律・政治・経済・経営など社会科学の基幹分野に関する基本的な知識を修得し、最新の学問的到達についても一定の理解をもっている。 <input type="checkbox"/> 2. 現代社会の諸問題について、専門的知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 <input type="checkbox"/> 3. 修得した学識を職業生活上の実践的課題に適用することができる。 <input type="checkbox"/> 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 <input type="checkbox"/> 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>法経科第2部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 社会科学について広く基礎的な素養を身につけている。 <input type="checkbox"/> 2. 現代社会の諸問題について、学修した知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 <input type="checkbox"/> 3. 多様な目的意識を持つ幅広い年齢層の学生がともに学生生活を送ることを通じて、豊かな人間関係を構築できるコミュニケーション能力を身につけている。 <input type="checkbox"/> 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 <input type="checkbox"/> 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>食物栄養学科食物栄養学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 栄養士として必要な食に関する幅広い専門知識と技能を有している。 <input type="checkbox"/> 2. 食と健康に関する様々な課題に対して、科学的根拠に基づいた多面的・総合的な理解及び判断ができる。 <input type="checkbox"/> 3. 豊かな教養、高い倫理観、優れたコミュニケーション力を備え、栄養士として適切な栄養管理・指導を実践できる。 <input type="checkbox"/> 4. 習得した専門知識と技能を基に、地域社会と連携して食と健康の分野で主体的に活躍できる能力を備えている。 <p>生活科学科生活科学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 「いのち」と「くらし」に関わるニーズが多様化する社会にあって、それらについての基礎的な教養を身につけている。 <input type="checkbox"/> 2. 生活福祉・心理コースにあっては、社会福祉学と心理学を総合した視点に立って、社会や人間に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 <input type="checkbox"/> 3. 居住環境コースにあっては、住生活や環境という視点に立って、生活環境に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 <input type="checkbox"/> 4. 高い公共性と倫理性を備え、地域や社会に主体的、積極的に貢献していこうとする態度が身につけている。 <p>※■が該当項目</p>
------------	---

授業概要/授業目的	本実習では、一連の伊勢志摩定住自立圏共生学Ⅰ～Ⅳでの講義を踏まえ、地域における多様な課題解決へ向けた活動を現場で体験的に理解することを目的とした実習科目である。履修登録後、複数の中から参加プログラムを選択する。
授業計画	<p>第1回 説明会 予習：説明会の日程を掲示板などで確認する（約15分） 復習：事前説明の小括（約15分）</p> <p>第2回 各実習地（または学内）でのガイダンスに参加する 予習：集合時間、注意事項などを予め確認する（約15分） 復習：ガイダンス内容の小括（約15分）</p>

第3回	各実習地において地域課題の背景を体験的に学修する 予習：事前に地域課題の背景を確認する（約15分） 復習：各実習地の地域課題の背景の小括（約15分）
第4回	各実習地において地域課題の現状を体験的に学修する 予習：事前に地域課題の現状を確認する（約15分） 復習：実習地の地域課題の現状の小括（約15分）
第5回	各実習地において地域課題解決策や地域に関する業務・調査などについて体験的に学修を行う（生活機能の強化等） 予習：事前に指示された実習内容、行動予定を確認する（生活機能の強化等、約15分） 復習：各実習内容の小括（生活機能の強化等、約15分）
第6回	各実習地において地域課題解決策や地域に関する業務・調査などについて体験的に学修を行う（商工業の振興等） 予習：事前に指示された実習内容、行動予定を確認する（商工業の振興等、約15分） 復習：各実習内容の小括（商工業の振興等、約15分）
第7回	各実習地において地域課題解決策や地域に関する業務・調査などについて体験的に学修を行う（観光の振興等） 予習：事前に指示された実習内容、行動予定を確認する（観光の振興等、約15分） 復習：各実習内容の小括（観光の振興等、約15分）
第8回	各実習地において地域課題解決策や地域に関する業務・調査などについて体験的に学修を行う（農林漁業の振興等） 予習：事前に指示された実習内容、行動予定を確認する（農林漁業の振興等、約15分） 復習：各実習内容の小括（農林漁業の振興等、約15分）
第9回	各実習地において地域課題解決策や地域に関する業務・調査などについて体験的に学修を行う（地産地消の推進及び地場製品のPR等） 予習：事前に指示された実習内容、行動予定を確認する（地産地消の推進及び地場製品のPR等、約15分） 復習：各実習内容の小括（地産地消の推進及び地場製品のPR等、約15分）
第10回	各実習地において地域課題解決策や地域に関する業務・調査などについて体験的に学修を行う（地域情報の共有化及び発信等） 予習：事前に指示された実習内容、行動予定を確認する（地域情報の共有化及び発信等、約15分） 復習：各実習内容の小括（地域情報の共有化及び発信等、約15分）
第11回	各実習地において地域課題解決策や地域に関する業務・調査などについて体験的に学修を行う（圏域内人材の育成等） 予習：事前に指示された実習内容、行動予定を確認する（圏域内人材の育成等、約15分） 復習：各実習内容の小括（圏域内人材の育成等、約15分）
第12回	各実習地における実習内容を受け入れ機関や地域などにフィードバックするための準備を行う（発表資料など） 予習：事前に指示された実習内容のフィードバック方法の準備（発表資料など、15分） 復習：各実習内容のフィードバックの準備の小括（発表資料等、約15分）
第13回	各実習地における実習内容を受け入れ機関や地域などにフィードバックするための準備を行う（口頭発表内容等） 予習：事前に指示された実習内容のフィードバック方法の準備（口頭発表内容等、15分） 復習：各実習内容のフィードバックの準備の小括（口頭発表内容等、約15分）
第14回	各実習地においてこれまでの内容を受け入れ機関や地域などにフィードバックする 予習：実習内容のフィードバック内容の最終確認（15分） 復習：各実習地において体験した地域課題解決・方法小括（15分）
第15回	各実習地における実習内容全体のまとめ 予習：本実習における実習内容の振り返りのための資料の整理（15分） 復習：本実習の総括的まとめ（15分）
到達目標	①コミュニケーション能力（提案する取組の内容、合理性、効果、実行可能性を他者に伝達できる／他者と協働して活動に取り組み、その内容について建設的なディスカッションができる）。 ②実行力・解決力取組のプロセスを実行できる能力（取組を自発的・継続的に実行できる）。
予習内容/復習内容	各実習において予習・復習の指定あり。詳しくは授業計画を参照すること。
教科書	なし
成績評価	実習作業への取り組み80%、レポート20%で評価する。
実務経験	
その他特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・この講義科目は、コンソーシアムみえに参加する三重県内の高等教育機関の単位互換科目である。皇學館大学が実施する実習に他大学生と共に参加する。 ・授業計画は現時点での学習内容であり、実際の授業実施に際しては受け入れ先との調整の上、変更の可能性もある。 ・履修希望者多数の場合は、選考により履修者を決定する。 ・学外での実習科目であり、また宿泊を伴うことがあるので自律的な生活態度及び積極的な姿勢で取り組んでほしい。 ・事前事後課題や課題の講評については、manaba（学修支援ツール）を利用する。実習の進捗に伴い、適宜フィードバックをおこなう。 ・学生教育研究賠償責任保険には必ず加入すること。その他交通費などの自己負担が発生する可能性がある。

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	1年	2	選択
担当教員			
石原 洋介			
		実習・講義	
添付ファイル			

ディプロマ・ポリシー	<p>大学DP</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 創造性豊かな人間性と優れた専門性を身につけた学生 <input type="checkbox"/> 2. 実社会で活躍できる知的・人間的資質を身につけた学生 <input type="checkbox"/> 3. 地域社会を主体的に担う態度を身につけた学生 <input type="checkbox"/> 4. 国際社会に対する理解とコミュニケーション能力や情報社会に対応できる能力を身につけた学生 <p>法経科第1部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 法律・政治・経済・経営など社会科学の基幹分野に関する基本的な知識を修得し、最新の学問的到達についても一定の理解をもっている。 <input type="checkbox"/> 2. 現代社会の諸問題について、専門的知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 <input type="checkbox"/> 3. 修得した学識を職業生活上の実践的課題に適用することができる。 <input type="checkbox"/> 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 <input type="checkbox"/> 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>法経科第2部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 社会科学について広く基礎的な素養を身につけている。 <input type="checkbox"/> 2. 現代社会の諸問題について、学修した知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 <input type="checkbox"/> 3. 多様な目的意識を持つ幅広い年齢層の学生がともに学生生活を送ることを通じて、豊かな人間関係を構築できるコミュニケーション能力を身につけている。 <input type="checkbox"/> 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 <input type="checkbox"/> 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>食物栄養学科食物栄養学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 栄養士として必要な食に関する幅広い専門知識と技能を有している。 <input type="checkbox"/> 2. 食と健康に関する様々な課題に対して、科学的根拠に基づいた多面的・総合的な理解及び判断ができる。 <input type="checkbox"/> 3. 豊かな教養、高い倫理観、優れたコミュニケーション力を備え、栄養士として適切な栄養管理・指導を実践できる。 <input type="checkbox"/> 4. 習得した専門知識と技能を基に、地域社会と連携して食と健康の分野で主体的に活躍できる能力を備えている。 <p>生活科学科生活科学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 「いのち」と「くらし」に関わるニーズが多様化する社会にあって、それらについての基礎的な教養を身につけている。 <input type="checkbox"/> 2. 生活福祉・心理コースにあっては、社会福祉学と心理学を総合した視点に立って、社会や人間に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 <input type="checkbox"/> 3. 居住環境コースにあっては、住生活や環境という視点に立って、生活環境に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 <input type="checkbox"/> 4. 高い公共性と倫理性を備え、地域や社会に主体的、積極的に貢献していこうとする態度が身につけている。 <p>※■が該当項目</p>
------------	---

授業概要/授業目的	<p>・近年、社会のデジタル化が著しく発展しており、社会変革の転換点となっている。様々なデジタルツールが、個人でかつ無料で提供され、時間や労力のかかっていた知的生産物は苦勞することなく瞬時に生み出せるようになってきた。AIを用いたデジタルツールは多様化が進み、熟練した技術や知識が無くともクリエイティブな仕事ができるようになる。しかしながら、一方ではこのデジタル化の変化に適応できなければ、社会で必要とされる能力を獲得できない可能性が高い。そのような変革期において、最先端のデジタル技術に触れ、それらを実践的に利用することで、今後ますます加速する情報化社会の変貌に対し、次世代を担う三重創生ファンタジスタとして備えるべき発想力と実践力を学ぶ。</p> <p>・次世代の技術が一般化した社会構造に適応する人材を育てるため、最先端のデジタルツールを実践的に駆使し、課題の解決に導ける人材を育成する。三重大学が所有するコモンスペースであるCeMDSには、ものづくりから動画制作、メタバースなどが体験できるハードとソフトが設置されている。これらのツールに触れること</p>
-----------	--

	で、未来の産業の可能性を考え、変化に柔軟に対応できる能力を身につけるカリキュラムを用意する。そのうえでデジタル技術に関する一連の情報技術革新の産業や個人の生活スタイルへの影響を説明し、それぞれに解決策を提示することができる事を目標とする。
授業計画	<p>第1-15回 次世代産業実践</p> <p>★本講義はデータサイエンス館 (CeMDS) で行う4日間の集中講義です★ ※日程は2月13日、16日、17日、18日の4日間で行います。</p> <p>●Day1 #生成AI #ドローン</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オリエンテーション ・CeMDSの案内と説明 三重大学 若林氏 ・デジタル技術の発展と、デジタルがもたらす産業の変革 三重大学 三橋先生 ・生成AIの活用 ・ドローンにおける操縦技術とプログラミング飛行について <p>●Day2 #VR #AR #VRゴーグル #メタバース</p> <ul style="list-style-type: none"> ・VR技術を用いた歴史建造物の復元と学術的意義 三重大学 鈴木先生 ・現実社会とデジタル社会の境界線をなくすVR・AR技術 ・オリジナルアバターの制作 ・360° カメラを駆使した学内ツアー映像の作成 <p>●Day3 #3Dプリンター #3DCAD #動画編集</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3Dプリンターを用いたモノづくりと立体造形物の試作 ・作成した3Dモデルの出力 ・adobe製品のソフトウェアについて ・動画編集の概論 <p>●本講義 Day4</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出力された3Dデータの確認と改善 ・動画編集 ・完成した動画の発表と質疑応答
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・現在、利用可能なデジタルツールについて知り、それらを扱えるスキルを身につけることで、地域や組織へのアプローチを考えソリューションを導き実行できる力を獲得する。過去の産業構造から、現在、未来へ進化する産業・社会を見通し、常に時代の流れを読むと同時に、膨大な労力や時間を要する課題に対し、これらのツールとスキルを用いて、少ない人材で解決する可能性を提示する人材となる。本科目では三重県の地域として特徴的な魅力及び課題を洗い出し、これらのツールを使用して解決策を提案・もしくはプロモーションを新たなプレゼンテーション形式として実践的に行う。
予習内容/復習内容	本講義までに、デジタル技術を利用した技術革新 (XR) について800字以内でレポート作成し提出する。
教科書	なし
成績評価	授業への積極的な参加40%、成果発表30%、レポート30%
実務経験	
その他特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・この講義科目は、コンソーシアムみえに参加する三重県内の高等教育機関の単位互換科目である。三重大学が実施する実習に他大学生と共に参加する。 ・履修希望者多数の場合は、選考により履修者を決定する。 ・欠席、遅刻、履修の取りやめ等の場合、速やかに連絡してください。

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	全学年	2	選択
担当教員			
石原 洋介			
		実習・講義	
添付ファイル			

ディプロマ・ポリシー	<p>大学DP</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 創造性豊かな人間性と優れた専門性を身につけた学生 <input type="checkbox"/> 2. 実社会で活躍できる知的・人間的資質を身につけた学生 <input type="checkbox"/> 3. 地域社会を主体的に担う態度を身につけた学生 <input type="checkbox"/> 4. 国際社会に対する理解とコミュニケーション能力や情報社会に対応できる能力を身につけた学生 <p>法経科第1部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 法律・政治・経済・経営など社会科学の基幹分野に関する基本的な知識を修得し、最新の学問的到達についても一定の理解をもっている。 <input type="checkbox"/> 2. 現代社会の諸問題について、専門的知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 <input type="checkbox"/> 3. 修得した学識を職業生活上の実践的課題に適用することができる。 <input type="checkbox"/> 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 <input type="checkbox"/> 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>法経科第2部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 社会科学について広く基礎的な素養を身につけている。 <input type="checkbox"/> 2. 現代社会の諸問題について、学修した知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 <input type="checkbox"/> 3. 多様な目的意識を持つ幅広い年齢層の学生がともに学生生活を送ることを通じて、豊かな人間関係を構築できるコミュニケーション能力を身につけている。 <input type="checkbox"/> 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 <input type="checkbox"/> 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>食物栄養学科食物栄養学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 栄養士として必要な食に関する幅広い専門知識と技能を有している。 <input type="checkbox"/> 2. 食と健康に関する様々な課題に対して、科学的根拠に基づいた多面的・総合的な理解及び判断ができる。 <input type="checkbox"/> 3. 豊かな教養、高い倫理観、優れたコミュニケーション力を備え、栄養士として適切な栄養管理・指導を実践できる。 <input type="checkbox"/> 4. 習得した専門知識と技能を基に、地域社会と連携して食と健康の分野で主体的に活躍できる能力を備えている。 <p>生活科学科生活科学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 「いのち」と「くらし」に関わるニーズが多様化する社会にあって、それらについての基礎的な教養を身につけている。 <input type="checkbox"/> 2. 生活福祉・心理コースにあっては、社会福祉学と心理学を総合した視点に立って、社会や人間に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 <input type="checkbox"/> 3. 居住環境コースにあっては、住生活や環境という視点に立って、生活環境に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 <input type="checkbox"/> 4. 高い公共性と倫理性を備え、地域や社会に主体的、積極的に貢献していこうとする態度が身につけている。 <p>※■が該当項目</p>
------------	---

授業概要/授業目的	<p>・当授業は三重県の重点課題である医療・健康・福祉に関して、WHO（世界保健機関）も3度に渡って視察に訪れた名張市をフィールドとし、現場で学ぶPBL型授業である。名張市は市街地と中山間地域に分かれる地理的特徴をもちながら、そこに存在する15の地域がそれぞれ地域づくりや生活支援、サロン事業などを行っており、医療に関わる人だけでなく、住民全体で市民の医療・健康・福祉を支える仕組みを構築している。このような地域共生型社会で取組を続ける地域住民の健康やQOLについて、そのコミュニティに参加することで、医療・健康・福祉に関わる地域内のステークホルダーの取組、及びそれら各領域の横断的取組について理解を深める。医療のみならず、地域事業としての福祉、健康を目的とした各種取組を知ることで、自治体や地域団体の役割を考察し提案していく機会を設ける。</p> <p>・高齢化社会において医療費・社会保障費の増大は国家財政や自治体業務の大きな割合を占める。健康長寿を目指す取り組みは、健康食や身体づくりを交えたヘルスツーリズムのような観光と結び付いた地域資源の発掘</p>
-----------	--

	<p>や、QOL (Quality of Life) やADL (Activities of Daily Living) の向上を目指した地域づくりなど、各自治体や団体、医療機関などで応用的に実施され、名張市においては、それらの事例は多岐に渡り多様性に富んでいる。本科目においては医療分野に限定せず、地域共生社会を目指す地域内での各種取組みが活発な名張市の事例を実際に見学又は自らが参加し、専門外からの視点においても分野横断的に研究・実践できる視野を修得するものである。学生間のみならず、現場でのステークホルダーの方、地域の関係者らともグループワークを実施することで、チームで実践するためのコミュニケーション能力の向上も図る。地域課題を主体的に考え、グループワークにおいて専門性の異なる他者と議論し、地域の社会人に対してプレゼンテーションするという一連のカリキュラムによって、地域イノベーションを実践する人材育成を目指す。</p>
授業計画	<p>第1-15回 医療・健康・福祉実践</p> <p>★本講義は学外でのフィールドワークを主とした4日間の集中講義です★ ※日程は8月26日～29日の4日間で行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●現地学習 Day1 # 地域医療と包括ケア <ul style="list-style-type: none"> ・ガイダンスと名張市の現状 まちの保健室について 名張市 柴垣様 ・三重県の医療・健康・福祉についての概論 鈴鹿医療科学大学 川尻先生 ・名張市立図書館が実施する予防医療の取組について 名張市立図書館 山口氏 ・名張市の民間診療所の見学 はしもと総合診療クリニック ●現地学習 Day2 # 地域内コミュニティによる予防医療への取組 <ul style="list-style-type: none"> ・各地域に存在する任意団体の予防医療に関する取組の見学 ・医療・健康・福祉に関わるステークホルダーの方たちとの交流 ・フィールドワーク ・フィールドワークのデータ整理 ●現地学習 Day3 # 民間で興すの健康ケアコミュニティについて <ul style="list-style-type: none"> ・地域をつなぐ、心の健康とケアができる場所づくり 一般社団法人つなぐ 北森氏 ・名張市旧市街地の地理的特性を知るフィールドワーク ・フィールドで得たデータの整理 ●まとめ学習 Day4 グループワーク及び最終発表 <ul style="list-style-type: none"> ・まとめたデータからプレゼン資料を作成、および感想のフィードバック ・発表と質疑応答 <p>《注意》：現時点での学習内容となり、実際の授業実施に際しては変更の可能性もある ：学外での授業となるため、欠席、遅刻、履修の取りやめなどの場合は速やかに連絡すること。</p>
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・三重県における社会的事象（僻地医療、地域包括ケア等）を深く理解し、関連する諸分野の知識を統合し、理想的な地域の有り様を探究する。本科目では、3～4人のグループワーク及びフィールドワークを通して得た情報から地域課題（「医療・健康・福祉」）を発見し、それについてのデータの統合・深い分析・考察を加え、得られた成果を効果的に表現する事で、自らの考えを社会に還元することができる。 ・受講生一人一人が個々が可能な社会貢献を考え実践する主体性を獲得し、異なる立場の間に立って円滑にコミュニケーションが取れる力を身につける。
予習内容/復習内容	事後レポート及び、最終課題の提出
教科書	なし
成績評価	授業への積極的な参加40%、成果発表30%、レポート30%
実務経験	
その他特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・この講義科目は、コンソーシアムみえに参加する三重県内の高等教育機関の単位互換科目である。三重大学が実施する実習に他大学生と共に参加する。 ・授業計画は現時点での学習内容であり、実際の授業実施に際しては受け入れ先との調整の上、変更の可能性もある。 ・履修希望者多数の場合は、選考により履修者を決定する。 ・全日程、名張市でのフィールドワークとなり、名張市までの交通費は自己負担となる。 ・学生教育研究賠償責任保険には必ず加入すること。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	全学年	2	選択
担当教員			
田中 武士			
		講義	
添付ファイル			

ディプロマ・ポリシー	<p>大学DP</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 1. 創造性豊かな人間性と優れた専門性を身につけた学生 □ 2. 実社会で活躍できる知的・人間的資質を身につけた学生 □ 3. 地域社会を主体的に担う態度を身につけた学生 □ 4. 国際社会に対する理解とコミュニケーション能力や情報社会に対応できる能力を身につけた学生 <p>法経科第1部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 1. 法律・政治・経済・経営など社会科学の基幹分野に関する基本的な知識を修得し、最新の学問的到達についても一定の理解をもっている。 ■ 2. 現代社会の諸問題について、専門的知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 □ 3. 修得した学識を職業生活上の実践的課題に適用することができる。 □ 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 ■ 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>法経科第2部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 社会科学について広く基礎的な素養を身につけている。 □ 2. 現代社会の諸問題について、学修した知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 □ 3. 多様な目的意識を持つ幅広い年齢層の学生がともに学生生活を送ることを通じて、豊かな人間関係を構築できるコミュニケーション能力を身につけている。 □ 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 □ 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>食物栄養学科食物栄養学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 栄養士として必要な食に関する幅広い専門知識と技能を有している。 □ 2. 食と健康に関する様々な課題に対して、科学的根拠に基づいた多面的・総合的な理解及び判断ができる。 □ 3. 豊かな教養、高い倫理観、優れたコミュニケーション力を備え、栄養士として適切な栄養管理・指導を実践できる。 □ 4. 習得した専門知識と技能を基に、地域社会と連携して食と健康の分野で主体的に活躍できる能力を備えている。 <p>生活科学科生活科学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 「いのち」と「暮らし」に関わるニーズが多様化する社会にあって、それらについての基礎的な教養を身につけている。 □ 2. 生活福祉・心理コースにあっては、社会福祉学と心理学を総合した視点に立って、社会や人間に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 □ 3. 居住環境コースにあっては、住生活や環境という視点に立って、生活環境に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 □ 4. 高い公共性と倫理性を備え、地域や社会に主体的、積極的に貢献していこうとする態度が身につけている。 <p>※■が該当項目</p>
------------	---

授業概要/授業目的	現代社会における生活問題は複雑化、多様化しています。このような生活問題について、様々な文献や新聞記事、映像等から現代社会に生きる人々の姿を丁寧にとらえていきます。生活上の様々な困難を強いられる人々への眼差しと想像力、共感の姿勢を重視します。日本国憲法25条（生存権）の「健康で文化的な生活」とは何かについて深く考える力と共に、それを論理的に自分の言葉で語ることのできる力の獲得を目的とします。
授業計画	<p>1 オリエンテーション（授業内容の予定と評価の方法）</p> <p>2 路上生活者から学ぶ</p>

	3	現代社会における市民の生活実態
	4	社会福祉と子どもの権利
	5	社会福祉と障がいのある人の権利
	6	社会福祉と高齢者の権利
	7	精神保健福祉とは何か
	8	精神保健福祉における現状と課題
	9	現代社会における貧困問題（貧困概念について）
	10	貧困と差別（水俣病問題から学ぶ）
	11	貧困と差別（ハンセン病問題から学ぶ）
	12	ソーシャルワークとは何か
	13	ソーシャルワークを問い直す
	14	社会福祉における倫理
	15	まとめ（これからの社会福祉を考える）
到達目標	①現代における社会福祉をめぐる諸問題および社会的背景について関心をもてる。 ②社会保障、社会福祉の制度や政策を検討し、それらに対する自らの意見をもつことができる。 ③憲法25条の理念を元に人間らしい生活のあり方について、論理的に考えることができる。	
予習内容/復習内容	予習：授業計画を参考に日頃から新聞記事や文献などに目を通し、分からない用語については事前に調べておくこと。 復習：授業で配布した資料等をよく見返し、自身の関心分野を深めるよう努めること。	
教科書	指定のテキストは使用せず、適宜レジュメや資料を配布する。	
成績評価	・毎授業後の小レポート：40%、定期試験：60%で総合的に評価する。 ・授業回数の3分の1を超える欠席をした場合、成績評価を受ける資格を失う。	
実務経験	医療機関や在宅介護支援センター等におけるソーシャルワーカー（社会福祉士、精神保健福祉士、介護支援専門員）としての実務経験に基づき授業を行う。	
その他特記事項	授業は受講者と意見交換をしながら進めるため、主体的な態度での参加を求めます。	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	全学年	4	選択
担当教員			
鎌塚有貴			
	講義		
添付ファイル			

ディプロマ・ポリシー	<p>大学DP</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 1. 創造性豊かな人間性と優れた専門性を身につけた学生 □ 2. 実社会で活躍できる知的・人間的資質を身につけた学生 □ 3. 地域社会を主体的に担う態度を身につけた学生 □ 4. 国際社会に対する理解とコミュニケーション能力や情報社会に対応できる能力を身につけた学生 <p>法経科第1部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 1. 法律・政治・経済・経営など社会科学の基幹分野に関する基本的な知識を修得し、最新の学問的到達についても一定の理解をもっている。 ■ 2. 現代社会の諸問題について、専門的知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 □ 3. 修得した学識を職業生活上の実践的課題に適用することができる。 □ 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 ■ 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>法経科第2部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 社会科学について広く基礎的な素養を身につけている。 □ 2. 現代社会の諸問題について、学修した知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 □ 3. 多様な目的意識を持つ幅広い年齢層の学生がともに学生生活を送ることを通じて、豊かな人間関係を構築できるコミュニケーション能力を身につけている。 □ 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 □ 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>食物栄養学科食物栄養学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 栄養士として必要な食に関する幅広い専門知識と技能を有している。 □ 2. 食と健康に関する様々な課題に対して、科学的根拠に基づいた多面的・総合的な理解及び判断ができる。 □ 3. 豊かな教養、高い倫理観、優れたコミュニケーション力を備え、栄養士として適切な栄養管理・指導を実践できる。 □ 4. 習得した専門知識と技能を基に、地域社会と連携して食と健康の分野で主体的に活躍できる能力を備えている。 <p>生活科学科生活科学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 「いのち」と「暮らし」に関わるニーズが多様化する社会にあって、それらについての基礎的な教養を身につけている。 □ 2. 生活福祉・心理コースにあっては、社会福祉学と心理学を総合した視点に立って、社会や人間に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 □ 3. 居住環境コースにあっては、住生活や環境という視点に立って、生活環境に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 □ 4. 高い公共性と倫理性を備え、地域や社会に主体的、積極的に貢献していこうとする態度が身につけている。 <p>※■が該当項目</p>
------------	---

授業概要/授業目的	本講義では、憲法における人権分野を扱う。日本国憲法および諸外国の憲法を参照しながら、憲法とはなにか、人権とはどういうものなのかを考える。また、憲法上の問題を身近に感じられるようにするため、判例や時事問題を紹介する。憲法を学ぶことに加えて、法体系全体を意識できるようになることを目指す。
授業計画	<p>1 ガイダンス：授業評価、進行について</p> <p>2 国家とは</p>

	3	明治憲法と日本国憲法
	4	人権享有主体
	5	幸福追求権
	6	新しい人権・自己決定権
	7	プライバシーの権利
	8	私人間効力：学説
	9	私人間効力：判例
	10	法の下での平等：学説
	11	法の下での平等：判例
	12	法の下での平等：アファーマティブアクション
	13	思想良心の自由
	14	信教の自由：学説
	15	信教の自由：判例
	16	表現の自由：概説
	17	集会の自由
	18	結社の自由
	19	低価値表現
	20	報道の自由
	21	人身の自由、適正手続
	22	被疑者・被告人の権利
	23	再審・死刑制度
	24	学問の自由、大学の自治
	25	教育を受ける権利
	26	勤労の権利・義務
	27	職業選択の自由、営業の自由
	28	財産権
	29	婚姻に関する権利
	30	まとめ（課題講評など）
到達目標	日本国憲法の構造と人権保障の内容について理解すること。特に、近代立憲主義において人権が果たしてきた重要な役割を意識しながら、現在のグローバル化社会や情報社会における新しい権利保障についても考察できるようにすること。	
予習内容/復習内容	新聞記事やニュース等に目を通しておくこと。	

教科書	加藤一彦・柏崎敏義編『新 憲法判例特選〔第3版〕』（敬文堂、2021年）。
成績評価	期末試験100%。
実務経験	なし
その他特記事項	六法を持参してください。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	全学年	2	選択
担当教員			
鎌塚 有貴			
		講義	
添付ファイル			

ディプロマ・ポリシー	<p>大学DP</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 1. 創造性豊かな人間性と優れた専門性を身につけた学生 □ 2. 実社会で活躍できる知的・人間的資質を身につけた学生 □ 3. 地域社会を主体的に担う態度を身につけた学生 □ 4. 国際社会に対する理解とコミュニケーション能力や情報社会に対応できる能力を身につけた学生 <p>法経科第1部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 1. 法律・政治・経済・経営など社会科学の基幹分野に関する基本的な知識を修得し、最新の学問的到達についても一定の理解をもっている。 ■ 2. 現代社会の諸問題について、専門的知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 □ 3. 修得した学識を職業生活上の実践的課題に適用することができる。 □ 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 ■ 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>法経科第2部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 社会科学について広く基礎的な素養を身につけている。 □ 2. 現代社会の諸問題について、学修した知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 □ 3. 多様な目的意識を持つ幅広い年齢層の学生がともに学生生活を送ることを通じて、豊かな人間関係を構築できるコミュニケーション能力を身につけている。 □ 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 □ 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>食物栄養学科食物栄養学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 栄養士として必要な食に関する幅広い専門知識と技能を有している。 □ 2. 食と健康に関する様々な課題に対して、科学的根拠に基づいた多面的・総合的な理解及び判断ができる。 □ 3. 豊かな教養、高い倫理観、優れたコミュニケーション力を備え、栄養士として適切な栄養管理・指導を実践できる。 □ 4. 習得した専門知識と技能を基に、地域社会と連携して食と健康の分野で主体的に活躍できる能力を備えている。 <p>生活科学科生活科学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 「いのち」と「暮らし」に関わるニーズが多様化する社会にあって、それらについての基礎的な教養を身につけている。 □ 2. 生活福祉・心理コースにあっては、社会福祉学と心理学を総合した視点に立って、社会や人間に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 □ 3. 居住環境コースにあっては、住生活や環境という視点に立って、生活環境に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 □ 4. 高い公共性と倫理性を備え、地域や社会に主体的、積極的に貢献していこうとする態度が身につけている。 <p>※■が該当項目</p>
------------	---

授業概要/授業目的	本講義では、憲法における統治分野を扱う。日本国憲法および諸外国の憲法を参照しながら、憲法とはなにか、人権とはどういうものなのかを考える。また、憲法上の問題を身近に感じられるようにするため、判例や時事問題を紹介する。憲法を学ぶことに加えて、法体系全体を意識できるようになることを目指す。
授業計画	<p>1 ガイダンス：授業評価、進行について</p> <p>2 選挙権・選挙制度</p>

	3	国会の権能
	4	国政調査権
	5	行政権、議院内閣制
	6	司法権
	7	裁判所の組織
	8	司法権・裁判官の独立
	9	違憲審査制
	10	政教分離
	11	財政
	12	地方自治
	13	平和主義
	14	憲法改正
	15	まとめ（課題講評など）
到達目標	日本国憲法における統治機構の役割・権能について理解すること。特に、国家と国民の関係や、立憲主義にもとづく統治によって人権保障が実現できるという構造を日常のニュース等と関連付けることができるようになること。	
予習内容/復習内容	新聞記事やニュース等に目を通しておくこと。	
教科書	加藤一彦・柏崎敏義編『新 憲法判例特選〔第3版〕』（敬文堂、2021年）。	
成績評価	期末試験100%。	
実務経験	なし	
その他特記事項	六法を持参してください。	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	全学年	4	選択
担当教員			
杉田 和正			
	講義		
添付ファイル			

ディプロマ・ポリシー	<p>大学DP</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 1. 創造性豊かな人間性と優れた専門性を身につけた学生 □ 2. 実社会で活躍できる知的・人間的資質を身につけた学生 □ 3. 地域社会を主体的に担う態度を身につけた学生 □ 4. 国際社会に対する理解とコミュニケーション能力や情報社会に対応できる能力を身につけた学生 <p>法経科第1部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 1. 法律・政治・経済・経営など社会科学の基幹分野に関する基本的な知識を修得し、最新の学問的到達についても一定の理解をもっている。 ■ 2. 現代社会の諸問題について、専門的知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 □ 3. 修得した学識を職業生活上の実践的課題に適用することができる。 □ 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 ■ 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>法経科第2部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 社会科学について広く基礎的な素養を身につけている。 □ 2. 現代社会の諸問題について、学修した知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 □ 3. 多様な目的意識を持つ幅広い年齢層の学生がともに学生生活を送ることを通じて、豊かな人間関係を構築できるコミュニケーション能力を身につけている。 □ 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 □ 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>食物栄養学科食物栄養学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 栄養士として必要な食に関する幅広い専門知識と技能を有している。 □ 2. 食と健康に関する様々な課題に対して、科学的根拠に基づいた多面的・総合的な理解及び判断ができる。 □ 3. 豊かな教養、高い倫理観、優れたコミュニケーション力を備え、栄養士として適切な栄養管理・指導を実践できる。 □ 4. 習得した専門知識と技能を基に、地域社会と連携して食と健康の分野で主体的に活躍できる能力を備えている。 <p>生活科学科生活科学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 「いのち」と「暮らし」に関わるニーズが多様化する社会にあって、それらについての基礎的な教養を身につけている。 □ 2. 生活福祉・心理コースにあっては、社会福祉学と心理学を総合した視点に立って、社会や人間に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 □ 3. 居住環境コースにあっては、住生活や環境という視点に立って、生活環境に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 □ 4. 高い公共性と倫理性を備え、地域や社会に主体的、積極的に貢献していこうとする態度が身につけている。 <p>※■が該当項目</p>
------------	---

授業概要/授業目的	民法は、私達の市民生活の基本的ルールを定めた法律である。本講義では、受講生が民法を初めて学ぶことに鑑み、民法の概要や基本的事項を説明した上で、民法の総則・物権・担保物権と呼ばれるパートを取り上げる。条文を読んだ時に、その内容を理解できるようになることが目的である。
授業計画	<p>1 民法の歴史と構造</p> <p>2 民法の基本原理</p> <p>3 総則の全体像</p>

	4	自然人、権利能力、意思能力
	5	行為能力、制限行為能力者
	6	法人
	7	法律行為、意思表示
	8	心裡留保
	9	通謀虚偽表示
	10	錯誤
	11	詐欺・強迫
	12	無効・取消し、強行規定・任意規定、公序良俗
	13	代理
	14	表見代理
	15	無権代理
	16	時効、条件・期限
	17	取得時効
	18	消滅時効
	19	物権の意義と種類
	20	物権的請求権
	21	物権変動
	22	不動産物権変動
	23	動産物権変動
	24	占有権
	25	所有権
	26	地上権、永小作権、地役権、入会権
	27	担保物権の概要
	28	抵当権
	29	質権、留置権、先取特権
	30	譲渡担保
到達目標	(1) 民法総則・物権・担保物権に関する基本的知識を身に付ける。 (2) 私達の日常生活上の出来事を法的に考察できるようになる。	
予習内容/復習内容	予習：六法の該当箇所を読む。 復習：配布資料やノートを読み返し、授業内容を定着させる。	
教科書	最新の六法。	

成績評価	期末試験100%
実務経験	
その他特記事項	授業計画は適宜変更の可能性がある。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	全学年	2	選択
担当教員			
杉田 和正			
	講義		
添付ファイル			

ディプロマ・ポリシー	<p>大学DP</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 1. 創造性豊かな人間性と優れた専門性を身につけた学生 □ 2. 実社会で活躍できる知的・人間的資質を身につけた学生 □ 3. 地域社会を主体的に担う態度を身につけた学生 □ 4. 国際社会に対する理解とコミュニケーション能力や情報社会に対応できる能力を身につけた学生 <p>法経科第1部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 1. 法律・政治・経済・経営など社会科学の基幹分野に関する基本的な知識を修得し、最新の学問的到達についても一定の理解をもっている。 ■ 2. 現代社会の諸問題について、専門的知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 □ 3. 修得した学識を職業生活上の実践的課題に適用することができる。 □ 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 ■ 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>法経科第2部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 社会科学について広く基礎的な素養を身につけている。 □ 2. 現代社会の諸問題について、学修した知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 □ 3. 多様な目的意識を持つ幅広い年齢層の学生がともに学生生活を送ることを通じて、豊かな人間関係を構築できるコミュニケーション能力を身につけている。 □ 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 □ 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>食物栄養学科食物栄養学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 栄養士として必要な食に関する幅広い専門知識と技能を有している。 □ 2. 食と健康に関する様々な課題に対して、科学的根拠に基づいた多面的・総合的な理解及び判断ができる。 □ 3. 豊かな教養、高い倫理観、優れたコミュニケーション力を備え、栄養士として適切な栄養管理・指導を実践できる。 □ 4. 習得した専門知識と技能を基に、地域社会と連携して食と健康の分野で主体的に活躍できる能力を備えている。 <p>生活科学科生活科学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 「いのち」と「暮らし」に関わるニーズが多様化する社会にあって、それらについての基礎的な教養を身につけている。 □ 2. 生活福祉・心理コースにあっては、社会福祉学と心理学を総合した視点に立って、社会や人間に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 □ 3. 居住環境コースにあっては、住生活や環境という視点に立って、生活環境に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 □ 4. 高い公共性と倫理性を備え、地域や社会に主体的、積極的に貢献していこうとする態度が身につけている。 <p>※■が該当項目</p>
------------	---

授業概要/授業目的	本講義では、民法の中で、人と人との関係を規律している債権法と呼ばれるパートの個別規定である債権各論を取り上げる。具体的には、「契約」や「損害賠償」をイメージしてもらえればよい。条文を読んだ時に、その内容を理解できるようになることが目的である。
授業計画	<p>1 債権各論の意義</p> <p>2 契約の成立</p> <p>3 契約の効力</p>

	4	同時履行の抗弁権
	5	危険負担
	6	契約の解除
	7	贈与
	8	売買
	9	消費貸借
	10	使用貸借
	11	賃貸借
	12	雇用・請負・委任
	13	寄託・組合・和解
	14	事務管理と不当利得
	15	不法行為
到達目標	(1) 債権各論に関する基本的知識を身に付ける。 (2) 私達の日常生活上の出来事を法的に考察できるようになる。	
予習内容/復習内容	予習：六法の該当箇所を読む。 復習：配布資料やノートを読み返し、授業内容を定着させる。	
教科書	最新の六法。	
成績評価	期末試験100%	
実務経験		
その他特記事項	授業計画は適宜変更の可能性はある。	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	全学年	4	選択
担当教員			
木村義和			
	講義		
添付ファイル			

ディプロマ・ポリシー	<p>大学DP</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 1. 創造性豊かな人間性と優れた専門性を身につけた学生 □ 2. 実社会で活躍できる知的・人間的資質を身につけた学生 □ 3. 地域社会を主体的に担う態度を身につけた学生 □ 4. 国際社会に対する理解とコミュニケーション能力や情報社会に対応できる能力を身につけた学生 <p>法経科第1部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 1. 法律・政治・経済・経営など社会科学の基幹分野に関する基本的な知識を修得し、最新の学問的到達についても一定の理解をもっている。 ■ 2. 現代社会の諸問題について、専門的知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 □ 3. 修得した学識を職業生活上の実践的課題に適用することができる。 □ 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 ■ 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>法経科第2部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 社会科学について広く基礎的な素養を身につけている。 □ 2. 現代社会の諸問題について、学修した知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 □ 3. 多様な目的意識を持つ幅広い年齢層の学生がともに学生生活を送ることを通じて、豊かな人間関係を構築できるコミュニケーション能力を身につけている。 □ 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 □ 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>食物栄養学科食物栄養学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 栄養士として必要な食に関する幅広い専門知識と技能を有している。 □ 2. 食と健康に関する様々な課題に対して、科学的根拠に基づいた多面的・総合的な理解及び判断ができる。 □ 3. 豊かな教養、高い倫理観、優れたコミュニケーション力を備え、栄養士として適切な栄養管理・指導を実践できる。 □ 4. 習得した専門知識と技能を基に、地域社会と連携して食と健康の分野で主体的に活躍できる能力を備えている。 <p>生活科学科生活科学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 「いのち」と「暮らし」に関わるニーズが多様化する社会にあって、それらについての基礎的な教養を身につけている。 □ 2. 生活福祉・心理コースにあっては、社会福祉学と心理学を総合した視点に立って、社会や人間に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 □ 3. 居住環境コースにあっては、住生活や環境という視点に立って、生活環境に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 □ 4. 高い公共性と倫理性を備え、地域や社会に主体的、積極的に貢献していこうとする態度が身につけている。 <p>※■が該当項目</p>
------------	---

授業概要/授業目的	「あなたにとって大切な者は何ですか？」と尋ねられた時、多くの人が答えるものの一つが「家族」です。この家族の関係についての基本的なルールを理解することが本講義の目的です。本講義では、家族法の重要な制度を重点的に解説します。
授業計画	<p>第1回 家族法の意義と親族</p> <p>第2回 婚姻の成立</p> <p>第3回 婚約・結納・内縁</p>

	第4回	婚姻の一般的効果
	第5回	婚姻の財産的効果
	第6回	離婚の手続き
	第7回	離婚の有責主義と破綻主義
	第8回	離婚の効果（財産分与）
	第9回	離婚の効果（子をめぐり問題）
	第10回	嫡出子
	第11回	非嫡出子
	第12回	普通養子
	第13回	特別養子
	第14回	親権
	第15回	扶養
	第16回	相続法序論
	第17回	相続回復請求権
	第18回	相続欠格
	第19回	相続人の廃除
	第20回	相続分
	第21回	特別受益
	第22回	寄与分
	第23回	遺産の範囲
	第24回	遺産の分割方法
	第25回	相続の承認
	第26回	相続の放棄
	第27回	遺言の方式
	第28回	遺言の無効・取消
	第29回	遺贈
	第30回	遺留分
到達目標	家族法の重要な制度を理解し、基礎知識が修得できる。	
予習内容/復習内容	予習：レジュメを見ながらテキストの該当箇所を読む。 復習：ノートを見ながら授業内容を整理し、理解する。	
教科書	床谷文雄・神谷遊・稲垣朋子・小川恵・幡野弘樹『新プレミアム民法5 家族法』（法律文化社）	
成績評価	各回に行う小テスト60%＋試験40%で評価する。	

	小テストは各回の授業の最後に行う。
実務経験	
その他特記事項	熱意を持って楽しく分かり易い授業をすることをモットーにしています。この授業モットーに賛同し、授業を楽しく受講できる学生はぜひ履修してください。実りある講義になるようにお互い努力しましょうね。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	全学年	4	選択
担当教員			
名島利喜			
	講義		
添付ファイル			

ディプロマ・ポリシー	<p>大学DP</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 1. 創造性豊かな人間性と優れた専門性を身につけた学生 □ 2. 実社会で活躍できる知的・人間的資質を身につけた学生 □ 3. 地域社会を主体的に担う態度を身につけた学生 □ 4. 国際社会に対する理解とコミュニケーション能力や情報社会に対応できる能力を身につけた学生 <p>法経科第1部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 1. 法律・政治・経済・経営など社会科学の基幹分野に関する基本的な知識を修得し、最新の学問的到達についても一定の理解をもっている。 ■ 2. 現代社会の諸問題について、専門的知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 □ 3. 修得した学識を職業生活上の実践的課題に適用することができる。 □ 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 ■ 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>法経科第2部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 社会科学について広く基礎的な素養を身につけている。 □ 2. 現代社会の諸問題について、学修した知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 □ 3. 多様な目的意識を持つ幅広い年齢層の学生がともに学生生活を送ることを通じて、豊かな人間関係を構築できるコミュニケーション能力を身につけている。 □ 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 □ 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>食物栄養学科食物栄養学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 栄養士として必要な食に関する幅広い専門知識と技能を有している。 □ 2. 食と健康に関する様々な課題に対して、科学的根拠に基づいた多面的・総合的な理解及び判断ができる。 □ 3. 豊かな教養、高い倫理観、優れたコミュニケーション力を備え、栄養士として適切な栄養管理・指導を実践できる。 □ 4. 習得した専門知識と技能を基に、地域社会と連携して食と健康の分野で主体的に活躍できる能力を備えている。 <p>生活科学科生活科学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 「いのち」と「暮らし」に関わるニーズが多様化する社会にあって、それらについての基礎的な教養を身につけている。 □ 2. 生活福祉・心理コースにあっては、社会福祉学と心理学を総合した視点に立って、社会や人間に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 □ 3. 居住環境コースにあっては、住生活や環境という視点に立って、生活環境に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 □ 4. 高い公共性と倫理性を備え、地域や社会に主体的、積極的に貢献していこうとする態度が身につけている。 <p>※■が該当項目</p>
------------	---

授業概要/授業目的	会社の組織と行動に関する基本的なルールを定めている会社法全般について概説を行なう。会社の多くは株式会社形態を採用しているため、株式会社に関する法規制および条文の解釈についての判例・学説の状況を、初学者にも理解できるように説明する。したがって、株式会社法にほぼ限定しながら、法律制度としての「株式会社」に関する基礎知識を提供することを目的とする。
授業計画	オリエンテーション・会社の起源 会社と会社法

	<p>会社—その実態と法的意義</p> <p>会社の権利能力とその制限</p> <p>法人格否認の法理</p> <p>資本金制度と会社債権者保護</p> <p>株式の意義と株主の権利義務</p> <p>株式会社の設立：意義・手続の概要</p> <p>株式会社の設立：法規制</p> <p>株式譲渡自由の原則（株式の自由譲渡性）</p> <p>公開会社と株式の公開</p> <p>株式の譲渡制限</p> <p>自己株式の取得</p> <p>親子会社関係・株式相互保有</p> <p>中間テストおよび試験終了後に前半のまとめ</p> <p>株式会社の機関構造</p> <p>株主総会の意義・実態・権限</p> <p>株主総会の招集・運営</p> <p>株主総会決議の瑕疵</p> <p>取締役の資格・選任・任期</p> <p>取締役会の意義・権限・決議</p> <p>代表取締役の意義・権限・解職</p> <p>取締役の義務と報酬等</p> <p>取締役の法的責任</p> <p>株主代表訴訟＝株主による責任の追及</p> <p>監査役・監査役会・会計監査人</p> <p>指名委員会等設置会社・監査等委員会設置会社</p> <p>株式会社の資金調達に関する規律</p> <p>組織再編・組織変更</p> <p>総括：コーポレート・ガバナンス</p>
到達目標	<p>①会社法の諸制度の趣旨や内容を的確に理解できる。</p> <p>②会社法の諸制度が、経済社会でどのように機能しているのかを説明できる。</p>
予習内容/復習内容	<p>予習：予め指示された箇所をゆっくり読んでみること。</p> <p>復習：講義内容を思い浮かべながら、もう一度ゆっくり読み返すこと。</p>

教科書	近藤光男『現代商法入門〔第11版〕』（有斐閣、2021年）、最新版の六法（小型のものでよい）。
成績評価	中間テスト40%、期末試験60%、合計100%
実務経験	なし
その他特記事項	日本経済新聞等に目を通したりして、日本の会社経営の実状についても視野を広めてほしい。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	全学年	2	選択
担当教員			
岡 浩喜			
		講義	
添付ファイル			

ディプロマ・ポリシー	<p>大学DP</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 1. 創造性豊かな人間性と優れた専門性を身につけた学生 □ 2. 実社会で活躍できる知的・人間的資質を身につけた学生 □ 3. 地域社会を主体的に担う態度を身につけた学生 □ 4. 国際社会に対する理解とコミュニケーション能力や情報社会に対応できる能力を身につけた学生 <p>法経科第1部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 1. 法律・政治・経済・経営など社会科学の基幹分野に関する基本的な知識を修得し、最新の学問的到達についても一定の理解をもっている。 ■ 2. 現代社会の諸問題について、専門的知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 □ 3. 修得した学識を職業生活上の実践的課題に適用することができる。 □ 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 ■ 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>法経科第2部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 社会科学について広く基礎的な素養を身につけている。 □ 2. 現代社会の諸問題について、学修した知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 □ 3. 多様な目的意識を持つ幅広い年齢層の学生がともに学生生活を送ることを通じて、豊かな人間関係を構築できるコミュニケーション能力を身につけている。 □ 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 □ 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>食物栄養学科食物栄養学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 栄養士として必要な食に関する幅広い専門知識と技能を有している。 □ 2. 食と健康に関する様々な課題に対して、科学的根拠に基づいた多面的・総合的な理解及び判断ができる。 □ 3. 豊かな教養、高い倫理観、優れたコミュニケーション力を備え、栄養士として適切な栄養管理・指導を実践できる。 □ 4. 習得した専門知識と技能を基に、地域社会と連携して食と健康の分野で主体的に活躍できる能力を備えている。 <p>生活科学科生活科学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 「いのち」と「暮らし」に関わるニーズが多様化する社会にあって、それらについての基礎的な教養を身につけている。 □ 2. 生活福祉・心理コースにあっては、社会福祉学と心理学を総合した視点に立って、社会や人間に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 □ 3. 居住環境コースにあっては、住生活や環境という視点に立って、生活環境に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 □ 4. 高い公共性と倫理性を備え、地域や社会に主体的、積極的に貢献していこうとする態度が身につけている。 <p>※■が該当項目</p>
------------	---

授業概要/授業目的	<p>商法総則・商行為に関する商法の規定と民法の規定との違いや企業取引実務を中心に学習する。商業登記簿や商業帳簿、企業取引に関する各種書式等を用いて平易に解説したい。</p> <p>商法に規定される商法総則・商行為の内容、民法との違いや各規定が具体的に適用される場面について学習しつつ、企業取引の具体的な実務を学習する。</p>
授業計画	<p>1 ガイダンス、商法の意義</p> <p>2 商法総則総論</p>

	3	商業登記
	4	商号
	5	営業譲渡・事業の譲渡
	6	商業帳簿・企業会計
	7	商業使用人と代理商
	8	商行為・商人の行為
	9	商事売買
	10	仲立と取次ぎ
	11	運送営業と倉庫営業
	12	場屋営業
	13	匿名組合・交互計算
	14	保険、国際取引・電子取引
	15	有価証券、手形・小切手、電子記録債権
到達目標	①商法総則・商行為に関する基本的知識を修得する。 ②企業取引実務に関する知識を深める。 ③社会人となって有用と思われる企業取引実務を身につける。	
予習内容/復習内容	予習：指定する教科書の対応するページに目を通す。 復習：講義資料や教科書を読み返す。	
教科書	リーガルマインド商法総則・商行為法 第3版 有斐閣 弥永真生／著 六法（コンパクトなもので可）	
成績評価	出席点（講義への参加態度や小テストの内容を含む）及び期末試験による評価の予定。 平常点50%、期末試験50%で評価。	
実務経験	トヨタ自動車知的財産部勤務を経て、2013年弁護士登録（第一東京弁護士会、2015年に三重弁護士会に登録換え）。企業での経験や弁護士としての企業法務における実務経験を基に商法の基礎についてお話しします。	
その他特記事項		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	全学年	4	選択
担当教員			
柏崎 早陽子			
	講義		
添付ファイル			

ディプロマ・ポリシー	<p>大学DP</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 1. 創造性豊かな人間性と優れた専門性を身につけた学生 □ 2. 実社会で活躍できる知的・人間的資質を身につけた学生 □ 3. 地域社会を主体的に担う態度を身につけた学生 □ 4. 国際社会に対する理解とコミュニケーション能力や情報社会に対応できる能力を身につけた学生 <p>法経科第1部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 1. 法律・政治・経済・経営など社会科学の基幹分野に関する基本的な知識を修得し、最新の学問的到達についても一定の理解をもっている。 ■ 2. 現代社会の諸問題について、専門的知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 □ 3. 修得した学識を職業生活上の実践的課題に適用することができる。 □ 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 ■ 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>法経科第2部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 社会科学について広く基礎的な素養を身につけている。 □ 2. 現代社会の諸問題について、学修した知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 □ 3. 多様な目的意識を持つ幅広い年齢層の学生がともに学生生活を送ることを通じて、豊かな人間関係を構築できるコミュニケーション能力を身につけている。 □ 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 □ 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>食物栄養学科食物栄養学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 栄養士として必要な食に関する幅広い専門知識と技能を有している。 □ 2. 食と健康に関する様々な課題に対して、科学的根拠に基づいた多面的・総合的な理解及び判断ができる。 □ 3. 豊かな教養、高い倫理観、優れたコミュニケーション力を備え、栄養士として適切な栄養管理・指導を実践できる。 □ 4. 習得した専門知識と技能を基に、地域社会と連携して食と健康の分野で主体的に活躍できる能力を備えている。 <p>生活科学科生活科学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 「いのち」と「暮らし」に関わるニーズが多様化する社会にあって、それらについての基礎的な教養を身につけている。 □ 2. 生活福祉・心理コースにあっては、社会福祉学と心理学を総合した視点に立って、社会や人間に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 □ 3. 居住環境コースにあっては、住生活や環境という視点に立って、生活環境に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 □ 4. 高い公共性と倫理性を備え、地域や社会に主体的、積極的に貢献していこうとする態度が身につけている。 <p>※■が該当項目</p>
------------	---

授業概要/授業目的	刑法は「犯罪」と「刑罰」について定めた法律です。刑法を特徴づける「刑罰」は、究極的には人の生命を奪うものです。このことから、他の法律と比べても刑法・刑罰は厳しい法律・過酷な制裁であると言われています。では、「刑罰」は、どのような場合に科されるのでしょうか？それを知るためには、どのような場合に「犯罪」が成立するかを理解しなければなりません。本講義では「犯罪」の成立に関わる様々な要素について、具体的な事例、学説や判例を用いながら説明します。
授業計画	1 刑法（刑事法）の基礎知識 2 刑法の意義と目的

	3	刑罰の目的、刑罰の種類、謙抑主義
	4	罪刑法定主義
	5	罪刑法定主義の派生原理
	6	犯罪論の体系
	7	構成要件論－犯罪成立のための第 1 段階－
	8	因果関係論
	9	作為と不作為
	10	故意
	11	過失
	12	違法性論－犯罪成立のための第 2 段階－
	13	正当防衛
	14	過剰防衛
	15	緊急避難
	16	正当行為、被害者の同意
	17	有責性－犯罪成立の第 3 段階－
	18	責任能力、原因において自由な行為、期待可能性
	19	錯誤①：具体的事実の錯誤
	20	錯誤②：抽象的事実の錯誤
	21	錯誤③：違法性の錯誤
	22	未遂犯・不能犯
	23	中止犯
	24	共犯論①：共犯の基礎、教唆犯・幫助犯
	25	共犯論②：共同正犯
	26	共犯論③：間接正犯
	27	共犯の諸問題①：片面的共犯・承継的共犯
	28	共犯の諸問題②：共犯関係からの離脱
	29	罪数論
	30	学習内容の総まとめ
到達目標		<ul style="list-style-type: none"> ・刑法の基本原理や基本的な概念を説明することができる。 ・学説や判例を理解し、説明することができる。 ・問題をどのように解決に導くか、自分の考えを論理的に説明することができる。
予習内容/復習内容		<p>【予習】教科書や配布資料等を活用して、各学習内容について調べ、分からない点や疑問点を明らかにする。</p> <p>【復習】教科書、配布資料および小テスト等を用いて、学習内容を復習する。</p>

教科書	六法（最新版のもの）必須。 教科書として、小島秀夫編『刑法総論－理論と実践』（法律文化社、2022年）を指定する。 その他、授業内容に応じて、授業内で適宜紹介する。
成績評価	定期試験（60%）＋小テスト・レポート・授業への出席態度（40%）で評価する。
実務経験	
その他特記事項	刑事政策も受講することが望ましい。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	全学年	4	選択
担当教員			
古畑淳			
	講義		
添付ファイル			

ディプロマ・ポリシー	<p>大学DP</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 1. 創造性豊かな人間性と優れた専門性を身につけた学生 □ 2. 実社会で活躍できる知的・人間的資質を身につけた学生 □ 3. 地域社会を主体的に担う態度を身につけた学生 □ 4. 国際社会に対する理解とコミュニケーション能力や情報社会に対応できる能力を身につけた学生 <p>法経科第1部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 1. 法律・政治・経済・経営など社会科学の基幹分野に関する基本的な知識を修得し、最新の学問的到達についても一定の理解をもっている。 ■ 2. 現代社会の諸問題について、専門的知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 □ 3. 修得した学識を職業生活上の実践的課題に適用することができる。 □ 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 ■ 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>法経科第2部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 社会科学について広く基礎的な素養を身につけている。 □ 2. 現代社会の諸問題について、学修した知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 □ 3. 多様な目的意識を持つ幅広い年齢層の学生がともに学生生活を送ることを通じて、豊かな人間関係を構築できるコミュニケーション能力を身につけている。 □ 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 □ 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>食物栄養学科食物栄養学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 栄養士として必要な食に関する幅広い専門知識と技能を有している。 □ 2. 食と健康に関する様々な課題に対して、科学的根拠に基づいた多面的・総合的な理解及び判断ができる。 □ 3. 豊かな教養、高い倫理観、優れたコミュニケーション力を備え、栄養士として適切な栄養管理・指導を実践できる。 □ 4. 習得した専門知識と技能を基に、地域社会と連携して食と健康の分野で主体的に活躍できる能力を備えている。 <p>生活科学科生活科学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 「いのち」と「暮らし」に関わるニーズが多様化する社会にあって、それらについての基礎的な教養を身につけている。 □ 2. 生活福祉・心理コースにあっては、社会福祉学と心理学を総合した視点に立って、社会や人間に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 □ 3. 居住環境コースにあっては、住生活や環境という視点に立って、生活環境に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 □ 4. 高い公共性と倫理性を備え、地域や社会に主体的、積極的に貢献していこうとする態度が身につけている。 <p>※■が該当項目</p>
------------	---

授業概要/授業目的	<p>私たちの生活は行政と密接にかかわっている。子どもや高齢者が安心して生活できるように、また、地域で暮らす私たちがよりよい環境で安心して生活できるように、行政は様々な活動を行っている。行政法はそうした行政の活動についてのルールと、行政の活動により市民の権利等が侵害された場合の是正と賠償のルールなどを定めた法である。</p> <p>授業では、身近な生活問題に即して、私たちと行政との関わり、行政の様々な活動の形式、行政の活動の是正を求める手段、そして、違法な行政活動により生じた損害についてその賠償を求める仕組みなどを学ぶ。</p>
授業計画	<p>1 行政法への招待</p> <p>2 行政組織について学ぶ</p>

	3	法律による行政の原理を学ぶ
	4	行政上の一般原則を学ぶ① 平等原則、比例原則、信頼保護原則等
	5	行政上の一般原則を学ぶ② 透明性原則 説明責任原則
	6	行政行為（行政処分）を学ぶ① 行政行為の意義、種類
	7	行政行為（行政処分）を学ぶ② 行政行為の効力、職権による取消しと撤回
	8	行政手続を学ぶ① 申請に対する処分手続
	9	行政手続を学ぶ② 不利益処分の手続、手続的瑕疵の効果
	10	行政基準を学ぶ
	11	行政計画を学ぶ
	12	行政指導を学ぶ
	13	行政上の義務の実効性確保を学ぶ
	14	情報公開法を学ぶ
	15	前半部分のまとめ
	16	行政事件訴訟を学ぶ① 行政事件訴訟の全体像
	17	行政事件訴訟を学ぶ② 取消訴訟の対象
	18	行政事件訴訟を学ぶ③ 取消訴訟の原告適格と訴えの利益
	19	行政事件訴訟を学ぶ④ 取消訴訟の審理と判決
	20	行政事件訴訟を学ぶ⑤ 取消訴訟における仮の救済
	21	行政事件訴訟を学ぶ⑥ 取消訴訟以外の抗告訴訟（義務付け訴訟等）
	22	行政事件訴訟を学ぶ⑦ 抗告訴訟以外の行政事件訴訟（当事者訴訟等）
	23	行政上の不服申立てを学ぶ① 不服審査の仕組みと組織
	24	行政上の不服申立てを学ぶ② 不服申立ての審理と裁決
	25	行政上の不服申立てを学ぶ③ 行政不服審査会の答申を読む
	26	国家賠償を学ぶ① 公権力の行使に関する賠償
	27	国家賠償を学ぶ② 行政の危険防止責任
	28	国家賠償を学ぶ③ 営造物の瑕疵に関する賠償
	29	損失補償を学ぶ
	30	後半部分のまとめ
到達目標		1) 法律による行政の原理と行政上の一般原則について理解する。 2) 行政の様々な活動の形式と活動の統制の仕組みについて理解する。 3) 行政の活動の是正を求める手段と違法な行政活動により生じた損害の賠償を求める仕組み、また損失補償の仕組みを理解する。

予習内容/復習内容	教科書（該当箇所を指示する）を一読する。 担当者作成のレジュメ・資料と教科書を再読する。授業で学習した事項（ノート）の整理を行う。
教科書	大橋洋一『社会とつながる行政法入門〔第2版〕』（有斐閣、2021年、1,980円）を使用する。 ※授業は担当者作成のレジュメ・資料（判決の判示事項の抜粋、新聞記事、自治体広報誌、各種統計資料等により作成）を用いて進めていきます。教科書は事前事後の学習において使用します。また、授業を進める中で適宜、参照いたします。
成績評価	授業の終わりに行う小テストないしミニレポートの評価（30%）と定期試験の結果（70%）の合計で評価します。
実務経験	
その他特記事項	『ポケット六法』等の六法（最新年度版のもの）を持参して授業に臨むこと。 行政の活動の実際を知るために、日頃からニュース・新聞などの報道に注意すること。新聞などの切り抜き（スクラップ）を作ることを勧めます。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	全学年	4	選択
担当教員			
西川 昇吾			
	講義		
添付ファイル			

ディプロマ・ポリシー	<p>大学DP</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 1. 創造性豊かな人間性と優れた専門性を身につけた学生 □ 2. 実社会で活躍できる知的・人間的資質を身につけた学生 □ 3. 地域社会を主体的に担う態度を身につけた学生 □ 4. 国際社会に対する理解とコミュニケーション能力や情報社会に対応できる能力を身につけた学生 <p>法経科第1部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 1. 法律・政治・経済・経営など社会科学の基幹分野に関する基本的な知識を修得し、最新の学問的到達についても一定の理解をもっている。 ■ 2. 現代社会の諸問題について、専門的知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 □ 3. 修得した学識を職業生活上の実践的課題に適用することができる。 □ 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 ■ 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>法経科第2部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 社会科学について広く基礎的な素養を身につけている。 □ 2. 現代社会の諸問題について、学修した知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 □ 3. 多様な目的意識を持つ幅広い年齢層の学生がともに学生生活を送ることを通じて、豊かな人間関係を構築できるコミュニケーション能力を身につけている。 □ 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 □ 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>食物栄養学科食物栄養学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 栄養士として必要な食に関する幅広い専門知識と技能を有している。 □ 2. 食と健康に関する様々な課題に対して、科学的根拠に基づいた多面的・総合的な理解及び判断ができる。 □ 3. 豊かな教養、高い倫理観、優れたコミュニケーション力を備え、栄養士として適切な栄養管理・指導を実践できる。 □ 4. 習得した専門知識と技能を基に、地域社会と連携して食と健康の分野で主体的に活躍できる能力を備えている。 <p>生活科学科生活科学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 「いのち」と「暮らし」に関わるニーズが多様化する社会にあって、それらについての基礎的な教養を身につけている。 □ 2. 生活福祉・心理コースにあっては、社会福祉学と心理学を総合した視点に立って、社会や人間に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 □ 3. 居住環境コースにあっては、住生活や環境という視点に立って、生活環境に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 □ 4. 高い公共性と倫理性を備え、地域や社会に主体的、積極的に貢献していこうとする態度が身につけている。 <p>※■が該当項目</p>
------------	---

授業概要/授業目的	<p>本講義では、労働法、とりわけ、その中心部分を占める雇用関係法（使用者と労働者の関係を規律する法領域）および労使関係法（労働組合と使用者の関係を規律する法領域）の基礎的事項や重要事項を解説する。具体的には、毎回、レジュメを配布するが、板書等も用いて補いながら、学修すべき内容を口述で伝達する。それにより、労働法における正確な知識や概念等を摂取し、それらを基盤として、結論のみではなく、そこに至る過程も段階的に説明しうる力を養うことが、本講義の目的である。</p>
授業計画	<p>1 ガイダンス／労働基準法の意義・目的</p> <p>2 労働基準法等の適用対象</p>

	3	均等待遇／雇用における男女平等
	4	強制労働の禁止／中間搾取の排除／公民権行使の保障
	5	労働契約の意義・期間
	6	更新拒否（雇止め）からの保護／採用内定
	7	試用期間／配転／出向
	8	転籍／労働者派遣
	9	昇格／降格
	10	解雇
	11	定年／退職／解散等
	12	労働契約上の権利・義務／就労請求権／業務命令
	13	休職／兼職禁止／競業避止／秘密保持
	14	賃金の法的保護／休業と賃金
	15	退職金／賞与／賃金カット
	16	労働時間
	17	休憩／休日／変形労働時間制／フレックスタイム制
	18	時間外労働／休日労働
	19	年次有給休暇
	20	就業規則
	21	懲戒処分
	22	妊産婦等の保護／労災補償
	23	労働組合の法的規制
	24	労働組合の内部問題
	25	不当労働行為
	26	団体交渉
	27	労働協約
	28	争議行為
	29	使用者の争議行為
	30	組合活動
到達目標	①労働法の各論点における法的意義・要件・効果等を把握する。 ②労働法上の概念や論理等を言葉で表現し、他者へ説得的に説明しうる。 ③労働法の争点においては、複数の結論が並存しうることを許容できる。	
予習内容/復習内容	受講生みずからが、配布されたレジュメを事前に一読すること等により予習し、授業において書き記した内容をノートに整理すること等により復習する。	

教科書	教科書は指定せず、上記のとおり、レジユメを使用する。なお、第1回授業にて、購入任意の「参考文献一覧」を提示する予定である。
成績評価	平常点30%（各回のリアクションペーパー提出1点×30）、試験70%（五肢選択問題10点・空欄補充問題20点・論述問題40点）により評価する（ただし、3分の2以上の出席を要する）。
実務経験	
その他特記事項	受講に際しては、知識や論理等をインプットするだけでなく、それらを言葉や文章でアウトプットできるよう意識してほしい。また、レジユメ等に目を通して、企業の実情や訴訟当事者のやり取りを想像・思考してほしい。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	全学年	4	選択
担当教員			
塚本 順久			
	講義		
添付ファイル			

ディプロマ・ポリシー	<p>大学DP</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 1. 創造性豊かな人間性と優れた専門性を身につけた学生 □ 2. 実社会で活躍できる知的・人間的資質を身につけた学生 □ 3. 地域社会を主体的に担う態度を身につけた学生 □ 4. 国際社会に対する理解とコミュニケーション能力や情報社会に対応できる能力を身につけた学生 <p>法経科第1部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 1. 法律・政治・経済・経営など社会科学の基幹分野に関する基本的な知識を修得し、最新の学問的到達についても一定の理解をもっている。 ■ 2. 現代社会の諸問題について、専門的知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 □ 3. 修得した学識を職業生活上の実践的課題に適用することができる。 □ 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 ■ 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>法経科第2部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 社会科学について広く基礎的な素養を身につけている。 □ 2. 現代社会の諸問題について、学修した知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 □ 3. 多様な目的意識を持つ幅広い年齢層の学生がともに学生生活を送ることを通じて、豊かな人間関係を構築できるコミュニケーション能力を身につけている。 □ 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 □ 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>食物栄養学科食物栄養学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 栄養士として必要な食に関する幅広い専門知識と技能を有している。 □ 2. 食と健康に関する様々な課題に対して、科学的根拠に基づいた多面的・総合的な理解及び判断ができる。 □ 3. 豊かな教養、高い倫理観、優れたコミュニケーション力を備え、栄養士として適切な栄養管理・指導を実践できる。 □ 4. 習得した専門知識と技能を基に、地域社会と連携して食と健康の分野で主体的に活躍できる能力を備えている。 <p>生活科学科生活科学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 「いのち」と「暮らし」に関わるニーズが多様化する社会にあって、それらについての基礎的な教養を身につけている。 □ 2. 生活福祉・心理コースにあっては、社会福祉学と心理学を総合した視点に立って、社会や人間に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 □ 3. 居住環境コースにあっては、住生活や環境という視点に立って、生活環境に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 □ 4. 高い公共性と倫理性を備え、地域や社会に主体的、積極的に貢献していこうとする態度が身につけている。 <p>※■が該当項目</p>
------------	---

授業概要/授業目的	民事訴訟法は、民事訴訟に関する手続についての基本法です（第1条）。民事訴訟手続は、個人間の法的な紛争（主に財産権に関する紛争）を、裁判官が当事者双方の言い分を聞き、証拠を調べた後に、判決をすることによって解決を図る手続です。本講義では、主に、民事訴訟法が定める第一審手続（訴え提起から判決確定まで）の概要について説明します。
授業計画	<p>1 ガイダンス、民事訴訟（民事裁判）の基本構造</p> <p>2 民事訴訟の基本原則、民事訴訟法の構造</p>

	3	訴訟の開始
	4	訴え提起の効果
	5	裁判所と管轄
	6	当事者1:形式的当事者概念
	7	当事者2:当事者能力と訴訟能力、訴訟代理
	8	訴訟物:訴訟物概念とその機能
	9	訴訟要件1:訴訟要件、訴えの利益
	10	訴訟要件2:当事者適格、第三者の訴訟担当
	11	裁判所と当事者の役割分担、口頭弁論
	12	弁論主義1:弁論主義の3原則、釈明
	13	弁論主義2:裁判上の自白
	14	審理の充実と訴訟促進
	15	証拠と証明:証明とは、自由心証主義、証拠能力
	16	証明責任:証明責任の分配、推定
	17	証拠調べ1総論:書証・証人尋問・当事者尋問・鑑定・検証
	18	証拠調べ2各論:文書提出命令、証拠保全
	19	口頭弁論における当事者の訴訟行為
	20	判決以外の訴訟終了原因
	21	裁判と判決:裁判の種類、判決の効力
	22	既判力1:既判力の客観的範囲
	23	既判力2:既判力の主観的範囲
	24	一部請求と既判力、訴訟上の相殺
	25	判決効に関する論点
	26	複数請求
	27	複数当事者訴訟1:通常共同訴訟、必要的共同訴訟
	28	複数当事者訴訟2:訴訟参加・訴訟承継
	29	上訴・再審
	30	まとめ:第一審手続の復習
到達目標	民事訴訟法の条文を読み解く。 民事訴訟手続の全体の流れを理解する。 民事訴訟法における原理原則、基本概念を理解する。	
予習内容/復習内容	予習:教科書の該当箇所及び該当する民事訴訟法の条文を読む。 復習:条文と教科書を読み直し、教科書の事例を再検討する。	

教科書	越山和広『ベーシックスタディ民事訴訟法〔第2版〕』（法律文化社、2023年）、六法
成績評価	定期試験70%、授業における発言など積極的に取り組む姿勢30%
実務経験	講師は、三重弁護士会に所属する弁護士です。実務経験をもとに、実際の民事裁判の手續に即して民事訴訟法の条文と基本的な概念が理解できるようお話しします。
その他特記事項	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	全学年	4	選択
担当教員			
早野 暁			
	講義		
添付ファイル			

ディプロマ・ポリシー	<p>大学DP</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 1. 創造性豊かな人間性と優れた専門性を身につけた学生 □ 2. 実社会で活躍できる知的・人間的資質を身につけた学生 □ 3. 地域社会を主体的に担う態度を身につけた学生 □ 4. 国際社会に対する理解とコミュニケーション能力や情報社会に対応できる能力を身につけた学生 <p>法経科第1部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 1. 法律・政治・経済・経営など社会科学の基幹分野に関する基本的な知識を修得し、最新の学問的到達についても一定の理解をもっている。 ■ 2. 現代社会の諸問題について、専門的知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 □ 3. 修得した学識を職業生活上の実践的課題に適用することができる。 □ 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 ■ 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>法経科第2部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 社会科学について広く基礎的な素養を身につけている。 □ 2. 現代社会の諸問題について、学修した知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 □ 3. 多様な目的意識を持つ幅広い年齢層の学生がともに学生生活を送ることを通じて、豊かな人間関係を構築できるコミュニケーション能力を身につけている。 □ 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 □ 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>食物栄養学科食物栄養学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 栄養士として必要な食に関する幅広い専門知識と技能を有している。 □ 2. 食と健康に関する様々な課題に対して、科学的根拠に基づいた多面的・総合的な理解及び判断ができる。 □ 3. 豊かな教養、高い倫理観、優れたコミュニケーション力を備え、栄養士として適切な栄養管理・指導を実践できる。 □ 4. 習得した専門知識と技能を基に、地域社会と連携して食と健康の分野で主体的に活躍できる能力を備えている。 <p>生活科学科生活科学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 「いのち」と「暮らし」に関わるニーズが多様化する社会にあって、それらについての基礎的な教養を身につけている。 □ 2. 生活福祉・心理コースにあっては、社会福祉学と心理学を総合した視点に立って、社会や人間に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 □ 3. 居住環境コースにあっては、住生活や環境という視点に立って、生活環境に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 □ 4. 高い公共性と倫理性を備え、地域や社会に主体的、積極的に貢献していこうとする態度が身につけている。 <p>※■が該当項目</p>
------------	---

授業概要/授業目的	刑事手続が国民の重大関心事となるのはなぜなのかを出発点として、効果的な犯罪の摘発と国民の人身の自由の確保、双方の両立というものが、どのような原理で実現されていくべきかを体得する講義である。犯罪を犯したと思われる国民に対して刑罰を与える刑事手続が厳格に規制される理由は、国家権力の作用の内、それが個人の自由にとって非常に脅威となるものだからである。また、有罪が確定するまでは無罪と推定される原則や、弁護権や黙秘権が保障される根拠について真剣に考察することを目的とする講義である。
授業計画	<p>1 刑事手続の基本原則。強制捜査と任意捜査</p> <p>2 職務質問と所持品検査。行政警察活動の限界。</p>

	3	捜査の端緒。司法警察活動。捜査比例の原則
	4	任意同行と任意の取調べ
	5	勾留の要件。逮捕前置主義。
	6	事件単位原則。一罪一勾留原則。
	7	接見交通権。効果的弁護。
	8	搜索差押の範囲
	9	逮捕に伴う搜索・押収
	10	逮捕の要件。令状主義の目的
	1 1	別件逮捕勾留と余罪取調べ
	1 2	取調べの法的性格。身柄拘束下の取調べと権利告知
	1 3	写真撮影、ビデオ録画、録音等
	1 4	おとり捜査
	1 5	強制採尿、採血、呼気検査等
	1 6	公訴の提起。訴因の特定
	1 7	訴因変更の要否
	1 8	訴因変更の可否
	1 9	証拠裁判主義
	2 0	証拠の関連性と証拠能力
	2 1	違法収集証拠排除法則①
	2 2	違法収集証拠排除法則②
	2 3	伝聞法則。伝聞証拠と非伝聞
	2 4	伝聞法則の例外①。供述録取書等
	2 5	伝聞法則の例外②。業務記録等
	2 6	伝聞法則の例外③。同意書面、証明力を争う証拠等
	2 7	自白法則
	2 8	裁判の効力。一事不再理効と二重危険禁止原則
	2 9	刑事免責
	3 0	再審
到達目標	司法の民主化という目的に対して、履修学生がどのような行動をとるべきかが理解できている。具体的には、裁判員の候補者となったときの対応や法廷で証人となったときの行動について。	
予習内容/復習内容	毎回の講義項目を、教科書、講義レジュメ等で予習する。講義後に講義内容を復習する。	
教科書	刑事訴訟法第6版（有斐閣アルマ）	

成績評価	期末筆記試験の得点（100％）で評価
実務経験	
その他特記事項	なし

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	全学年	4	選択
担当教員			
野口 侑太郎			
	講義		
添付ファイル			

ディプロマ・ポリシー	<p>大学DP</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 1. 創造性豊かな人間性と優れた専門性を身につけた学生 □ 2. 実社会で活躍できる知的・人間的資質を身につけた学生 □ 3. 地域社会を主体的に担う態度を身につけた学生 □ 4. 国際社会に対する理解とコミュニケーション能力や情報社会に対応できる能力を身につけた学生 <p>法経科第1部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 1. 法律・政治・経済・経営など社会科学の基幹分野に関する基本的な知識を修得し、最新の学問的到達についても一定の理解をもっている。 ■ 2. 現代社会の諸問題について、専門的知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 □ 3. 修得した学識を職業生活上の実践的課題に適用することができる。 □ 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 ■ 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>法経科第2部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 社会科学について広く基礎的な素養を身につけている。 □ 2. 現代社会の諸問題について、学修した知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 □ 3. 多様な目的意識を持つ幅広い年齢層の学生がともに学生生活を送ることを通じて、豊かな人間関係を構築できるコミュニケーション能力を身につけている。 □ 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 □ 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>食物栄養学科食物栄養学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 栄養士として必要な食に関する幅広い専門知識と技能を有している。 □ 2. 食と健康に関する様々な課題に対して、科学的根拠に基づいた多面的・総合的な理解及び判断ができる。 □ 3. 豊かな教養、高い倫理観、優れたコミュニケーション力を備え、栄養士として適切な栄養管理・指導を実践できる。 □ 4. 習得した専門知識と技能を基に、地域社会と連携して食と健康の分野で主体的に活躍できる能力を備えている。 <p>生活科学科生活科学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 「いのち」と「暮らし」に関わるニーズが多様化する社会にあって、それらについての基礎的な教養を身につけている。 □ 2. 生活福祉・心理コースにあっては、社会福祉学と心理学を総合した視点に立って、社会や人間に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 □ 3. 居住環境コースにあっては、住生活や環境という視点に立って、生活環境に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 □ 4. 高い公共性と倫理性を備え、地域や社会に主体的、積極的に貢献していこうとする態度が身につけている。 <p>※■が該当項目</p>
------------	---

授業概要/授業目的	本講義では、戦後日本を含む先進国の政治を主な事例として取り上げた上で、政治学に関する基本的な理論や概念そして基本的な事実に対する理解を深めることを目標にします。戦後日本を含んだ先進国の政治は、法経科第1部と第2部の教育目標である「（法律・政治・経済・経営などの）社会科学の基幹分野」と密接に関わっていることから、これに関する学術的知見を習得することは、極めて大切です。そこで本講義では、先進国における政治を対象に、政治学に関する基本的な理論や概念、そして事実に対する理解を概説していきます。
授業計画	<p>1 はじめに</p> <p>2 政治の捉え方①——集合行為問題とその解決</p>

3	政治の捉え方②——公共性の追求
4	書評レポート①——課題文献の読み方と書評の書き方
5	自由主義①——国家とその成立
6	自由主義②——国家からの自由
7	自由主義③——国家による自由
8	民主主義①——直接民主主義
9	民主主義②——間接民主主義
10	民主主義③——ポスト間接民主主義
11	書評レポート②——引用と参考文献
12	自由民主主義①——自由民主主義体制
13	自由民主主義②——フェミニズム
14	自由民主主義③——多文化主義
15	おわりに
16	はじめに
17	自由民主主義体制の条件①——戦後の政治経済体制
18	自由民主主義体制の条件②——グローバル化の圧力
19	自由民主主義体制の条件③——資本主義の多様性
20	書評レポート③——課題文献への評価
21	福祉国家①——福祉国家の類型論
22	福祉国家②——福祉国家の段階論
23	福祉国家③——福祉国家の政治経済学（前半）
24	福祉国家③——福祉国家の政治経済学（後半）
25	書評レポート④——その他
26	事例としての戦後日本①——福祉国家の類型論における戦後日本の位置づけ
27	事例としての戦後日本②——福祉国家の段階論における戦後日本の位置づけ
28	福祉国家の将来①——福祉国家改革の構想
29	福祉国家の将来②——多元化する福祉
30	おわりに
到達目標	本講義の到達目標は、次の3つです。 ①先進国の政治について、政治学に関する基本的な知識を獲得することができる。 ②上記の知識に基づきながら、先進国の政治に関する説明や分析を行うことができる。 ③書評レポートに関わる基本的な技術——要約や考察の仕方、引用や参考文献の書き方など——を習得する。
予習内容/復習内容	本講義では、講義内容の定着を促進するために、合計で3回程度（予定）の書評レポートを課すので、その提出

	<p>に備えることが求められます。</p> <p>■予習内容：課題文献の読解を進め、書評レポートの作成に取り組む。また、必要に応じて、参考図書や関連文献を渉猟する。一連の作業に取り組むことで、講義内容の事前学習を行うことができる。</p> <p>■復習内容：課題文献の読解を進め、書評レポートの作成に取り組む。また、必要に応じて、講義資料を見返したり、参考図書や関連文献を渉猟したりする。こうした作業を行うことで、講義内容の定着を図ることができる。</p> <p>■予習と復習時間の目安（計4時間／1回の講義）：予習時間…2時間、復習時間…2時間</p>
教科書	<p>■教科書 特定の教科書は、指定しません。別途、講義資料を配布します。</p> <p>■参考図書 なお、本講義の参考図書としては、以下のものが挙げられます。 ・砂原庸介・稗田健志・多胡淳（2020）『新版 政治学の第一歩』有斐閣ストゥディア。 ・田村哲樹・松元雅和・乙部延剛・山崎望（2017）『ここから始める政治理論』有斐閣ストゥディア。 ・田中拓道・近藤正基・矢内勇生・上川龍之進（2020）『政治経済学——グローバル化時代の国家と市場』有斐閣ストゥディア。</p>
成績評価	<p>■基本的な考え方 大学の規程に従って、60点以上を合格とし、総合評価によって判定します。</p> <p>■平常評価（30%）：通年で合計3回程度（予定）の書評レポートを課し、これによって平常評価を行います。 なお、成績評価の方法と基準は、以下の通りです。 ・先進国の政治に関する課題文献への適切な理解が出来ているのか ・論拠を示した上で、自分なりの意見を論じているのか ・学術的なレポートとしての、所定の形式が守られているのか</p> <p>■筆記試験（70%）：通年で合計2回（予定）——前期と後期の試験期間中に各1回——の筆記試験を行い、これによって受講生の到達度を確認します。 なお、成績評価の基準と方法は、以下の通りです。 ・先進国の政治に関する基本的な理解ができているのか ・上記の理解を活用して、自分なりの考え方を展開することができるのか</p> <p>■その他 ・出席点は設けません ・単位取得を行うためには、すべての書評レポートを提出する必要があります ・筆記試験の際には、持ち込み許可物件はなし、ということをご予定ください</p>
実務経験	
その他特記事項	<p>■開講時期について ・本講義は、通年で行います。そのため、前期だけの受講、もしくは後期からの受講は認められないので、ご注意ください。</p> <p>■受講生への要望など ・講義内容やレポート課題などは、受講生と相談して、適宜変更する可能性があります。 ・受講に当たって特別な制限は設けませんが、意欲的な受講態度が期待されます。 ・現実の政治経済社会問題とも関わるので、ニュースや新聞などに目を通すことを推奨します。 ・遅刻や早退、途中退席などは、他の受講生の皆さんへのご迷惑になりますので、お控えください。 ・講義中の写真撮影や動画撮影、録音等は厳禁です。また、講義資料などをインターネットにアップロードすることも、一切認めません。</p> <p>■初回の講義について ・初回の講義に限って、印刷した講義資料を配布します。なお、第二回目以降の講義資料については、大学指定の学習管理システムLMSにおいて、共有を行います。</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	全学年	4	選択
担当教員			
川上 哲			
		講義	
添付ファイル			

ディプロマ・ポリシー	<p>大学DP</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 1. 創造性豊かな人間性と優れた専門性を身につけた学生 □ 2. 実社会で活躍できる知的・人間的資質を身につけた学生 □ 3. 地域社会を主体的に担う態度を身につけた学生 □ 4. 国際社会に対する理解とコミュニケーション能力や情報社会に対応できる能力を身につけた学生 <p>法経科第1部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 1. 法律・政治・経済・経営など社会科学の基幹分野に関する基本的な知識を修得し、最新の学問的到達についても一定の理解をもっている。 ■ 2. 現代社会の諸問題について、専門的知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 □ 3. 修得した学識を職業生活上の実践的課題に適用することができる。 □ 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 ■ 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>法経科第2部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 社会科学について広く基礎的な素養を身につけている。 □ 2. 現代社会の諸問題について、学修した知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 □ 3. 多様な目的意識を持つ幅広い年齢層の学生がともに学生生活を送ることを通じて、豊かな人間関係を構築できるコミュニケーション能力を身につけている。 □ 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 □ 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>食物栄養学科食物栄養学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 栄養士として必要な食に関する幅広い専門知識と技能を有している。 □ 2. 食と健康に関する様々な課題に対して、科学的根拠に基づいた多面的・総合的な理解及び判断ができる。 □ 3. 豊かな教養、高い倫理観、優れたコミュニケーション力を備え、栄養士として適切な栄養管理・指導を実践できる。 □ 4. 習得した専門知識と技能を基に、地域社会と連携して食と健康の分野で主体的に活躍できる能力を備えている。 <p>生活科学科生活科学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 「いのち」と「暮らし」に関わるニーズが多様化する社会にあって、それらについての基礎的な教養を身につけている。 □ 2. 生活福祉・心理コースにあっては、社会福祉学と心理学を総合した視点に立って、社会や人間に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 □ 3. 居住環境コースにあっては、住生活や環境という視点に立って、生活環境に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 □ 4. 高い公共性と倫理性を備え、地域や社会に主体的、積極的に貢献していこうとする態度が身につけている。 <p>※■が該当項目</p>
------------	---

授業概要/授業目的	本講義では行政学の主要な理論と日本の行政の仕組みを解説していく。その際、単に現在の制度がどのような仕組みになっているのかを説明するだけでなく、歴史的にどのような過程を経て現在の制度が形成されてきたのかを重視しながら授業を進めていく。本講義の目的は受講生が行政の理論や制度に対する理解を深め、主権者として地域社会を担っていく基礎的な素養を身に付けることである。また公務員を目指す学生が行政に関する基本的な知識を習得することも目的とする。
授業計画	<p>1 導入と講義概要及び評価方法—行政学とは何か</p> <p>2 行政学の歴史とその背景</p>

	3	行政学の発展ーアメリカ行政学
	4	組織論① 古典的組織論
	5	組織論② 現代組織論
	6	官僚制論① 近代官僚制と官僚制の逆機能
	7	官僚制論② 官僚制の演繹的モデル
	8	官僚制論③ 官僚制の機能的モデル
	9	大統領制と議員内閣制① アメリカの大統領制
	10	大統領制と議院内閣制② 諸外国の議院内閣制・大統領制
	11	大統領制と議院内閣制③ 日本の議院内閣制
	12	日本の行政組織① 内閣の補佐機関
	13	日本の行政組織② 中央省庁の組織
	14	日本の行政組織③ 中央省庁の編制
	15	日本の公務員制度
	16	国家公務員の任用 入口選抜制度
	17	国家公務員の昇任 キャリアとノンキャリア
	18	国家公務員の退職 天下りとグレーゾーン組織
	19	行政改革① NPMとガバナンス
	20	行政改革② 日本の行政改革
	21	政策過程論① 政策過程とは何か
	22	政策過程論② 政策過程の理論
	23	政策過程論③ 政策評価と評価指標
	24	E B P M (根拠に基づいた政策形成)
	25	E B P Mの問題点と課題
	26	予算の編成過程と決算
	27	法案の形成過程
	28	行政責任
	29	行政統制
	30	講義のまとめ
到達目標		①行政学の主要な理論を理解する。 ②行政制度や公務員制度の基本的な仕組みについて理解する。 ③政策立案の理論や政策過程について理解する。
予習内容/復習内容		初回までに高等学校レベルの政治・経済の内容を復習しておく。2回目以降の予習・復習は講義内で指示する。

教科書	教科書は使用せず、レジメと資料を配布する。必要に応じて参考文献を紹介する。
成績評価	毎回の講義時に提出するコメントシート：30%、試験：70%で評価する。
実務経験	
その他特記事項	受講生の理解度に応じて内容や順番を見直すこともあり得る。正当な理由のない遅刻は出席扱いとしない。また1/3を超えて欠席した場合は単位認定しない（試験の受験資格を与えない）。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	全学年	2	選択
担当教員			
柏崎 早陽子			
		講義	
添付ファイル			

ディプロマ・ポリシー	<p>大学DP</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 1. 創造性豊かな人間性と優れた専門性を身につけた学生 □ 2. 実社会で活躍できる知的・人間的資質を身につけた学生 □ 3. 地域社会を主体的に担う態度を身につけた学生 □ 4. 国際社会に対する理解とコミュニケーション能力や情報社会に対応できる能力を身につけた学生 <p>法経科第1部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 1. 法律・政治・経済・経営など社会科学の基幹分野に関する基本的な知識を修得し、最新の学問的到達についても一定の理解をもっている。 ■ 2. 現代社会の諸問題について、専門的知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 □ 3. 修得した学識を職業生活上の実践的課題に適用することができる。 □ 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 ■ 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>法経科第2部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 社会科学について広く基礎的な素養を身につけている。 □ 2. 現代社会の諸問題について、学修した知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 □ 3. 多様な目的意識を持つ幅広い年齢層の学生がともに学生生活を送ることを通じて、豊かな人間関係を構築できるコミュニケーション能力を身につけている。 □ 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 □ 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>食物栄養学科食物栄養学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 栄養士として必要な食に関する幅広い専門知識と技能を有している。 □ 2. 食と健康に関する様々な課題に対して、科学的根拠に基づいた多面的・総合的な理解及び判断ができる。 □ 3. 豊かな教養、高い倫理観、優れたコミュニケーション力を備え、栄養士として適切な栄養管理・指導を実践できる。 □ 4. 習得した専門知識と技能を基に、地域社会と連携して食と健康の分野で主体的に活躍できる能力を備えている。 <p>生活科学科生活科学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 「いのち」と「暮らし」に関わるニーズが多様化する社会にあって、それらについての基礎的な教養を身につけている。 □ 2. 生活福祉・心理コースにあっては、社会福祉学と心理学を総合した視点に立って、社会や人間に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 □ 3. 居住環境コースにあっては、住生活や環境という視点に立って、生活環境に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 □ 4. 高い公共性と倫理性を備え、地域や社会に主体的、積極的に貢献していこうとする態度が身につけている。 <p>※■が該当項目</p>
------------	---

授業概要/授業目的	刑事政策は、犯罪を防止するための施策を考える学問です。もっとも、犯罪をいかに防止するかを考えるためには、その前提として実社会における犯罪の情勢を把握する必要があります。また、犯罪が生じた原因を探ることも犯罪防止に役立ちます。そこで、本講義では最初に、日本における犯罪の現状を知ること、犯罪の原因を突き止めることから始めます。そのうえで、現行制度の他、拘禁刑などの時事問題に言及しながら、刑事政策に関する現実の社会課題に向き合います。
授業計画	<p>1 刑事政策とは：授業の進め方、刑事政策に関する基礎知識</p> <p>2 犯罪現象論：日本における犯罪の情勢—どのような犯罪がもっとも多いか？</p>

	3	犯罪原因論①：初期の犯罪原因論～ラベリング論の台頭まで
	4	犯罪原因論②：ラベリング論の台頭～合理的選択理論・状況的犯罪予防論
	5	犯罪化と非犯罪化：同性婚をベースに犯罪化と非犯罪化について考える
	6	裁判員制度
	7	刑罰①死刑：死刑執行と死刑執行までの流れ、死刑囚と拘置所
	8	刑罰②死刑存廃論
	9	刑罰③自由刑：懲役刑・禁錮刑と拘禁刑
	10	保安処分
	11	司法的処遇：ダイバージョン、微罪処分、起訴猶予等
	12	施設内処遇：受刑者と刑事収容施設
	13	社会内処遇：仮釈放、保護観察等
	14	少年法改正と少年非行
	15	学習内容の総まとめ
到達目標		<ul style="list-style-type: none"> ・刑事政策に関する基本的な概念等を説明することができる。 ・刑事政策に関する実社会の動向（法改正や法制度等）を踏まえて自己の意見を形成することができる。
予習内容/復習内容		<p>【予習】配布資料等を活用して、各学習内容について調べ、分からない点や疑問点を明らかにする。</p> <p>【復習】配布資料および小テスト等を用いて、学習内容を復習する。</p>
教科書		六法の持参推奨。授業では資料を配布する。その他、授業内で、適宜参考文献を紹介する。
成績評価		定期試験（60％）＋小テスト・レポート・授業への出席態度（40％）で評価する。
実務経験		
その他特記事項		刑法も受講することが望ましい。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	全学年	4	選択
担当教員			
坂本 一也			
	講義		
添付ファイル			

ディプロマ・ポリシー	<p>大学DP</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 1. 創造性豊かな人間性と優れた専門性を身につけた学生 □ 2. 実社会で活躍できる知的・人間的資質を身につけた学生 □ 3. 地域社会を主体的に担う態度を身につけた学生 □ 4. 国際社会に対する理解とコミュニケーション能力や情報社会に対応できる能力を身につけた学生 <p>法経科第1部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 1. 法律・政治・経済・経営など社会科学の基幹分野に関する基本的な知識を修得し、最新の学問的到達についても一定の理解をもっている。 ■ 2. 現代社会の諸問題について、専門的知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 □ 3. 修得した学識を職業生活上の実践的課題に適用することができる。 □ 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 ■ 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>法経科第2部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 社会科学について広く基礎的な素養を身につけている。 □ 2. 現代社会の諸問題について、学修した知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 □ 3. 多様な目的意識を持つ幅広い年齢層の学生がともに学生生活を送ることを通じて、豊かな人間関係を構築できるコミュニケーション能力を身につけている。 □ 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 □ 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>食物栄養学科食物栄養学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 栄養士として必要な食に関する幅広い専門知識と技能を有している。 □ 2. 食と健康に関する様々な課題に対して、科学的根拠に基づいた多面的・総合的な理解及び判断ができる。 □ 3. 豊かな教養、高い倫理観、優れたコミュニケーション力を備え、栄養士として適切な栄養管理・指導を実践できる。 □ 4. 習得した専門知識と技能を基に、地域社会と連携して食と健康の分野で主体的に活躍できる能力を備えている。 <p>生活科学科生活科学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 「いのち」と「暮らし」に関わるニーズが多様化する社会にあって、それらについての基礎的な教養を身につけている。 □ 2. 生活福祉・心理コースにあっては、社会福祉学と心理学を総合した視点に立って、社会や人間に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 □ 3. 居住環境コースにあっては、住生活や環境という視点に立って、生活環境に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 □ 4. 高い公共性と倫理性を備え、地域や社会に主体的、積極的に貢献していこうとする態度が身につけている。 <p>※■が該当項目</p>
------------	---

授業概要/授業目的	<p>政治的、経済的な利害対立が厳しい国際社会においても、国家間の円滑な関係を維持するために、各国家が従うべき規則―「国際法」―が存在しています。</p> <p>この授業では、この「国際法」の性質や特徴について検討した上で、その具体的な規定内容について考察することになります。</p> <p>授業を通じて、最近のニュースで取り上げられている国際問題などを法的な視点から考える力の涵養を目指します。</p>
授業計画	<p>1 講義ガイダンス（国際法とはどのような法か）</p> <p>2 国際法の歴史的展開</p>

	3	国際社会の構造と国際法の特徴①：執行
	4	国際社会の構造と国際法の特徴②：司法・立法
	5	国際法の法源（国際慣習法を中心に）
	6	条約法①：条約の制定過程・解釈
	7	条約法②：条約の効力・留保
	8	国際法と国内法の関係
	9	国際法における主体
	10	国家の要件と国家承認
	11	国家の基本的権利義務①（主権平等原則）
	12	国家の基本的権利義務②（国家免除）
	13	外交・領事関係法
	14	国家領域とその機能（領域主権）
	15	国家領域の取得権原
	16	日本の領土問題
	17	海の国際法①（海洋法秩序）
	18	海の国際法②（海洋権益をめぐる対立）
	19	国際化された国家領域
	20	空と宇宙の国際法
	21	国際法上の個人の地位①（国籍・外国人）
	22	国際法上の個人の地位②（難民）
	23	国家の国際責任①（成立要件）
	24	国家の国際責任②（責任追及・解除の方法）
	25	紛争の平和的解決①（紛争の平和的解決義務）
	26	紛争の司法的解決②（国際司法裁判所）
	27	戦争・武力行使の違法化（武力不行使原則）
	28	自衛権と国連における集団安全保障
	29	武力紛争法・国際人道法
	30	まとめ（国際法とはどのような法か）
到達目標	①国際法の性質や特徴を踏まえて、国際法に関わる基本的な知識を習得して、説明できること。 ②国際問題に関心を持ち、それらを法的な視点から論理的に考える思考方法を身につけること。 ③授業で習得した知識や能力等を用いて、自己の見解を文章によって表現できること。	
予習内容/復習内容	授業で使用するレジュメは事前に配布しますので、理解できない言葉などを学習してください。	

	各回の授業でコメント・事例課題等を出しますので、それを用いて復習してください。
教科書	教科書は指定しません。 国際条約集（出版社は問いません）を授業中に参照します（ネット検索でも構いません）。
成績評価	試験（70%）、授業の際に提出を求めるコメントシートへの取組み（小レポートを課すことがあります）（30%）で評価します。
実務経験	
その他特記事項	授業中の質疑応答に積極的に関わってください。 また、現在や過去（少し前の）国際問題について、興味関心があると授業の理解に役立ちます。 質問などがあれば、授業前後・メールにて受け付けます。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	全学年	2	選択
担当教員			
小林 和之			
	講義		
添付ファイル			

ディプロマ・ポリシー	<p>大学DP</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 1. 創造性豊かな人間性と優れた専門性を身につけた学生 □ 2. 実社会で活躍できる知的・人間的資質を身につけた学生 □ 3. 地域社会を主体的に担う態度を身につけた学生 □ 4. 国際社会に対する理解とコミュニケーション能力や情報社会に対応できる能力を身につけた学生 <p>法経科第1部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 1. 法律・政治・経済・経営など社会科学の基幹分野に関する基本的な知識を修得し、最新の学問的到達についても一定の理解をもっている。 ■ 2. 現代社会の諸問題について、専門的知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 □ 3. 修得した学識を職業生活上の実践的課題に適用することができる。 □ 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 ■ 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>法経科第2部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 社会科学について広く基礎的な素養を身につけている。 □ 2. 現代社会の諸問題について、学修した知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 □ 3. 多様な目的意識を持つ幅広い年齢層の学生がともに学生生活を送ることを通じて、豊かな人間関係を構築できるコミュニケーション能力を身につけている。 □ 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 □ 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>食物栄養学科食物栄養学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 栄養士として必要な食に関する幅広い専門知識と技能を有している。 □ 2. 食と健康に関する様々な課題に対して、科学的根拠に基づいた多面的・総合的な理解及び判断ができる。 □ 3. 豊かな教養、高い倫理観、優れたコミュニケーション力を備え、栄養士として適切な栄養管理・指導を実践できる。 □ 4. 習得した専門知識と技能を基に、地域社会と連携して食と健康の分野で主体的に活躍できる能力を備えている。 <p>生活科学科生活科学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 「いのち」と「暮らし」に関わるニーズが多様化する社会にあって、それらについての基礎的な教養を身につけている。 □ 2. 生活福祉・心理コースにあっては、社会福祉学と心理学を総合した視点に立って、社会や人間に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 □ 3. 居住環境コースにあっては、住生活や環境という視点に立って、生活環境に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 □ 4. 高い公共性と倫理性を備え、地域や社会に主体的、積極的に貢献していこうとする態度が身につけている。 <p>※■が該当項目</p>
------------	---

授業概要/授業目的	「正しさ」（正義）の可能性について考えること。抽象論ではなく、実際に起った事件に即して考察を進めませぬ。
授業計画	<p>1 授業の進め方、法哲学の学問的性格</p> <p>2 授業の進め方、法哲学の学問的性格</p> <p>3 氏名法制の変遷と夫婦別氏問題</p>

	4	過失責任原理の登場と変容
	5	企業と人命を犠牲にする選択
	6	社会と人命を犠牲にする法
	7	人命の犠牲の正当化
	8	公共の利益と組織の論理
	9	内部告発と正義 (1)
	10	内部告発と正義 (2)
	11	新時代の責任原理 (1)
	12	新時代の責任原理 (2)
	13	事実と社会 (1)
	14	事実と社会 (2)
	15	メタ価値
到達目標	具体的な事件に即して「正しさ」について考える力を伸ばすこと。多様なものの見方に触れ、新しい 観点を獲得すること。	
予習内容/復習内容	予習：ニュースを見るよう心がける。 復習：講義で知ったことを他者に説明できるようにまとめる。	
教科書	なし	
成績評価	筆記試験と毎回の課題との総合評価 (100%)	
実務経験		
その他特記事項	受講者の理解が不十分だと判断した場合は、先に進めずに補足を行います。よって、上記は変更の可能性があります。	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	全学年	2	選択
担当教員			
鳥居 翼			
		講義	
添付ファイル			

ディプロマ・ポリシー	<p>大学DP</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 1. 創造性豊かな人間性と優れた専門性を身につけた学生 □ 2. 実社会で活躍できる知的・人間的資質を身につけた学生 □ 3. 地域社会を主体的に担う態度を身につけた学生 □ 4. 国際社会に対する理解とコミュニケーション能力や情報社会に対応できる能力を身につけた学生 <p>法経科第1部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 1. 法律・政治・経済・経営など社会科学の基幹分野に関する基本的な知識を修得し、最新の学問的到達についても一定の理解をもっている。 ■ 2. 現代社会の諸問題について、専門的知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 □ 3. 修得した学識を職業生活上の実践的課題に適用することができる。 □ 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 ■ 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>法経科第2部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 社会科学について広く基礎的な素養を身につけている。 □ 2. 現代社会の諸問題について、学修した知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 □ 3. 多様な目的意識を持つ幅広い年齢層の学生がともに学生生活を送ることを通じて、豊かな人間関係を構築できるコミュニケーション能力を身につけている。 □ 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 □ 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>食物栄養学科食物栄養学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 栄養士として必要な食に関する幅広い専門知識と技能を有している。 □ 2. 食と健康に関する様々な課題に対して、科学的根拠に基づいた多面的・総合的な理解及び判断ができる。 □ 3. 豊かな教養、高い倫理観、優れたコミュニケーション力を備え、栄養士として適切な栄養管理・指導を実践できる。 □ 4. 習得した専門知識と技能を基に、地域社会と連携して食と健康の分野で主体的に活躍できる能力を備えている。 <p>生活科学科生活科学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 「いのち」と「暮らし」に関わるニーズが多様化する社会にあって、それらについての基礎的な教養を身につけている。 □ 2. 生活福祉・心理コースにあっては、社会福祉学と心理学を総合した視点に立って、社会や人間に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 □ 3. 居住環境コースにあっては、住生活や環境という視点に立って、生活環境に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 □ 4. 高い公共性と倫理性を備え、地域や社会に主体的、積極的に貢献していこうとする態度が身につけている。 <p>※■が該当項目</p>
------------	---

授業概要/授業目的	日本国憲法に定められている「納税の義務」、「103万円の壁」、「扶養に入る入らない」等の税にまつわるキーワードは多く耳にするかと思いますが。しかし、税に関して体系的に学ぶ機会はなかなかないかと思いますが。この講義では、税の成り立ちから現在の日本における税の仕組みについて、憲法における定義から法人税、所得税といった主な税法の解説を行います。また、税金がどのように使われるのか、財政的な側面も解説していきます。
授業計画	<p>1 租税法律主義の意義と機能</p> <p>2 わが国の納税制度と税理士の役割</p>

	3	法人税の基本的構造と歴史
	4	法人税の課税方式
	5	消費税の基本的構造と歴史
	6	消費税の課税方式
	7	所得税の基本的構造と歴史
	8	所得税の課税方式
	9	相続税（贈与税）の基本的構造と歴史
	10	相続税（贈与税）の課税方式
	11	地方税（住民税、事業税等）の現状と課題
	12	我が国の財政と税制
	13	国際課税とルール（多国籍企業の課税を中心に）
	14	これまでの総復習①（問題演習）：税金の計算について問題演習（法人税と所得税）
	15	これまでの総復習②（問題演習）：税金の計算について問題演習（消費税と相続税・贈与税）
到達目標	受講者が納税者としての権利と納税義務の意識を高め、実社会で役に立つ情報を提供することをことによつて、各税目や我が国の財政について基礎を習得することを目標とする。	
予習内容/復習内容	予習：講義で取り上げないようについて最新のトピックなど事前に調べること。 復習：講義で取り上げた税法の仕組みや練習問題を正しく理解できるようにすること。	
教科書	レジュメを毎回配布して行う。 適時参考文献など紹介予定。	
成績評価	1. 評価内容の割合 学期末に実施する試験（70%）と講義の中で随時に提出の臨時レポート（30%）を加味して総合的に評価する。 2. 評価の基準 わが国の税制の仕組みについて正確に知識を有しているか、また各税目における課税制度、基本的な計算についての知識を適切に論述できるかを中心に評価する。	
実務経験	税理士登録から20年の実務経験、体験談を織り交ぜた講義を予定している。	
その他特記事項		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	全学年	2	選択
担当教員			
照井 遥瑛			
	講義		
添付ファイル			

ディプロマ・ポリシー	<p>大学DP</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 1. 創造性豊かな人間性と優れた専門性を身につけた学生 □ 2. 実社会で活躍できる知的・人間的資質を身につけた学生 □ 3. 地域社会を主体的に担う態度を身につけた学生 □ 4. 国際社会に対する理解とコミュニケーション能力や情報社会に対応できる能力を身につけた学生 <p>法経科第1部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 1. 法律・政治・経済・経営など社会科学の基幹分野に関する基本的な知識を修得し、最新の学問的到達についても一定の理解をもっている。 ■ 2. 現代社会の諸問題について、専門的知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 □ 3. 修得した学識を職業生活上の実践的課題に適用することができる。 □ 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 ■ 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>法経科第2部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 社会科学について広く基礎的な素養を身につけている。 □ 2. 現代社会の諸問題について、学修した知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 □ 3. 多様な目的意識を持つ幅広い年齢層の学生がともに学生生活を送ることを通じて、豊かな人間関係を構築できるコミュニケーション能力を身につけている。 □ 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 □ 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>食物栄養学科食物栄養学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 栄養士として必要な食に関する幅広い専門知識と技能を有している。 □ 2. 食と健康に関する様々な課題に対して、科学的根拠に基づいた多面的・総合的な理解及び判断ができる。 □ 3. 豊かな教養、高い倫理観、優れたコミュニケーション力を備え、栄養士として適切な栄養管理・指導を実践できる。 □ 4. 習得した専門知識と技能を基に、地域社会と連携して食と健康の分野で主体的に活躍できる能力を備えている。 <p>生活科学科生活科学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 「いのち」と「暮らし」に関わるニーズが多様化する社会にあって、それらについての基礎的な教養を身につけている。 □ 2. 生活福祉・心理コースにあっては、社会福祉学と心理学を総合した視点に立って、社会や人間に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 □ 3. 居住環境コースにあっては、住生活や環境という視点に立って、生活環境に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 □ 4. 高い公共性と倫理性を備え、地域や社会に主体的、積極的に貢献していこうとする態度が身につけている。 <p>※■が該当項目</p>
------------	---

授業概要/授業目的	この講義では、消費者法と呼ばれる分野における法解釈・適用について学びます。私たちの日常生活には、訪問販売被害、インターネット取引被害、キャッシュレス契約被害、投資勧誘取引被害、悪徳商法被害、多重債務被害、不当表示被害、欠陥製品被害など、様々な消費者トラブルが発生しています。こうしたトラブルを予防し、また、トラブルが生じた場合の解決や救済のために必要となるのが消費者法です。初学者でも理解しやすいように、具体的な事例をできるだけ多く取り上げ、それに即して基本的な事項や判例・学説を解説します。
授業計画	<p>1 ガイダンス、消費者法とは何か</p> <p>2 消費者問題の歴史</p>

	3	消費者契約法① 不当勧誘
	4	消費者契約法② 不当条項
	5	特定商取引法① 訪問販売とクーリング・オフ
	6	特定商取引法② 通信販売、マルチ商法、ねずみ講
	7	特定商取引法③ 特定継続的役務提供契約
	8	景品表示法
	9	消費者信用取引① 消費者信用取引の仕組み
	10	消費者信用取引② 割賦販売法が適用される取引
	11	消費者信用取引③ 割賦販売法による規制
	12	消費者信用取引④ 利息制限法、出資法、貸金業法
	13	製造物責任法① 製造物責任の概観
	14	製造物責任法② 製造物責任の要件と効果
	15	まとめ
到達目標	<p>①消費者法の基礎的事項を身に付け、自分なりに説明できる。</p> <p>②日常生活で法的問題に直面したときに、それに適用すべきルールとそれによって想定される結果について、自分の考えを論理的に説明できる。</p>	
予習内容/復習内容	<p>予習：事前にポータルサイト上に配布する授業資料に目を通すこと。</p> <p>復習：授業資料、自作ノートを再確認し、授業内容に対する理解を深めること。</p>	
教科書	<p>テキストは特に指定しませんが、小型六法は最新年版のものを必ず持参してきてください。授業ではパワーポイントを用いて解説します。スライド資料は事前にポータルサイト上で配布します。授業当日に印刷配布もします。</p>	
成績評価	<p>以下の①と②を総合して評価を行います。</p> <p>①通常授業期間中に行う小テスト（4点×10回=40%） 消費者法の基礎的知識が正確に身に付いているかを中心に評価します。</p> <p>②学期末試験期間中に行う筆記試験（60%）。 論述式問題を3問出題しますので、そのうち2問を選択して回答してください（30点×2）。(1) 選択した問題に関する基礎的知識が正確に身に付いているか、(2) 判例・学説の論理構造を理解しているか、(3) 与えられた事例に対して法的な問題解決能力を示せているか、を中心に評価します。</p>	
実務経験		
その他特記事項	<p>消費者法と呼ばれる法領域は、憲法、民法、刑法、行政法などの多種多様な法分野に渡ります。そのため、これらの基本的な法律系科目（特に民法系科目）を履修済みであるか同時に受講していることが望ましいです。</p>	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	全学年	2	選択
担当教員			
川上 哲			
	講義		
添付ファイル			

ディプロマ・ポリシー	<p>大学DP</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 1. 創造性豊かな人間性と優れた専門性を身につけた学生 □ 2. 実社会で活躍できる知的・人間的資質を身につけた学生 □ 3. 地域社会を主体的に担う態度を身につけた学生 □ 4. 国際社会に対する理解とコミュニケーション能力や情報社会に対応できる能力を身につけた学生 <p>法経科第1部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 1. 法律・政治・経済・経営など社会科学の基幹分野に関する基本的な知識を修得し、最新の学問的到達についても一定の理解をもっている。 ■ 2. 現代社会の諸問題について、専門的知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 □ 3. 修得した学識を職業生活上の実践的課題に適用することができる。 □ 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 ■ 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>法経科第2部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 社会科学について広く基礎的な素養を身につけている。 □ 2. 現代社会の諸問題について、学修した知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 □ 3. 多様な目的意識を持つ幅広い年齢層の学生がともに学生生活を送ることを通じて、豊かな人間関係を構築できるコミュニケーション能力を身につけている。 □ 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 □ 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>食物栄養学科食物栄養学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 栄養士として必要な食に関する幅広い専門知識と技能を有している。 □ 2. 食と健康に関する様々な課題に対して、科学的根拠に基づいた多面的・総合的な理解及び判断ができる。 □ 3. 豊かな教養、高い倫理観、優れたコミュニケーション力を備え、栄養士として適切な栄養管理・指導を実践できる。 □ 4. 習得した専門知識と技能を基に、地域社会と連携して食と健康の分野で主体的に活躍できる能力を備えている。 <p>生活科学学科生活科学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 「いのち」と「暮らし」に関わるニーズが多様化する社会にあって、それらについての基礎的な教養を身につけている。 □ 2. 生活福祉・心理コースにあっては、社会福祉学と心理学を総合した視点に立って、社会や人間に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 □ 3. 居住環境コースにあっては、住生活や環境という視点に立って、生活環境に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 □ 4. 高い公共性と倫理性を備え、地域や社会に主体的、積極的に貢献していこうとする態度が身につけている。 <p>※■が該当項目</p>
------------	--

授業概要/授業目的	本講義では日本の地方自治制度の仕組みや理論を中心に解説を行っていく。2000年以降、地方自治制度は大きく変容してきており、地方分権改革、市町村合併、圏域行政の推進など、地方自治制度がどのように変わりつつあるのか、その方向性も含めて授業を進めていく。本講義の目的は受講生が地方自治制度に対する理解を深め、住民自治の担い手としての基礎的な素養を身に付けることである。また公務員を目指す学生が地方自治に関する基本的な知識を習得することも目的とする。
授業計画	<p>1 導入（ガイダンス）－講義概要及び評価方法</p> <p>2 地方自治体の首長－都道府県知事・市町村長の機能</p>

	3	地方議会論－地方議会と地方議会議員の役割
	4	地方公務員論－採用と昇任、会計年度任用職員
	5	地方選挙と住民投票制度－直接請求制度
	6	条例とその制定過程
	7	地方自治体の種類と権能・大都市制度
	8	地方自治体の組織編成
	9	中央地方関係論①－「集権・分権」と「分離・融合」
	10	中央地方関係論②－中央地方関係の一般理論
	11	行政情報の公開－情報公開制度
	12	個人情報保護制度
	13	地方自治体と公共政策
	14	公共政策のプロセスと組織
	15	講義のまとめ
到達目標	①地方自治に関する基礎的な知識を習得する。 ②地方自治が住民サービスと密接に関わることを理解する。 ③地方自治を巡る今日的な課題と問題点について理解を深める。	
予習内容/復習内容	初回までに高等学校レベルの政治・経済の内容を復習しておく。2回目以降の予習・復習は講義内で指示する。	
教科書	教科書は使用せず、レジメと資料を配布する。必要に応じて参考文献を紹介する。	
成績評価	毎回の講義時に提出するコメントシート：30%、試験：70%で評価する。	
実務経験		
その他特記事項	受講生の理解度に応じて内容や順番を見直すこともあり得る。正当な理由のない遅刻は出席扱いとしない。また1/3を超えて欠席した場合は単位認定しない（試験の受験資格を与えない）。	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	全学年	2	選択
担当教員			
金岩 稔			
	講義		
添付ファイル			

ディプロマ・ポリシー	<p>大学DP</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 1. 創造性豊かな人間性と優れた専門性を身につけた学生 □ 2. 実社会で活躍できる知的・人間的資質を身につけた学生 □ 3. 地域社会を主体的に担う態度を身につけた学生 □ 4. 国際社会に対する理解とコミュニケーション能力や情報社会に対応できる能力を身につけた学生 <p>法経科第1部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 1. 法律・政治・経済・経営など社会科学の基幹分野に関する基本的な知識を修得し、最新の学問的到達についても一定の理解をもっている。 ■ 2. 現代社会の諸問題について、専門的知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 ■ 3. 修得した学識を職業生活上の実践的課題に適用することができる。 □ 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 ■ 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>法経科第2部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 社会科学について広く基礎的な素養を身につけている。 □ 2. 現代社会の諸問題について、学修した知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 □ 3. 多様な目的意識を持つ幅広い年齢層の学生がともに学生生活を送ることを通じて、豊かな人間関係を構築できるコミュニケーション能力を身につけている。 □ 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 □ 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>食物栄養学科食物栄養学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 栄養士として必要な食に関する幅広い専門知識と技能を有している。 □ 2. 食と健康に関する様々な課題に対して、科学的根拠に基づいた多面的・総合的な理解及び判断ができる。 □ 3. 豊かな教養、高い倫理観、優れたコミュニケーション力を備え、栄養士として適切な栄養管理・指導を実践できる。 □ 4. 習得した専門知識と技能を基に、地域社会と連携して食と健康の分野で主体的に活躍できる能力を備えている。 <p>生活科学科生活科学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 「いのち」と「暮らし」に関わるニーズが多様化する社会にあって、それらについての基礎的な教養を身につけている。 □ 2. 生活福祉・心理コースにあっては、社会福祉学と心理学を総合した視点に立って、社会や人間に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 □ 3. 居住環境コースにあっては、住生活や環境という視点に立って、生活環境に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 □ 4. 高い公共性と倫理性を備え、地域や社会に主体的、積極的に貢献していこうとする態度が身につけている。 <p>※■が該当項目</p>
------------	---

授業概要/授業目的	諸研究の読解やそれらを実際に行う上で必要な統計学を学ぶ上で必要な数学的な基礎知識を復習するとともに、基礎的な統計学の概念、特に統計モデルの構築の概念を説明する。
授業計画	<p>1 講義の概要説明。データ解析の目的。度数分布表とヒストグラム。</p> <p>2 相関と散布図。データの中心とばらつきの指標。</p> <p>3 標準化と共分散、相関係数。</p>

	4	回帰直線
	5	データ発生のメカニズム。母集団と標本。無作為抽出。
	6	事象の独立性と確率
	7	確率分布と確率変数。その平均と分散。
	8	コイン投げとベルヌーイ試行。2項分布。
	9	連続型確率変数。正規分布。
	10	確率変数の独立性と無作為標本の定義。
	11	標本平均と標本分散。母平均、母分散との関係。不偏性。
	12	標本平均の分布。点推定と区間推定。母平均の区間推定。
	13	母比率の推定。
	14	統計的仮説検定と検定方式、有意水準、母比率の検定。
	15	確認課題の説明。
到達目標	基礎的な統計学的解析手法の理解と、実際のデータを用いた解析手法の習得	
予習内容/復習内容	予習：シラバスの内容を検索して、どのような内容か自分なりに調べておく。 復習：ノートの整理	
教科書	教科書は使用しない	
成績評価	確認課題70%、講義の受講態度30%	
実務経験	三重大で統計学関連の講義を持っています。	
その他特記事項	科学は物事を客観的に判断する道具であり、統計学はその中の物差しと言ってもよい道具です。最初、道具の使い方は難しく感じますが、普段から使い手になじむと使いやすくなるものです。なじむまで普段から統計学的な物事の見方を身に着けるため、当講義を受講していただければと思います。	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	全学年	4	選択
担当教員			
田添 篤史			
		講義	
添付ファイル			

ディプロマ・ポリシー	<p>大学DP</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 1. 創造性豊かな人間性と優れた専門性を身につけた学生 □ 2. 実社会で活躍できる知的・人間的資質を身につけた学生 □ 3. 地域社会を主体的に担う態度を身につけた学生 □ 4. 国際社会に対する理解とコミュニケーション能力や情報社会に対応できる能力を身につけた学生 <p>法経科第1部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 1. 法律・政治・経済・経営など社会科学の基幹分野に関する基本的な知識を修得し、最新の学問的到達についても一定の理解をもっている。 ■ 2. 現代社会の諸問題について、専門的知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 □ 3. 修得した学識を職業生活上の実践的課題に適用することができる。 □ 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 ■ 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>法経科第2部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 社会科学について広く基礎的な素養を身につけている。 □ 2. 現代社会の諸問題について、学修した知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 □ 3. 多様な目的意識を持つ幅広い年齢層の学生がともに学生生活を送ることを通じて、豊かな人間関係を構築できるコミュニケーション能力を身につけている。 □ 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 □ 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>食物栄養学科食物栄養学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 栄養士として必要な食に関する幅広い専門知識と技能を有している。 □ 2. 食と健康に関する様々な課題に対して、科学的根拠に基づいた多面的・総合的な理解及び判断ができる。 □ 3. 豊かな教養、高い倫理観、優れたコミュニケーション力を備え、栄養士として適切な栄養管理・指導を実践できる。 □ 4. 習得した専門知識と技能を基に、地域社会と連携して食と健康の分野で主体的に活躍できる能力を備えている。 <p>生活科学科生活科学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 「いのち」と「暮らし」に関わるニーズが多様化する社会にあって、それらについての基礎的な教養を身につけている。 □ 2. 生活福祉・心理コースにあっては、社会福祉学と心理学を総合した視点に立って、社会や人間に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 □ 3. 居住環境コースにあっては、住生活や環境という視点に立って、生活環境に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 □ 4. 高い公共性と倫理性を備え、地域や社会に主体的、積極的に貢献していこうとする態度が身につけている。 <p>※■が該当項目</p>
------------	---

授業概要/授業目的	現在主流となっている経済学には、個別企業や消費主体の最適化に基づく選択とその結果に焦点をあてるミクロ経済学と、経済を個別の経済主体の単純な合成としては把握せず、独立した一つの総体として取り扱い、経済全体での動きを考えるマクロ経済学が存在している。本講義では前半でミクロ経済学を、後半でマクロ経済学を取り扱い、その基本的な考え方を理解することを目的とする。
授業計画	<p>1 オリエンテーションー経済学の考え方</p> <p>2 経済に関する統計について</p>

	3	国民経済計算
	4	ミクロ経済学とはどのような学問であるかについて
	5	限界効用理論
	6	無差別曲線とは何か
	7	予算線概念と最適消費点の決定方法
	8	所得変化と最適消費点の変化
	9	代替効果と所得効果
	10	供給側の理論の目的、短期と長期の違い
	11	各種の費用概念について
	12	利潤最大化と生産量の決定
	13	損益分岐点と操業停止点
	14	独占企業とは何か、その生産量決定の方法
	15	市場均衡とその安定性
	16	完全競争市場における余剰分析
	17	独占企業はどのような問題をもたらすのか
	18	マクロ経済学の考え方
	19	総供給の決定方法
	20	ケインズ型消費関数と総需要の大きさ
	21	財市場の均衡と国民所得の決定
	22	債券の価格と利子率
	23	貨幣を需要する動機
	24	貨幣市場の均衡
	25	投資量の決定
	26	IS曲線の導出
	27	LM曲線の導出
	28	財政政策の効果
	29	金融政策の効果
	30	景気変動とその主要因
到達目標	①ミクロ経済学・マクロ経済学の基本的な考え方、分析手法を理解し説明できるようになる。 ②実際に生じている経済問題について、経済学的な分析に基づき自分の意見を持つことができるようになる。	
予習内容/復習内容	予習については事前に教科書の該当する箇所を読んでおくこと。復習については配布された資料、授業内容をまとめたノートなどを用いて理解を深めておくこと。	

教科書	石川秀樹（著）中央経済社『試験攻略 新・経済学入門塾1 マクロ編』 石川秀樹（著）中央経済社『試験攻略 新・経済学入門塾2 ミクロ編』
成績評価	毎回の授業終了後に提出するコメントシート:30% 期末試験:70%
実務経験	
その他特記事項	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	全学年	4	選択
担当教員			
千枝 大志			
		講義	
添付ファイル			

ディプロマ・ポリシー	<p>大学DP</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 1. 創造性豊かな人間性と優れた専門性を身につけた学生 □ 2. 実社会で活躍できる知的・人間的資質を身につけた学生 □ 3. 地域社会を主体的に担う態度を身につけた学生 □ 4. 国際社会に対する理解とコミュニケーション能力や情報社会に対応できる能力を身につけた学生 <p>法経科第1部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 1. 法律・政治・経済・経営など社会科学の基幹分野に関する基本的な知識を修得し、最新の学問的到達についても一定の理解をもっている。 ■ 2. 現代社会の諸問題について、専門的知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 □ 3. 修得した学識を職業生活上の実践的課題に適用することができる。 □ 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 ■ 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>法経科第2部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 社会科学について広く基礎的な素養を身につけている。 □ 2. 現代社会の諸問題について、学修した知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 □ 3. 多様な目的意識を持つ幅広い年齢層の学生がともに学生生活を送ることを通じて、豊かな人間関係を構築できるコミュニケーション能力を身につけている。 □ 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 □ 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>食物栄養学科食物栄養学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 栄養士として必要な食に関する幅広い専門知識と技能を有している。 □ 2. 食と健康に関する様々な課題に対して、科学的根拠に基づいた多面的・総合的な理解及び判断ができる。 □ 3. 豊かな教養、高い倫理観、優れたコミュニケーション力を備え、栄養士として適切な栄養管理・指導を実践できる。 □ 4. 習得した専門知識と技能を基に、地域社会と連携して食と健康の分野で主体的に活躍できる能力を備えている。 <p>生活科学科生活科学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 「いのち」と「暮らし」に関わるニーズが多様化する社会にあって、それらについての基礎的な教養を身につけている。 □ 2. 生活福祉・心理コースにあっては、社会福祉学と心理学を総合した視点に立って、社会や人間に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 □ 3. 居住環境コースにあっては、住生活や環境という視点に立って、生活環境に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 □ 4. 高い公共性と倫理性を備え、地域や社会に主体的、積極的に貢献していこうとする態度が身につけている。 <p>※■が該当項目</p>
------------	---

授業概要/授業目的	<p>本科目では、経済史的視点から日本の歴史的変遷過程を概観した上で、現代社会の構造を俯瞰できるようになることを目的とする。具体的には、旧石器時代から令和の時代まで、とりわけ7世紀から21世紀初頭までの経済史を概説していく。その際、三重県を含む東海地方を地域経済史の事例対象地として捉え、それを適宜取り上げていく予定である。それは、東海地方の経済史には日本全体に影響を及ぼす史的特質が認められ、また、そのような特質は現代まで連続と繋がる東海地方の社会経済面での史的土壌の形成にも深く結びついていると考えるからである。</p>
授業計画	<p>1 授業を始めるにあたって</p> <p>2 経済史的視点からみた古代以前の日本</p>

	3	貨幣と文字からみた古代の日本経済
	4	荘園公領制と中世前期の日本経済
	5	中世の貨幣と信用
	6	中世経済の構造変化
	7	大名領国制と中世後期の日本経済
	8	近世経済の成立
	9	近世前期から中期の貨幣と信用
	10	近世前期の経済動向
	11	近世経済の成熟
	12	近世経済の構造変化
	13	近世後期から末期の貨幣と信用
	14	近世経済の終焉
	15	前近代における日本経済（まとめと確認）
	16	開港と日本経済の近代化
	17	明治政府の殖産興業政策と民間企業
	18	近代産業の勃興
	19	鉄道業の発展
	20	「明治啓蒙」の思想
	21	近代における企業家の動向
	22	日清・日露戦争と日本経済
	23	第一次世界大戦と日本経済
	24	世界恐慌と関東大震災
	25	アジア・太平洋戦争と日本経済
	26	日本の敗戦と戦後復興
	27	日本の高度経済成長
	28	経済大国への道と貿易摩擦
	29	バブル経済とその後の日本経済
	30	近・現代における日本経済（まとめと確認）
到達目標	経済の視点からみた日本が歩んだ歴史に関する基本的知識を習得し、その史的潮流を理解することができる。	
予習内容/復習内容	予習：授業中に紹介する参考文献等を通読することなど。 復習：配布資料やノートの整理を行なうことなど。	

教科書	教科書は指定しない。
成績評価	評価は、中間試験（35%）、定期試験（35%）、出席時に提出するレポート内容（複数回）及び、積極的な修学姿勢（30%）の合計で行う。合計が、60%以上で可、70%以上で良、80%以上で優とする。また、公欠を除き1/3を超える欠席をした者は評価の対象外とする。
実務経験	
その他特記事項	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	全学年	4	選択
担当教員			
石原 洋介			
		講義	
添付ファイル			

ディプロマ・ポリシー	<p>大学DP</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 1. 創造性豊かな人間性と優れた専門性を身につけた学生 □ 2. 実社会で活躍できる知的・人間的資質を身につけた学生 □ 3. 地域社会を主体的に担う態度を身につけた学生 □ 4. 国際社会に対する理解とコミュニケーション能力や情報社会に対応できる能力を身につけた学生 <p>法経科第1部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 1. 法律・政治・経済・経営など社会科学の基幹分野に関する基本的な知識を修得し、最新の学問的到達についても一定の理解をもっている。 ■ 2. 現代社会の諸問題について、専門的知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 □ 3. 修得した学識を職業生活上の実践的課題に適用することができる。 □ 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 ■ 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>法経科第2部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 社会科学について広く基礎的な素養を身につけている。 □ 2. 現代社会の諸問題について、学修した知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 □ 3. 多様な目的意識を持つ幅広い年齢層の学生がともに学生生活を送ることを通じて、豊かな人間関係を構築できるコミュニケーション能力を身につけている。 □ 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 □ 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>食物栄養学科食物栄養学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 栄養士として必要な食に関する幅広い専門知識と技能を有している。 □ 2. 食と健康に関する様々な課題に対して、科学的根拠に基づいた多面的・総合的な理解及び判断ができる。 □ 3. 豊かな教養、高い倫理観、優れたコミュニケーション力を備え、栄養士として適切な栄養管理・指導を実践できる。 □ 4. 習得した専門知識と技能を基に、地域社会と連携して食と健康の分野で主体的に活躍できる能力を備えている。 <p>生活科学科生活科学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 「いのち」と「暮らし」に関わるニーズが多様化する社会にあって、それらについての基礎的な教養を身につけている。 □ 2. 生活福祉・心理コースにあっては、社会福祉学と心理学を総合した視点に立って、社会や人間に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 □ 3. 居住環境コースにあっては、住生活や環境という視点に立って、生活環境に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 □ 4. 高い公共性と倫理性を備え、地域や社会に主体的、積極的に貢献していこうとする態度が身につけている。 <p>※■が該当項目</p>
------------	---

授業概要/授業目的	日本の金融システム、金融市場、金融商品、金融政策及び過去の金融危機の背景などについて、最新のデータを示しながら概要を解説し、現代社会で必要とされる金融に関するリテラシーを身につけられるようにする。また、レポート課題を通じて、金融に関する今日的な課題に対して専門的な知識に基づき考察する力を伸ばす。
授業計画	<p>1 ガイダンス、貨幣の歴史①、貨幣の起源</p> <p>2 貨幣の歴史②、日本の貨幣史</p>

	3	商品と貨幣①、商品交換と貨幣の発生
	4	商品と貨幣②、貨幣の発展段階と金本位制
	5	貨幣の機能①、貨幣の機能
	6	貨幣の機能②、信用創造とマネーストック
	7	資金循環①、資金循環と企業の資金調達方法
	8	資金循環②、間接金融と直接金融
	9	日本の金融機関①、日本の銀行
	10	日本の金融機関②、協同組合系金融機関など
	11	日本の金融機関③、保険業、ノンバンク
	12	日本の金融機関④、証券業、政府系金融機関
	13	銀行融資と金利①、プライムレートと金利
	14	銀行融資と金利②、金利の構成要素と変動要因
	15	国債①、国債の種類
	16	国債②、国債価格、国債格付け、発行の仕組み
	17	短期金融市場①、インターバンク市場
	18	短期金融市場②、オープン市場
	19	長期金融市場①、証券取引所、債券市場
	20	長期金融市場②、株式市場
	21	日本銀行と金融政策①、沿革、3つの機能
	22	日本銀行と金融政策②、伝統的金融政策
	23	日本銀行と金融政策③、非伝統的金融政策
	24	国際収支と外為市場①、国際収支
	25	国際収支と外為市場②、外国為替取引、為替相場
	26	国際収支と外為市場③、外国為替市場
	27	デリバティブ市場①、取引の概要、先物取引
	28	デリバティブ市場②、スワップ、オプション
	29	サブプライム危機①、危機発生の背景
	30	サブプライム危機②、今後の教訓
到達目標		<ul style="list-style-type: none"> ・金融リテラシーを身につけ、今後の人生において金融を適切に利用できるようになる。 ・金融に関する社会問題について専門知識に基づいて考察し、自分の考えを論理的に展開できる。
予習内容/復習内容		予習：事前配布するレジュメに目を通し、問題意識を持って講義に臨むこと。 復習：質問カードへのコメント集を配布するのでよく読んで復習すること。
教科書		特定のテキストは使用しない。単元ごとにレジュメを配布する。

成績評価	毎回提出する質問カードの内容（30%）、課題レポート（70%）
実務経験	
その他特記事項	経商コースの学生は、関連講義として「統計学」、「経済原論」、「経済政策」、「簿記原理」、「財政学」、「国際経済論」等を履修することが望ましい。また、新聞を毎日読むように。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	全学年	4	選択
担当教員			
大畑 智史			
	講義		
添付ファイル			

ディプロマ・ポリシー	<p>大学DP</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 1. 創造性豊かな人間性と優れた専門性を身につけた学生 □ 2. 実社会で活躍できる知的・人間的資質を身につけた学生 □ 3. 地域社会を主体的に担う態度を身につけた学生 □ 4. 国際社会に対する理解とコミュニケーション能力や情報社会に対応できる能力を身につけた学生 <p>法経科第1部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 1. 法律・政治・経済・経営など社会科学の基幹分野に関する基本的な知識を修得し、最新の学問的到達についても一定の理解をもっている。 ■ 2. 現代社会の諸問題について、専門的知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 □ 3. 修得した学識を職業生活上の実践的課題に適用することができる。 □ 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 ■ 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>法経科第2部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 社会科学について広く基礎的な素養を身につけている。 □ 2. 現代社会の諸問題について、学修した知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 □ 3. 多様な目的意識を持つ幅広い年齢層の学生がともに学生生活を送ることを通じて、豊かな人間関係を構築できるコミュニケーション能力を身につけている。 □ 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 □ 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>食物栄養学科食物栄養学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 栄養士として必要な食に関する幅広い専門知識と技能を有している。 □ 2. 食と健康に関する様々な課題に対して、科学的根拠に基づいた多面的・総合的な理解及び判断ができる。 □ 3. 豊かな教養、高い倫理観、優れたコミュニケーション力を備え、栄養士として適切な栄養管理・指導を実践できる。 □ 4. 習得した専門知識と技能を基に、地域社会と連携して食と健康の分野で主体的に活躍できる能力を備えている。 <p>生活科学科生活科学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 「いのち」と「暮らし」に関わるニーズが多様化する社会にあって、それらについての基礎的な教養を身につけている。 □ 2. 生活福祉・心理コースにあっては、社会福祉学と心理学を総合した視点に立って、社会や人間に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 □ 3. 居住環境コースにあっては、住生活や環境という視点に立って、生活環境に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 □ 4. 高い公共性と倫理性を備え、地域や社会に主体的、積極的に貢献していこうとする態度が身につけている。 <p>※■が該当項目</p>
------------	---

授業概要/授業目的	現在、日本をみても、国や地方自治体は、災害対応、教育、などの面において重要な存在です。本講義では、主として、そうした主体は現在どのような形で運営されているのか、その状況はどうか、などの点を、とりわけ国家の場合（日本）に焦点をあてて説明します。本講義は、そうしたことにより、受講生が、我々の日常生活に身近な国家財政について専門的に考察できることを目標とします。
授業計画	1 オリエンテーション：財政とは 2 財政学の歴史：ワグナーまで

	3	財政学の歴史：現代まで
	4	財政の範囲
	5	財政の機能：資源配分、所得再分配
	6	財政の機能：経済安定化
	7	公共財：定義
	8	公共財：政治的側面から
	9	予算：予算原則
	10	予算：予算の内容
	11	予算：特別会計、決算、他
	12	租税の基礎：租税の基礎用語
	13	租税の基礎：租税原則
	14	個人所得課税：理論
	15	個人所得課税：制度
	16	法人課税：理論
	17	法人課税：制度
	18	中間テスト：日本財政を考える
	19	消費課税：理論
	20	消費課税：制度
	21	資産課税：理論
	22	資産課税：制度
	23	国際課税：理論
	24	国際課税：制度
	25	公債：理論
	26	公債：制度
	27	国と地方との財政関係：特定補助金
	28	国と地方との財政関係：一般補助金
	29	社会保障：理論
	30	社会保障：制度
到達目標	①国家財政の基本的な仕組みを理解することができる。 ②国家財政の現状について専門的に理解することができる。 ③国家財政の課題解決策について専門的に考察することができる。	
予習内容/復習内容	予習：次回の講義のテーマに関する新聞などの記事を読む。 復習：今回の講義内容を確認した上で、疑問点を解決する。	

教科書	教科書は特に指定しません。適宜、講義中に参考資料を紹介します。
成績評価	中間テスト：20% 講義内容についての感想（4回）：20% 定期試験：60%
実務経験	
その他特記事項	初回に配布する「シラバス補足事項」もよく読んでください。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	全学年	4	選択
担当教員			
浅野 和也			
	講義		
添付ファイル			

ディプロマ・ポリシー	<p>大学DP</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 1. 創造性豊かな人間性と優れた専門性を身につけた学生 □ 2. 実社会で活躍できる知的・人間的資質を身につけた学生 □ 3. 地域社会を主体的に担う態度を身につけた学生 □ 4. 国際社会に対する理解とコミュニケーション能力や情報社会に対応できる能力を身につけた学生 <p>法経科第1部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 1. 法律・政治・経済・経営など社会科学の基幹分野に関する基本的な知識を修得し、最新の学問的到達についても一定の理解をもっている。 ■ 2. 現代社会の諸問題について、専門的知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 □ 3. 修得した学識を職業生活上の実践的課題に適用することができる。 □ 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 ■ 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>法経科第2部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 社会科学について広く基礎的な素養を身につけている。 □ 2. 現代社会の諸問題について、学修した知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 □ 3. 多様な目的意識を持つ幅広い年齢層の学生がともに学生生活を送ることを通じて、豊かな人間関係を構築できるコミュニケーション能力を身につけている。 □ 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 □ 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>食物栄養学科食物栄養学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 栄養士として必要な食に関する幅広い専門知識と技能を有している。 □ 2. 食と健康に関する様々な課題に対して、科学的根拠に基づいた多面的・総合的な理解及び判断ができる。 □ 3. 豊かな教養、高い倫理観、優れたコミュニケーション力を備え、栄養士として適切な栄養管理・指導を実践できる。 □ 4. 習得した専門知識と技能を基に、地域社会と連携して食と健康の分野で主体的に活躍できる能力を備えている。 <p>生活科学科生活科学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 「いのち」と「暮らし」に関わるニーズが多様化する社会にあって、それらについての基礎的な教養を身につけている。 □ 2. 生活福祉・心理コースにあっては、社会福祉学と心理学を総合した視点に立って、社会や人間に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 □ 3. 居住環境コースにあっては、住生活や環境という視点に立って、生活環境に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 □ 4. 高い公共性と倫理性を備え、地域や社会に主体的、積極的に貢献していこうとする態度が身につけている。 <p>※■が該当項目</p>
------------	---

授業概要/授業目的	本講義では、経営学の基本学説や諸理論について学び、企業経営に必要なこととは何かを考えていきます。あわせて、企業が抱える諸問題について考察することで様々なものの見方・考え方を培っていきます。
授業計画	<p>1 ガイダンス：授業の進め方</p> <p>2 企業の基本形態と特徴</p> <p>3 株式会社制度</p>

	4	管理の役割と目的
	5	経営組織とは何か
	6	経営戦略とは何か
	7	アンゾフ・ポーターの戦略論
	8	コンビニ：ビジネスモデル
	9	コンビニ：新たな成長と諸問題
	10	ゲーム産業：市場の創造
	11	ゲーム産業：市場の変化
	12	携帯電話：ガラケーの成長
	13	携帯電話：スマホの急成長
	14	科学的管理法と大量生産方式
	15	人間関係論の生成と展開
	16	行動科学論：モチベーション
	17	日本的経営の特質の制度
	18	日本的経営の短所・諸問題
	19	事例分析：自動車（生産）
	20	事例分析：自動車（労働）
	21	戦前の日本企業の特徴
	22	財閥の展開：総合財閥
	23	財閥の展開：新興財閥
	24	ビッグビジネス：鉄鋼
	25	ビッグビジネス：石油
	26	ビッグビジネス：化学
	27	ワークライフバランス
	28	ダイバーシティ
	29	グローバル化の功罪
	30	総括：企業経営の諸課題
到達目標	経営学の基本学説や諸理論について理解・説明できる。 企業における人・モノ・お金・情報の各経営資源の特質をふまえて、企業が抱える諸問題について理解・説明できる。	
予習内容/復習内容	予習：講義中に示すキーワードについて調べておく。 復習：予習したことをふまえてプリントと講義内容についてまとめる。	
教科書	プリント教材を配布、テキストは指定しません。参考文献は必要に応じて紹介します。	
成績評価	最終レポート：50%、講義内での課題レポート：30%、平常評価（コメントシート）20%	

実務経験	
その他特記事項	一部分の考察ではなく、毎回の積み重ねによる論理的考察が非常に重要ですので欠席過多に注意してください。 新聞、ビジネス雑誌、テレビ・ネット等のニュース報道からの情報収集を心がけてください。 対象領域が広い学問であることから自主学習が不可欠です。したがって、編入学を考えている人は1年次での履修を強く推奨します。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	全学年	4	選択
担当教員			
中畑 裕之			
		講義	
添付ファイル			

ディプロマ・ポリシー	<p>大学DP</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 1. 創造性豊かな人間性と優れた専門性を身につけた学生 □ 2. 実社会で活躍できる知的・人間的資質を身につけた学生 □ 3. 地域社会を主体的に担う態度を身につけた学生 □ 4. 国際社会に対する理解とコミュニケーション能力や情報社会に対応できる能力を身につけた学生 <p>法経科第1部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 1. 法律・政治・経済・経営など社会科学の基幹分野に関する基本的な知識を修得し、最新の学問的到達についても一定の理解をもっている。 ■ 2. 現代社会の諸問題について、専門的知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 □ 3. 修得した学識を職業生活上の実践的課題に適用することができる。 □ 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 ■ 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>法経科第2部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 社会科学について広く基礎的な素養を身につけている。 □ 2. 現代社会の諸問題について、学修した知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 □ 3. 多様な目的意識を持つ幅広い年齢層の学生がともに学生生活を送ることを通じて、豊かな人間関係を構築できるコミュニケーション能力を身につけている。 □ 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 □ 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>食物栄養学科食物栄養学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 栄養士として必要な食に関する幅広い専門知識と技能を有している。 □ 2. 食と健康に関する様々な課題に対して、科学的根拠に基づいた多面的・総合的な理解及び判断ができる。 □ 3. 豊かな教養、高い倫理観、優れたコミュニケーション力を備え、栄養士として適切な栄養管理・指導を実践できる。 □ 4. 習得した専門知識と技能を基に、地域社会と連携して食と健康の分野で主体的に活躍できる能力を備えている。 <p>生活科学学科生活科学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 「いのち」と「暮らし」に関わるニーズが多様化する社会にあって、それらについての基礎的な教養を身につけている。 □ 2. 生活福祉・心理コースにあっては、社会福祉学と心理学を総合した視点に立って、社会や人間に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 □ 3. 居住環境コースにあっては、住生活や環境という視点に立って、生活環境に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 □ 4. 高い公共性と倫理性を備え、地域や社会に主体的、積極的に貢献していこうとする態度が身につけている。 <p>※■が該当項目</p>
------------	--

授業概要/授業目的	テキストをベースにマーケティングの基本的な考え方や手法を学ぶとともに、それを基に個人やグループで調査や製品の企画案を考えたり、価格設定やPR・販売方法を考えたりしてもらいます。マーケティングの基本的知識を身に付けるとともに、日常生活の中でもマーケティングを意識できるようになることを目指します。
授業計画	<p>1 オリエンテーション、マーケティングとは</p> <p>2 基本概念：ニーズとウォンツ、マーケティングコンセプト、顧客志向</p>

3	社会変化とマーケティング1：マネジリアル・マーケティング、コンシューマリズム
4	社会変化とマーケティング2：ソーシャルマーケティング、リスクマネジメント
5	マーケティング計画：マーケティング計画、マーケティング・ミックス、予算制約
6	マーケット環境の把握：影響要因、組織、セグメンテーション、ポジショニング、ターゲット
7	マーケティングリサーチ1：マーケティングリサーチ、実査の方法
8	マーケティングリサーチ2：リサーチ対象とマーケティングリサーチ（エリア、グローバル、ニッチ）
9	マーケティングリサーチ3：ビッグデータ、インターネット、SNS
10	調査の企画案を考える：授業内ワーク
11	製品：製品の考え方、新製品開発のプロセス、製品計画とマーチャンダイジング
12	製品管理1：製品差別化、製品ライフサイクル、製品ポートフォリオ、製品ラインと製品ミックス
13	製品管理2：ブランド、ブランディング、パッケージ、サービス
14	製品の企画案を考える：授業内ワーク
15	価格戦略：価格の設定方法、考え方
16	価格設定1：新製品の価格設定、心理的価格設定、区別的価格設定
17	価格設定2：希望価格・オープン価格、価格の維持、割引、リベート
18	日常目にする商品の価格を考える：授業内ワーク
19	販売チャネル：チャネル政策、チャネルの構築、流通システム
20	流通の理解1：流通業の機能、流通業の業態と特徴
21	流通の理解2：情報システム、ロジスティクス
22	販売チャネルの選択を考える：授業内ワーク
23	マーケティングコミュニケーション1（プロモーション）：手段、戦略
24	マーケティングコミュニケーション2：コミュニケーションの目的、CRM、広告
25	販売活動：販売計画、セールス・プロモーション人的販売、消費者の組織化
26	最適なマーケティングコミュニケーションを考える：授業内ワーク
27	地域のマーケティングについて考える
28	ブランドについて：事例研究
29	企業経営の中でのマーケティング、マーケティング担当者（マーケター）の役割
30	講義全体の振り返り
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 顧客志向、市場志向など、マーケティングの基本的な考え方を理解することが出来る。 マーケティングリサーチ、マーケティング戦略などの基本的知識が身に付く。 日常目にするモノやサービスから企業や製品の戦略を読取ったり、それに関心を持ったりすることができるようになる。

予習内容/復習内容	予習：テキストを事前に読みこんできてください。 復習：授業を振り返るとともに、課題を提出してください。
教科書	野口智雄「マーケティングの基本」第4版（日経文庫ビジュアル）
成績評価	課題の提出・評価：40% 授業内ワーク・グループワークの提出・評価：30% 定期試験（レポート）：30%
実務経験	株式会社百五総合研究所にて、ビジネスマッチングや販路開拓支援などに従事しました。 現在、中小企業診断士として経営診断、相談、支援に従事しています。 これらの実務で経験した事柄なども交えて、講義をします。
その他特記事項	2コマ連続しての授業となります。 グループワークを数回行う予定です。グループワークには積極的に参加してください。 その日（2コマ分）の講義を基に課題（短いレポート）をしますので、課題提出を忘れないように。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	全学年	4	選択
担当教員			
大井 幸助			
	講義		
添付ファイル			

ディプロマ・ポリシー	<p>大学DP</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 創造性豊かな人間性と優れた専門性を身につけた学生 <input checked="" type="checkbox"/> 2. 実社会で活躍できる知的・人間的資質を身につけた学生 <input type="checkbox"/> 3. 地域社会を主体的に担う態度を身につけた学生 <input type="checkbox"/> 4. 国際社会に対する理解とコミュニケーション能力や情報社会に対応できる能力を身につけた学生 <p>法経科第1部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> 1. 法律・政治・経済・経営など社会科学の基幹分野に関する基本的な知識を修得し、最新の学問的到達についても一定の理解をもっている。 <input checked="" type="checkbox"/> 2. 現代社会の諸問題について、専門的知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 <input checked="" type="checkbox"/> 3. 修得した学識を職業生活上の実践的課題に適用することができる。 <input type="checkbox"/> 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 <input checked="" type="checkbox"/> 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>法経科第2部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 社会科学について広く基礎的な素養を身につけている。 <input type="checkbox"/> 2. 現代社会の諸問題について、学修した知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 <input type="checkbox"/> 3. 多様な目的意識を持つ幅広い年齢層の学生がともに学生生活を送ることを通じて、豊かな人間関係を構築できるコミュニケーション能力を身につけている。 <input type="checkbox"/> 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 <input type="checkbox"/> 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>食物栄養学科食物栄養学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 栄養士として必要な食に関する幅広い専門知識と技能を有している。 <input type="checkbox"/> 2. 食と健康に関する様々な課題に対して、科学的根拠に基づいた多面的・総合的な理解及び判断ができる。 <input type="checkbox"/> 3. 豊かな教養、高い倫理観、優れたコミュニケーション力を備え、栄養士として適切な栄養管理・指導を実践できる。 <input type="checkbox"/> 4. 習得した専門知識と技能を基に、地域社会と連携して食と健康の分野で主体的に活躍できる能力を備えている。 <p>生活科学科生活科学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 「いのち」と「暮らし」に関わるニーズが多様化する社会にあって、それらについての基礎的な教養を身につけている。 <input type="checkbox"/> 2. 生活福祉・心理コースにあっては、社会福祉学と心理学を総合した視点に立って、社会や人間に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 <input type="checkbox"/> 3. 居住環境コースにあっては、住生活や環境という視点に立って、生活環境に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 <input type="checkbox"/> 4. 高い公共性と倫理性を備え、地域や社会に主体的、積極的に貢献していこうとする態度が身につけている。 <p>※■が該当項目</p>
------------	--

授業概要/授業目的	日商簿記検定3級の試験範囲を学習します。 机上の学習だけではなく、社会においてどのようにこの簿記が活用されているのかなど実務的な目線を交えて講義を行います。 簿記初学者の方が簿記の基礎を理解できることを目的とします。
授業計画	1 簿記の意義 2 財務諸表と簿記の5要素

	3	日常の手続き
	4	商品売買（三分法、掛け取引、手付金）
	5	商品売買（商品券）
	6	商品売買（返品、諸掛り）
	7	商品有高帳
	8	現金
	9	当座預金、普通預金、小口現金
	10	クレジット売掛金、手形取引、電子記録債権債務
	11	貸付金・借入金
	12	有形固定資産、未収入金・未払金
	13	仮払金・仮受金、給与
	14	主要簿と補助簿の関係
	15	試算表
	16	決算、決算整理（現金過不足）
	17	決算整理（売上原価）
	18	決算整理（貸倒）
	19	決算整理（減価償却）
	20	有形固定資産の売却
	21	決算整理（貯蔵品、当座借越）
	22	決算整理（経過勘定）
	23	決算整理後残高試算表
	24	精算表
	25	帳簿の締め切り
	26	損益計算書と貸借対照表
	27	株式の発行、剰余金の配当と処分
	28	税金
	29	証ひょう
	30	伝票
到達目標	日商簿記検定3級に合格できる実力を身につけること。	
予習内容/復習内容	予習：該当箇所についてテキストを通読しておく。 復習：講義内で実施する筆記問題を問題集を用いて反復練習。	
教科書	合格テキスト日商簿記3級（TAC出版）	

成績評価	定期試験（８０％）、出席時に提出するレポート内容（２０％）
実務経験	
その他特記事項	講義には電卓（12桁）を使用します。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	全学年	4	選択
担当教員			
田中 里美			
		講義	
添付ファイル			

ディプロマ・ポリシー	<p>大学DP</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 1. 創造性豊かな人間性と優れた専門性を身につけた学生 □ 2. 実社会で活躍できる知的・人間的資質を身につけた学生 □ 3. 地域社会を主体的に担う態度を身につけた学生 □ 4. 国際社会に対する理解とコミュニケーション能力や情報社会に対応できる能力を身につけた学生 <p>法経科第1部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 1. 法律・政治・経済・経営など社会科学の基幹分野に関する基本的な知識を修得し、最新の学問的到達についても一定の理解をもっている。 ■ 2. 現代社会の諸問題について、専門的知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 □ 3. 修得した学識を職業生活上の実践的課題に適用することができる。 □ 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 ■ 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>法経科第2部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 社会科学について広く基礎的な素養を身につけている。 □ 2. 現代社会の諸問題について、学修した知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 □ 3. 多様な目的意識を持つ幅広い年齢層の学生がともに学生生活を送ることを通じて、豊かな人間関係を構築できるコミュニケーション能力を身につけている。 □ 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 □ 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>食物栄養学科食物栄養学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 栄養士として必要な食に関する幅広い専門知識と技能を有している。 □ 2. 食と健康に関する様々な課題に対して、科学的根拠に基づいた多面的・総合的な理解及び判断ができる。 □ 3. 豊かな教養、高い倫理観、優れたコミュニケーション力を備え、栄養士として適切な栄養管理・指導を実践できる。 □ 4. 習得した専門知識と技能を基に、地域社会と連携して食と健康の分野で主体的に活躍できる能力を備えている。 <p>生活科学科生活科学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 「いのち」と「暮らし」に関わるニーズが多様化する社会にあって、それらについての基礎的な教養を身につけている。 □ 2. 生活福祉・心理コースにあっては、社会福祉学と心理学を総合した視点に立って、社会や人間に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 □ 3. 居住環境コースにあっては、住生活や環境という視点に立って、生活環境に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 □ 4. 高い公共性と倫理性を備え、地域や社会に主体的、積極的に貢献していこうとする態度が身につけている。 <p>※■が該当項目</p>
------------	---

授業概要/授業目的	会計学では、企業が公表する決算書を市民の視点から読み解けるように学習する。決算書とは、財務諸表とも呼ばれ、貸借対照表、損益計算書、キャッシュ・フロー計算書等から構成される。これらの決算書が読めるようになると、企業の財産や利益、資金の流れがわかり、企業の業績を評価することができる。 本講義では、貸借対照表、損益計算書、キャッシュ・フロー計算書の基本的な構成を学習し、決算書が読めると付加価値や内部留保、粉飾決算等、さまざまな事が分析できるという事を学習する。
授業計画	1 ガイダンスー会計学とは 2 決算書とはなにか

	3	貸借対照表
	4	減価償却
	5	資金バランス
	6	流動固定分類
	7	中小企業の決算書流動固定分類
	8	公認会計士監査 まとめとおさらい 小テスト①
	9	損益計算書
	10	各種利益
	11	キャッシュフロー計算書
	12	資金収支
	13	キャッシュフロー計算書の読み方
	14	キャッシュフロー計算書のタイプ
	15	キャッシュ まとめとおさらい 小テスト②
	16	経営分析の基礎
	17	総資本経常利益率と当座比率
	18	固定比率と自己資本比率
	19	資本利益率
	20	総資本回転率
	21	回転率 まとめとおさらい 小テスト③
	22	生産性分析
	23	流動比率と当座比率
	24	固定比率と固定長期適合率
	25	決算書の構造
	26	EDINET まとめとおさらい 小テスト④
	27	実際の企業を分析してみよう 実践編
	28	実際の企業を分析してみよう 検証編
	29	実際の企業を分析してみよう まとめ 期末レポート課題
	30	総まとめ おさらい
到達目標	①	貸借対照表、損益計算書、キャッシュ・フロー計算書の基本的な構成を学ぶ
	②	各種比率分析について学ぶ
	③	粉飾決算がどのようにして生じるのかを学ぶ
予習内容/復習内容		予習：教科書に目を通しておく 復習：ノートの整理、教科書をもう一度目を通す

教科書	授業の初回に指定する。
成績評価	出席と毎回のコメントペーパーの内容30%、小テスト（4回）40%、期末レポート30%。
実務経験	
その他特記事項	電卓の用意が必要。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	全学年	2	選択
担当教員			
深井 英喜			
	講義		
添付ファイル			

ディプロマ・ポリシー	<p>大学DP</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 1. 創造性豊かな人間性と優れた専門性を身につけた学生 □ 2. 実社会で活躍できる知的・人間的資質を身につけた学生 □ 3. 地域社会を主体的に担う態度を身につけた学生 □ 4. 国際社会に対する理解とコミュニケーション能力や情報社会に対応できる能力を身につけた学生 <p>法経科第1部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 1. 法律・政治・経済・経営など社会科学の基幹分野に関する基本的な知識を修得し、最新の学問的到達についても一定の理解をもっている。 ■ 2. 現代社会の諸問題について、専門的知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 □ 3. 修得した学識を職業生活上の実践的課題に適用することができる。 □ 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 ■ 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>法経科第2部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 社会科学について広く基礎的な素養を身につけている。 □ 2. 現代社会の諸問題について、学修した知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 □ 3. 多様な目的意識を持つ幅広い年齢層の学生がともに学生生活を送ることを通じて、豊かな人間関係を構築できるコミュニケーション能力を身につけている。 □ 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 □ 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>食物栄養学科食物栄養学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 栄養士として必要な食に関する幅広い専門知識と技能を有している。 □ 2. 食と健康に関する様々な課題に対して、科学的根拠に基づいた多面的・総合的な理解及び判断ができる。 □ 3. 豊かな教養、高い倫理観、優れたコミュニケーション力を備え、栄養士として適切な栄養管理・指導を実践できる。 □ 4. 習得した専門知識と技能を基に、地域社会と連携して食と健康の分野で主体的に活躍できる能力を備えている。 <p>生活科学科生活科学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 「いのち」と「暮らし」に関わるニーズが多様化する社会にあって、それらについての基礎的な教養を身につけている。 □ 2. 生活福祉・心理コースにあっては、社会福祉学と心理学を総合した視点に立って、社会や人間に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 □ 3. 居住環境コースにあっては、住生活や環境という視点に立って、生活環境に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 □ 4. 高い公共性と倫理性を備え、地域や社会に主体的、積極的に貢献していこうとする態度が身につけている。 <p>※■が該当項目</p>
------------	---

授業概要/授業目的	<p>まずこの授業は、マルクス派経済学やポスト・ケインズ派経済学といった、資本主義経済に批判的な目角ける経済学の考え方をが学習する。それを通して、資本主義社会の再生産の構造とそのメカニズムについて、そして資本主義社会の特徴について理解することを目指す。</p> <p>現代の資本主義社会は、不平等や貧困の問題が深化したり、深刻な環境問題に直面していたり、そして政治的ポピュリズムが台頭するなどの不安定な状態にある。こういった諸問題にアプローチして考えていくことを目指す。</p>
授業計画	<p>1 はじめに</p> <p>2 生産物が商品になる社会①：資本主義社会の基本的特徴</p>

	3	生産物が商品になる社会②：資本主義社会での市場の役割と市場の失敗
	4	生産物が商品になる社会③：公共財・社会的共通資本と脱商品化
	5	経済成長そして技術進歩と幸福①：資本主義経済の生産の特徴
	6	経済成長そして技術進歩と幸福②：経済成長と労働市場
	7	経済成長そして技術進歩と幸福③：経済成長と労働市場（相対的過剰人口論）
	8	経済成長そして技術進歩と幸福④：技術進歩と働き方の変化
	9	経済の効率性と分配①：経済成長は不平等や貧困の問題の解決策になるか？
	10	経済の効率性と分配②：社会政策の経済学的考察
	11	経済の効率性と分配③：福祉国家が支えた経済成長
	12	資本主義経済と政府①：政府の失敗と市場の失敗
	13	資本主義経済と政府②：豊富の中の貧困
	14	貨幣とは何か
	15	まとめ：現代資本主義社会の課題
到達目標	受講生は、経済学の基本的な考え方を修得することを目指す。 現代資本主義社会が直面するさまざまな問題に対して、主体的に向き合うための知見の修得を目指す。	
予習内容/復習内容	この講義は、復習に力を入れてほしい。講義で出てきた経済学の用語の理解を深めたり、講義で展開される経済モデルについての理解の定着に努めることが求められる。予習と言っていいかどうか分からないが、日々の経済・政治に関するニュースに関心を持つことが望ましい。	
教科書	教科書は指定しない。必要な資料は講義中に配布する。 参考図書については、初回の講義の中で示す。	
成績評価	受講姿勢40%、期末試験60%の配点で、総合的に評価する。	
実務経験		
その他特記事項		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	全学年	2	選択
担当教員			
田添 篤史			
	講義		
添付ファイル			

ディプロマ・ポリシー	<p>大学DP</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 1. 創造性豊かな人間性と優れた専門性を身につけた学生 □ 2. 実社会で活躍できる知的・人間的資質を身につけた学生 □ 3. 地域社会を主体的に担う態度を身につけた学生 □ 4. 国際社会に対する理解とコミュニケーション能力や情報社会に対応できる能力を身につけた学生 <p>法経科第1部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 1. 法律・政治・経済・経営など社会科学の基幹分野に関する基本的な知識を修得し、最新の学問的到達についても一定の理解をもっている。 ■ 2. 現代社会の諸問題について、専門的知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 □ 3. 修得した学識を職業生活上の実践的課題に適用することができる。 □ 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 ■ 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>法経科第2部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 社会科学について広く基礎的な素養を身につけている。 □ 2. 現代社会の諸問題について、学修した知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 □ 3. 多様な目的意識を持つ幅広い年齢層の学生がともに学生生活を送ることを通じて、豊かな人間関係を構築できるコミュニケーション能力を身につけている。 □ 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 □ 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>食物栄養学科食物栄養学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 栄養士として必要な食に関する幅広い専門知識と技能を有している。 □ 2. 食と健康に関する様々な課題に対して、科学的根拠に基づいた多面的・総合的な理解及び判断ができる。 □ 3. 豊かな教養、高い倫理観、優れたコミュニケーション力を備え、栄養士として適切な栄養管理・指導を実践できる。 □ 4. 習得した専門知識と技能を基に、地域社会と連携して食と健康の分野で主体的に活躍できる能力を備えている。 <p>生活科学学科生活科学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 「いのち」と「暮らし」に関わるニーズが多様化する社会にあって、それらについての基礎的な教養を身につけている。 □ 2. 生活福祉・心理コースにあっては、社会福祉学と心理学を総合した視点に立って、社会や人間に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 □ 3. 居住環境コースにあっては、住生活や環境という視点に立って、生活環境に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 □ 4. 高い公共性と倫理性を備え、地域や社会に主体的、積極的に貢献していこうとする態度が身につけている。 <p>※■が該当項目</p>
------------	--

授業概要/授業目的	この授業では現在の日本経済における課題がどのようなものであるか、そしてそれはどのような歴史的変化の中で生み出されてきたのかを学んでいく。現在の日本経済は多くの課題を抱えているが、それは突然出現したものではなく過去の歴史からの連続の中でつくられてきたものである。そのため日本経済を歴史的な観点から把握していく。また現在の日本経済は国際的な関係の中に緊密に埋め込まれている。そのため国際的な視点も取り入れながら現在の日本経済を理解していく。
授業計画	<p>1 ガイダンス：転換期にある日本経済</p> <p>2 世界経済はどこで「歪んだ」のか</p>

	3	日本経済の歴史
	4	失われた30年と日本経済の構造変化
	5	キャッシュレス経済の現状と変化
	6	グローバル化は国民を豊かにするのか
	7	自由貿易の後退と日本経済
	8	劣化する労働環境と働き方改革
	9	ベーシック・インカムは社会保障の核となりうるか
	10	国民皆保険制度とその持続可能性
	11	農山村の内発的発展
	12	民間非営利組織の営利化、営利組織の非営利化、労働者協同組合
	13	情報化、IoT化がもたらす未来社会の姿
	14	プラットフォーム資本主義と日本経済
	15	日本の経済成長戦略
到達目標	①日本経済が抱える課題を理解し、それに対して自己の意見を持つことができるようになる。 ②日本経済の歴史を理解し、それが現在の日本経済とどのように違うのか、現在の日本経済にどのように影響を与えているのかを理解する。	
予習内容/復習内容	予習については、教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。復習については授業で追加的に配布された資料、ノートなどを見直し復習しておくこと。	
教科書	小山大介・森本壮亮編著『変容する日本経済：真に豊かな経済・社会への課題と展望』鉾脈社	
成績評価	毎回の授業でのコメントシート：30% 期末の課題レポート：70%	
実務経験		
その他特記事項		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	全学年	2	選択
担当教員			
石原 洋介			
	講義		
添付ファイル			

ディプロマ・ポリシー	<p>大学DP</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 1. 創造性豊かな人間性と優れた専門性を身につけた学生 □ 2. 実社会で活躍できる知的・人間的資質を身につけた学生 □ 3. 地域社会を主体的に担う態度を身につけた学生 ■ 4. 国際社会に対する理解とコミュニケーション能力や情報社会に対応できる能力を身につけた学生 <p>法経科第1部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 1. 法律・政治・経済・経営など社会科学の基幹分野に関する基本的な知識を修得し、最新の学問的到達についても一定の理解をもっている。 ■ 2. 現代社会の諸問題について、専門的知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 □ 3. 修得した学識を職業生活上の実践的課題に適用することができる。 □ 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 ■ 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>法経科第2部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 社会科学について広く基礎的な素養を身につけている。 □ 2. 現代社会の諸問題について、学修した知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 □ 3. 多様な目的意識を持つ幅広い年齢層の学生がともに学生生活を送ることを通じて、豊かな人間関係を構築できるコミュニケーション能力を身につけている。 □ 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 □ 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>食物栄養学科食物栄養学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 栄養士として必要な食に関する幅広い専門知識と技能を有している。 □ 2. 食と健康に関する様々な課題に対して、科学的根拠に基づいた多面的・総合的な理解及び判断ができる。 □ 3. 豊かな教養、高い倫理観、優れたコミュニケーション力を備え、栄養士として適切な栄養管理・指導を実践できる。 □ 4. 習得した専門知識と技能を基に、地域社会と連携して食と健康の分野で主体的に活躍できる能力を備えている。 <p>生活科学科生活科学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 「いのち」と「暮らし」に関わるニーズが多様化する社会にあって、それらについての基礎的な教養を身につけている。 □ 2. 生活福祉・心理コースにあっては、社会福祉学と心理学を総合した視点に立って、社会や人間に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 □ 3. 居住環境コースにあっては、住生活や環境という視点に立って、生活環境に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 □ 4. 高い公共性と倫理性を備え、地域や社会に主体的、積極的に貢献していこうとする態度が身につけている。 <p>※■が該当項目</p>
------------	---

授業概要/授業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・現代グローバル化の特徴と課題を探るため、ブレトンウッズ体制の成立と崩壊過程を概観し、日本と東アジアにおいてグローバル化が与えてきた経済・金融・政治への影響を解説する。 ・国際社会の一員またはアジアの一員としての視野を身につけ、レポート作成を通じて、現代の国際的課題に関する認識を深めるとともに、課題に対する考察力を伸ばす。
授業計画	<p>1 ガイダンス（評価方法、レポート課題等）</p> <p>2 自由貿易理論と保護貿易理論、比較生産費説と幼稚産業保護論</p>

	3	戦後ブレトンウッズ体制①—— I M F（国際通貨基金） ——
	4	戦後ブレトンウッズ体制②——世界銀行——
	5	戦後ブレトンウッズ体制③——G A T TからW T Oへ——
	6	新自由主義理論の台頭
	7	アジア通貨危機① 危機発生の諸要因
	8	アジア通貨危機② 危機発生の諸要因（つづき）と危機の拡大過程
	9	アジア通貨危機③ 通貨危機への対応の2つの道
	10	アジア通貨危機④ 通貨危機再発防止への取組み
	11	グローバリズムとリージョナリズム① F T A急増の背景
	12	グローバリズムとリージョナリズム② 日本のF T A戦略
	13	グローバリズムとリージョナリズム③ T P Pを考える
	14	グローバリズムとリージョナリズム④ T P Pと食の安全
	15	新たなグローバリズムの可能性
到達目標		・現代グローバリゼーションの特徴、問題点を理解することができる。 ・国際社会や東アジア地域が現在取り組んでいる課題を理解し、今後の日本の関わり方について自分なりに考察し、自分の考えを論述できるようになる。
予習内容/復習内容		予習：事前配布するレジюмеに目を通し、問題意識を持って講義に臨むこと。 復習：質問カードへのコメント集を配布するのでよく読んで復習すること。
教科書		特定のテキストは使用しない。单元ごとにレジюмеを配布する。
成績評価		毎回提出する質問カードの内容（30%）、課題レポート（70%）
実務経験		
その他特記事項		普段から新聞・ニュースを見る習慣を身につけること。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	全学年	2	選択
担当教員			
熊澤 大輔			
	講義		
添付ファイル			

ディプロマ・ポリシー	<p>大学DP</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 1. 創造性豊かな人間性と優れた専門性を身につけた学生 □ 2. 実社会で活躍できる知的・人間的資質を身につけた学生 □ 3. 地域社会を主体的に担う態度を身につけた学生 □ 4. 国際社会に対する理解とコミュニケーション能力や情報社会に対応できる能力を身につけた学生 <p>法経科第1部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 1. 法律・政治・経済・経営など社会科学の基幹分野に関する基本的な知識を修得し、最新の学問的到達についても一定の理解をもっている。 ■ 2. 現代社会の諸問題について、専門的知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 □ 3. 修得した学識を職業生活上の実践的課題に適用することができる。 □ 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 ■ 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>法経科第2部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 社会科学について広く基礎的な素養を身につけている。 □ 2. 現代社会の諸問題について、学修した知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 □ 3. 多様な目的意識を持つ幅広い年齢層の学生がともに学生生活を送ることを通じて、豊かな人間関係を構築できるコミュニケーション能力を身につけている。 □ 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 □ 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>食物栄養学科食物栄養学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 栄養士として必要な食に関する幅広い専門知識と技能を有している。 □ 2. 食と健康に関する様々な課題に対して、科学的根拠に基づいた多面的・総合的な理解及び判断ができる。 □ 3. 豊かな教養、高い倫理観、優れたコミュニケーション力を備え、栄養士として適切な栄養管理・指導を実践できる。 □ 4. 習得した専門知識と技能を基に、地域社会と連携して食と健康の分野で主体的に活躍できる能力を備えている。 <p>生活科学学科生活科学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 「いのち」と「暮らし」に関わるニーズが多様化する社会にあって、それらについての基礎的な教養を身につけている。 □ 2. 生活福祉・心理コースにあっては、社会福祉学と心理学を総合した視点に立って、社会や人間に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 □ 3. 居住環境コースにあっては、住生活や環境という視点に立って、生活環境に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 □ 4. 高い公共性と倫理性を備え、地域や社会に主体的、積極的に貢献していこうとする態度が身につけている。 <p>※■が該当項目</p>
------------	--

授業概要/授業目的	本科目は、資本主義経済の特徴を理解することで、現代的な諸問題（不況、物価変動、格差、財政赤字、少子高齢化）の解決方法を学ぶことを目的としています。授業前半では、資本主義経済の運動（成長と景気循環）、市場を通じた分配のメリットとデメリットについて理論的な解説を行います。授業後半では、前半の内容を踏まえて、1980年以降の日本経済について統計資料を用いて分析します。数学的な手法を用いる場合がありますが、図解してなるべく平易に説明するよう努めています。
授業計画	<p>1 イントロダクション（講義の射程、成績評価、経済学説史）</p> <p>2 本主義経済の特徴（成長と分配）</p>

	3	資本主義経済の長期的運動（蓄積、拡大再生産、労働生産性の上昇）
	4	市場を通じた分配①（生産可能性集合、交換の利益、比較優位）
	5	市場を通じた分配②（生産手段の所有、労働力の商品化、労働の搾取）
	6	市場を通じた分配③（本源的蓄積、マルクスの基本定理、利潤最大化）
	7	資本主義経済の短期的運動（景気循環のメカニズム）
	8	景気のコントロール①金融政策（利率の決定、買いオペ、売りオペ、インフレ目標政策）
	9	景気のコントロール②財政政策（限界消費性向、租税、乗数効果）
	10	景気のコントロール③一般均衡モデル（労働市場と財市場の関係）
	11	日本経済①1981-1993 バブル形成と崩壊
	12	日本経済②1994-2002 長期不況と財政赤字
	13	日本経済③2003-2012 構造改革と雇用環境の変化
	14	日本経済④2013-現在 アベノミクスとコロナショック
	15	総論（復習、まとめ）
到達目標		<ul style="list-style-type: none"> ・資本主義経済の運動について理解する。 ・市場を通じた分配のメリットとデメリットを理解する。 ・景気に応じた適切な経済政策を考えられるようになる。
予習内容/復習内容		事前にアップロードされる授業用資料で予習して下さい。授業内容は連続していますので、各回毎に不明な点が無いよう資料を読み直して下さい。また、質問や要望についてはGoogle Classroomを用いて毎回アンケートを取り、次回授業の冒頭に答えます。
教科書		なし。アップロードした授業用資料を用いる。
成績評価		<ul style="list-style-type: none"> ・出席時に提出する質問・要望・感想（10%） ・中間レポート(40%) ・期末レポート(50%)
実務経験		なし。
その他特記事項		授業用資料の配布や出欠管理・レポート提出などすべてGoogleのClassroomを用いて行います。授業内容は簡単ではありませんが、日々の生活と経済がどのように関係しているかを理解出来る内容になっています。

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	全学年	2	選択
担当教員			
南 慎二郎			
		講義	
添付ファイル			

ディプロマ・ポリシー	<p>大学DP</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 1. 創造性豊かな人間性と優れた専門性を身につけた学生 □ 2. 実社会で活躍できる知的・人間的資質を身につけた学生 ■ 3. 地域社会を主体的に担う態度を身につけた学生 □ 4. 国際社会に対する理解とコミュニケーション能力や情報社会に対応できる能力を身につけた学生 <p>法経科第1部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 1. 法律・政治・経済・経営など社会科学の基幹分野に関する基本的な知識を修得し、最新の学問的到達についても一定の理解をもっている。 ■ 2. 現代社会の諸問題について、専門的知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 □ 3. 修得した学識を職業生活上の実践的課題に適用することができる。 □ 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 ■ 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>法経科第2部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 社会科学について広く基礎的な素養を身につけている。 □ 2. 現代社会の諸問題について、学修した知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 □ 3. 多様な目的意識を持つ幅広い年齢層の学生がともに学生生活を送ることを通じて、豊かな人間関係を構築できるコミュニケーション能力を身につけている。 □ 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 □ 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>食物栄養学科食物栄養学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 栄養士として必要な食に関する幅広い専門知識と技能を有している。 □ 2. 食と健康に関する様々な課題に対して、科学的根拠に基づいた多面的・総合的な理解及び判断ができる。 □ 3. 豊かな教養、高い倫理観、優れたコミュニケーション力を備え、栄養士として適切な栄養管理・指導を実践できる。 □ 4. 習得した専門知識と技能を基に、地域社会と連携して食と健康の分野で主体的に活躍できる能力を備えている。 <p>生活科学科生活科学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 「いのち」と「暮らし」に関わるニーズが多様化する社会にあって、それらについての基礎的な教養を身につけている。 □ 2. 生活福祉・心理コースにあっては、社会福祉学と心理学を総合した視点に立って、社会や人間に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 □ 3. 居住環境コースにあっては、住生活や環境という視点に立って、生活環境に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 □ 4. 高い公共性と倫理性を備え、地域や社会に主体的、積極的に貢献していこうとする態度が身につけている。 <p>※■が該当項目</p>
------------	---

授業概要/授業目的	我々の日常生活において最も密接に関わるものとして地域経済社会がある。地域といった場合、一定の狭い空間範囲で区切られたローカルの存在であるが、一方で、現代におけるグローバル化・分権化・人口減少の潮流の中で地域は直接的に影響を受けることとなる。そのような地域における経済社会をどのように維持・発展させるかは、誰にとっても直面し、取り組まねばならない課題である。本講義では地域経済の理論やこれまでの学説、現実の地域経済の課題や政策を検討する。
授業計画	<p>1 地域経済学とはなにか：地域の概念、地域経済学の構成、都市と農村</p> <p>2 地域の経済理論：チューネン等の立地論の系譜とその理論</p>

	3	地域経済の分析法、産業連関、費用便益、地域の政治経済学
	4	地域経済と地域システム：立地論からシステム論へ、地域システムと企業システム、産業クラスター
	5	地域経済と都市論：都市の経済学的定義、田園都市論
	6	地域経済の都市化：集積利益、社会的分業の進行
	7	資本主義と地域経済：都市化の進行、グローバリゼーション
	8	地域経済と都市問題の深刻化：集積不利益、公共政策の拡大、現代的貧困
	9	地域問題と地域政策：地域政策効果の考察、政府の失敗、TVA(テネシー川流域開発公社)の実践
	10	地域政策と内発的発展論
	11	日本の国土開発の歴史と地域経済：全国総合開発計画、国土形成計画
	12	日本の大都市圏の現状と展望：首都圏
	13	地方都市の内発的発展：石川県金沢市
	14	農山村の内発的発展：岡山県新庄村、大分県由布院
	15	創造都市論：イタリア・ボローニャ
到達目標		①地域経済に関する基本的な概念や問題を幅広く理解し、説明することができる。 ②具体的な地域経済に関する問題を把握し、論じることができる。
予習内容/復習内容		予習：参考書や講義内で提示する参考資料・URLを読む。 復習：その回に指示した参考文献、その回の講義資料を読む。
教科書		講義資料としてレジュメおよびスライドを用いる。
成績評価		授業内で実施する小課題50%、レポート課題50%
実務経験		
その他特記事項		全般的に関係する参考文献として以下を紹介しておく。宮本憲一、横田茂、中村剛治郎(編)『地域経済学』有斐閣、1990年。中村剛治郎編『基本ケースで学ぶ地域経済学』有斐閣、2008年。岡田知弘、川瀬光義、鈴木誠、富樫幸一『国際化時代の地域経済学〔第4版〕』有斐閣、2016年。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	全学年	2	選択
担当教員			
南 慎二郎			
	講義		
添付ファイル			

ディプロマ・ポリシー	<p>大学DP</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 1. 創造性豊かな人間性と優れた専門性を身につけた学生 □ 2. 実社会で活躍できる知的・人間的資質を身につけた学生 ■ 3. 地域社会を主体的に担う態度を身につけた学生 □ 4. 国際社会に対する理解とコミュニケーション能力や情報社会に対応できる能力を身につけた学生 <p>法経科第1部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 1. 法律・政治・経済・経営など社会科学の基幹分野に関する基本的な知識を修得し、最新の学問的到達についても一定の理解をもっている。 ■ 2. 現代社会の諸問題について、専門的知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 □ 3. 修得した学識を職業生活上の実践的課題に適用することができる。 □ 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 ■ 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>法経科第2部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 社会科学について広く基礎的な素養を身につけている。 □ 2. 現代社会の諸問題について、学修した知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 □ 3. 多様な目的意識を持つ幅広い年齢層の学生がともに学生生活を送ることを通じて、豊かな人間関係を構築できるコミュニケーション能力を身につけている。 □ 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 □ 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>食物栄養学科食物栄養学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 栄養士として必要な食に関する幅広い専門知識と技能を有している。 □ 2. 食と健康に関する様々な課題に対して、科学的根拠に基づいた多面的・総合的な理解及び判断ができる。 □ 3. 豊かな教養、高い倫理観、優れたコミュニケーション力を備え、栄養士として適切な栄養管理・指導を実践できる。 □ 4. 習得した専門知識と技能を基に、地域社会と連携して食と健康の分野で主体的に活躍できる能力を備えている。 <p>生活科学科生活科学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 「いのち」と「暮らし」に関わるニーズが多様化する社会にあって、それらについての基礎的な教養を身につけている。 □ 2. 生活福祉・心理コースにあっては、社会福祉学と心理学を総合した視点に立って、社会や人間に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 □ 3. 居住環境コースにあっては、住生活や環境という視点に立って、生活環境に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 □ 4. 高い公共性と倫理性を備え、地域や社会に主体的、積極的に貢献していこうとする態度が身につけている。 <p>※■が該当項目</p>
------------	---

授業概要/授業目的	グローバル化・分権化・人口減少のなかで、地方自治とその経済的側面である地方財政への関心が高まっている。分権時代の自治体のあり方や公共政策を考えるためには、地方財政について学ぶことが不可欠である。本授業では、日本の地方財政のしくみと特質を解説するとともに、具体的な地方財政に関する問題や課題を検討する。		
授業計画	1	地方財政論の対象領域・特徴・課題、地方財政と地方自治について	
	2	地方自治と地方財政の歴史：明治～戦前	

	3	地方自治と地方財政の歴史：戦後
	4	予算論：財政民主主義、予算循環、予算制度改革
	5	経費論：地方経費の規模と役割分担、地方経費の概要、地方経費の歴史的動向や今後
	6	地方税：地方税の意義と体系、日本の地方税制度の構造
	7	地方交付税：地方交付税制度の意義、地方交付税のしくみ
	8	国庫支出金：補助金制度、国庫支出金、特定財源保障、国庫補助負担金改革
	9	地方債と財政統制：地方債計画、地方債協議制度・許可制度、自治体財政健全化法
	10	公共事業と公共施設：公共投資の意義・目的、公共投資の制約と公共施設老朽化問題
	11	地方公営企業、地方公社、第3セクター
	12	公営企業による社会資本整備のケース・スタディ：上下水道
	13	自治体再編と地方財政：広域行政、市町村合併、都市制度、道州制や圏域行政
	14	災害・環境対策や社会保障と地方財政
	15	福祉・医療と地方財政、地方財政の展望
到達目標		①地方財政に関する基本的な概念、法制度を理解し、説明できる。 ②実際の自治体の地方財政に関する問題や課題を把握し、論じることができる。
予習内容/復習内容		予習：参考資料の次回テーマの該当箇所などを読む(各回最後に指示)。 復習：その回の参考資料の該当箇所や講義資料を読む。(各回最後に指示)
教科書		講義資料としてレジュメおよびスライドを用いる。
成績評価		授業内で実施する小課題50%、レポート課題50%
実務経験		
その他特記事項		地方財政は身近な行政サービスのあり方を規定するものです。我々の生活に直接的に影響し、さらには流動的に動向や制度は変化するものでもありますので、新聞やニュースでの財政や地方自治体運営に関する最新の話題にも関心を向けておいてください。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	全学年	2	選択
担当教員			
奥田 友枝子			
	講義		
添付ファイル			

ディプロマ・ポリシー	<p>大学DP</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 1. 創造性豊かな人間性と優れた専門性を身につけた学生 □ 2. 実社会で活躍できる知的・人間的資質を身につけた学生 □ 3. 地域社会を主体的に担う態度を身につけた学生 □ 4. 国際社会に対する理解とコミュニケーション能力や情報社会に対応できる能力を身につけた学生 <p>法経科第1部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 1. 法律・政治・経済・経営など社会科学の基幹分野に関する基本的な知識を修得し、最新の学問的到達についても一定の理解をもっている。 ■ 2. 現代社会の諸問題について、専門的知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 □ 3. 修得した学識を職業生活上の実践的課題に適用することができる。 □ 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 ■ 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>法経科第2部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 社会科学について広く基礎的な素養を身につけている。 □ 2. 現代社会の諸問題について、学修した知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 □ 3. 多様な目的意識を持つ幅広い年齢層の学生がともに学生生活を送ることを通じて、豊かな人間関係を構築できるコミュニケーション能力を身につけている。 □ 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 □ 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>食物栄養学科食物栄養学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 栄養士として必要な食に関する幅広い専門知識と技能を有している。 □ 2. 食と健康に関する様々な課題に対して、科学的根拠に基づいた多面的・総合的な理解及び判断ができる。 □ 3. 豊かな教養、高い倫理観、優れたコミュニケーション力を備え、栄養士として適切な栄養管理・指導を実践できる。 □ 4. 習得した専門知識と技能を基に、地域社会と連携して食と健康の分野で主体的に活躍できる能力を備えている。 <p>生活科学科生活科学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 「いのち」と「暮らし」に関わるニーズが多様化する社会にあって、それらについての基礎的な教養を身につけている。 □ 2. 生活福祉・心理コースにあっては、社会福祉学と心理学を総合した視点に立って、社会や人間に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 □ 3. 居住環境コースにあっては、住生活や環境という視点に立って、生活環境に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 □ 4. 高い公共性と倫理性を備え、地域や社会に主体的、積極的に貢献していこうとする態度が身につけている。 <p>※■が該当項目</p>
------------	---

授業概要/授業目的	現代社会において、企業は様々な財やサービスを提供することで利益の獲得を目指しています。ここで注意しなければならないのは、物的資源、資金的資源、情報の資源はあくまでも企業内部の人間（ヒト）が主体となってこれら諸資源を利用する時、はじめて企業活動に貢献するという点です。本講義では、企業の「働き方」と「働かせ方」を管理する仕組みについて学習することを目的としています。
授業計画	<p>1 管理問題の発生と展開</p> <p>2 内部請負制と科学的管理法</p>

	3	管理の構造と発展
	4	人事管理論について
	5	ヒトの管理を巡る変遷
	6	労働時間と裁量労働制
	7	従業員の採用と昇格の管理
	8	企業内教育訓練・能力開発の課題
	9	賃金管理と処遇問題
	10	終身雇用制度と退職金問題
	11	女性労働・高年齢者雇用について-男女共同参画社会に向けて-
	12	経営戦略の展開と人的資源管理
	13	多様な紛争解決システムと労働組合
	14	日本型人的資源管理の行方
	15	本講義のまとめ（総括）
到達目標	① 概念としての人的資源管理の特徴と課題を理解することができる。② 日本における人的資源管理の特殊性とその二面性を理解することができる。③ 人的資源管理の最新動向とその背景について理解することができる。	
予習内容/復習内容	予習：講義中に示す文献を読んでおくこと。復習：授業のまとめ、考察をノートに書き込んでおくこと。	
教科書	澤田幹・谷本啓・橋場俊展・山本大造『ヒト・仕事・職場のマネジメントー人的資源管理の理論と展開ー』（ミネルヴァ書房、2016年）	
成績評価	出席時に提出する小レポートの内容	50% 学期末課題レポート 50%
実務経験		
その他特記事項	授業の進捗状況によって授業内容を変更することがあります。	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	全学年	2	選択
担当教員			
藤田 美咲			
	講義		
添付ファイル			

ディプロマ・ポリシー	<p>大学DP</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 創造性豊かな人間性と優れた専門性を身につけた学生 <input checked="" type="checkbox"/> 2. 実社会で活躍できる知的・人間的資質を身につけた学生 <input type="checkbox"/> 3. 地域社会を主体的に担う態度を身につけた学生 <input type="checkbox"/> 4. 国際社会に対する理解とコミュニケーション能力や情報社会に対応できる能力を身につけた学生 <p>法経科第1部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> 1. 法律・政治・経済・経営など社会科学の基幹分野に関する基本的な知識を修得し、最新の学問的到達についても一定の理解をもっている。 <input checked="" type="checkbox"/> 2. 現代社会の諸問題について、専門的知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 <input checked="" type="checkbox"/> 3. 修得した学識を職業生活上の実践的課題に適用することができる。 <input type="checkbox"/> 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 <input checked="" type="checkbox"/> 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>法経科第2部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 社会科学について広く基礎的な素養を身につけている。 <input type="checkbox"/> 2. 現代社会の諸問題について、学修した知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 <input type="checkbox"/> 3. 多様な目的意識を持つ幅広い年齢層の学生がともに学生生活を送ることを通じて、豊かな人間関係を構築できるコミュニケーション能力を身につけている。 <input type="checkbox"/> 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 <input type="checkbox"/> 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>食物栄養学科食物栄養学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 栄養士として必要な食に関する幅広い専門知識と技能を有している。 <input type="checkbox"/> 2. 食と健康に関する様々な課題に対して、科学的根拠に基づいた多面的・総合的な理解及び判断ができる。 <input type="checkbox"/> 3. 豊かな教養、高い倫理観、優れたコミュニケーション力を備え、栄養士として適切な栄養管理・指導を実践できる。 <input type="checkbox"/> 4. 習得した専門知識と技能を基に、地域社会と連携して食と健康の分野で主体的に活躍できる能力を備えている。 <p>生活科学科生活科学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 「いのち」と「暮らし」に関わるニーズが多様化する社会にあって、それらについての基礎的な教養を身につけている。 <input type="checkbox"/> 2. 生活福祉・心理コースにあっては、社会福祉学と心理学を総合した視点に立って、社会や人間に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 <input type="checkbox"/> 3. 居住環境コースにあっては、住生活や環境という視点に立って、生活環境に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 <input type="checkbox"/> 4. 高い公共性と倫理性を備え、地域や社会に主体的、積極的に貢献していこうとする態度が身につけている。 <p>※■が該当項目</p>
------------	--

授業概要/授業目的	この地域を支える製造業における取引の記録システムである工業簿記と製品原価の計算について、その基本を理解することを目的とします。 また外部報告のみならず、内部管理や経営意思決定と関連する原価計算についてもその基本を取扱います。
授業計画	<p>1 ガイダンス、原価とは</p> <p>2 工業簿記の基礎概念</p> <p>3 勘定連絡、材料費</p>

	4	労務費、経費
	5	予定消費単価、予定賃率を利用した原価計算
	6	個別原価計算
	7	製造間接費の予定配賦、差異分析
	8	部門別個別原価計算
	9	単純総合原価計算
	10	仕損品が存在する場合
	11	工程別総合原価計算
	12	組別総合原価計算、等級別原価計算
	13	財務諸表の表示、本社工場会計
	14	直接原価計算
	15	CVP分析
到達目標	日本商工会議所簿記検定2級における工業簿記レベルの実力を修得する土台として、原価計算の基本である個別原価計算と総合原価計算の手法とその帳簿記入を習得することができる。	
予習内容/復習内容	予習；前回内容を振り返り、今回内容の前提を確認しておいて下さい。 復習；授業中に扱った問題をもう一度解きなおして下さい。	
教科書	(テキスト)「合格テキスト 日商簿記2級 工業簿記」 TAC出版	
成績評価	出席は毎回とります。全授業回数の3分の1を超えて欠席すると、評価の対象外とします。 試験80%に平常点(出席状況、講義中の態度、問題に取り組む姿勢)20%を加味して判定します。	
実務経験	公認会計士・税理士として監査法人及び税理士法人での財務諸表監査、決算書作成、税務申告、経営計画、相続業務、M&Aなどの実務経験を有する。当該実務経験をもとに実際の企業における会計実務や管理会計の状況、経営手法や現代企業における課題などについても織り交ぜます。	
その他特記事項	講義には電卓をご用意ください。 本講義は簿記3級程度の基本的な簿記の知識があることを前提としております。	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	全学年	2	選択
担当教員			
岡本 大佑			
		講義	
添付ファイル			

ディプロマ・ポリシー	<p>大学DP</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 創造性豊かな人間性と優れた専門性を身につけた学生 <input checked="" type="checkbox"/> 2. 実社会で活躍できる知的・人間的資質を身につけた学生 <input type="checkbox"/> 3. 地域社会を主体的に担う態度を身につけた学生 <input type="checkbox"/> 4. 国際社会に対する理解とコミュニケーション能力や情報社会に対応できる能力を身につけた学生 <p>法経科第1部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> 1. 法律・政治・経済・経営など社会科学の基幹分野に関する基本的な知識を修得し、最新の学問的到達についても一定の理解をもっている。 <input checked="" type="checkbox"/> 2. 現代社会の諸問題について、専門的知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 <input checked="" type="checkbox"/> 3. 修得した学識を職業生活上の実践的課題に適用することができる。 <input type="checkbox"/> 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 <input checked="" type="checkbox"/> 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>法経科第2部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 社会科学について広く基礎的な素養を身につけている。 <input type="checkbox"/> 2. 現代社会の諸問題について、学修した知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 <input type="checkbox"/> 3. 多様な目的意識を持つ幅広い年齢層の学生がともに学生生活を送ることを通じて、豊かな人間関係を構築できるコミュニケーション能力を身につけている。 <input type="checkbox"/> 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 <input type="checkbox"/> 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>食物栄養学科食物栄養学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 栄養士として必要な食に関する幅広い専門知識と技能を有している。 <input type="checkbox"/> 2. 食と健康に関する様々な課題に対して、科学的根拠に基づいた多面的・総合的な理解及び判断ができる。 <input type="checkbox"/> 3. 豊かな教養、高い倫理観、優れたコミュニケーション力を備え、栄養士として適切な栄養管理・指導を実践できる。 <input type="checkbox"/> 4. 習得した専門知識と技能を基に、地域社会と連携して食と健康の分野で主体的に活躍できる能力を備えている。 <p>生活科学科生活科学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 「いのち」と「暮らし」に関わるニーズが多様化する社会にあって、それらについての基礎的な教養を身につけている。 <input type="checkbox"/> 2. 生活福祉・心理コースにあっては、社会福祉学と心理学を総合した視点に立って、社会や人間に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 <input type="checkbox"/> 3. 居住環境コースにあっては、住生活や環境という視点に立って、生活環境に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 <input type="checkbox"/> 4. 高い公共性と倫理性を備え、地域や社会に主体的、積極的に貢献していこうとする態度が身につけている。 <p>※■が該当項目</p>
------------	--

授業概要/授業目的	簿記の知識は資格試験のためだけでなく、実務に役立つものとして多くの企業から求められております。また、企業経理の場面だけでなく、金融・投資・為替など様々なお金の流れを把握できるツールとしても活かすことができます。本授業では、日商簿記3級程度の知識を前提として、主に日商簿記2級商業簿記の内容を取り上げ、授業と演習を繰り返すことにより簿記の能力の定着と向上を図ります。
授業計画	<p>1 ガイダンス、財務諸表</p> <p>2 商品売買</p>

	3	現金・預金（銀行勘定調整）
	4	債権・債務（手形・電子記録債権）
	5	有価証券（1）
	6	有価証券（1）、有形固定資産（1）
	7	有形固定資産（2）
	8	有形固定資産（3）、無形固定資産、研究開発費
	9	引当金、外貨換算会計
	10	税金、税効果会計
	11	株式の発行、剰余金の配当と処分
	12	決算手続、収益認識基準
	13	本支店会計
	14	合併・事業譲渡
	15	連結会計（概要）、総復習（全体のまとめ）
到達目標	高度な商業簿記を習得することにより、企業の活動や経営内容を財務諸表の数字から把握することができる。また、机上の知識だけでなく実務に即した簿記知識を身につけることができる。	
予習内容/復習内容	予習：テキスト等の授業範囲に目を通しておく。 復習：授業中に扱った問題を再度解き直しておく。	
教科書	初回の授業時に指定します。（日商簿記検定2級用の書籍を予定）	
成績評価	定期試験（70%）、平常点（30%）で評価します。 平常点は出席状況や講義に取り組む姿勢等で総合的に判定します。	
実務経験	現在、税理士（名古屋税理士会所属）として税理士事務所とコンサルティング会社を経営しております。税理士の実務経験に基づき、簿記知識がどのように社会に活かされるかを解説していきます。	
その他特記事項	授業には電卓（10桁以上のもの）をご用意ください。 本授業は日商簿記3級程度の知識があることを前提としております。	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	全学年	2 単位	必修
担当教員			
伊藤 怜			
	演習		
添付ファイル			

ディプロマ・ポリシー	<p>大学DP</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 創造性豊かな人間性と優れた専門性を身につけた学生 <input type="checkbox"/> 2. 実社会で活躍できる知的・人間的資質を身につけた学生 <input type="checkbox"/> 3. 地域社会を主体的に担う態度を身につけた学生 <input checked="" type="checkbox"/> 4. 国際社会に対する理解とコミュニケーション能力や情報社会に対応できる能力を身につけた学生 <p>法経科第1部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 法律・政治・経済・経営など社会科学の基幹分野に関する基本的な知識を修得し、最新の学問的到達についても一定の理解をもっている。 <input type="checkbox"/> 2. 現代社会の諸問題について、専門的知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 <input checked="" type="checkbox"/> 3. 修得した学識を職業生活上の実践的課題に適用することができる。 <input type="checkbox"/> 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 <input type="checkbox"/> 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>法経科第2部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 社会科学について広く基礎的な素養を身につけている。 <input type="checkbox"/> 2. 現代社会の諸問題について、学修した知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 <input checked="" type="checkbox"/> 3. 多様な目的意識を持つ幅広い年齢層の学生がともに学生生活を送ることを通じて、豊かな人間関係を構築できるコミュニケーション能力を身につけている。 <input type="checkbox"/> 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 <input type="checkbox"/> 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>食物栄養学科食物栄養学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 栄養士として必要な食に関する幅広い専門知識と技能を有している。 <input type="checkbox"/> 2. 食と健康に関する様々な課題に対して、科学的根拠に基づいた多面的・総合的な理解及び判断ができる。 <input checked="" type="checkbox"/> 3. 豊かな教養、高い倫理観、優れたコミュニケーション力を備え、栄養士として適切な栄養管理・指導を実践できる。 <input type="checkbox"/> 4. 習得した専門知識と技能を基に、地域社会と連携して食と健康の分野で主体的に活躍できる能力を備えている。 <p>生活科学科生活科学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 「いのち」と「暮らし」に関わるニーズが多様化する社会にあって、それらについての基礎的な教養を身につけている。 <input type="checkbox"/> 2. 生活福祉・心理コースにあっては、社会福祉学と心理学を総合した視点に立って、社会や人間に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 <input type="checkbox"/> 3. 居住環境コースにあっては、住生活や環境という視点に立って、生活環境に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 <input checked="" type="checkbox"/> 4. 高い公共性と倫理性を備え、地域や社会に主体的、積極的に貢献していこうとする態度が身につけている。 <p>※■が該当項目</p>
------------	--

授業概要/授業目的	基礎的な文法事項や語法を復習し、文章の精読・和訳を通して読解力を養う。英語運用にはリーディング・リスニング・ライティング・スピーキングの4技能が必要となるが、その全ての基礎となるのが文法であり、文法の理解なしにはいずれの技能の獲得も難しい。様々なトピックの文章を読むことで、広範な英語使用の例に触れながら、基礎的なリーディング能力を獲得し、今後どのような英文に対しても一定の理解ができるという状態になることを目指す。
授業計画	<p>1 授業概要とシラバスの説明</p> <p>2 Unit 1&2: be動詞</p>

	3	Unit 3&4: 一般動詞
	4	Unit 5&6: 代名詞
	5	Unit 7&8: 数詞
	6	Unit 9: 数詞
	7	Unit 10: 前回の復習
	8	Unit 11: 助動詞・完了形
	9	Unit 12: 前回の復習
	10	Unit 13: 関係代名詞・命令文
	11	Unit 14: 前回の復習
	12	Unit 15: 関係副詞
	13	Unit 16: 前回の復習
	14	関係詞のまとめ
	15	前期まとめ
	16	後期シラバス説明と前期期末試験解説
	17	Unit 17: 不定詞・動名詞
	18	Unit 18: 前回の復習
	19	準動詞について
	20	Unit 19: 形容詞・副詞
	21	Unit 20: 前回の復習
	22	Unit 21&22: 疑問詞・未来形
	23	Unit 23&24: 可算名詞・不可算名詞
	24	Unit 25: there構文・使役動詞
	25	Unit 26 前回の復習
	26	Unit 27&28: 進行形・現在分詞
	27	Unit 29: 受動態・仮定法
	28	Unit 30: 前回の復習
	29	後期まとめ
	30	一年間のまとめ
到達目標	① 語彙を増強し、基礎的な文法事項や語法を身につける。 ② 構造が複雑な文でも正確に理解し、和訳することができる。 ③ そこそこの長さの英語の文章を読むことに慣れ、その内容を正確に理解することができる。	
予習内容/復習内容	予習：授業までに指定した課題を完成させて持参・提示する。 復習：授業で説明した単語・文法・語法・和訳等の確認をし、自分でそれらを説明できるようにしておく。	

教科書	English Here and There 読解と基本文法で極める総合英語 (Terry O'Brien他著、南雲堂) また、必要に応じて補助資料を配布する。
成績評価	試験 65% + 課題 25% + 平常点 (出席状況や学習態度等) 10% 出席状況や授業態度は、成績評価のボーダーライン上にある場合の参考資料にもする。
実務経験	
その他特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回出席をとる。前期・後期のどちらかで「欠席が5回」を超えた場合、評価の対象外とする。 ・受講生の理解度によっては授業計画の一部を変更することもある。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	全学年	2 単位	必修
担当教員			
村井 美代子			
	演習		
添付ファイル			

ディプロマ・ポリシー	<p>大学DP</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 創造性豊かな人間性と優れた専門性を身につけた学生 <input type="checkbox"/> 2. 実社会で活躍できる知的・人間的資質を身につけた学生 <input type="checkbox"/> 3. 地域社会を主体的に担う態度を身につけた学生 <input checked="" type="checkbox"/> 4. 国際社会に対する理解とコミュニケーション能力や情報社会に対応できる能力を身につけた学生 <p>法経科第1部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 法律・政治・経済・経営など社会科学の基幹分野に関する基本的な知識を修得し、最新の学問的到達についても一定の理解をもっている。 <input type="checkbox"/> 2. 現代社会の諸問題について、専門的知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 <input checked="" type="checkbox"/> 3. 修得した学識を職業生活上の実践的課題に適用することができる。 <input type="checkbox"/> 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 <input type="checkbox"/> 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>法経科第2部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 社会科学について広く基礎的な素養を身につけている。 <input type="checkbox"/> 2. 現代社会の諸問題について、学修した知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 <input checked="" type="checkbox"/> 3. 多様な目的意識を持つ幅広い年齢層の学生がともに学生生活を送ることを通じて、豊かな人間関係を構築できるコミュニケーション能力を身につけている。 <input type="checkbox"/> 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 <input type="checkbox"/> 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>食物栄養学科食物栄養学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 栄養士として必要な食に関する幅広い専門知識と技能を有している。 <input type="checkbox"/> 2. 食と健康に関する様々な課題に対して、科学的根拠に基づいた多面的・総合的な理解及び判断ができる。 <input checked="" type="checkbox"/> 3. 豊かな教養、高い倫理観、優れたコミュニケーション力を備え、栄養士として適切な栄養管理・指導を実践できる。 <input type="checkbox"/> 4. 習得した専門知識と技能を基に、地域社会と連携して食と健康の分野で主体的に活躍できる能力を備えている。 <p>生活科学科生活科学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 「いのち」と「暮らし」に関わるニーズが多様化する社会にあって、それらについての基礎的な教養を身につけている。 <input type="checkbox"/> 2. 生活福祉・心理コースにあっては、社会福祉学と心理学を総合した視点に立って、社会や人間に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 <input type="checkbox"/> 3. 居住環境コースにあっては、住生活や環境という視点に立って、生活環境に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 <input checked="" type="checkbox"/> 4. 高い公共性と倫理性を備え、地域や社会に主体的、積極的に貢献していこうとする態度が身につけている。 <p>※■が該当項目</p>
------------	--

授業概要/授業目的	<p>・オリンピック開催や在宅勤務、気候変動やボランティア活動など、現代社会の様々な話題を、各ユニット読み切り形式でまとめたテキストを使用する。</p> <p>1つのユニットを2～3回の授業で読了する予定。</p> <p>・1ユニット200語程度のリーディング課題の読解を通して、英文の内容を正確に把握できる力を養う。各ユニットには、リーディング課題の内容理解を問う問題や、語彙や文法に関する問題などが用意されている。課題への取り組みを通して、これまで身につけてきた英語力を維持し、向上させることを目的とする。</p>
授業計画	<p>1 オリエンテーション（テキスト・授業の進め方・成績評価などについて）</p> <p>2 Unit 1 Olympic Cities</p>

	3	Unit 1 Olympic Cities
	4	Unit 2 Internet Communities
	5	Unit 2 Internet Communities
	6	Unit 3 Console Gaming
	7	Unit 3 Console Gaming
	8	Unit 4 Teleworking
	9	Unit 4 Teleworking
	10	Unit 5 Graffiti
	11	Unit 5 Graffiti
	12	Unit 6 E-books
	13	Unit 6 E-books
	14	Unit 7 Multiculturalism
	15	Unit 7 Multiculturalism
	16	前期試験の返却Unit 8 Space Tourism
	1 7	Unit 8 Space Tourism
	1 8	Unit 9 Cultural Taboos
	1 9	Unit 9 Cultural Taboos
	2 0	Unit 10 Volunteering
	2 1	Unit 10 Volunteering
	2 2	Unit 11 The Burj Al Arab
	2 3	Unit 11 The Burj Al Arab
	2 4	Unit 12 Pop Culture Heroes
	2 5	Unit 12 Pop Culture Heroes
	2 6	Unit 13 Shanghai
	2 7	Unit 13 Shanghai
	2 8	Unit 14 Climate Change
	2 9	Unit 14 Climate Change
	3 0	Unit 15 High-Speed Trains
到達目標	①英文の内容を正確に把握する力をつける。 ②語彙や文法に関する基礎的な知識を確実に身につける。	
予習内容/復習内容	予習：テキストに目を通して単語やイディオムの意味を調べ、内容を一定程度理解して出席する。 復習：提出課題がある場合は課題に取り組み、読了したテキスト内容を確認して次回分の予習につなげる。	

教科書	『Reading Pass 1』 (南雲堂)
成績評価	期末試験 (前期と後期に実施) 70% + 平常点 (出席状況、提出課題、学習態度、発言等) 30% 前期と後期それぞれ3分の2以上の出席がない場合は、評価の対象外とする。
実務経験	
その他特記事項	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	全学年	2 単位	必修
担当教員			
花尻 奈緒子			
	演習		
添付ファイル			

ディプロマ・ポリシー	<p>大学DP</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 創造性豊かな人間性と優れた専門性を身につけた学生 <input type="checkbox"/> 2. 実社会で活躍できる知的・人間的資質を身につけた学生 <input type="checkbox"/> 3. 地域社会を主体的に担う態度を身につけた学生 <input checked="" type="checkbox"/> 4. 国際社会に対する理解とコミュニケーション能力や情報社会に対応できる能力を身につけた学生 <p>法経科第1部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 法律・政治・経済・経営など社会科学の基幹分野に関する基本的な知識を修得し、最新の学問的到達についても一定の理解をもっている。 <input type="checkbox"/> 2. 現代社会の諸問題について、専門的知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 <input checked="" type="checkbox"/> 3. 修得した学識を職業生活上の実践的課題に適用することができる。 <input type="checkbox"/> 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 <input type="checkbox"/> 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>法経科第2部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 社会科学について広く基礎的な素養を身につけている。 <input type="checkbox"/> 2. 現代社会の諸問題について、学修した知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 <input checked="" type="checkbox"/> 3. 多様な目的意識を持つ幅広い年齢層の学生がともに学生生活を送ることを通じて、豊かな人間関係を構築できるコミュニケーション能力を身につけている。 <input type="checkbox"/> 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 <input type="checkbox"/> 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>食物栄養学科食物栄養学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 栄養士として必要な食に関する幅広い専門知識と技能を有している。 <input type="checkbox"/> 2. 食と健康に関する様々な課題に対して、科学的根拠に基づいた多面的・総合的な理解及び判断ができる。 <input checked="" type="checkbox"/> 3. 豊かな教養、高い倫理観、優れたコミュニケーション力を備え、栄養士として適切な栄養管理・指導を実践できる。 <input type="checkbox"/> 4. 習得した専門知識と技能を基に、地域社会と連携して食と健康の分野で主体的に活躍できる能力を備えている。 <p>生活科学科生活科学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 「いのち」と「暮らし」に関わるニーズが多様化する社会にあって、それらについての基礎的な教養を身につけている。 <input type="checkbox"/> 2. 生活福祉・心理コースにあっては、社会福祉学と心理学を総合した視点に立って、社会や人間に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 <input type="checkbox"/> 3. 居住環境コースにあっては、住生活や環境という視点に立って、生活環境に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 <input checked="" type="checkbox"/> 4. 高い公共性と倫理性を備え、地域や社会に主体的、積極的に貢献していこうとする態度が身につけている。 <p>※■が該当項目</p>
------------	--

授業概要/授業目的	中国語は中国以外にもアジアの各国・地域で公用語とされ、また第二外国語としても世界中に学習者を持つ言語です。この授業では、中国語の発音方法を習得するほか、基礎的な文法・単語、中国語の背景にある文化や社会についても学びます。
授業計画	<p>1 ガイダンス・声調</p> <p>2 単母音と複母音</p> <p>3 子音・鼻母音</p>

	4	軽声・声調の変化
	5	アール化・人称代名詞
	6	「是」述語文
	7	名前の言い方・答え方
	8	動詞述語文
	9	疑問詞疑問文
	10	副詞「也」・省略疑問文
	11	指示詞・助詞「的」
	12	副詞「都」・語気助詞
	13	数字・所有を表す「有」・程度副詞
	14	形容詞述語文
	15	前期の総復習
	16	前期の復習
	17	年齢の言い方とたずね方・量詞
	18	数をたずねる疑問詞
	19	比較の表現・3桁以上の数字の言い方
	20	中国の通貨・値段のたずね方
	21	年月日と曜日・時刻の表現
	22	助動詞「想」・連動文
	23	方位詞・存在文
	24	前置詞①・反復疑問文
	25	完了形
	26	文末につける「了」・前置詞②
	27	助動詞②・助動詞③
	28	二重目的語をとる動詞
	29	進行形・動詞「～が好きだ」
	30	後期の総復習
到達目標	中国語で簡単な文を作文し、かつ正しい字で表記できるようになり、単純な文を聞いて意味を理解できるようになることを目標とします。	
予習内容/復習内容	予習：教科書の次回に学習する部分を読んでくる。 復習：教科書付属問題を使用し知識を確認する。	
教科書	『シンプルチャイニーズ 北京文法篇』（朝日出版社）	

成績評価	出席時の取り組みの姿勢50%、前・後期の期末試験50%で成績評価を行います。
実務経験	なし
その他特記事項	予習復習を欠かさずに行うこと。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	全学年	2 単位	必須
担当教員			
今本 幸平			
	演習		
添付ファイル			

ディプロマ・ポリシー	<p>大学DP</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 創造性豊かな人間性と優れた専門性を身につけた学生 <input type="checkbox"/> 2. 実社会で活躍できる知的・人間的資質を身につけた学生 <input type="checkbox"/> 3. 地域社会を主体的に担う態度を身につけた学生 <input checked="" type="checkbox"/> 4. 国際社会に対する理解とコミュニケーション能力や情報社会に対応できる能力を身につけた学生 <p>法経科第1部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 法律・政治・経済・経営など社会科学の基幹分野に関する基本的な知識を修得し、最新の学問的到達についても一定の理解をもっている。 <input type="checkbox"/> 2. 現代社会の諸問題について、専門的知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 <input checked="" type="checkbox"/> 3. 修得した学識を職業生活上の実践的課題に適用することができる。 <input type="checkbox"/> 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 <input type="checkbox"/> 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>法経科第2部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 社会科学について広く基礎的な素養を身につけている。 <input type="checkbox"/> 2. 現代社会の諸問題について、学修した知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 <input checked="" type="checkbox"/> 3. 多様な目的意識を持つ幅広い年齢層の学生がともに学生生活を送ることを通じて、豊かな人間関係を構築できるコミュニケーション能力を身につけている。 <input type="checkbox"/> 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 <input type="checkbox"/> 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>食物栄養学科食物栄養学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 栄養士として必要な食に関する幅広い専門知識と技能を有している。 <input type="checkbox"/> 2. 食と健康に関する様々な課題に対して、科学的根拠に基づいた多面的・総合的な理解及び判断ができる。 <input checked="" type="checkbox"/> 3. 豊かな教養、高い倫理観、優れたコミュニケーション力を備え、栄養士として適切な栄養管理・指導を実践できる。 <input type="checkbox"/> 4. 習得した専門知識と技能を基に、地域社会と連携して食と健康の分野で主体的に活躍できる能力を備えている。 <p>生活科学科生活科学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 「いのち」と「暮らし」に関わるニーズが多様化する社会にあって、それらについての基礎的な教養を身につけている。 <input type="checkbox"/> 2. 生活福祉・心理コースにあっては、社会福祉学と心理学を総合した視点に立って、社会や人間に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 <input type="checkbox"/> 3. 居住環境コースにあっては、住生活や環境という視点に立って、生活環境に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 <input checked="" type="checkbox"/> 4. 高い公共性と倫理性を備え、地域や社会に主体的、積極的に貢献していこうとする態度が身につけている。 <p>※■が該当項目</p>
------------	--

授業概要/授業目的	初めてドイツ語を学習する人のための科目です。文字（アルファベット）、単語の読み方から始まり、簡単な文の組み立て方や読解を学びます。 教員が文法等の説明をした後、自分で練習問題を解き、答えを口頭で発表したり音読の練習をすることで、文法と発音を身につけます。板書をノートに書き写すだけという受け身の姿勢ではなく、説明に基づいて自分でやってみて、分からないことは自ら調べたり、質問したりするという、能動的な受講態度が必要です。
授業計画	<p>1 ガイダンス、アルファベットの読み方</p> <p>2 アルファベットの読み方、単語の読み方</p>

	3	単語の読み方（あいさつ、数字など）
	4	第1課 文の作り方（動詞について）
	5	第1課 重要な動詞、語順の原則
	6	第1課 練習問題、会話文読解（出会いと自己紹介）
	7	第2課 名詞について（名詞の性別）
	8	第2課 名詞の「格」について
	9	第2課 重要な動詞②
	10	第2課 練習問題、会話文読解（家族について尋ねる）
	11	復習、中間テスト
	12	第3課 不規則動詞
	13	第3課 不規則動詞の練習問題、命令形
	14	第3課 練習問題、会話文読解（明日の予定を尋ねる）
	15	前期の復習
	16	前期の復習
	17	第4課 定冠詞の仲間
	18	第4課 練習問題
	19	第4課 不定冠詞の仲間
	20	第4課 練習問題、会話文読解（買い物に行く1）
	21	第5課 名詞の複数形
	22	第5課 人称代名詞
	23	第5課 練習問題、会話文読解（買い物に行く2）
	24	復習、中間テスト
	25	第6課 前置詞の使い方
	26	第6課 練習問題
	27	第6課 練習問題、会話文読解（週末の予定を尋ねる）
	28	第8課 話法の助動詞
	29	第8課 練習問題
	30	総復習
到達目標	①ドイツ語の単語や簡単な文（ドイツ語検定試験5級程度）を音読できる。 ②簡単なドイツ語の文（ドイツ語検定試験5級程度）を理解し、自分でも作ることができる。	
予習内容/復習内容	予習：学習している「課」に出てくる単語の意味を辞書で調べ、音読する。 復習：授業で出てきた文を音読する。学習した個所の練習問題（宿題）を解き、音読する。	

教科書	①『PANORAMA Deutsch (パノラマ 初級ドイツ語ゼミナール)』、白水社 ②独和辞典 (4月中は使用しない。詳細は初回講義で説明) ※5月以降は必ず①②の両方を持参すること。
成績評価	前期試験と後期試験の点数 (各50%)。授業中に行う小テスト、中間テスト等の点数は参考程度 (マイナスの評価材料としては使用しない)。 前・後期とも10回以上講義に出席しないと評価対象外となる (遅刻・早退は0.5回の出席とみなす)。
実務経験	
その他特記事項	例えば野球ができるようになりたいければ、ルールを教わるだけでなく、実際にボールを投げたりバットを振ったりしなければできるようにならないのと同じで、外国語も説明を聴くだけでなく、自分で発音したり、文を書いたりしてみなくては身につけません。その時に、間違えることを気にする必要はありません。失敗と修正を繰り返しながら学ぶ、というつもりで取り組んでください。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	全学年	2 単位	選択
担当教員			
CREST ANGELICA CENDANA			
	演習		
添付ファイル			

ディプロマ・ポリシー	<p>大学DP</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 創造性豊かな人間性と優れた専門性を身につけた学生 <input type="checkbox"/> 2. 実社会で活躍できる知的・人間的資質を身につけた学生 <input type="checkbox"/> 3. 地域社会を主体的に担う態度を身につけた学生 <input checked="" type="checkbox"/> 4. 国際社会に対する理解とコミュニケーション能力や情報社会に対応できる能力を身につけた学生 <p>法経科第1部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 法律・政治・経済・経営など社会科学の基幹分野に関する基本的な知識を修得し、最新の学問的到達についても一定の理解をもっている。 <input type="checkbox"/> 2. 現代社会の諸問題について、専門的知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 <input checked="" type="checkbox"/> 3. 修得した学識を職業生活上の実践的課題に適用することができる。 <input type="checkbox"/> 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 <input type="checkbox"/> 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>法経科第2部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 社会科学について広く基礎的な素養を身につけている。 <input type="checkbox"/> 2. 現代社会の諸問題について、学修した知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 <input checked="" type="checkbox"/> 3. 多様な目的意識を持つ幅広い年齢層の学生がともに学生生活を送ることを通じて、豊かな人間関係を構築できるコミュニケーション能力を身につけている。 <input type="checkbox"/> 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 <input type="checkbox"/> 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>食物栄養学科食物栄養学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 栄養士として必要な食に関する幅広い専門知識と技能を有している。 <input type="checkbox"/> 2. 食と健康に関する様々な課題に対して、科学的根拠に基づいた多面的・総合的な理解及び判断ができる。 <input checked="" type="checkbox"/> 3. 豊かな教養、高い倫理観、優れたコミュニケーション力を備え、栄養士として適切な栄養管理・指導を実践できる。 <input type="checkbox"/> 4. 習得した専門知識と技能を基に、地域社会と連携して食と健康の分野で主体的に活躍できる能力を備えている。 <p>生活科学科生活科学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 「いのち」と「暮らし」に関わるニーズが多様化する社会にあって、それらについての基礎的な教養を身につけている。 <input type="checkbox"/> 2. 生活福祉・心理コースにあっては、社会福祉学と心理学を総合した視点に立って、社会や人間に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 <input type="checkbox"/> 3. 居住環境コースにあっては、住生活や環境という視点に立って、生活環境に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 <input checked="" type="checkbox"/> 4. 高い公共性と倫理性を備え、地域や社会に主体的、積極的に貢献していこうとする態度が身につけている。 <p>※■が該当項目</p>
------------	--

授業概要/授業目的	The purpose of this lesson is to provide students with practical opportunities to practice and improve their speaking, listening, and grammar skills in English through interactive and engaging activities. The focus is on encouraging students to use the target vocabulary and grammar structures in meaningful communication while building their confidence in expressing themselves in real-life situations.
授業計画	<p>1 Getting Acquainted: Use Greetings and Introductions. Use to be in Yes/No.</p> <p>2 Getting Acquainted: Talk and exchange personal informations with others. Talk about different countries and nationalities. Include different cultures.</p>

3	Going Out: Use preposition of time and place. Invite and accept/decline invitations.
4	Going Out: Discuss Weekend Plans. Make and respond to suggestions.
5	Talking about Families: Describe Family members. Use Possesive adjectives (my, his, her, etc.)
6	Talking about Families: Discuss Routines and Traditions. Use adverbs (always, sometimes, never, etc.)
7	Coping with Technology: Make complaints and requests. Practice Present Continuous Tense.
8	Coping with Technology: Learn Technology Vocabulary. Give simple instructions.
9	Eating In, Eating Out: Talk about food preferences. Use countable and/or uncountable nouns.
10	Eating In, Eating Out: Use Quantifiers. Discuss Recipes and Ingredients.
11	Staying in Shape: Talk about Fitness and routines. Use can and cannot.
12	Staying in Shape: Use should for advice. Discuss Healthy habits.
13	Finding something to wear: Use comparative adjectives. Sell and/or shop for clothes.
14	Finding something to wear: Talk about preferences. Use too and enough.
15	First Semester Test: Assess Speaking, listening, grammar, and writing skills for Units 1-14.
16	Getting Away: Types of Vacations. Adjectives for travel conditions and to describe vacations.
17	Getting Away: Vacation preferences and experiences. Common Travel Problems.
18	Taking Transportation: Tickets and trips. Discuss and create Travel Services.
19	Taking Transportation: Means of Transportation and common transportation problems. Airline passenger information.
20	Getting Things Done: Use of Passive Voice to describe services. Talk about errands and chores.
21	Getting Things Done: Practice giving instructions. Use imperatives and sequencing words (first, then).
22	Making Plan: Use future forms (will, going to).
23	Making Plans: Discuss schedules and arrangements.
24	Entertainment choices: Talk about preferences for movies, music, and books. Use like + gerund.
25	Entertainment choices Make recommendations. Use should and could.
26	Shopping Smart: Ask for recommendations. Bargain for a lower price.
27	Shopping Smart: Discuss Tipping Cutoms. Talk about shopping experiences.
28	Review and Unfinished Work: Review Units 1-14. Address any unfinished textbook work or unclear topics.

	29	Review and Unfinished Work: Review Units 16-27. Address any unfinished textbook work or unclear topics.
	30	Final Semestral Test: Assess speaking, listening, grammar, and writing skills for Units 16-27.
到達目標	Objectives: By the end of this lesson, students will be able to: 1. Use the target vocabulary accurately in context. 2. Apply grammar rules (e.g., simple past tense or comparatives) in spoken and written communication. 3. Engage in conversations and discussions confidently using proper pronunciation and intonation. 4. Demonstrate comprehension by responding appropriately to spoken and written prompts. 5. Collaborate effectively in pair or group activities to complete assigned tasks.	
予習内容/復習内容	Students comprehension will be assessed through examination, and weekly activities and homework.	
教科書	Top Notch 1 (3rd Edition. ISBN-13: 978-0-13-392893-8) By Joan Saslow and Allen Ascher	
成績評価	Oral Participation: 30% , Homework: 20%, Midterm Exams: 20%, Final Exams: 30%	
実務経験		
その他特記事項	<p>As an educator with a strong foundation in English language teaching and a commitment to fostering student success, I believe that an encouraging and interactive classroom environment is key to learning a new language. I aim to create a space where students feel confident to express themselves, take chances, and learn from their mistakes without fear and judgment. Mistakes are not setbacks but valuable steps in the process of growth and mastery.</p> <p>In my classroom, collaboration and mutual respect are essential for building a positive atmosphere where everyone feels supported. Through dynamic activities and meaningful practice, students are encouraged to actively participate, challenge themselves, and develop their communication skills. MY goal is to inspire confidence, celebrate progress, and ensure that every learner reaches their full potential while enjoying the journey of language acquisition.</p>	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	全学年	2 単位	選択
担当教員			
村井 美代子			
	演習		
添付ファイル			

ディプロマ・ポリシー	<p>大学DP</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 創造性豊かな人間性と優れた専門性を身につけた学生 <input type="checkbox"/> 2. 実社会で活躍できる知的・人間的資質を身につけた学生 <input type="checkbox"/> 3. 地域社会を主体的に担う態度を身につけた学生 <input checked="" type="checkbox"/> 4. 国際社会に対する理解とコミュニケーション能力や情報社会に対応できる能力を身につけた学生 <p>法経科第1部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 法律・政治・経済・経営など社会科学の基幹分野に関する基本的な知識を修得し、最新の学問的到達についても一定の理解をもっている。 <input type="checkbox"/> 2. 現代社会の諸問題について、専門的知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 <input checked="" type="checkbox"/> 3. 修得した学識を職業生活上の実践的課題に適用することができる。 <input type="checkbox"/> 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 <input type="checkbox"/> 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>法経科第2部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 社会科学について広く基礎的な素養を身につけている。 <input type="checkbox"/> 2. 現代社会の諸問題について、学修した知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 <input checked="" type="checkbox"/> 3. 多様な目的意識を持つ幅広い年齢層の学生がともに学生生活を送ることを通じて、豊かな人間関係を構築できるコミュニケーション能力を身につけている。 <input type="checkbox"/> 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 <input type="checkbox"/> 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>食物栄養学科食物栄養学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 栄養士として必要な食に関する幅広い専門知識と技能を有している。 <input type="checkbox"/> 2. 食と健康に関する様々な課題に対して、科学的根拠に基づいた多面的・総合的な理解及び判断ができる。 <input checked="" type="checkbox"/> 3. 豊かな教養、高い倫理観、優れたコミュニケーション力を備え、栄養士として適切な栄養管理・指導を実践できる。 <input type="checkbox"/> 4. 習得した専門知識と技能を基に、地域社会と連携して食と健康の分野で主体的に活躍できる能力を備えている。 <p>生活科学科生活科学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 「いのち」と「暮らし」に関わるニーズが多様化する社会にあって、それらについての基礎的な教養を身につけている。 <input type="checkbox"/> 2. 生活福祉・心理コースにあっては、社会福祉学と心理学を総合した視点に立って、社会や人間に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 <input type="checkbox"/> 3. 居住環境コースにあっては、住生活や環境という視点に立って、生活環境に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 <input checked="" type="checkbox"/> 4. 高い公共性と倫理性を備え、地域や社会に主体的、積極的に貢献していこうとする態度が身につけている。 <p>※■が該当項目</p>
------------	--

授業概要/授業目的	<p>・科学技術や文化、環境問題など、現代社会の様々な話題を、各ユニット読み切り形式でまとめたテキストを使用する。1つのユニットを2～3回の授業で読了する予定。</p> <p>・1ユニット400語程度のリーディング課題の読解を通して、英文の内容を速く的確に把握できる力を養う。各ユニットには、内容の理解度を問う問題や、語彙に関する問題などが用意されている。課題への取り組みを通して、これまでの英語学習の基礎の上に、英文の内容を正確に把握できる実践的な読解力を身につけることを目的とする。</p>
授業計画	<p>1 オリエンテーション（テキスト・授業の進め方・成績評価などについて）</p> <p>2 Unit 1 Pro Gaming</p>

	3	Unit 1 Pro Gaming
	4	Unit 2 The Blogosphere
	5	Unit 2 The Blogosphere
	6	Unit 3 Organic Food
	7	Unit 3 Organic Food
	8	Unit 4 Franchises
	9	Unit 4 Franchises
	1 0	Unit 5 Character Culture
	1 1	Unit 5 Charcter Culture
	1 2	Unit 6 Language Change
	1 3	Unit 6 Language Change
	1 4	Unit 7 Unlocking Motivation
	1 5	Unit 7 Unlocking Motivation
	1 6	前期定期試験の返却Unit 8 Yellow Dust Storms
	1 7	Unit 8 Yellow Dust Storms
	1 8	Unit 9 The End of Privacy
	1 9	Unit 9 The End of Privacy
	2 0	Unit 10 Going Carbon Neutral
	2 1	Unit 10 Going Carbon Neutral
	2 2	Unit 11 Retro Style
	2 3	Unit 11 Retro Style
	2 4	Unit 12 It pays to be the CEO.
	2 5	Unit 12 It pays to be the CEO.
	2 6	Unit 13 London
	2 7	Unit 13 London
	28	Unit 14 Web 2.0
	2 9	Unit 14 Web 2.0
	3 0	Unit 15 Troubled Stars
到達目標	①400語程度の英文内容を正確に把握できる実践的な読解力をつける。 ②語彙や文法、イディオムに関する知識を確認し、実践で活用できる応用力をつける。	
予習内容/復習内容	予習：テキストに目を通して単語やイディオムの意味を調べ、内容を一定程度理解して出席する。 復習：提出課題がある場合は課題に取り組み、読了したテキスト内容を確認して次回分の予習につなげる。	

教科書	『Reading Pass 3』 (南雲堂)
成績評価	期末試験 (前期と後期に実施) 70% + 平常点 (出席状況、提出課題、学習態度、発言等) 30% 前期と後期それぞれ3分の2以上の出席がない場合は、評価の対象外とする。
実務経験	
その他特記事項	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	全学年	1 単位	選択
担当教員			
笠 浩一郎			
	実習		
添付ファイル			

ディプロマ・ポリシー	<p>大学DP</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 創造性豊かな人間性と優れた専門性を身につけた学生 <input type="checkbox"/> 2. 実社会で活躍できる知的・人間的資質を身につけた学生 <input type="checkbox"/> 3. 地域社会を主体的に担う態度を身につけた学生 <input checked="" type="checkbox"/> 4. 国際社会に対する理解とコミュニケーション能力や情報社会に対応できる能力を身につけた学生 <p>法経科第1部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 法律・政治・経済・経営など社会科学の基幹分野に関する基本的な知識を修得し、最新の学問的到達についても一定の理解をもっている。 <input type="checkbox"/> 2. 現代社会の諸問題について、専門的知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 <input checked="" type="checkbox"/> 3. 修得した学識を職業生活上の実践的課題に適用することができる。 <input type="checkbox"/> 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 <input type="checkbox"/> 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>法経科第2部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 社会科学について広く基礎的な素養を身につけている。 <input type="checkbox"/> 2. 現代社会の諸問題について、学修した知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 <input type="checkbox"/> 3. 多様な目的意識を持つ幅広い年齢層の学生がともに学生生活を送ることを通じて、豊かな人間関係を構築できるコミュニケーション能力を身につけている。 <input checked="" type="checkbox"/> 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 <input type="checkbox"/> 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>食物栄養学科食物栄養学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 栄養士として必要な食に関する幅広い専門知識と技能を有している。 <input type="checkbox"/> 2. 食と健康に関する様々な課題に対して、科学的根拠に基づいた多面的・総合的な理解及び判断ができる。 <input checked="" type="checkbox"/> 3. 豊かな教養、高い倫理観、優れたコミュニケーション力を備え、栄養士として適切な栄養管理・指導を実践できる。 <input type="checkbox"/> 4. 習得した専門知識と技能を基に、地域社会と連携して食と健康の分野で主体的に活躍できる能力を備えている。 <p>生活科学科生活科学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 「いのち」と「暮らし」に関わるニーズが多様化する社会にあって、それらについての基礎的な教養を身につけている。 <input type="checkbox"/> 2. 生活福祉・心理コースにあっては、社会福祉学と心理学を総合した視点に立って、社会や人間に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 <input type="checkbox"/> 3. 居住環境コースにあっては、住生活や環境という視点に立って、生活環境に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 <input checked="" type="checkbox"/> 4. 高い公共性と倫理性を備え、地域や社会に主体的、積極的に貢献していこうとする態度が身につけている。 <p>※■が該当項目</p>
------------	--

授業概要/授業目的	現在、あらゆる場面でコンピュータの利用が欠かせなくなっている。特に、オフィスソフトは、あらゆる業種で仕事に欠かせないものになっている。本講義では、オフィスソフトに関する基礎知識や基本操作を習得することを目的とする。講義では、アプリケーションソフト（Word, Excel, PowerPoint）を利用した課題に取り組む。
授業計画	<p>1 情報処理演習室の利用方法とコンピュータの基本操作、情報化社会とリテラシー</p> <p>2 ソフトウェアの基本操作、Wordの基礎1（各部の名称）、タイピング練習</p>

	3	Wordの基礎 2 (ページ設定、文書入力、スタイル)
	4	Wordの基礎 3 (表の作成、SmartArtグラフィック)
	5	Wordの基礎 4 (図の作成、ヘッダーとフッター)
	6	Wordの基礎 5 (段組み、数式)
	7	Excelの基礎 1 (入力方法、オートフィル、書式設定)
	8	Excelの基礎 2 (絶対参照と相対参照、表の拡張)
	9	Excelの基礎 3 (関数、グラフの作成)
	10	Excelの基礎 4 (表計算の応用)
	11	PowerPointの基礎
	12	最終課題の作成 1 (配布資料の作成)
	13	最終課題の作成 2 (発表資料の作成)
	14	最終課題の発表
	15	最終課題の発表 (第 1 4 回で未発表者) と本講義のまとめ
到達目標	本講義では、オフィスソフトに関する基礎知識及び基本操作を習得することを到達目標に指導する。	
予習内容/復習内容	次回の講義について、教科書を事前に読んで確認しておくこと。 課題は、講義内では完了しないことが多いので、講義外でも課題に取り組むこと。	
教科書	切田節子ら「Microsoft Office2021を使った 情報リテラシーの基礎」, 近代科学者	
成績評価	Word課題 (20%)、Excel課題 (20%)、PowerPoint課題 (10%)、最終課題 (50%)	
実務経験	なし	
その他特記事項	なし	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	全学年	2 単位	選択
担当教員			
笠 浩一郎			
		講義	
添付ファイル			

ディプロマ・ポリシー	<p>大学DP</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 創造性豊かな人間性と優れた専門性を身につけた学生 <input type="checkbox"/> 2. 実社会で活躍できる知的・人間的資質を身につけた学生 <input type="checkbox"/> 3. 地域社会を主体的に担う態度を身につけた学生 <input checked="" type="checkbox"/> 4. 国際社会に対する理解とコミュニケーション能力や情報社会に対応できる能力を身につけた学生 <p>法経科第1部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 法律・政治・経済・経営など社会科学の基幹分野に関する基本的な知識を修得し、最新の学問的到達についても一定の理解をもっている。 <input type="checkbox"/> 2. 現代社会の諸問題について、専門的知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 <input type="checkbox"/> 3. 修得した学識を職業生活上の実践的課題に適用することができる。 <input checked="" type="checkbox"/> 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 <input checked="" type="checkbox"/> 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>法経科第2部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 社会科学について広く基礎的な素養を身につけている。 <input type="checkbox"/> 2. 現代社会の諸問題について、学修した知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 <input type="checkbox"/> 3. 多様な目的意識を持つ幅広い年齢層の学生がともに学生生活を送ることを通じて、豊かな人間関係を構築できるコミュニケーション能力を身につけている。 <input checked="" type="checkbox"/> 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 <input type="checkbox"/> 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>食物栄養学科食物栄養学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 栄養士として必要な食に関する幅広い専門知識と技能を有している。 <input type="checkbox"/> 2. 食と健康に関する様々な課題に対して、科学的根拠に基づいた多面的・総合的な理解及び判断ができる。 <input checked="" type="checkbox"/> 3. 豊かな教養、高い倫理観、優れたコミュニケーション力を備え、栄養士として適切な栄養管理・指導を実践できる。 <input type="checkbox"/> 4. 習得した専門知識と技能を基に、地域社会と連携して食と健康の分野で主体的に活躍できる能力を備えている。 <p>生活科学学科生活科学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 「いのち」と「くらし」に関わるニーズが多様化する社会にあって、それらについての基礎的な教養を身につけている。 <input type="checkbox"/> 2. 生活福祉・心理コースにあっては、社会福祉学と心理学を総合した視点に立って、社会や人間に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 <input type="checkbox"/> 3. 居住環境コースにあっては、住生活や環境という視点に立って、生活環境に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 <input checked="" type="checkbox"/> 4. 高い公共性と倫理性を備え、地域や社会に主体的、積極的に貢献していこうとする態度が身につけている。 <p>※<input checked="" type="checkbox"/>が該当項目</p>
------------	--

授業概要/授業目的	現在の情報社会では、インターネットを日常生活で利用することは必要不可欠になっている。加えて、数理・データサイエンス・AIは、今後のデジタル社会の基礎知識として捉えられている。そこで本講義は、インターネット、数理・データサイエンス・AIのリテラシーに関して学ぶことを目的に、以下の二つの内容を扱う。一つ目は、インターネットにおける情報倫理・リテラシーに関することである。他人の権利を侵すことなく、互いが快適に過ごすためのインターネットの活用方法を解説する。二つ目は、数理・データサイエンス・AIに関することである。数理・データサイエンス・AIを活用した事例を紹介する。また、数理・データサイエンス・AIの利活用にあたり、留意すべき事項について解説する。さらに、データを適切に収集、分析するために、データリテラシーに関して学ぶ。
授業計画	1 ガイダンス、情報技術の進歩と社会で起きている変化（ビッグデータ、IoT、生成AIなど）

	2	インターネットの仕組み
	3	インターネットの利用におけるマナー
	4	社会で活用されているデータと情報技術
	5	AIの歴史と現在のデータ・AI活用領域の広がり
	6	データ・AI利活用のための技術（データ解析、データ可視化など）
	7	データ・AI・情報技術の利活用の現場（データサイエンスのサイクル）
	8	データ・AI・情報技術の利活用の最新動向（生成AIの仕組みなど）
	9	データ・AI・情報技術を扱う上での留意事項1（個人情報とプライバシー）
	10	データ・AI・情報技術を扱う上での留意事項2（知的財産権とメディアリテラシー）
	11	データを守る上での留意事項1（ネットワーク不法行為）
	12	データを守る上での留意事項2（情報技術とセキュリティ）
	13	データを読む（データの種類、データの分布、データを読む上での基礎知識）
	14	データを説明する（データの表現、データの比較、不適切なグラフ表現、優れた可視化事例の紹介）
	15	データを扱う（データの取得、データの集計、データの並び替え）
到達目標	本講義は、現在の情報社会で求められる「インターネット、及び、数理・データサイエンス・A Iに関する知識」と、「インターネット、及び、数理・データサイエンス・A Iを扱う上で求められる情報倫理」を習得することを到達目標とする。	
予習内容/復習内容	授業の最後に次回の講義の内容の一部を紹介するので、予習しておくこと。前回の復習の小テストを毎回実施するので、復習しておくように。	
教科書	資料を毎回配布する。参考文献は講義内で紹介する。	
成績評価	4回（第5回、第9回、第10回、第12回）の小テスト（80%）、課題（20%）	
実務経験	なし	
その他特記事項	なし	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	全学年	2 単位	選択
担当教員			
石川 拓次			
	講義		
添付ファイル			

ディプロマ・ポリシー	<p>大学DP</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 創造性豊かな人間性と優れた専門性を身につけた学生 <input checked="" type="checkbox"/> 2. 実社会で活躍できる知的・人間的資質を身につけた学生 <input type="checkbox"/> 3. 地域社会を主体的に担う態度を身につけた学生 <input type="checkbox"/> 4. 国際社会に対する理解とコミュニケーション能力や情報社会に対応できる能力を身につけた学生 <p>法経科第1部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 法律・政治・経済・経営など社会科学の基幹分野に関する基本的な知識を修得し、最新の学問的到達についても一定の理解をもっている。 <input type="checkbox"/> 2. 現代社会の諸問題について、専門的知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 <input type="checkbox"/> 3. 修得した学識を職業生活上の実践的課題に適用することができる。 <input checked="" type="checkbox"/> 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 <input type="checkbox"/> 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>法経科第2部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 社会科学について広く基礎的な素養を身につけている。 <input type="checkbox"/> 2. 現代社会の諸問題について、学修した知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 <input type="checkbox"/> 3. 多様な目的意識を持つ幅広い年齢層の学生がともに学生生活を送ることを通じて、豊かな人間関係を構築できるコミュニケーション能力を身につけている。 <input checked="" type="checkbox"/> 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 <input type="checkbox"/> 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>食物栄養学科食物栄養学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 栄養士として必要な食に関する幅広い専門知識と技能を有している。 <input type="checkbox"/> 2. 食と健康に関する様々な課題に対して、科学的根拠に基づいた多面的・総合的な理解及び判断ができる。 <input checked="" type="checkbox"/> 3. 豊かな教養、高い倫理観、優れたコミュニケーション力を備え、栄養士として適切な栄養管理・指導を実践できる。 <input type="checkbox"/> 4. 習得した専門知識と技能を基に、地域社会と連携して食と健康の分野で主体的に活躍できる能力を備えている。 <p>生活科学科生活科学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> 1. 「いのち」と「暮らし」に関わるニーズが多様化する社会にあって、それらについての基礎的な教養を身につけている。 <input type="checkbox"/> 2. 生活福祉・心理コースにあっては、社会福祉学と心理学を総合した視点に立って、社会や人間に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 <input type="checkbox"/> 3. 居住環境コースにあっては、住生活や環境という視点に立って、生活環境に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 <input checked="" type="checkbox"/> 4. 高い公共性と倫理性を備え、地域や社会に主体的、積極的に貢献していこうとする態度が身につけている。 <p>※■が該当項目</p>
------------	---

授業概要/授業目的	本講義では、身体のしくみを知り、効率的に運動することの重要性を理解し、身体活動を通して、社会性、協調性、コミュニケーション力を身につけることの必要性について学ぶ。さらに、スポーツ文化に親しみ、スポーツが多文化共生とどのように関わっているかペア討議を通して理解することを目的とする。
授業計画	<p>1 第1回 オリエンテーション・コンセンサスゲーム</p> <p>2 第2回 健康とは？</p> <p>3 第3回 身体の仕組み（内科編）</p>

	4	第4回 内科的疾患①生活習慣病
	5	第5回 内科的疾患②がん・感染症
	6	第6回 身体の仕組み（運動器編）
	7	第7回 トレーニングと健康（骨格筋と運動）
	8	第8回 トレーニングと健康（呼吸循環器と運動）
	9	第9回 こどもとスポーツ
	10	第10回 高齢者とスポーツ
	11	第11回 女性とスポーツ
	12	第12回 スポーツ外傷・障害の基礎
	13	第13回 スポーツと栄養
	14	第14回 スポーツに関わる諸問題
	15	第15回 スポーツイベント
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・トレーニングに関する知識を理解することができる。（知識・理解） ・健康・疾患と生活習慣の関係について考えることができる。（思考・判断） ・スポーツイベントやスポーツに関する諸問題について考えることができる。（思考・判断） 	
予習内容/復習内容	各講義ごとに出される講義内容に関連した事前課題および事後課題に取り組み提出を行う。（各回90分程度）	
教科書	指定しない	
成績評価	定期試験（筆記）試験は行わない。 課題レポート（50%）、授業時の提出物（50%） 評価基準：課題レポートは受講生の到達目標すべてに対応して、学修到達度を最終的に確認するためのものである。授業時の提出物は授業内容を踏まえて的確に自分の考えを記述しているかを評価する。	
実務経験	なし	
その他特記事項	なし	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	全学年	1 単位	選択
担当教員			
石川 拓次			
		講義	
添付ファイル			

ディプロマ・ポリシー	<p>大学DP</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 創造性豊かな人間性と優れた専門性を身につけた学生 <input checked="" type="checkbox"/> 2. 実社会で活躍できる知的・人間的資質を身につけた学生 <input type="checkbox"/> 3. 地域社会を主体的に担う態度を身につけた学生 <input type="checkbox"/> 4. 国際社会に対する理解とコミュニケーション能力や情報社会に対応できる能力を身につけた学生 <p>法経科第1部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 法律・政治・経済・経営など社会科学の基幹分野に関する基本的な知識を修得し、最新の学問的到達についても一定の理解をもっている。 <input type="checkbox"/> 2. 現代社会の諸問題について、専門的知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 <input type="checkbox"/> 3. 修得した学識を職業生活上の実践的課題に適用することができる。 <input checked="" type="checkbox"/> 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 <input type="checkbox"/> 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>法経科第2部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 社会科学について広く基礎的な素養を身につけている。 <input type="checkbox"/> 2. 現代社会の諸問題について、学修した知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 <input type="checkbox"/> 3. 多様な目的意識を持つ幅広い年齢層の学生がともに学生生活を送ることを通じて、豊かな人間関係を構築できるコミュニケーション能力を身につけている。 <input checked="" type="checkbox"/> 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 <input type="checkbox"/> 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>食物栄養学科食物栄養学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 栄養士として必要な食に関する幅広い専門知識と技能を有している。 <input type="checkbox"/> 2. 食と健康に関する様々な課題に対して、科学的根拠に基づいた多面的・総合的な理解及び判断ができる。 <input checked="" type="checkbox"/> 3. 豊かな教養、高い倫理観、優れたコミュニケーション力を備え、栄養士として適切な栄養管理・指導を実践できる。 <input type="checkbox"/> 4. 習得した専門知識と技能を基に、地域社会と連携して食と健康の分野で主体的に活躍できる能力を備えている。 <p>生活科学科生活科学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 「いのち」と「暮らし」に関わるニーズが多様化する社会にあって、それらについての基礎的な教養を身につけている。 <input type="checkbox"/> 2. 生活福祉・心理コースにあっては、社会福祉学と心理学を総合した視点に立って、社会や人間に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 <input type="checkbox"/> 3. 居住環境コースにあっては、住生活や環境という視点に立って、生活環境に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 <input checked="" type="checkbox"/> 4. 高い公共性と倫理性を備え、地域や社会に主体的、積極的に貢献していこうとする態度が身につけている。 <p>※■が該当項目</p>
------------	--

授業概要/授業目的	様々な球技、レクリエーションゲームに親しみ、スポーツの楽しさを体感し、その特性を理解する。また、運動やトレーニングを通して、自らの健康管理や体力作りの方法を習得するとともに、運動を習慣化する態度を身につける。さらにスポーツを通して、社会性、協調性、コミュニケーション力を身につけ、自らの人生におけるスポーツの意義について受講生全体でディスカッションを行い、生涯スポーツの基礎を作る。
授業計画	<p>1 オリエンテーション・体力測定</p> <p>2 バドミントン (1) 基本的なストローク</p>

	3	バドミントン (2) シングルス総当たり戦1
	4	バドミントン (3) ダブルス総当たり戦2
	5	バスケットボール (1) 基本動作 (パス, ドリブル, シュート)
	6	バスケットボール (2) 男女別の試合
	7	バスケットボール (3) 男女混合の試合
	8	バレーボール (1) 基本動作 (アンダー・オーバーハンド) ソフトバレーボール
	9	バレーボール (2) ソフトバレーボールによる試合
	10	バレーボール (3) バレーボールによる試合
	11	卓球 (1) 基本的なストロークの練習・シングルス
	12	卓球 (2) シングルス総当たり戦1
	13	ニュースポーツ (1) インディアカ
	14	ニュースポーツ (2) アルティメット
	15	体力測定・まとめ
到達目標	①	健康の保持増進に加えて、スポーツを通して心身の調和について理解することができる。(知識・理解)
	②	それぞれのライフスタイルに応じたスポーツ活動を考え、参加することができる。(思考・判断)
	③	生涯スポーツを自主的にプランニングする能力と態度を養うことができる。(思考・判断)
予習内容/復習内容		【予習】 授業で行う種目について、インターネットや図書でルール等を調べる。(毎回90分程度) 【復習】 実施された講義内容についてのリフレクションシートを作成する。(毎回90分程度)
教科書		指定しない
成績評価		定期試験(筆記)は行わない。 授業への積極的態 度 30% 体力測定 40% レポート 30% 評価基準: 体力測定は受講生の到達目標すべてに対応して、学修到達度を最終的に確認するためのテストである。レポート課題は、授業内容を踏まえて的確に自己表現できているかを評価する。
実務経験		
その他特記事項		なし

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	全学年	2 単位	選択
担当教員			
狩野 幹人			
	講義		
添付ファイル			

ディプロマ・ポリシー	<p>大学DP</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 創造性豊かな人間性と優れた専門性を身につけた学生 <input checked="" type="checkbox"/> 2. 実社会で活躍できる知的・人間的資質を身につけた学生 <input type="checkbox"/> 3. 地域社会を主体的に担う態度を身につけた学生 <input type="checkbox"/> 4. 国際社会に対する理解とコミュニケーション能力や情報社会に対応できる能力を身につけた学生 <p>法経科第1部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 法律・政治・経済・経営など社会科学の基幹分野に関する基本的な知識を修得し、最新の学問的到達についても一定の理解をもっている。 <input type="checkbox"/> 2. 現代社会の諸問題について、専門的知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 <input type="checkbox"/> 3. 修得した学識を職業生活上の実践的課題に適用することができる。 <input checked="" type="checkbox"/> 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 <input checked="" type="checkbox"/> 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>法経科第2部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 社会科学について広く基礎的な素養を身につけている。 <input type="checkbox"/> 2. 現代社会の諸問題について、学修した知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 <input type="checkbox"/> 3. 多様な目的意識を持つ幅広い年齢層の学生がともに学生生活を送ることを通じて、豊かな人間関係を構築できるコミュニケーション能力を身につけている。 <input checked="" type="checkbox"/> 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 <input type="checkbox"/> 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>食物栄養学科食物栄養学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 栄養士として必要な食に関する幅広い専門知識と技能を有している。 <input type="checkbox"/> 2. 食と健康に関する様々な課題に対して、科学的根拠に基づいた多面的・総合的な理解及び判断ができる。 <input checked="" type="checkbox"/> 3. 豊かな教養、高い倫理観、優れたコミュニケーション力を備え、栄養士として適切な栄養管理・指導を実践できる。 <input type="checkbox"/> 4. 習得した専門知識と技能を基に、地域社会と連携して食と健康の分野で主体的に活躍できる能力を備えている。 <p>生活科学科生活科学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> 1. 「いのち」と「暮らし」に関わるニーズが多様化する社会にあって、それらについての基礎的な教養を身につけている。 <input type="checkbox"/> 2. 生活福祉・心理コースにあっては、社会福祉学と心理学を総合した視点に立って、社会や人間に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 <input type="checkbox"/> 3. 居住環境コースにあっては、住生活や環境という視点に立って、生活環境に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 <input checked="" type="checkbox"/> 4. 高い公共性と倫理性を備え、地域や社会に主体的、積極的に貢献していこうとする態度が身につけている。 <p>※■が該当項目</p>
------------	--

授業概要/授業目的	<p>生命科学 (Life Science) は、21世紀の科学技術を担う重点分野の1つである。2003年、ヒトの遺伝子の解読が終了したが、「いのち」の仕組みの全てが解明されたわけではない。遺伝子外の領域に着目したエピジェネティクス、免疫などの生体防御機構をはじめ、その解明が待たれる研究は現在も世界で継続されている。また、環境問題、生物の多様性などを考えるうえでも、生物学・生命科学の知識が必要となる。本講義では、生物の基本構造である「細胞」と「細胞」内に存在する「分子」に焦点をあてる。「細胞」内の「分子」のうち、とくにタンパク質を中心とした機能・役割、細胞から多細胞生物個体への展開、細胞間の情報交換についても解説を加えることにより、生物学の基本的な枠組みを理解してもらいたい。</p>
授業計画	1 ガイダンス (科学とは？自然科学とは？生命科学とは？を中心に)

	2	細胞の構造
	3	細胞の形質、機能
	4	細胞の活動
	5	タンパク質の役割
	6	多細胞生物への展開 (1) -細胞間の情報交換
	7	多細胞生物への展開 (2) -体細胞分裂とDNAの複製
	8	免疫システム (1) -生体防御機構の概要
	9	免疫システム (2) -T細胞と細胞性免疫
	10	免疫システム (3) -B細胞と体液性免疫
	11	細胞の再生と死
	12	環境の認識、調節
	13	生物の進化と多様性、生物多様性条約とは
	14	生命科学と知的財産 (1) -知的財産とは
	15	生命科学と知的財産 (2) -生命科学の発展と知的財産の役割
到達目標	①地球上の生物全体に対するマクロな視点と、生物個々の現象に対するミクロな視点を持つ。 ②生物学、生命科学の成り立ちについて、物理学や化学の知識も使いながら、歴史的に捉えられる。 ③生物の基本構造である「細胞」内に存在する「分子」の機能・役割を科学的に理解、説明できる。	
予習内容/復習内容	予習：教科書の該当ページや図表に目を通すなど。 復習：ノートを整理するなどし、講義内容を暗記するのではなく、理解すること。	
教科書	「基礎から学ぶ生物学・細胞生物学（第4版）、和田勝、羊土社（2020）」を教科書として用いる。 また講義において、参考文献を紹介するほか、必要な補足資料を随時配布する。	
成績評価	①毎回出席をとる（講義終了時に、講義で理解したこと、感想・質問を記入した出席票を提出してもらう）。出席率が3分の2以上の者を成績評価の対象とする。 ②その上で、レポート（2回を予定）により成績を評価する。全体で100%。	
実務経験	2022年度から「ナショナルバイオリソースプロジェクト（文部科学省）」における分担機関の課題管理者として従事。グローバルな視点での生物、遺伝資源、それらの多様性についても解説する。	
その他特記事項	単なる内容の暗記ではなく、科学的に理解・考えてもらえるよう工夫したい。	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	全学年	2 単位	選択
担当教員			
狩野 幹人			
	講義		
添付ファイル			

ディプロマ・ポリシー	<p>大学DP</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 創造性豊かな人間性と優れた専門性を身につけた学生 <input checked="" type="checkbox"/> 2. 実社会で活躍できる知的・人間的資質を身につけた学生 <input type="checkbox"/> 3. 地域社会を主体的に担う態度を身につけた学生 <input type="checkbox"/> 4. 国際社会に対する理解とコミュニケーション能力や情報社会に対応できる能力を身につけた学生 <p>法経科第1部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 法律・政治・経済・経営など社会科学の基幹分野に関する基本的な知識を修得し、最新の学問的到達についても一定の理解をもっている。 <input type="checkbox"/> 2. 現代社会の諸問題について、専門的知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 <input type="checkbox"/> 3. 修得した学識を職業生活上の実践的課題に適用することができる。 <input checked="" type="checkbox"/> 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 <input checked="" type="checkbox"/> 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>法経科第2部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 社会科学について広く基礎的な素養を身につけている。 <input type="checkbox"/> 2. 現代社会の諸問題について、学修した知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 <input type="checkbox"/> 3. 多様な目的意識を持つ幅広い年齢層の学生がともに学生生活を送ることを通じて、豊かな人間関係を構築できるコミュニケーション能力を身につけている。 <input checked="" type="checkbox"/> 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 <input type="checkbox"/> 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>食物栄養学科食物栄養学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 栄養士として必要な食に関する幅広い専門知識と技能を有している。 <input type="checkbox"/> 2. 食と健康に関する様々な課題に対して、科学的根拠に基づいた多面的・総合的な理解及び判断ができる。 <input checked="" type="checkbox"/> 3. 豊かな教養、高い倫理観、優れたコミュニケーション力を備え、栄養士として適切な栄養管理・指導を実践できる。 <input type="checkbox"/> 4. 習得した専門知識と技能を基に、地域社会と連携して食と健康の分野で主体的に活躍できる能力を備えている。 <p>生活科学科生活科学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 「いのち」と「暮らし」に関わるニーズが多様化する社会にあって、それらについての基礎的な教養を身につけている。 <input type="checkbox"/> 2. 生活福祉・心理コースにあっては、社会福祉学と心理学を総合した視点に立って、社会や人間に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 <input type="checkbox"/> 3. 居住環境コースにあっては、住生活や環境という視点に立って、生活環境に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 <input checked="" type="checkbox"/> 4. 高い公共性と倫理性を備え、地域や社会に主体的、積極的に貢献していこうとする態度が身につけている。 <p>※■が該当項目</p>
------------	---

授業概要/授業目的	1985年アメリカ発のプロパテント（知的財産、とくに特許重視）を経て、2004年からは、アメリカやヨーロッパ、日本をはじめとするプロイノベーション（イノベーション重視）の時代となった。イノベーション（創造的破壊と新結合、価値形成）の形態は多種多様であるが、その1つは科学・技術に立脚している。本講義では、「科学」のうち、とくに自然を対象とした「自然科学」とは何か？について、その歴史も含めて焦点をあてる。また、「科学」「自然科学」と「技術」との関係について、「技術」とは何か？も含めて解説する。さらに、「科学・技術」を保護するための知的財産や、「科学・技術」の発展の基盤となる「倫理」との関係についても解説する。
授業計画	1 ガイダンス（科学とは？科学の誕生）

	2	科学と自然科学
	3	近代科学のはじまり－宗教と科学、中世ヨーロッパ、大学
	4	技術とは（１）－科学と技術の関係を中心として
	5	技術とは（２）－産業革命後の科学・技術の発展
	6	知的財産とは
	7	科学・技術と知的財産（１）－科学・技術の発展と知的財産の役割
	8	科学・技術と知的財産（２）－第三次産業革命（IT革命）後の知的財産の役割
	9	イノベーションとは
	10	科学・技術とイノベーション（１）－イノベーションと技術革新
	11	科学・技術とイノベーション（２）－プロイノベーションとは？
	12	日本における科学・技術の発展とイノベーション
	13	科学・技術と経済安全保障
	14	科学・技術と倫理（１）－法と倫理、研究・開発における法令遵守
	15	科学・技術と倫理（２）－研究・開発におけるリスクマネジメント、研究インテグリティ、研究セキュリティ
到達目標	①「科学」「技術」の本質およびそれらの相互の関係について理解するとともに、「科学・技術」への発展について、歴史的に捉えられる。 ②「科学・技術」およびそれを保護する知的財産がイノベーションに果たす役割について理解する。 ③「科学・技術」に関する法令や倫理について理解する。	
予習内容/復習内容	予習：講義において紹介する文献などに目を通すなど。 復習：ノートを整理するなどし、講義内容を暗記するのではなく、理解すること。	
教科書	教科書は使用しない。必要な資料を、講義の中で随時配布する。 参考文献としては、「科学・技術と現代社会 上・下、池内了、みすず書房（2014）」「イノベーションのジレンマ、C. M. クリステンセン、翔泳社（2001）」などが挙げられる。	
成績評価	①毎回出席をとる（講義終了時に、講義で理解したこと、感想・質問を記入した出席票を提出してもらう）。出席率が3分の2以上の者を成績評価の対象とする。 ②その上で、レポート（2回を予定）により成績を評価する。全体で100%。	
実務経験	大学の産学連携・知的財産部門において研究と実務に従事するほか、大学院においてイノベーションに関する講義や研究指導に従事。東京高等裁判所専門委員（知財訴訟。知的財産高等裁判所、東京・大阪地方裁判所 担当）、安全保障貿易自主管理促進アドバイザー（経済産業省）、研究インテグリティに係る調査・分析検討委員（内閣府）も兼務。知的財産や安全保障に関する実例についても解説する。	
その他特記事項	内容の暗記ではなく、理解・考えてもらえるよう工夫したい。	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	全学年	2 単位	選択
担当教員			
高橋 彩			
	講義		
添付ファイル			

ディプロマ・ポリシー	<p>大学DP</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 創造性豊かな人間性と優れた専門性を身につけた学生 <input checked="" type="checkbox"/> 2. 実社会で活躍できる知的・人間的資質を身につけた学生 <input type="checkbox"/> 3. 地域社会を主体的に担う態度を身につけた学生 <input type="checkbox"/> 4. 国際社会に対する理解とコミュニケーション能力や情報社会に対応できる能力を身につけた学生 <p>法経科第1部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 法律・政治・経済・経営など社会科学の基幹分野に関する基本的な知識を修得し、最新の学問的到達についても一定の理解をもっている。 <input type="checkbox"/> 2. 現代社会の諸問題について、専門的知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 <input type="checkbox"/> 3. 修得した学識を職業生活上の実践的課題に適用することができる。 <input checked="" type="checkbox"/> 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 <input checked="" type="checkbox"/> 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>法経科第2部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 社会科学について広く基礎的な素養を身につけている。 <input type="checkbox"/> 2. 現代社会の諸問題について、学修した知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 <input type="checkbox"/> 3. 多様な目的意識を持つ幅広い年齢層の学生がともに学生生活を送ることを通じて、豊かな人間関係を構築できるコミュニケーション能力を身につけている。 <input checked="" type="checkbox"/> 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 <input type="checkbox"/> 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>食物栄養学科食物栄養学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 栄養士として必要な食に関する幅広い専門知識と技能を有している。 <input type="checkbox"/> 2. 食と健康に関する様々な課題に対して、科学的根拠に基づいた多面的・総合的な理解及び判断ができる。 <input checked="" type="checkbox"/> 3. 豊かな教養、高い倫理観、優れたコミュニケーション力を備え、栄養士として適切な栄養管理・指導を実践できる。 <input type="checkbox"/> 4. 習得した専門知識と技能を基に、地域社会と連携して食と健康の分野で主体的に活躍できる能力を備えている。 <p>生活科学科生活科学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 「いのち」と「暮らし」に関わるニーズが多様化する社会にあって、それらについての基礎的な教養を身につけている。 <input checked="" type="checkbox"/> 2. 生活福祉・心理コースにあっては、社会福祉学と心理学を総合した視点に立って、社会や人間に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 <input type="checkbox"/> 3. 居住環境コースにあっては、住生活や環境という視点に立って、生活環境に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 <input checked="" type="checkbox"/> 4. 高い公共性と倫理性を備え、地域や社会に主体的、積極的に貢献していこうとする態度が身につけている。 <p>※<input checked="" type="checkbox"/>が該当項目</p>
------------	--

授業概要/授業目的	心理学は一般に生活体（人や動物）の行動の科学と言われている。行動は人の内的要因とその人がおかれている環境的要因によって決まるが、こうした行動を引き起こすような心の仕組みや働きを科学的に明らかにし、人間そのものの理解を目指す学問が心理学といえる。この講義では、心理学の各分野の基本的概念について紹介する。心理学の基本的な考え方や、研究方法やその背景などを理解することを目的とする。
授業計画	<p>1 心理学とはどのような学問か</p> <p>2 知覚（大きさの恒常性、錯視）</p>

	3	学習（古典的条件づけ、オペラント条件づけ、観察学習）
	4	記憶（短期記憶、長期記憶、記憶の変容）
	5	動機づけ（内発的動機づけ、外発的動機づけ、自己効力）
	6	感情（感情の機能、ストレス）
	7	パーソナリティ（パーソナリティの調べ方、ビッグ・ファイブ理論）
	8	臨床 精神的健康
	9	知能（知能検査とIQ）
	10	思考（推論、ヒューリスティックス）
	11	対人認知（印象形成、対人魅力）
	12	発達（遺伝と環境）
	13	集団1（社会的促進と抑制、集団規範、同調）
	14	集団2（リーダーシップ、態度変容）
	15	心理学の応用
到達目標	①心理学の基本的な概念、用語を説明できる。 ②人間の行動や心の働きについて、心理学的な視点から理解できる。	
予習内容/復習内容	予習：講義中に指示した文献を読む 復習：授業課題で分からなかった部分を調べる	
教科書	二宮克美（編著）2017 ベーシック心理学第2版 医歯薬出版 ISBN978-4-263-42223-6	
成績評価	定期試験70%と授業内での課題レポート30%で評価する。	
実務経験		
その他特記事項		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	全学年	2 単位	選択
担当教員			
南 有哲			
		講義	
添付ファイル			

ディプロマ・ポリシー	<p>大学DP</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 創造性豊かな人間性と優れた専門性を身につけた学生 <input checked="" type="checkbox"/> 2. 実社会で活躍できる知的・人間的資質を身につけた学生 <input type="checkbox"/> 3. 地域社会を主体的に担う態度を身につけた学生 <input type="checkbox"/> 4. 国際社会に対する理解とコミュニケーション能力や情報社会に対応できる能力を身につけた学生 <p>法経科第1部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 法律・政治・経済・経営など社会科学の基幹分野に関する基本的な知識を修得し、最新の学問的到達についても一定の理解をもっている。 <input type="checkbox"/> 2. 現代社会の諸問題について、専門的知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 <input type="checkbox"/> 3. 修得した学識を職業生活上の実践的課題に適用することができる。 <input checked="" type="checkbox"/> 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 <input checked="" type="checkbox"/> 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>法経科第2部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 社会科学について広く基礎的な素養を身につけている。 <input type="checkbox"/> 2. 現代社会の諸問題について、学修した知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 <input type="checkbox"/> 3. 多様な目的意識を持つ幅広い年齢層の学生がともに学生生活を送ることを通じて、豊かな人間関係を構築できるコミュニケーション能力を身につけている。 <input checked="" type="checkbox"/> 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 <input type="checkbox"/> 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>食物栄養学科食物栄養学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 栄養士として必要な食に関する幅広い専門知識と技能を有している。 <input type="checkbox"/> 2. 食と健康に関する様々な課題に対して、科学的根拠に基づいた多面的・総合的な理解及び判断ができる。 <input checked="" type="checkbox"/> 3. 豊かな教養、高い倫理観、優れたコミュニケーション力を備え、栄養士として適切な栄養管理・指導を実践できる。 <input type="checkbox"/> 4. 習得した専門知識と技能を基に、地域社会と連携して食と健康の分野で主体的に活躍できる能力を備えている。 <p>生活科学科生活科学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 「いのち」と「暮らし」に関わるニーズが多様化する社会にあって、それらについての基礎的な教養を身につけている。 <input type="checkbox"/> 2. 生活福祉・心理コースにあっては、社会福祉学と心理学を総合した視点に立って、社会や人間に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 <input checked="" type="checkbox"/> 3. 居住環境コースにあっては、住生活や環境という視点に立って、生活環境に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 <input checked="" type="checkbox"/> 4. 高い公共性と倫理性を備え、地域や社会に主体的、積極的に貢献していこうとする態度が身につけている。 <p>※<input checked="" type="checkbox"/>が該当項目</p>
------------	--

授業概要/授業目的	環境問題は今日、人類が直面する最重要課題のひとつであるとみなされるに至っている。本講義においては、気候変動、生物多様性、原子力問題という3つの大きなテーマについて概観することで、環境問題にかかわるニュースを理解し、環境問題について市民として考察し、発言や行動することを可能ならしめるための、基本的な知識を講じるものである。
授業計画	<p>1 はじめに——講義内容の概要説明</p> <p>2 気候変動のメカニズム——温室効果とは何か</p>

	3	気候変動のメカニズム—気候システムについて
	4	気候変動の現状と憂慮される未来
	5	再生可能エネルギー概観…そのメリットとデメリットについて
	6	地球温暖化懐疑論を考える
	7	生物多様性と生物進化
	8	生物多様性と生態系サービス
	9	生物多様性破壊の現状と背景
	10	生物多様性破壊がもたらすもの
	11	核エネルギーとは何か——核分裂と核融合
	12	核エネルギーとは何か——原子力発電の仕組み
	13	核燃料サイクルについて
	14	放射線と、その人体・環境への影響について
	15	原発と地震・津波
到達目標	気候変動、生物多様性破壊や原子力問題についての基礎的知識を獲得し、新聞やテレビ・ニュースサイトで報道される内容の基本的な部分が理解できるようになること。	
予習内容/復習内容	予習に関しては、あらかじめ配布した資料の次回該当部分の提示を受け、学習する。復習に関しては、毎回小レポートで当日の講義の振り返りを行い、疑問・質問について次回講義で回答を受ける。	
教科書	教科書は使用せず、適宜資料を配布する。	
成績評価	毎回小レポート…50% 定期テスト…50%	
実務経験	なし	
その他特記事項		

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	全学年	2単位	選択
担当教員			
伊藤 信也			
	講義		
添付ファイル			

ディプロマ・ポリシー	<p>大学DP</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 創造性豊かな人間性と優れた専門性を身につけた学生 <input checked="" type="checkbox"/> 2. 実社会で活躍できる知的・人間的資質を身につけた学生 <input type="checkbox"/> 3. 地域社会を主体的に担う態度を身につけた学生 <input type="checkbox"/> 4. 国際社会に対する理解とコミュニケーション能力や情報社会に対応できる能力を身につけた学生 <p>法経科第1部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 法律・政治・経済・経営など社会科学の基幹分野に関する基本的な知識を修得し、最新の学問的到達についても一定の理解をもっている。 <input type="checkbox"/> 2. 現代社会の諸問題について、専門的知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 <input type="checkbox"/> 3. 修得した学識を職業生活上の実践的課題に適用することができる。 <input checked="" type="checkbox"/> 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 <input checked="" type="checkbox"/> 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>法経科第2部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 社会科学について広く基礎的な素養を身につけている。 <input type="checkbox"/> 2. 現代社会の諸問題について、学修した知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 <input type="checkbox"/> 3. 多様な目的意識を持つ幅広い年齢層の学生がともに学生生活を送ることを通じて、豊かな人間関係を構築できるコミュニケーション能力を身につけている。 <input checked="" type="checkbox"/> 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 <input type="checkbox"/> 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>食物栄養学科食物栄養学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 栄養士として必要な食に関する幅広い専門知識と技能を有している。 <input type="checkbox"/> 2. 食と健康に関する様々な課題に対して、科学的根拠に基づいた多面的・総合的な理解及び判断ができる。 <input checked="" type="checkbox"/> 3. 豊かな教養、高い倫理観、優れたコミュニケーション力を備え、栄養士として適切な栄養管理・指導を実践できる。 <input type="checkbox"/> 4. 習得した専門知識と技能を基に、地域社会と連携して食と健康の分野で主体的に活躍できる能力を備えている。 <p>生活科学科生活科学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> 1. 「いのち」と「暮らし」に関わるニーズが多様化する社会にあって、それらについての基礎的な教養を身につけている。 <input type="checkbox"/> 2. 生活福祉・心理コースにあっては、社会福祉学と心理学を総合した視点に立って、社会や人間に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 <input type="checkbox"/> 3. 居住環境コースにあっては、住生活や環境という視点に立って、生活環境に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 <input checked="" type="checkbox"/> 4. 高い公共性と倫理性を備え、地域や社会に主体的、積極的に貢献していこうとする態度が身につけている。 <p>※■が該当項目</p>
------------	--

授業概要/授業目的	<p>1. この科目では、基本的人権と差別の問題を考えていきます。人権とは何か、人権はなぜ重要なのか、私たちの人権の実態はどのようになっているのか、その歴史と現状について考えていきます。基本的人権という考え方は、フランス人権宣言などにおいて明文化されてきましたが、こうした人権の歴史的な形成の経過を学ぶとともに、その内容の発展を知ること、人権の普遍的な意味を考えたいと思います。</p> <p>2. テーマ別に現代の差別問題について考えていきます。どのテーマから取り上げるかは講義開始時にお知らせしますが、人種差別、性差別、国籍差別、部落差別、「障害者」差別など、世界と日本の様々な差別問題を取り上げる予定です。理解を深めるために、随時映像資料を上映する予定です。</p>
授業計画	1 講義概説：現代社会と人権

	2	基本的人権の成立史：トーマス・ホッブズの思想と近代人権概念の誕生
	3	基本的人権の成立史：宗教改革と自由
	4	基本的人権の成立史：近代的人権の特徴と課題
	5	基本的人権の成立史：フランス人権宣言への批判者たち
	6	基本的人権の成立史：人権から取り残された女性たちのたたかい
	7	基本的人権の成立史：人権から取り残された「植民地」「先住民」の実態
	8	基本的人権の成立史：現代の人権思想の到達点と課題
	9	現代の差別問題：人種差別の歴史と現在～アメリカの場合～
	10	現代の差別問題：「障害者」差別と優生思想～「ナチス」ドイツ、そして日本でも～
	11	現代の差別問題：現代の性差別～「女性差別」から「ジェンダー平等」へ～
	12	現代の差別問題：在日外国人差別と「ヘイトスピーチ」問題
	13	現代の差別問題：「部落」差別問題の構造
	14	現代の差別問題：感染症の差別問題の歴史
	15	21世紀の人権問題への視点を考える
到達目標		①学生は、人権問題の歴史を正しく知り、人権概念の基本的知識を身につけることができる。 ②学生は、現代の差別問題の基本的様相を理解することができる。 ③学生は、「デマ」や「フェイクニュース」に流されず、正確な知識と根拠を知って人権や差別問題と向き合うことができる。
予習内容/復習内容		予習：事前に指示した資料や参考文献に目を通しておく。 復習：毎回、ミニレポートで当日の講義の振り返りを行う。前回のミニレポートについて次回の講義で受講生の意見や質問に答える。
教科書		なし（毎回プリントを配布）。必要な資料等もプリントで配布します。その他、参考文献等は講義中に指示します。
成績評価		1. 講義中に実施する「ミニレポート」（意見提出。配点は約40%） 2. 講義の最終日に提出する「期末レポート」（配点は約40%） 3. 積極的な受講姿勢（配点は約20%）
実務経験		なし
その他特記事項		1. 歴史（特に世界史）の知識の多寡は問いません。 2. 講義は可能な限り工夫して進めていきます。映像資料はドキュメンタリー・ビデオなどを予定しています。 3. 人権問題や差別問題に関心のある受講生の積極的な参加と、教室環境の保持を求めます。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	全学年	2 単位	選択
担当教員			
望月 秀人			
	講義		
添付ファイル			

ディプロマ・ポリシー	<p>大学DP</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 創造性豊かな人間性と優れた専門性を身につけた学生 <input checked="" type="checkbox"/> 2. 実社会で活躍できる知的・人間的資質を身につけた学生 <input type="checkbox"/> 3. 地域社会を主体的に担う態度を身につけた学生 <input type="checkbox"/> 4. 国際社会に対する理解とコミュニケーション能力や情報社会に対応できる能力を身につけた学生 <p>法経科第1部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 法律・政治・経済・経営など社会科学の基幹分野に関する基本的な知識を修得し、最新の学問的到達についても一定の理解をもっている。 <input type="checkbox"/> 2. 現代社会の諸問題について、専門的知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 <input type="checkbox"/> 3. 修得した学識を職業生活上の実践的課題に適用することができる。 <input checked="" type="checkbox"/> 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 <input type="checkbox"/> 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>法経科第2部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 社会科学について広く基礎的な素養を身につけている。 <input type="checkbox"/> 2. 現代社会の諸問題について、学修した知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 <input type="checkbox"/> 3. 多様な目的意識を持つ幅広い年齢層の学生がともに学生生活を送ることを通じて、豊かな人間関係を構築できるコミュニケーション能力を身につけている。 <input checked="" type="checkbox"/> 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 <input type="checkbox"/> 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>食物栄養学科食物栄養学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 栄養士として必要な食に関する幅広い専門知識と技能を有している。 <input type="checkbox"/> 2. 食と健康に関する様々な課題に対して、科学的根拠に基づいた多面的・総合的な理解及び判断ができる。 <input checked="" type="checkbox"/> 3. 豊かな教養、高い倫理観、優れたコミュニケーション力を備え、栄養士として適切な栄養管理・指導を実践できる。 <input type="checkbox"/> 4. 習得した専門知識と技能を基に、地域社会と連携して食と健康の分野で主体的に活躍できる能力を備えている。 <p>生活科学科生活科学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 「いのち」と「暮らし」に関わるニーズが多様化する社会にあって、それらについての基礎的な教養を身につけている。 <input type="checkbox"/> 2. 生活福祉・心理コースにあっては、社会福祉学と心理学を総合した視点に立って、社会や人間に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 <input type="checkbox"/> 3. 居住環境コースにあっては、住生活や環境という視点に立って、生活環境に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 <input checked="" type="checkbox"/> 4. 高い公共性と倫理性を備え、地域や社会に主体的、積極的に貢献していこうとする態度が身につけている。 <p>※■が該当項目</p>
------------	--

授業概要/授業目的	西洋近代は明治時代以来、長らく日本にとっては追いつくべき模範でしたが、現在ではそうした西洋中心主義は批判され、むしろ他地域と対等に比較すべき一対象となっています。本講義ではそうした状況を踏まえつつ、西洋近代社会の成り立ちと展開を概説的に講義することで、日本にとって何を見習うべきであり、何を見習うべきでないのか、学生の皆さんと考えていきたいと思ひます。
授業計画	<p>1 ガイダンス：歴史学とは</p> <p>2 大航海時代と世界の一体化</p>

	3	宗教改革と宗派分裂
	4	宗教戦争と世俗化
	5	中世の封建制
	6	中世封建制から近世の「絶対王政」へ
	7	「絶対王政」の意義と限界
	8	フランス革命の勃発
	9	「市民革命」と近代国家
	10	革命とナショナリズムの時代
	11	工業化とその影響
	12	第一次世界大戦の衝撃
	13	戦後処理方法の変化
	14	大恐慌とファシズム
	15	近代という時代について
到達目標	西洋近代史の大きな流れを理解でき、日本社会との比較や現代とのつながりが理解できる。	
予習内容/復習内容	予習内容は、新聞等で時事問題への関心をもつこと。あとは、授業内容の復習をしてください。	
教科書	テキストは特に定めません。毎回のレジュメに掲載されている出典を参考にして下さい。ただ、山川出版社の高校世界史教科書程度のもは持っていた方が良いでしょう。	
成績評価	定期試験60%、レポート40%で判断します。試験は紙媒体持ち込み可の論述試験で、講義内容に即して回答するものとします。レポートについては講義の際に説明します。6回以上の欠席はその時点で単位を失うものとします。	
実務経験		
その他特記事項	言うまでもなく、講義中の私語や徘徊は原則禁止とします。学生としてふさわしい受講態度をとるようにして下さい。また、時事ネタ等を通じて、社会の課題に敏感になるようにして下さい。	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	全学年	2 単位	選択
担当教員			
吉本 陵			
		講義	
添付ファイル			

ディプロマ・ポリシー	<p>大学DP</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 創造性豊かな人間性と優れた専門性を身につけた学生 <input checked="" type="checkbox"/> 2. 実社会で活躍できる知的・人間的資質を身につけた学生 <input type="checkbox"/> 3. 地域社会を主体的に担う態度を身につけた学生 <input type="checkbox"/> 4. 国際社会に対する理解とコミュニケーション能力や情報社会に対応できる能力を身につけた学生 <p>法経科第1部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 法律・政治・経済・経営など社会科学の基幹分野に関する基本的な知識を修得し、最新の学問的到達についても一定の理解をもっている。 <input type="checkbox"/> 2. 現代社会の諸問題について、専門的知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 <input type="checkbox"/> 3. 修得した学識を職業生活上の実践的課題に適用することができる。 <input checked="" type="checkbox"/> 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 <input type="checkbox"/> 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>法経科第2部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 社会科学について広く基礎的な素養を身につけている。 <input type="checkbox"/> 2. 現代社会の諸問題について、学修した知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 <input type="checkbox"/> 3. 多様な目的意識を持つ幅広い年齢層の学生がともに学生生活を送ることを通じて、豊かな人間関係を構築できるコミュニケーション能力を身につけている。 <input checked="" type="checkbox"/> 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 <input type="checkbox"/> 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>食物栄養学科食物栄養学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 栄養士として必要な食に関する幅広い専門知識と技能を有している。 <input type="checkbox"/> 2. 食と健康に関する様々な課題に対して、科学的根拠に基づいた多面的・総合的な理解及び判断ができる。 <input checked="" type="checkbox"/> 3. 豊かな教養、高い倫理観、優れたコミュニケーション力を備え、栄養士として適切な栄養管理・指導を実践できる。 <input type="checkbox"/> 4. 習得した専門知識と技能を基に、地域社会と連携して食と健康の分野で主体的に活躍できる能力を備えている。 <p>生活科学科生活科学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> 1. 「いのち」と「暮らし」に関わるニーズが多様化する社会にあって、それらについての基礎的な教養を身につけている。 <input type="checkbox"/> 2. 生活福祉・心理コースにあっては、社会福祉学と心理学を総合した視点に立って、社会や人間に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 <input type="checkbox"/> 3. 居住環境コースにあっては、住生活や環境という視点に立って、生活環境に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 <input checked="" type="checkbox"/> 4. 高い公共性と倫理性を備え、地域や社会に主体的、積極的に貢献していこうとする態度が身につけている。 <p>※■が該当項目</p>
------------	---

授業概要/授業目的	現代の科学技術は私たちの社会に大きな影響を与え続けています。この授業では科学技術が私たちの（誕生と死を含む）生命に与える影響に焦点を当て、科学技術時代における生と死の意味という問題について哲学的に考察することを試みます。
授業計画	<p>1 ガイダンス&イントロダクション</p> <p>2 哲学的・倫理的なものの考え方（1）功利主義と義務論</p> <p>3 哲学的・倫理的なものの考え方（2）理論を学ぶ意味</p>

	4	現代社会と動物の問題（1）ペットについて
	5	現代社会と動物の問題（2）家畜について
	6	現代社会と動物の問題（3）肉食について
	7	出生前診断と優生思想（1）医療倫理の原則
	8	出生前診断と優生思想（2）出生前診断の歴史と現状
	9	出生前診断と優生思想（3）旧優生保護法と内なる優生思想
	10	脳死臓器移植の倫理（1）脳死について
	11	脳死臓器移植の倫理（2）脳死臓器移植について
	12	未来に対する責任（1）核燃料サイクルの問題
	13	未来に対する責任（2）高レベル放射性廃棄物処分の経緯と現状
	14	未来に対する責任（3）高レベル放射性廃棄物処分の課題
	15	未来に対する責任（4）「100,000年後の安全」は可能か？
到達目標	科学技術が私たちの（誕生と死を含む）生命に対する影響に関する論点を理解すること。 上記の論点について自ら文献資料を調べ、考えたことを論述できるようになること。	
予習内容/復習内容	予習：学習内容に記載されている用語を調べておくこと。 復習：適宜配布する参考文献表を参考にしながら、毎週配布する講義資料の振り返りをする。	
教科書	教科書は使用しない。参考文献は適宜指示する。	
成績評価	定期試験(80%)に、平常点(20%)を加味して評価する。	
実務経験		
その他特記事項	各回の授業後、講義内容についての基本的な質問に対する解答の提出を求める。平常点はそれをもとに評価する。	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	全学年	2 単位	選択
担当教員			
今本 幸平			
		講義	
添付ファイル			

ディプロマ・ポリシー	<p>大学DP</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 創造性豊かな人間性と優れた専門性を身につけた学生 <input checked="" type="checkbox"/> 2. 実社会で活躍できる知的・人間的資質を身につけた学生 <input type="checkbox"/> 3. 地域社会を主体的に担う態度を身につけた学生 <input type="checkbox"/> 4. 国際社会に対する理解とコミュニケーション能力や情報社会に対応できる能力を身につけた学生 <p>法経科第1部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 法律・政治・経済・経営など社会科学の基幹分野に関する基本的な知識を修得し、最新の学問的到達についても一定の理解をもっている。 <input type="checkbox"/> 2. 現代社会の諸問題について、専門的知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 <input type="checkbox"/> 3. 修得した学識を職業生活上の実践的課題に適用することができる。 <input checked="" type="checkbox"/> 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 <input type="checkbox"/> 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>法経科第2部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 社会科学について広く基礎的な素養を身につけている。 <input type="checkbox"/> 2. 現代社会の諸問題について、学修した知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 <input type="checkbox"/> 3. 多様な目的意識を持つ幅広い年齢層の学生がともに学生生活を送ることを通じて、豊かな人間関係を構築できるコミュニケーション能力を身につけている。 <input checked="" type="checkbox"/> 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 <input type="checkbox"/> 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>食物栄養学科食物栄養学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 栄養士として必要な食に関する幅広い専門知識と技能を有している。 <input type="checkbox"/> 2. 食と健康に関する様々な課題に対して、科学的根拠に基づいた多面的・総合的な理解及び判断ができる。 <input checked="" type="checkbox"/> 3. 豊かな教養、高い倫理観、優れたコミュニケーション力を備え、栄養士として適切な栄養管理・指導を実践できる。 <input type="checkbox"/> 4. 習得した専門知識と技能を基に、地域社会と連携して食と健康の分野で主体的に活躍できる能力を備えている。 <p>生活科学科生活科学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 「いのち」と「暮らし」に関わるニーズが多様化する社会にあって、それらについての基礎的な教養を身につけている。 <input type="checkbox"/> 2. 生活福祉・心理コースにあっては、社会福祉学と心理学を総合した視点に立って、社会や人間に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 <input type="checkbox"/> 3. 居住環境コースにあっては、住生活や環境という視点に立って、生活環境に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 <input checked="" type="checkbox"/> 4. 高い公共性と倫理性を備え、地域や社会に主体的、積極的に貢献していこうとする態度が身につけている。 <p>※■が該当項目</p>
------------	--

授業概要/授業目的	この講義ではヨーロッパの有名な文学作品を取り上げます。時代も国も、私たちからは遠く離れた作品ですが、そこに描かれる人間の姿は、現代の私たちにも通じる部分が多々あると思います。とはいえ、何の手がかりもなく読んで分りにくい部分も出てくると思います。講義では、適宜画像などの資料も使いながら、作者、当時の時代背景、文化など、周辺の事柄も視野にいれつつ、作品をより身近に感じて味わうための要点を示してゆきたいと思います。
授業計画	<p>1 ガイダンス（講義概要、イタロ・カルヴィーノ『なぜ古典を読むのか』）</p> <p>2 シェイクスピア『ロミオとジュリエット』第1幕一出会い</p>

	3	シェイクスピア『ロミオとジュリエット』第2幕—バルコニー・シーン
	4	シェイクスピア『ロミオとジュリエット』第3幕—波乱の始まり
	5	シェイクスピア『ロミオとジュリエット』第4、5幕—死と和解
	6	シェイクスピア『夏の夜の夢』第1幕—森へ行く人々
	7	シェイクスピア『夏の夜の夢』第2、3幕—妖精のいたずら
	8	シェイクスピア『夏の夜の夢』第4、5幕—大団円
	9	ドイツの民衆本『ティルオイレンシュピーゲルのゆかいないたずら』
	10	シェリー『フランケンシュタイン』①怪物の誕生
	11	シェリー『フランケンシュタイン』②人間を追う怪物
	12	シェリー『フランケンシュタイン』③怪物を追う人間
	13	メリメ『カルメン』
	14	デュマ・フィス『椿姫』①出会いと別れ
	15	デュマ・フィス『椿姫』②別れの理由
到達目標	①文学作品に親しみ、読書を楽しめるようになる。 ②読んだ作品の要約や意見などを、分かりやすい文章で伝えられるようになる。	
予習内容/復習内容	予習：自分が楽しく読める文学作品を見つける。（作者は不問） 復習：講義で紹介した作品を読む。	
教科書	教科書は使用せず、資料（本文の抜粋）を配布する。	
成績評価	学期末の筆記試験70%、毎回のコメント30%。欠席が5回を超えた場合は成績評価の対象外。講義開始20分以降の入室は欠席扱いとする（列車遅延等の不可抗力は除く）。	
実務経験		
その他特記事項	取り上げる作品と講義の順序は予告なく変更する場合がある。 「文学Ⅰ」と「文学Ⅱ」はどちらを先に履修しても構わない。どちらか一つだけの履修も可。	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	全学年	2単位	選択
担当教員			
今本 幸平			
		講義	
添付ファイル			

ディプロマ・ポリシー	<p>大学DP</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 創造性豊かな人間性と優れた専門性を身につけた学生 <input checked="" type="checkbox"/> 2. 実社会で活躍できる知的・人間的資質を身につけた学生 <input type="checkbox"/> 3. 地域社会を主体的に担う態度を身につけた学生 <input type="checkbox"/> 4. 国際社会に対する理解とコミュニケーション能力や情報社会に対応できる能力を身につけた学生 <p>法経科第1部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 法律・政治・経済・経営など社会科学の基幹分野に関する基本的な知識を修得し、最新の学問的到達についても一定の理解をもっている。 <input type="checkbox"/> 2. 現代社会の諸問題について、専門的知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 <input type="checkbox"/> 3. 修得した学識を職業生活上の実践的課題に適用することができる。 <input checked="" type="checkbox"/> 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 <input type="checkbox"/> 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>法経科第2部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 社会科学について広く基礎的な素養を身につけている。 <input type="checkbox"/> 2. 現代社会の諸問題について、学修した知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 <input type="checkbox"/> 3. 多様な目的意識を持つ幅広い年齢層の学生がともに学生生活を送ることを通じて、豊かな人間関係を構築できるコミュニケーション能力を身につけている。 <input checked="" type="checkbox"/> 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 <input type="checkbox"/> 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>食物栄養学科食物栄養学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 栄養士として必要な食に関する幅広い専門知識と技能を有している。 <input type="checkbox"/> 2. 食と健康に関する様々な課題に対して、科学的根拠に基づいた多面的・総合的な理解及び判断ができる。 <input checked="" type="checkbox"/> 3. 豊かな教養、高い倫理観、優れたコミュニケーション力を備え、栄養士として適切な栄養管理・指導を実践できる。 <input type="checkbox"/> 4. 習得した専門知識と技能を基に、地域社会と連携して食と健康の分野で主体的に活躍できる能力を備えている。 <p>生活科学科生活科学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 「いのち」と「暮らし」に関わるニーズが多様化する社会にあって、それらについての基礎的な教養を身につけている。 <input type="checkbox"/> 2. 生活福祉・心理コースにあっては、社会福祉学と心理学を総合した視点に立って、社会や人間に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 <input type="checkbox"/> 3. 居住環境コースにあっては、住生活や環境という視点に立って、生活環境に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 <input checked="" type="checkbox"/> 4. 高い公共性と倫理性を備え、地域や社会に主体的、積極的に貢献していこうとする態度が身につけている。 <p>※■が該当項目</p>
------------	--

授業概要/授業目的	この講義ではドイツ語圏の文学作品を取り上げます。難しそうな印象があるかもしれませんが、文学の読み方に正解はないので、皆さんの理解が及ぶ範囲で、等身大の読み方をしてください。講義では文学作品をすこしでも身近に感じてもらえるように、適宜映像などの資料も使い、作者、当時の社会背景、文化などの周辺事情も視野に入れて、作品の紹介をしてゆきます。
授業計画	<p>1 ガイダンス（講義概要、文章作成上の注意点）</p> <p>2 ゲーテ『若きウェルテルの悩み』第1部一恋の苦しみ</p>

	3	ゲーテ『若きウェルテルの悩み』第2部—新天地での苦しみ
	4	ドイツの民衆本『ファウスト博士』
	5	ゲーテ『ファウスト 悲劇』第1部前半—学者悲劇
	6	ゲーテ『ファウスト 悲劇』第1部後半—グレートヒェン悲劇
	7	ゲーテ『魔王』
	8	グリム童話
	9	シャミッソー『影をなくした男』
	10	ホフマン『砂男』
	11	シュペーリ『ハイジの修業遍歴時代』
	12	シュペーリ『ハイジは習ったことを役立てる』
	13	カフカ『変身』
	14	シュリンク『朗読者』第1部—出会い、朗読、別れ
	15	シュリンク『朗読者』第2、3部—秘密
到達目標	①文学作品に親しみ、読書を楽しめるようになる。 ②読んだ作品の要約や意見などを、分かりやすい文章で伝えられるようになる。	
予習内容/復習内容	予習：自分が楽しく読める文学作品を見つける。（作者は不問） 復習：講義で紹介した作品を読む。	
教科書	教科書は使用せず、資料（本文の抜粋）を配布する。	
成績評価	学期末の筆記試験70%、毎回のコメント30%。欠席が5回を超えた場合は成績評価の対象外。講義開始20分以降の入室は欠席扱いとする（列車遅延等の不可抗力は除く）。	
実務経験		
その他特記事項	取り上げる作品と講義の順序は予告なく変更する可能性がある。 「文学Ⅰ」と「文学Ⅱ」はどちらを先に履修しても構わない。どちらか一つだけの履修も可。	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	全学年	2単位	選択
担当教員			
嶋田宏司			
	講義		
添付ファイル			

ディプロマ・ポリシー	<p>大学DP</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 創造性豊かな人間性と優れた専門性を身につけた学生 <input checked="" type="checkbox"/> 2. 実社会で活躍できる知的・人間的資質を身につけた学生 <input type="checkbox"/> 3. 地域社会を主体的に担う態度を身につけた学生 <input type="checkbox"/> 4. 国際社会に対する理解とコミュニケーション能力や情報社会に対応できる能力を身につけた学生 <p>法経科第1部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 法律・政治・経済・経営など社会科学の基幹分野に関する基本的な知識を修得し、最新の学問的到達についても一定の理解をもっている。 <input type="checkbox"/> 2. 現代社会の諸問題について、専門的知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 <input type="checkbox"/> 3. 修得した学識を職業生活上の実践的課題に適用することができる。 <input checked="" type="checkbox"/> 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 <input checked="" type="checkbox"/> 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>法経科第2部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 社会科学について広く基礎的な素養を身につけている。 <input type="checkbox"/> 2. 現代社会の諸問題について、学修した知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 <input type="checkbox"/> 3. 多様な目的意識を持つ幅広い年齢層の学生がともに学生生活を送ることを通じて、豊かな人間関係を構築できるコミュニケーション能力を身につけている。 <input checked="" type="checkbox"/> 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 <input type="checkbox"/> 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>食物栄養学科食物栄養学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 栄養士として必要な食に関する幅広い専門知識と技能を有している。 <input type="checkbox"/> 2. 食と健康に関する様々な課題に対して、科学的根拠に基づいた多面的・総合的な理解及び判断ができる。 <input checked="" type="checkbox"/> 3. 豊かな教養、高い倫理観、優れたコミュニケーション力を備え、栄養士として適切な栄養管理・指導を実践できる。 <input type="checkbox"/> 4. 習得した専門知識と技能を基に、地域社会と連携して食と健康の分野で主体的に活躍できる能力を備えている。 <p>生活科学科生活科学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 「いのち」と「くらし」に関わるニーズが多様化する社会にあって、それらについての基礎的な教養を身につけている。 <input type="checkbox"/> 2. 生活福祉・心理コースにあっては、社会福祉学と心理学を総合した視点に立って、社会や人間に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 <input type="checkbox"/> 3. 居住環境コースにあっては、住生活や環境という視点に立って、生活環境に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 <input checked="" type="checkbox"/> 4. 高い公共性と倫理性を備え、地域や社会に主体的、積極的に貢献していこうとする態度が身につけている。 <p>※■が該当項目</p>
------------	---

授業概要/授業目的	1850年頃からヨーロッパ、特にフランスで起こったレアリズム（写実主義）から印象主義への展開を概観したあと、印象主義を取り入れた日本の洋画に目を転じます。この明治期の日本の洋画界では留学組の黒田清輝をリーダーとして、印象主義を穏やかな写実主義に取り合わせた絵画が主流として現れます。日本の洋画家たちは、さらにヨーロッパにおける他の美術（アール・ヌーヴォー、ポスト印象主義、フォーヴィスム、キュビズム）を研究しながら、新しい表現を次々に開発していきます。授業では、より詳しい美術史については時間的に難しいのですが、よく知られている印象主義の技術的・理論的側面を知り、明治・大正期の画家たちの努力や新発想を理解してもらえることと思います。この授業の過程で、作品をしっかりと観察する、その内容を言葉にする、という作業もあわせて行います。
授業計画	1 レアリズム（写実主義）そしてギュスターヴ・クールベ 授業の初回として、レアリズムという美術史用語について「写実主義」ないしは「自然主義」の

2	<p>解説から始めます。そして続く印象主義までが、この考え方で理解できること、さらに明治期の日本にフランスへの留学を通じて、西洋近代の絵画が本格的に入ってくることを説明します。これらのフランス近代の絵画では、風景画をおもに扱います。そうして日本の洋画界において、この「写実」を乗り越えて自由な個人の感性と創意に発した美術が展開してゆくことを概説します。このような前段階からいよいよ個人の画家の作品を観察してゆくことにします。第1回目はギュスターヴ・クールベです。</p> <p>2 ギュスターヴ・クールベ：初期代表作品の観察 クールベの初期の代表的な作品を詳細に観察します。作品を「詳しく観察する」ことで、絵というものの主題内容を把握・理解するということが可能である、と気づいてもらうことが初回の主眼です。そしてクールベに関連する資料も引きながら、彼独自のリアリズム（写実主義）を考察します。</p> <p>3 バルビゾン派（1）：森林地帯の風景を描いた画家たち クールベとも交流があった、バルビゾン派の画家たちを扱います。ここには約七人の画家がいるので、そのうちから二ないし三人を選んで授業で扱います。バルビゾン派は森林地帯の村バルビゾンに暮らして、主に風景画を描きました。彼らの自然風景の扱い方を観察し、この画家たちと関わっていた若い世代の中から、どうして印象主義の画家たちが出てきたのか、それを考えることがバルビゾン派を取り上げる理由です。</p> <p>4 バルビゾン派（2）：水辺の風景を描いた画家たち バルビゾン派との付き合いがあり、水面のある風景の描き方に特徴のあるウジェーヌ・ブーダン、ヨハン・バルトルト・ヨンキントを取り上げます。そのことで次の印象派へのつながり、つまり色彩の新技法が確立される前段階を作品の中に見出していきます。</p> <p>5 クロード・モネ（1）：モネと印象主義の要点 印象主義を生涯にわたって追求した画家、クロード・モネを取り上げます。まずは略歴を紹介し、印象主義的特徴を明確にしてゆくモネの制作の要点をつかみます。</p> <p>6 クロード・モネ（2）：印象主義的技法（色調分割）の確立 モネの初期作品を観察しながら、やがて印象主義へとつながってゆく、彼の風景の観察方法について考察します。この回でとくに重要なことは、モネと友人のオーギュスト・ルノワールによって新しい色彩の技法が確立されてゆくことです。この理論的な内容と作品をもとにした実践の様子を見てゆきます。</p> <p>7 黒田清輝（1）：初期作品の観察—西洋式の人体デッサンの習得と発展、そして外光派 法律を学ぶためにフランスに留学しながら、途中で画家に転向した黒田清輝ですが、当時主流となりつつあったリアリズムと印象主義を経験します。彼の制作は外光派とも呼ばれる、印象主義的な技法をわずかに取り入れた穏やかな写実でした。しかし、帰国後に東京美術学校の教授職につくと、彼が学んできたフランスの新しい美術を後進に伝え、日本の洋画壇を刷新していきます。この授業計画に書かれてある黒田以降の画家たちは、全て彼と関係がありました。そうした黒田の略歴を紹介し、初期作品を観察してゆきます。</p> <p>8 黒田清輝（2）：日本の画家が西欧的な絵画を制作すること 黒田清輝の前期および後期の代表的な作品を観察し、彼が日本の洋画界に伝えた新しい美術の内容、そして黒田作品のサインの仕方、また人体デッサンの特質から日本の洋画における問題点を考察します。</p> <p>9 藤島武二（1）：年譜とデザイン的な初期作品—西洋と日本の意匠 津の中学校で教鞭を執っていたこともある藤島武二を取り上げます。藤島は黒田清輝に引き立てられて東京美術学校で教授職に就きますが、黒田の芸術を尊重しながらも彼自身の性質に合った作品を創作します。こうした藤島の生涯を概観し、彼の初期制作におけるデザイン的な要素を観察します。</p> <p>10 藤島武二（2）：日本古代文化をテーマにした「洋画」という制作方法 藤島が天平時代の文化を洋画の技法・構成で描いた《天平の面影》を中心に観察します。その中で藤島独自の性質を表す創作の特徴を考察します。</p> <p>11 青木繁（1）：初期神話作品、そして西洋美術の刺激 黒田清輝の教え子であり、尊敬してはいたものの、黒田とは異なる独自の芸術構想を抱いて創作を続けた、青木繁の生涯をまず概観します。そして、神話を主題にした作品にオリジナリティーを発揮する、青木の初期作品の観察を行います。</p> <p>12 青木繁（2）：問題作《わだつみのいろこの宮》と西洋的な構図法、そして後期作品の観察・評価 青木の短い画家人生の中でも問題作とされる《わだつみのいろこの宮》を中心に取り上げ、西洋的な描写と構図における独自のアイデアを考察します。この作品の不評を機に、青木は失意の中で放浪生活を送ることになるのですが、それにもかかわらず風景画においては光の感受性に優れ、色彩の感覚はみずみずしさを保ちます。こうした内容を後期の作品に観察してゆきたいと思えます。</p> <p>13 萬鉄五郎（よろず てつごろう）（1）：初期制作の人体デッサンにおける日本洋画界への問題提起 造形（色の塗り方や形の作り方など）において日本の美術に見られなかったフォーヴィスムやキュビズム、また表現主義といった、ヨーロッパの新しい潮流をいち早く取り入れながら、一方で人体形式の描写に日本独自の内容も盛り込もうとした画家、萬の初期作品を紹介します。</p> <p>14 萬鉄五郎（2）：日本的モダニズムのさきがけとなる絵画制作と東洋的な文化への帰帰 萬が人体をキュビズムあるいは構成主義的に描いた後期作品を取り上げて観察し、技法や造形の新しさを考えます。また、萬は東洋的・日本的な南画も手がけるようになってゆきます。そこで日本の洋画家が西洋的な絵画から離れる、という意義も考察したいと思えます。</p> <p>15 授業内容の振り返り これまでの作品観察や主題内容の考察をまとめて、ヨーロッパの初期モダニズムが日本で独自の発展を遂げてきた様を改めて俯瞰したいと思えます。</p>
到達目標	美術作品を前にして、芸術家の表現と意味内容をつかむためにも重要な「自覚的に作品を観察」する方法を知り、より理解を深めるために「観察結果をもとにして作品を記述する（言葉でとらえる）」ということを目標にしたい。この到達度は期末のレポートで問うことにする。
予習内容/復習内容	配布する資料を読み、授業を受けて三重県立美術館や名古屋の美術館を訪れたり、図書館などで知識を定着させ、いっそう芸術についての理解を深めてください。展覧会の紹介もしますので、実作品を見る（これは作品の調査になります）ことに努めてください。

教科書	教科書は使用せず、独自の参考資料を配布する予定です。
成績評価	授業内容に相応する期末レポート90%、授業についての関心の持ち方（授業中のこちらからの質問に対する反応、あるいは終了時になされる質問など）10%。ただし学校の規定にもとづいて、授業回数の3分の1を超える欠席（約6回以上）がある場合には成績評価の対象外となります。
実務経験	
その他特記事項	授業の進度は各時間のテーマの重要度によって異なります。学生の理解の様子に応じて調整しますので、シラバスとは異なる場合があることを承知しておいてください。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	全学年	2 単位	選択
担当教員			
山崎 智博			
	講義		
添付ファイル			

ディプロマ・ポリシー	<p>大学DP</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 創造性豊かな人間性と優れた専門性を身につけた学生 <input type="checkbox"/> 2. 実社会で活躍できる知的・人間的資質を身につけた学生 <input checked="" type="checkbox"/> 3. 地域社会を主体的に担う態度を身につけた学生 <input type="checkbox"/> 4. 国際社会に対する理解とコミュニケーション能力や情報社会に対応できる能力を身につけた学生 <p>法経科第1部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 法律・政治・経済・経営など社会科学の基幹分野に関する基本的な知識を修得し、最新の学問的到達についても一定の理解をもっている。 <input type="checkbox"/> 2. 現代社会の諸問題について、専門的知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 <input type="checkbox"/> 3. 修得した学識を職業生活上の実践的課題に適用することができる。 <input checked="" type="checkbox"/> 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 <input checked="" type="checkbox"/> 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>法経科第2部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 社会科学について広く基礎的な素養を身につけている。 <input type="checkbox"/> 2. 現代社会の諸問題について、学修した知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 <input type="checkbox"/> 3. 多様な目的意識を持つ幅広い年齢層の学生がともに学生生活を送ることを通じて、豊かな人間関係を構築できるコミュニケーション能力を身につけている。 <input type="checkbox"/> 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 <input checked="" type="checkbox"/> 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>食物栄養学科食物栄養学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 栄養士として必要な食に関する幅広い専門知識と技能を有している。 <input type="checkbox"/> 2. 食と健康に関する様々な課題に対して、科学的根拠に基づいた多面的・総合的な理解及び判断ができる。 <input checked="" type="checkbox"/> 3. 豊かな教養、高い倫理観、優れたコミュニケーション力を備え、栄養士として適切な栄養管理・指導を実践できる。 <input checked="" type="checkbox"/> 4. 習得した専門知識と技能を基に、地域社会と連携して食と健康の分野で主体的に活躍できる能力を備えている。 <p>生活科学科生活科学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 「いのち」と「暮らし」に関わるニーズが多様化する社会にあって、それらについての基礎的な教養を身につけている。 <input type="checkbox"/> 2. 生活福祉・心理コースにあっては、社会福祉学と心理学を総合した視点に立って、社会や人間に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 <input type="checkbox"/> 3. 居住環境コースにあっては、住生活や環境という視点に立って、生活環境に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 <input checked="" type="checkbox"/> 4. 高い公共性と倫理性を備え、地域や社会に主体的、積極的に貢献していこうとする態度が身につけている。 <p>※■が該当項目</p>
------------	--

授業概要/授業目的	三重県の近現代史を都市や地域の形成過程を中心にして見ていく。三重県内には様々な特徴を持った都市・地域が存在している。そのような都市・地域が形成されてきた歴史的背景を知ることによりそれぞれの都市や地域の特徴を理解していけるようになるだけでなく、現在抱えている様々な問題を理解していけるようになってもらいたい。
授業計画	<p>1 三重県の近現代（オリエンテーション）</p> <p>2 明治の三重：三重県の誕生と市制町村制の施行</p>

	3	明治の三重：鉄道の開設と三重
	4	第1次世界大戦後の三重：県内私鉄鉄道の消長と電化
	5	第1次世界大戦後の三重：都市計画法の実施と三重
	6	昭和恐慌期・戦時体制期の三重：商業の近代化と百貨店・道路交通網の整備・鉄道の建設と統廃合
	7	昭和恐慌期・戦時体制期の三重：都市計画事業の実施と戦争
	8	昭和恐慌期・戦時体制期の三重：戦時下の都市計画
	9	戦後復興期の三重：戦災と戦災復興計画
	10	戦後復興期の三重：復興期の交通
	11	高度成長期の三重：流通の近代化と商店街
	12	高度成長期の三重：鉄道交通と観光開発の進展
	13	低成長期の三重：道路交通網の整備と地域交通
	14	低成長期の三重：大型店の伸張と都市・観光
	15	三重県の近現代史まとめ
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・三重県の都市や地域の形成過程を身につけられるようになる。 ・歴史的な経緯を踏まえて三重県内の都市や地域を理解し説明できるようになる。 	
予習内容/復習内容	予習：講義中に示す文献に目を通す等。 復習：ノートやレジュメ等の見直し等。	
教科書	テキストは使用しない。参考文献は講義中に提示します。	
成績評価	定期試験(80%)、小テスト(20%)で成績評価を行います。 6回以上欠席した場合、試験の受験資格はありません。	
実務経験	なし	
その他特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・地図、写真、映像資料等を適宜使用する予定です。 ・地図、写真、映像資料等を扱うので授業の進度は調整することがあります。 	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	全学年	4	選択
担当教員			
鎌塚 有貴			
	講義		
添付ファイル			

ディプロマ・ポリシー	<p>大学DP</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 1. 創造性豊かな人間性と優れた専門性を身につけた学生 □ 2. 実社会で活躍できる知的・人間的資質を身につけた学生 □ 3. 地域社会を主体的に担う態度を身につけた学生 □ 4. 国際社会に対する理解とコミュニケーション能力や情報社会に対応できる能力を身につけた学生 <p>法経科第1部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 法律・政治・経済・経営など社会科学の基幹分野に関する基本的な知識を修得し、最新の学問的到達についても一定の理解をもっている。 □ 2. 現代社会の諸問題について、専門的知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 □ 3. 修得した学識を職業生活上の実践的課題に適用することができる。 □ 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 □ 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>法経科第2部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 1. 社会科学について広く基礎的な素養を身につけている。 ■ 2. 現代社会の諸問題について、学修した知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 □ 3. 多様な目的意識を持つ幅広い年齢層の学生がともに学生生活を送ることを通じて、豊かな人間関係を構築できるコミュニケーション能力を身につけている。 □ 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 ■ 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>食物栄養学科食物栄養学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 栄養士として必要な食に関する幅広い専門知識と技能を有している。 □ 2. 食と健康に関する様々な課題に対して、科学的根拠に基づいた多面的・総合的な理解及び判断ができる。 □ 3. 豊かな教養、高い倫理観、優れたコミュニケーション力を備え、栄養士として適切な栄養管理・指導を実践できる。 □ 4. 習得した専門知識と技能を基に、地域社会と連携して食と健康の分野で主体的に活躍できる能力を備えている。 <p>生活科学科生活科学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 「いのち」と「暮らし」に関わるニーズが多様化する社会にあって、それらについての基礎的な教養を身につけている。 □ 2. 生活福祉・心理コースにあっては、社会福祉学と心理学を総合した視点に立って、社会や人間に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 □ 3. 居住環境コースにあっては、住生活や環境という視点に立って、生活環境に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 □ 4. 高い公共性と倫理性を備え、地域や社会に主体的、積極的に貢献していこうとする態度が身につけている。 <p>※■が該当項目</p>
------------	---

授業概要/授業目的	本講義では、憲法における人権分野を扱う。日本国憲法および諸外国の憲法を参照しながら、憲法とはなにか、人権とはどういうものなのかを考える。また、憲法上の問題を身近に感じられるようにするため、判例や時事問題を紹介する。憲法を学ぶことに加えて、法体系全体を意識できるようになることを目指す。
授業計画	<p>1 ガイダンス：授業評価、進行について</p> <p>2 国家とは</p>

	3	明治憲法と日本国憲法
	4	人権享有主体
	5	幸福追求権
	6	新しい人権・自己決定権
	7	プライバシーの権利
	8	私人間効力：学説
	9	私人間効力：判例
	10	法の下での平等：学説
	11	法の下での平等：判例
	12	法の下での平等：アファーマティブアクション
	13	思想良心の自由
	14	信教の自由：学説
	15	信教の自由：判例
	16	表現の自由：概説
	17	集会の自由
	18	結社の自由
	19	低価値表現
	20	報道の自由
	21	人身の自由、適正手続
	22	被疑者・被告人の権利
	23	再審・死刑制度
	24	学問の自由、大学の自治
	25	教育を受ける権利
	26	勤労の権利・義務
	27	職業選択の自由、営業の自由
	28	財産権
	29	婚姻に関する権利
	30	まとめ（課題講評など）
到達目標	日本国憲法の構造と人権保障の内容について理解すること。特に、近代立憲主義において人権が果たしてきた重要な役割を意識しながら、現在のグローバル化社会や情報社会における新しい権利保障についても考察できるようにすること。	
予習内容/復習内容	新聞記事やニュース等に目を通しておくこと。	

教科書	加藤一彦・柏崎敏義編『新 憲法判例特選〔第3版〕』（敬文堂、2021年）。
成績評価	期末試験100%。
実務経験	なし
その他特記事項	六法を持参してください。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	全学年	4	選択
担当教員			
杉田 和正			
	講義		
添付ファイル			

ディプロマ・ポリシー	<p>大学DP</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 1. 創造性豊かな人間性と優れた専門性を身につけた学生 □ 2. 実社会で活躍できる知的・人間的資質を身につけた学生 □ 3. 地域社会を主体的に担う態度を身につけた学生 □ 4. 国際社会に対する理解とコミュニケーション能力や情報社会に対応できる能力を身につけた学生 <p>法経科第1部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 法律・政治・経済・経営など社会科学の基幹分野に関する基本的な知識を修得し、最新の学問的到達についても一定の理解をもっている。 □ 2. 現代社会の諸問題について、専門的知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 □ 3. 修得した学識を職業生活上の実践的課題に適用することができる。 □ 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 □ 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>法経科第2部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 1. 社会科学について広く基礎的な素養を身につけている。 ■ 2. 現代社会の諸問題について、学修した知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 □ 3. 多様な目的意識を持つ幅広い年齢層の学生がともに学生生活を送ることを通じて、豊かな人間関係を構築できるコミュニケーション能力を身につけている。 □ 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 ■ 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>食物栄養学科食物栄養学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 栄養士として必要な食に関する幅広い専門知識と技能を有している。 □ 2. 食と健康に関する様々な課題に対して、科学的根拠に基づいた多面的・総合的な理解及び判断ができる。 □ 3. 豊かな教養、高い倫理観、優れたコミュニケーション力を備え、栄養士として適切な栄養管理・指導を実践できる。 □ 4. 習得した専門知識と技能を基に、地域社会と連携して食と健康の分野で主体的に活躍できる能力を備えている。 <p>生活科学科生活科学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 「いのち」と「暮らし」に関わるニーズが多様化する社会にあって、それらについての基礎的な教養を身につけている。 □ 2. 生活福祉・心理コースにあっては、社会福祉学と心理学を総合した視点に立って、社会や人間に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 □ 3. 居住環境コースにあっては、住生活や環境という視点に立って、生活環境に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 □ 4. 高い公共性と倫理性を備え、地域や社会に主体的、積極的に貢献していこうとする態度が身につけている。 <p>※■が該当項目</p>
------------	---

授業概要/授業目的	民法は、私達の市民生活の基本的ルールを定めた法律である。本講義では、受講生が民法を初めて学ぶことに鑑み、民法の概要や基本的事項を説明した上で、民法の総則・物権・担保物権と呼ばれるパートを取り上げる。条文を読んだ時に、その内容を理解できるようになることが目的である。
授業計画	<p>1 民法の歴史と構造</p> <p>2 民法の基本原理</p> <p>3 総則の全体像</p>

	4	自然人、権利能力、意思能力
	5	行為能力、制限行為能力者
	6	法人
	7	法律行為、意思表示
	8	心裡留保
	9	通謀虚偽表示
	10	錯誤
	11	詐欺・強迫
	12	無効・取消し、強行規定・任意規定、公序良俗
	13	代理
	14	表見代理
	15	無権代理
	16	時効、条件・期限
	17	取得時効
	18	消滅時効
	19	物権の意義と種類
	20	物権的請求権
	21	物権変動
	22	不動産物権変動
	23	動産物権変動
	24	占有権
	25	所有権
	26	地上権、永小作権、地役権、入会権
	27	担保物権の概要
	28	抵当権
	29	質権、留置権、先取特権
	30	譲渡担保
到達目標	(1) 民法総則・物権・担保物権に関する基本的知識を身に付ける。 (2) 私達の日常生活上の出来事を法的に考察できるようになる。	
予習内容/復習内容	予習：六法の該当箇所を読む。 復習：配布資料やノートを読み返し、授業内容を定着させる。	
教科書	最新の六法。	

成績評価	期末試験100%
実務経験	
その他特記事項	授業計画は適宜変更の可能性がある。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	全学年	2	選択
担当教員			
木村 義和			
		講義	
添付ファイル			

ディプロマ・ポリシー	<p>大学DP</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 1. 創造性豊かな人間性と優れた専門性を身につけた学生 □ 2. 実社会で活躍できる知的・人間的資質を身につけた学生 □ 3. 地域社会を主体的に担う態度を身につけた学生 □ 4. 国際社会に対する理解とコミュニケーション能力や情報社会に対応できる能力を身につけた学生 <p>法経科第1部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 法律・政治・経済・経営など社会科学の基幹分野に関する基本的な知識を修得し、最新の学問的到達についても一定の理解をもっている。 □ 2. 現代社会の諸問題について、専門的知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 □ 3. 修得した学識を職業生活上の実践的課題に適用することができる。 □ 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 □ 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>法経科第2部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 1. 社会科学について広く基礎的な素養を身につけている。 ■ 2. 現代社会の諸問題について、学修した知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 □ 3. 多様な目的意識を持つ幅広い年齢層の学生がともに学生生活を送ることを通じて、豊かな人間関係を構築できるコミュニケーション能力を身につけている。 □ 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 ■ 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>食物栄養学科食物栄養学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 栄養士として必要な食に関する幅広い専門知識と技能を有している。 □ 2. 食と健康に関する様々な課題に対して、科学的根拠に基づいた多面的・総合的な理解及び判断ができる。 □ 3. 豊かな教養、高い倫理観、優れたコミュニケーション力を備え、栄養士として適切な栄養管理・指導を実践できる。 □ 4. 習得した専門知識と技能を基に、地域社会と連携して食と健康の分野で主体的に活躍できる能力を備えている。 <p>生活科学科生活科学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 「いのち」と「暮らし」に関わるニーズが多様化する社会にあって、それらについての基礎的な教養を身につけている。 □ 2. 生活福祉・心理コースにあっては、社会福祉学と心理学を総合した視点に立って、社会や人間に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 □ 3. 居住環境コースにあっては、住生活や環境という視点に立って、生活環境に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 □ 4. 高い公共性と倫理性を備え、地域や社会に主体的、積極的に貢献していこうとする態度が身につけている。 <p>※■が該当項目</p>
------------	---

授業概要/授業目的	「債権」という言葉を聞くと、何だか難しく思えてしまいますが、債権法で扱う分野は、民法の中でも非常に面白い分野です。「借金の保証人になったらどうなるの?」とか、「商品を買った相手が代金を支払ってくれない。どうすることができる?」など、自分が将来ひょっとしたら同じ場面に遭うかとも思えるような話がたくさん出てきます。このように債権法には民法の財産法の中心となるルールがたくさん規定されています。本講義では、債権総論の重要な制度を重点的に解説します。
授業計画	<p>第1回 債権の目的</p> <p>第2回 債権の種類</p>

	第3回	債務不履行とは何か
	第4回	債務不履行責任の内容
	第5回	履行の強制
	第6回	損害賠償
	第7回	債権者代位権
	第8回	詐害行為取消権
	第9回	可分債権・不可分債権
	第10回	連帯債務
	第11回	保証債務
	第12回	特殊な保証
	第13回	債権譲渡
	第14回	債務引受
	第15回	弁済と相殺
到達目標	債権法の重要な制度を理解して基礎知識が修得できる。	
予習内容/復習内容	予習：レジュメを見ながらテキストの該当箇所を読む。 復習：ノートを見ながら授業内容を整理し、理解する。	
教科書	松岡久和・山田 希・田中洋・福田健太郎、多治川卓朗『新ブリエール民法3 債権総論』（法律文化社）	
成績評価	各回に行う小テスト60%+試験40%で評価する。 小テストは各回の授業の最後に行う。	
実務経験		
その他特記事項	熱意を持って楽しく分かり易い授業をすることをモットーにしています。この授業モットーに賛同し、授業を楽しく受講できる学生はぜひ履修してください。実りある講義になるようにお互い努力しましょうね。	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	全学年	4	選択
担当教員			
直井 剛			
	講義		
添付ファイル			

ディプロマ・ポリシー	<p>大学DP</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 1. 創造性豊かな人間性と優れた専門性を身につけた学生 □ 2. 実社会で活躍できる知的・人間的資質を身につけた学生 □ 3. 地域社会を主体的に担う態度を身につけた学生 □ 4. 国際社会に対する理解とコミュニケーション能力や情報社会に対応できる能力を身につけた学生 <p>法経科第1部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 法律・政治・経済・経営など社会科学の基幹分野に関する基本的な知識を修得し、最新の学問的到達についても一定の理解をもっている。 □ 2. 現代社会の諸問題について、専門的知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 □ 3. 修得した学識を職業生活上の実践的課題に適用することができる。 □ 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 □ 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>法経科第2部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 1. 社会科学について広く基礎的な素養を身につけている。 ■ 2. 現代社会の諸問題について、学修した知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 □ 3. 多様な目的意識を持つ幅広い年齢層の学生がともに学生生活を送ることを通じて、豊かな人間関係を構築できるコミュニケーション能力を身につけている。 □ 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 ■ 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>食物栄養学科食物栄養学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 栄養士として必要な食に関する幅広い専門知識と技能を有している。 □ 2. 食と健康に関する様々な課題に対して、科学的根拠に基づいた多面的・総合的な理解及び判断ができる。 □ 3. 豊かな教養、高い倫理観、優れたコミュニケーション力を備え、栄養士として適切な栄養管理・指導を実践できる。 □ 4. 習得した専門知識と技能を基に、地域社会と連携して食と健康の分野で主体的に活躍できる能力を備えている。 <p>生活科学学科生活科学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 「いのち」と「暮らし」に関わるニーズが多様化する社会にあって、それらについての基礎的な教養を身につけている。 □ 2. 生活福祉・心理コースにあっては、社会福祉学と心理学を総合した視点に立って、社会や人間に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 □ 3. 居住環境コースにあっては、住生活や環境という視点に立って、生活環境に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 □ 4. 高い公共性と倫理性を備え、地域や社会に主体的、積極的に貢献していこうとする態度が身につけている。 <p>※■が該当項目</p>
------------	--

授業概要/授業目的	民法のうち、いわゆる家族法と呼ばれている分野について取り扱います。担当教員が実務家（弁護士）であるため、離婚問題や相続問題など、実生活において問題となりやすいテーマを取り上げたいと考えています。
授業計画	<p>1 オリエンテーション</p> <p>2 親族法をめぐる諸問題①</p> <p>3 親族法をめぐる諸問題②</p>

	4	親族法をめぐる諸問題③
	5	親族法をめぐる諸問題④
	6	親族法をめぐる諸問題⑤
	7	親族法をめぐる諸問題⑥
	8	親族法をめぐる諸問題⑦
	9	親族法をめぐる諸問題⑧
	10	親族法をめぐる諸問題⑨
	11	親族法をめぐる諸問題⑩
	12	親族法をめぐる諸問題⑪
	13	親族法をめぐる諸問題⑫
	14	親族法をめぐる諸問題⑬
	15	理解度確認小テスト（前半）
	16	相続法をめぐる諸問題①
	17	相続法をめぐる諸問題②
	18	相続法をめぐる諸問題③
	19	相続法をめぐる諸問題④
	20	相続法をめぐる諸問題⑤
	21	相続法をめぐる諸問題⑥
	22	相続法をめぐる諸問題⑦
	23	相続法をめぐる諸問題⑧
	24	相続法をめぐる諸問題⑨
	25	相続法をめぐる諸問題⑩
	26	相続法をめぐる諸問題⑪
	27	相続法をめぐる諸問題⑫
	28	相続法をめぐる諸問題⑬
	29	相続法をめぐる諸問題⑭
	30	理解度確認小テスト（後半）
到達目標	家族法分野におけるリーガルマインドの獲得	
予習内容/復習内容	予習は、不要です。 復習は、授業で触れた部分を中心に進めてください。	
教科書	前田陽一・本山敦・浦野由紀子『【REGAL QUEST】民法VI 親族・相続 [第7版]』（有斐閣，2024年） 六法（出版社，判例の有無は問わないので，最新版を用意してください）	
成績評価	出席50% 学年末定期試験50%	

実務経験	2012年弁護士登録 現在, 三重弁護士会所属
その他特記事項	条文を暗記したり, 細かな理論を覚えるというよりは, 社会生活上よく問題となる論点を取り上げる予定です。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	全学年	4	選択
担当教員			
名島 利喜			
	講義		
添付ファイル			

ディプロマ・ポリシー	<p>大学DP</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 1. 創造性豊かな人間性と優れた専門性を身につけた学生 □ 2. 実社会で活躍できる知的・人間的資質を身につけた学生 □ 3. 地域社会を主体的に担う態度を身につけた学生 □ 4. 国際社会に対する理解とコミュニケーション能力や情報社会に対応できる能力を身につけた学生 <p>法経科第1部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 1. 法律・政治・経済・経営など社会科学の基幹分野に関する基本的な知識を修得し、最新の学問的到達についても一定の理解をもっている。 ■ 2. 現代社会の諸問題について、専門的知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 □ 3. 修得した学識を職業生活上の実践的課題に適用することができる。 □ 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 ■ 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>法経科第2部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 社会科学について広く基礎的な素養を身につけている。 □ 2. 現代社会の諸問題について、学修した知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 □ 3. 多様な目的意識を持つ幅広い年齢層の学生がともに学生生活を送ることを通じて、豊かな人間関係を構築できるコミュニケーション能力を身につけている。 □ 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 □ 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>食物栄養学科食物栄養学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 栄養士として必要な食に関する幅広い専門知識と技能を有している。 □ 2. 食と健康に関する様々な課題に対して、科学的根拠に基づいた多面的・総合的な理解及び判断ができる。 □ 3. 豊かな教養、高い倫理観、優れたコミュニケーション力を備え、栄養士として適切な栄養管理・指導を実践できる。 □ 4. 習得した専門知識と技能を基に、地域社会と連携して食と健康の分野で主体的に活躍できる能力を備えている。 <p>生活科学学科生活科学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 「いのち」と「暮らし」に関わるニーズが多様化する社会にあって、それらについての基礎的な教養を身につけている。 □ 2. 生活福祉・心理コースにあっては、社会福祉学と心理学を総合した視点に立って、社会や人間に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 □ 3. 居住環境コースにあっては、住生活や環境という視点に立って、生活環境に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 □ 4. 高い公共性と倫理性を備え、地域や社会に主体的、積極的に貢献していこうとする態度が身につけている。 <p>※■が該当項目</p>
------------	--

授業概要/授業目的	会社の組織と行動に関する基本的なルールを定めている会社法全般について概説を行なう。会社の多くは株式会社形態を採用しているため、株式会社に関する法規制および条文の解釈についての判例・学説の状況を、初学者にも理解できるように説明する。したがって、株式会社法にほぼ限定しながら、法律制度としての「株式会社」に関する基礎知識を提供することを目的とする。
授業計画	オリエンテーション・会社の起源 会社と会社法

	<p>会社—その実態と法的意義</p> <p>会社の権利能力とその制限</p> <p>法人格否認の法理</p> <p>資本金制度と会社債権者保護</p> <p>株式の意義と株主の権利義務</p> <p>株式会社の設立：意義・手続の概要</p> <p>株式会社の設立：法規制</p> <p>株式譲渡自由の原則（株式の自由譲渡性）</p> <p>公開会社と株式の公開</p> <p>株式の譲渡制限</p> <p>自己株式の取得</p> <p>親子会社関係・株式相互保有</p> <p>中間テストおよび試験終了後に前半のまとめ</p> <p>株式会社の機関構造</p> <p>株主総会の意義・実態・権限</p> <p>株主総会の招集・運営</p> <p>株主総会決議の瑕疵</p> <p>取締役の資格・選任・任期</p> <p>取締役会の意義・権限・決議</p> <p>代表取締役の意義・権限・解職</p> <p>取締役の義務と報酬等</p> <p>取締役の法的責任</p> <p>株主代表訴訟＝株主による責任の追及</p> <p>監査役・監査役会・会計監査人</p> <p>指名委員会等設置会社・監査等委員会設置会社</p> <p>株式会社の資金調達に関する規律</p> <p>組織再編・組織変更</p> <p>総括：コーポレート・ガバナンス</p>
到達目標	<p>①会社法の諸制度の趣旨や内容を的確に理解できる。</p> <p>②会社法の諸制度が、経済社会でどのように機能しているのかを説明できる。</p>
予習内容/復習内容	<p>予習：予め指示された箇所をゆっくり読んでみること。</p> <p>復習：講義内容を思い浮かべながら、もう一度ゆっくり読み返すこと。</p>

教科書	近藤光男『現代商法入門〔第11版〕』（有斐閣、2021年）、最新版の六法（小型のものでよい）。
成績評価	中間テスト40%、期末試験60%、合計100%
実務経験	
その他特記事項	日本経済新聞等に目を通したりして、日本の会社経営の実状についても視野を広めてほしい。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	全学年	4	選択
担当教員			
柏崎 早陽子			
		講義	
添付ファイル			

ディプロマ・ポリシー	<p>大学DP</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 1. 創造性豊かな人間性と優れた専門性を身につけた学生 □ 2. 実社会で活躍できる知的・人間的資質を身につけた学生 □ 3. 地域社会を主体的に担う態度を身につけた学生 □ 4. 国際社会に対する理解とコミュニケーション能力や情報社会に対応できる能力を身につけた学生 <p>法経科第1部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 法律・政治・経済・経営など社会科学の基幹分野に関する基本的な知識を修得し、最新の学問的到達についても一定の理解をもっている。 □ 2. 現代社会の諸問題について、専門的知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 □ 3. 修得した学識を職業生活上の実践的課題に適用することができる。 □ 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 □ 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>法経科第2部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 1. 社会科学について広く基礎的な素養を身につけている。 ■ 2. 現代社会の諸問題について、学修した知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 □ 3. 多様な目的意識を持つ幅広い年齢層の学生がともに学生生活を送ることを通じて、豊かな人間関係を構築できるコミュニケーション能力を身につけている。 □ 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 ■ 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>食物栄養学科食物栄養学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 栄養士として必要な食に関する幅広い専門知識と技能を有している。 □ 2. 食と健康に関する様々な課題に対して、科学的根拠に基づいた多面的・総合的な理解及び判断ができる。 □ 3. 豊かな教養、高い倫理観、優れたコミュニケーション力を備え、栄養士として適切な栄養管理・指導を実践できる。 □ 4. 習得した専門知識と技能を基に、地域社会と連携して食と健康の分野で主体的に活躍できる能力を備えている。 <p>生活科学科生活科学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 「いのち」と「暮らし」に関わるニーズが多様化する社会にあって、それらについての基礎的な教養を身につけている。 □ 2. 生活福祉・心理コースにあっては、社会福祉学と心理学を総合した視点に立って、社会や人間に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 □ 3. 居住環境コースにあっては、住生活や環境という視点に立って、生活環境に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 □ 4. 高い公共性と倫理性を備え、地域や社会に主体的、積極的に貢献していこうとする態度が身につけている。 <p>※■が該当項目</p>
------------	---

授業概要/授業目的	刑法は「犯罪」と「刑罰」について定めた法律です。刑法を特徴づける「刑罰」は、究極的には人の生命を奪うものです。このことから、他の法律と比べても刑法・刑罰は厳しい法律・過酷な制裁であると言われています。では、「刑罰」は、どのような場合に科されるのでしょうか？それを知るためには、どのような場合に「犯罪」が成立するかを理解しなければなりません。本講義では「犯罪」の成立に関わる様々な要素について、具体的な事例、学説や判例を用いながら説明します。
授業計画	1 刑法（刑事法）の基礎知識 2 刑法の意義と目的

	3	刑罰の目的、刑罰の種類、謙抑主義
	4	罪刑法定主義
	5	罪刑法定主義の派生原理
	6	犯罪論の体系
	7	構成要件論－犯罪成立のための第 1 段階－
	8	因果関係論
	9	作為と不作為
	10	故意
	11	過失
	12	違法性論－犯罪成立のための第 2 段階－
	13	正当防衛
	14	過剰防衛
	15	緊急避難
	16	正当行為、被害者の同意
	17	有責性－犯罪成立の第 3 段階－
	18	責任能力、原因において自由な行為、期待可能性
	19	錯誤①：具体的事実の錯誤
	20	錯誤②：抽象的事実の錯誤
	21	錯誤③：違法性の錯誤
	22	未遂犯・不能犯
	23	中止犯
	24	共犯論①：共犯の基礎、教唆犯・幫助犯
	25	共犯論②：共同正犯
	26	共犯論③：間接正犯
	27	共犯の諸問題①：片面的共犯・承継的共犯
	28	共犯の諸問題②：共犯関係からの離脱
	29	罪数論
	30	学習内容の総まとめ
到達目標		<ul style="list-style-type: none"> ・刑法の基本原理や基本的な概念を説明することができる。 ・学説や判例を理解し、説明することができる。 ・問題をどのように解決に導くか、自分の考えを論理的に説明することができる。
予習内容/復習内容		<p>【予習】教科書や配布資料等を活用して、各学習内容について調べ、分からない点や疑問点を明らかにする。</p> <p>【復習】教科書、配布資料および小テスト等を用いて、学習内容を復習する。</p>

教科書	六法（最新版のもの）必須。 教科書として、小島秀夫編『刑法総論－理論と実践』（法律文化社、2022年）を指定する。 その他、授業内容に応じて、授業内で適宜紹介する。
成績評価	定期試験（60%）＋小テスト・レポート・授業への出席態度（40%）で評価する。
実務経験	
その他特記事項	刑事政策も受講することが望ましい。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	全学年	4	選択
担当教員			
古畑 淳			
	講義		
添付ファイル			

ディプロマ・ポリシー	<p>大学DP</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 1. 創造性豊かな人間性と優れた専門性を身につけた学生 □ 2. 実社会で活躍できる知的・人間的資質を身につけた学生 □ 3. 地域社会を主体的に担う態度を身につけた学生 □ 4. 国際社会に対する理解とコミュニケーション能力や情報社会に対応できる能力を身につけた学生 <p>法経科第1部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 法律・政治・経済・経営など社会科学の基幹分野に関する基本的な知識を修得し、最新の学問的到達についても一定の理解をもっている。 □ 2. 現代社会の諸問題について、専門的知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 □ 3. 修得した学識を職業生活上の実践的課題に適用することができる。 □ 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 □ 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>法経科第2部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 1. 社会科学について広く基礎的な素養を身につけている。 ■ 2. 現代社会の諸問題について、学修した知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 □ 3. 多様な目的意識を持つ幅広い年齢層の学生がともに学生生活を送ることを通じて、豊かな人間関係を構築できるコミュニケーション能力を身につけている。 □ 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 ■ 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>食物栄養学科食物栄養学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 栄養士として必要な食に関する幅広い専門知識と技能を有している。 □ 2. 食と健康に関する様々な課題に対して、科学的根拠に基づいた多面的・総合的な理解及び判断ができる。 □ 3. 豊かな教養、高い倫理観、優れたコミュニケーション力を備え、栄養士として適切な栄養管理・指導を実践できる。 □ 4. 習得した専門知識と技能を基に、地域社会と連携して食と健康の分野で主体的に活躍できる能力を備えている。 <p>生活科学科生活科学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 「いのち」と「暮らし」に関わるニーズが多様化する社会にあって、それらについての基礎的な教養を身につけている。 □ 2. 生活福祉・心理コースにあっては、社会福祉学と心理学を総合した視点に立って、社会や人間に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 □ 3. 居住環境コースにあっては、住生活や環境という視点に立って、生活環境に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 □ 4. 高い公共性と倫理性を備え、地域や社会に主体的、積極的に貢献していこうとする態度が身につけている。 <p>※■が該当項目</p>
------------	---

授業概要/授業目的	<p>私たちの生活は行政と密接にかかわっている。子どもや高齢者が安心して生活できるように、また、地域で暮らす私たちがよりよい環境で安心して生活できるように、行政は様々な活動を行っている。行政法はそうした行政の活動についてのルールと、行政の活動により市民の権利等が侵害された場合の是正と賠償のルールなどを定めた法である。</p> <p>授業では、身近な生活問題に即して、私たちと行政との関わり、行政の様々な活動の形式、行政の活動の是正を求める手段、そして、違法な行政活動により生じた損害についてその賠償を求める仕組みなどを学ぶ。</p>
授業計画	<p>1 行政法への招待</p> <p>2 行政組織について学ぶ</p>

	3	法律による行政の原理を学ぶ
	4	行政上の一般原則を学ぶ① 平等原則、比例原則、信頼保護原則等
	5	行政上の一般原則を学ぶ② 透明性原則 説明責任原則
	6	行政行為（行政処分）を学ぶ① 行政行為の意義、種類
	7	行政行為（行政処分）を学ぶ② 行政行為の効力、職権による取消しと撤回
	8	行政手続を学ぶ① 申請に対する処分手続
	9	行政手続を学ぶ② 不利益処分の手続、手続的瑕疵の効果
	10	行政基準を学ぶ
	11	行政計画を学ぶ
	12	行政指導を学ぶ
	13	行政上の義務の実効性確保を学ぶ
	14	情報公開法を学ぶ
	15	前半部分のまとめ
	16	行政事件訴訟を学ぶ① 行政事件訴訟の全体像
	17	行政事件訴訟を学ぶ② 取消訴訟の対象
	18	行政事件訴訟を学ぶ③ 取消訴訟の原告適格と訴えの利益
	19	行政事件訴訟を学ぶ④ 取消訴訟の審理と判決
	20	行政事件訴訟を学ぶ⑤ 取消訴訟における仮の救済
	21	行政事件訴訟を学ぶ⑥ 取消訴訟以外の抗告訴訟（義務付け訴訟等）
	22	行政事件訴訟を学ぶ⑦ 抗告訴訟以外の行政事件訴訟（当事者訴訟等）
	23	行政上の不服申立てを学ぶ① 不服審査の仕組みと組織
	24	行政上の不服申立てを学ぶ② 不服申立ての審理と裁決
	25	行政上の不服申立てを学ぶ③ 行政不服審査会の答申を読む
	26	国家賠償を学ぶ① 公権力の行使に関する賠償
	27	国家賠償を学ぶ② 行政の危険防止責任
	28	国家賠償を学ぶ③ 営造物の瑕疵に関する賠償
	29	損失補償を学ぶ
	30	後半部分のまとめ
到達目標		1) 法律による行政の原理と行政上の一般原則について理解する。 2) 行政の様々な活動の形式と活動の統制の仕組みについて理解する。 3) 行政の活動の是正を求める手段と違法な行政活動により生じた損害の賠償を求める仕組み、また損失補償の仕組みを理解する。

予習内容/復習内容	教科書（該当箇所を指示する）を一読する。 担当者作成のレジュメ・資料と教科書を再読する。授業で学習した事項（ノート）の整理を行う。
教科書	大橋洋一『社会とつながる行政法入門〔第2版〕』（有斐閣、2021年、1,980円）を使用する。 ※授業は担当者作成のレジュメ・資料（判決の判示事項の抜粋、新聞記事、自治体広報誌、各種統計資料等により作成）を用いて進めていきます。教科書は事前事後の学習において使用します。また、授業を進める中で適宜、参照いたします。
成績評価	授業の終わりに行う小テストないしミニレポートの評価（30%）と定期試験の結果（70%）の合計で評価します。
実務経験	
その他特記事項	『ポケット六法』等の六法（最新年度版のもの）を持参して授業に臨むこと。 行政の活動の実際を知るために、日頃からニュース・新聞などの報道に注意すること。新聞などの切り抜き（スクラップ）を作ることを勧めます。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	全学年	4	選択
担当教員			
西川 昇吾			
	講義		
添付ファイル			

ディプロマ・ポリシー	<p>大学DP</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 1. 創造性豊かな人間性と優れた専門性を身につけた学生 □ 2. 実社会で活躍できる知的・人間的資質を身につけた学生 □ 3. 地域社会を主体的に担う態度を身につけた学生 □ 4. 国際社会に対する理解とコミュニケーション能力や情報社会に対応できる能力を身につけた学生 <p>法経科第1部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 法律・政治・経済・経営など社会科学の基幹分野に関する基本的な知識を修得し、最新の学問的到達についても一定の理解をもっている。 □ 2. 現代社会の諸問題について、専門的知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 □ 3. 修得した学識を職業生活上の実践的課題に適用することができる。 □ 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 □ 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>法経科第2部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 1. 社会科学について広く基礎的な素養を身につけている。 ■ 2. 現代社会の諸問題について、学修した知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 □ 3. 多様な目的意識を持つ幅広い年齢層の学生がともに学生生活を送ることを通じて、豊かな人間関係を構築できるコミュニケーション能力を身につけている。 □ 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 ■ 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>食物栄養学科食物栄養学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 栄養士として必要な食に関する幅広い専門知識と技能を有している。 □ 2. 食と健康に関する様々な課題に対して、科学的根拠に基づいた多面的・総合的な理解及び判断ができる。 □ 3. 豊かな教養、高い倫理観、優れたコミュニケーション力を備え、栄養士として適切な栄養管理・指導を実践できる。 □ 4. 習得した専門知識と技能を基に、地域社会と連携して食と健康の分野で主体的に活躍できる能力を備えている。 <p>生活科学科生活科学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 「いのち」と「暮らし」に関わるニーズが多様化する社会にあって、それらについての基礎的な教養を身につけている。 □ 2. 生活福祉・心理コースにあっては、社会福祉学と心理学を総合した視点に立って、社会や人間に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 □ 3. 居住環境コースにあっては、住生活や環境という視点に立って、生活環境に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 □ 4. 高い公共性と倫理性を備え、地域や社会に主体的、積極的に貢献していこうとする態度が身につけている。 <p>※■が該当項目</p>
------------	---

授業概要/授業目的	<p>本講義では、労働法、とりわけ、その中心部分を占める雇用関係法（使用者と労働者の関係を規律する法領域）および労使関係法（労働組合と使用者の関係を規律する法領域）の基礎的事項や重要事項を解説する。具体的には、毎回、レジュメを配布するが、板書等も用いて補いながら、学修すべき内容を口述で伝達する。それにより、労働法における正確な知識や概念等を摂取し、それらを基盤として、結論のみではなく、そこに至る過程も段階的に説明しうる力を養うことが、本講義の目的である。</p>
授業計画	<p>1 ガイダンス／労働基準法の意義・目的</p> <p>2 労働基準法等の適用対象</p>

	3	均等待遇／雇用における男女平等
	4	強制労働の禁止／中間搾取の排除／公民権行使の保障
	5	労働契約の意義・期間
	6	更新拒否（雇止め）からの保護／採用内定
	7	試用期間／配転／出向
	8	転籍／労働者派遣
	9	昇格／降格
	10	解雇
	11	定年／退職／解散等
	12	労働契約上の権利・義務／就労請求権／業務命令
	13	休職／兼職禁止／競業避止／秘密保持
	14	賃金の法的保護／休業と賃金
	15	退職金／賞与／賃金カット
	16	労働時間
	17	休憩／休日／変形労働時間制／フレックスタイム制
	18	時間外労働／休日労働
	19	年次有給休暇
	20	就業規則
	21	懲戒処分
	22	妊産婦等の保護／労災補償
	23	労働組合の法的規制
	24	労働組合の内部問題
	25	不当労働行為
	26	団体交渉
	27	労働協約
	28	争議行為
	29	使用者の争議行為
	30	組合活動
到達目標	①労働法の各論点における法的意義・要件・効果等を把握する。 ②労働法上の概念や論理等を言葉で表現し、他者へ説得的に説明しうる。 ③労働法の争点においては、複数の結論が並存しうることを許容できる。	
予習内容/復習内容	受講生みずからが、配布されたレジュメを事前の一読すること等により予習し、授業において書き記した内容をノートに整理すること等により復習する。	

教科書	教科書は指定せず、上記のとおり、レジユメを使用する。なお、第1回授業にて、購入任意の「参考文献一覧」を提示する予定である。
成績評価	平常点30%（各回+E34のリアクションペーパー提出1点×30）、試験70%（五肢選択問題10点・空欄補充問題20点・論述問題40点）により評価する（ただし、3分の2以上の出席を要する）。
実務経験	
その他特記事項	受講に際しては、知識や論理等をインプットするだけでなく、それらを言葉や文章でアウトプットできるよう意識してほしい。また、レジユメ等に目を通して、企業の実情や訴訟当事者のやり取りを想像・思考してほしい。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	全学年	4	選択
担当教員			
吉井 千周			
添付ファイル			

ディプロマ・ポリシー	<p>大学DP</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 1. 創造性豊かな人間性と優れた専門性を身につけた学生 □ 2. 実社会で活躍できる知的・人間的資質を身につけた学生 □ 3. 地域社会を主体的に担う態度を身につけた学生 □ 4. 国際社会に対する理解とコミュニケーション能力や情報社会に対応できる能力を身につけた学生 <p>法経科第1部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 法律・政治・経済・経営など社会科学の基幹分野に関する基本的な知識を修得し、最新の学問的到達についても一定の理解をもっている。 □ 2. 現代社会の諸問題について、専門的知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 □ 3. 修得した学識を職業生活上の実践的課題に適用することができる。 □ 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 □ 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>法経科第2部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 1. 社会科学について広く基礎的な素養を身につけている。 ■ 2. 現代社会の諸問題について、学修した知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 □ 3. 多様な目的意識を持つ幅広い年齢層の学生がともに学生生活を送ることを通じて、豊かな人間関係を構築できるコミュニケーション能力を身につけている。 □ 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 ■ 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>食物栄養学科食物栄養学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 栄養士として必要な食に関する幅広い専門知識と技能を有している。 □ 2. 食と健康に関する様々な課題に対して、科学的根拠に基づいた多面的・総合的な理解及び判断ができる。 □ 3. 豊かな教養、高い倫理観、優れたコミュニケーション力を備え、栄養士として適切な栄養管理・指導を実践できる。 □ 4. 習得した専門知識と技能を基に、地域社会と連携して食と健康の分野で主体的に活躍できる能力を備えている。 <p>生活科学科生活科学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 「いのち」と「暮らし」に関わるニーズが多様化する社会にあって、それらについての基礎的な教養を身につけている。 □ 2. 生活福祉・心理コースにあっては、社会福祉学と心理学を総合した視点に立って、社会や人間に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 □ 3. 居住環境コースにあっては、住生活や環境という視点に立って、生活環境に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 □ 4. 高い公共性と倫理性を備え、地域や社会に主体的、積極的に貢献していこうとする態度が身につけている。 <p>※■が該当項目</p>
------------	---

授業概要/授業目的	本授業は、国際法の基本的な原則と主要な分野を体系的に学び、国際社会における法的な枠組みの理解を深めることを目的とする。具体的には、国際法の成り立ち、国際条約、国際機関、国家間の責任など、現代国際社会で不可欠な国際法の原則を学習する。国際法は、国際関係の円滑な運営において中心的な役割を果たしており、学生が国際的な法的問題に対して理論的にアプローチできるようになることを目指す。また、国際法の歴史的背景や発展過程を理解し、現代の課題に対してどのように適用されるのかを考察することにより、国際問題の解決に向けた法的手段を探る力を養う。
授業計画	1 法学における国際法の位置づけ 2 国際社会と国際法

	3	国家の成立と要件
	4	国家の国際法上の権利義務
	5	国家機関
	6	国家機関の地位
	7	国際組織の位置づけ
	8	国家以外の組織の国際法における位置づけ
	9	国際法の存在形態
	10	国際法の法源
	11	条約法
	12	条約の効果
	13	国際法と国内法
	14	国内における国際法の効力
	15	国際法上の責任
	16	国家責任の追及要件
	17	国家責任の態様
	18	国際違法行為に対する責任
	19	陸の国際法
	20	国境画定
	21	海の国際法
	22	空の国際法
	23	宇宙空間の国際法
	24	国際人権法
	25	国際人権法と国内法
	26	国際刑事法
	27	国際経済法
	28	国際環境法
	29	紛争の平和的解決
	30	武力・経済力の行使と国際法
到達目標	1	国際法の基本的な原則や規範を理解できるようになる。
	2	国際機関や国際裁判所の役割、国際紛争解決の方法についての知識を習得する。
	3	現代の国際法が直面している課題に対する理解を深める。
	4	国際法に関する基本的な問題を法的視点から論理的に考察し、意見を述べる力を身に付ける。

予習内容/復習内容	予習に関しては、あらかじめ配布した資料の次回該当部分の提示を受け学習する。復習に関しては、毎回小レポートで当日の講義の振り返りを行い、疑問・質問について次回講義にて回答を受ける。
教科書	中谷和弘・植木俊哉・河野真理子・森田章夫・山本良(2024)『国際法 第5版』有斐閣アルマ
成績評価	毎回小レポート…50% 定期試験…50%
実務経験	なし
その他特記事項	毎回小レポートに内容の記載がない場合、その回のレポートについては「不可」扱いとする。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	全学年	2	選択
担当教員			
小林 和之			
	講義		
添付ファイル			

ディプロマ・ポリシー	<p>大学DP</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 1. 創造性豊かな人間性と優れた専門性を身につけた学生 □ 2. 実社会で活躍できる知的・人間的資質を身につけた学生 □ 3. 地域社会を主体的に担う態度を身につけた学生 □ 4. 国際社会に対する理解とコミュニケーション能力や情報社会に対応できる能力を身につけた学生 <p>法経科第1部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 法律・政治・経済・経営など社会科学の基幹分野に関する基本的な知識を修得し、最新の学問的到達についても一定の理解をもっている。 □ 2. 現代社会の諸問題について、専門的知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 □ 3. 修得した学識を職業生活上の実践的課題に適用することができる。 □ 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 □ 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>法経科第2部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 1. 社会科学について広く基礎的な素養を身につけている。 ■ 2. 現代社会の諸問題について、学修した知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 □ 3. 多様な目的意識を持つ幅広い年齢層の学生がともに学生生活を送ることを通じて、豊かな人間関係を構築できるコミュニケーション能力を身につけている。 □ 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 ■ 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>食物栄養学科食物栄養学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 栄養士として必要な食に関する幅広い専門知識と技能を有している。 □ 2. 食と健康に関する様々な課題に対して、科学的根拠に基づいた多面的・総合的な理解及び判断ができる。 □ 3. 豊かな教養、高い倫理観、優れたコミュニケーション力を備え、栄養士として適切な栄養管理・指導を実践できる。 □ 4. 習得した専門知識と技能を基に、地域社会と連携して食と健康の分野で主体的に活躍できる能力を備えている。 <p>生活科学学科生活科学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 「いのち」と「暮らし」に関わるニーズが多様化する社会にあって、それらについての基礎的な教養を身につけている。 □ 2. 生活福祉・心理コースにあっては、社会福祉学と心理学を総合した視点に立って、社会や人間に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 □ 3. 居住環境コースにあっては、住生活や環境という視点に立って、生活環境に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 □ 4. 高い公共性と倫理性を備え、地域や社会に主体的、積極的に貢献していこうとする態度が身につけている。 <p>※■が該当項目</p>
------------	--

授業概要/授業目的	「正しさ」（正義）の可能性について考えること。抽象論ではなく、実際に起った事件に即して考察を進めませぬ。
授業計画	<p>1 授業の進め方、法哲学の学問的性格</p> <p>2 授業の進め方、法哲学の学問的性格</p> <p>3 氏名法制の変遷と夫婦別氏問題</p>

	4	過失責任原理の登場と変容
	5	企業と人命を犠牲にする選択
	6	社会と人命を犠牲にする法
	7	人命の犠牲の正当化
	8	公共の利益と組織の論理
	9	内部告発と正義 (1)
	10	内部告発と正義 (2)
	11	新時代の責任原理 (1)
	12	新時代の責任原理 (2)
	13	事実と社会 (1)
	14	事実と社会 (2)
	15	メタ価値
到達目標	具体的な事件に即して「正しさ」について考える力を伸ばすこと。多様なものの見方に触れ、新しい 観点を獲得すること。	
予習内容/復習内容	予習：ニュースを見るよう心がける。 復習：講義で知ったことを他者に説明できるようにまとめる。	
教科書	なし	
成績評価	筆記試験と毎回の課題との総合評価 (100%)	
実務経験		
その他特記事項	受講者の理解が不十分だと判断した場合は、先に進めずに補足を行います。よって、上記は変更の可 能性があります。	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	全学年	4	選択
担当教員			
野口 侑太郎			
		講義	
添付ファイル			

ディプロマ・ポリシー	<p>大学DP</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 1. 創造性豊かな人間性と優れた専門性を身につけた学生 □ 2. 実社会で活躍できる知的・人間的資質を身につけた学生 □ 3. 地域社会を主体的に担う態度を身につけた学生 □ 4. 国際社会に対する理解とコミュニケーション能力や情報社会に対応できる能力を身につけた学生 <p>法経科第1部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 法律・政治・経済・経営など社会科学の基幹分野に関する基本的な知識を修得し、最新の学問的到達についても一定の理解をもっている。 □ 2. 現代社会の諸問題について、専門的知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 □ 3. 修得した学識を職業生活上の実践的課題に適用することができる。 □ 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 □ 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>法経科第2部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 1. 社会科学について広く基礎的な素養を身につけている。 ■ 2. 現代社会の諸問題について、学修した知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 □ 3. 多様な目的意識を持つ幅広い年齢層の学生がともに学生生活を送ることを通じて、豊かな人間関係を構築できるコミュニケーション能力を身につけている。 □ 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 ■ 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>食物栄養学科食物栄養学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 栄養士として必要な食に関する幅広い専門知識と技能を有している。 □ 2. 食と健康に関する様々な課題に対して、科学的根拠に基づいた多面的・総合的な理解及び判断ができる。 □ 3. 豊かな教養、高い倫理観、優れたコミュニケーション力を備え、栄養士として適切な栄養管理・指導を実践できる。 □ 4. 習得した専門知識と技能を基に、地域社会と連携して食と健康の分野で主体的に活躍できる能力を備えている。 <p>生活科学科生活科学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 「いのち」と「暮らし」に関わるニーズが多様化する社会にあって、それらについての基礎的な教養を身につけている。 □ 2. 生活福祉・心理コースにあっては、社会福祉学と心理学を総合した視点に立って、社会や人間に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 □ 3. 居住環境コースにあっては、住生活や環境という視点に立って、生活環境に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 □ 4. 高い公共性と倫理性を備え、地域や社会に主体的、積極的に貢献していこうとする態度が身につけている。 <p>※■が該当項目</p>
------------	---

授業概要/授業目的	本講義では、戦後日本を含む先進国の政治を主な事例として取り上げた上で、政治学に関する基本的な理論や概念そして基本的な事実に対する理解を深めることを目標にします。戦後日本を含んだ先進国の政治は、法経科第1部と第2部の教育目標である「（法律・政治・経済・経営などの）社会科学の基幹分野」と密接に関わっていることから、これに関する学術的知見を習得することは、極めて大切です。そこで本講義では、先進国における政治を対象に、政治学に関する基本的な理論や概念、そして事実に対する理解を概説していきます。
授業計画	1 はじめに 2 政治の捉え方①——集合行為問題とその解決

3	政治の捉え方②——公共性の追求
4	書評レポート①——課題文献の読み方と書評の書き方
5	自由主義①——国家とその成立
6	自由主義②——国家からの自由
7	自由主義③——国家による自由
8	民主主義①——直接民主主義
9	民主主義②——間接民主主義
10	民主主義③——ポスト間接民主主義
11	書評レポート②——引用と参考文献
12	自由民主主義①——自由民主主義体制
13	自由民主主義②——フェミニズム
14	自由民主主義③——多文化主義
15	おわりに
16	はじめに
17	自由民主主義体制の条件①——戦後の政治経済体制
18	自由民主主義体制の条件②——グローバル化の圧力
19	自由民主主義体制の条件③——資本主義の多様性
20	書評レポート③——課題文献への評価
21	福祉国家①——福祉国家の類型論
22	福祉国家②——福祉国家の段階論
23	福祉国家③——福祉国家の政治経済学（前半）
24	福祉国家③——福祉国家の政治経済学（後半）
25	書評レポート④——その他
26	事例としての戦後日本①——福祉国家の類型論における戦後日本の位置づけ
27	事例としての戦後日本②——福祉国家の段階論における戦後日本の位置づけ
28	福祉国家の将来①——福祉国家改革の構想
29	福祉国家の将来②——多元化する福祉
30	おわりに
到達目標	本講義の到達目標は、次の3つです。 ①先進国の政治について、政治学に関する基本的な知識を獲得することができる。 ②上記の知識に基づきながら、先進国の政治に関する説明や分析を行うことができる。 ③書評レポートに関わる基本的な技術——要約や考察の仕方、引用や参考文献の書き方など——を習得する。
予習内容/復習内容	本講義では、講義内容の定着を促進するために、合計で3回程度（予定）の書評レポートを課すので、その提出

	<p>に備えることが求められます。</p> <p>■予習内容：課題文献の読解を進め、書評レポートの作成に取り組む。また、必要に応じて、参考図書や関連文献を渉猟する。一連の作業に取り組むことで、講義内容の事前学習を行うことができる。</p> <p>■復習内容：課題文献の読解を進め、書評レポートの作成に取り組む。また、必要に応じて、講義資料を見返したり、参考図書や関連文献を渉猟したりする。こうした作業を行うことで、講義内容の定着を図ることができる。</p> <p>■予習と復習時間の目安（計4時間／1回の講義）：予習時間…2時間、復習時間…2時間</p>
教科書	<p>■教科書 特定の教科書は、指定しません。別途、講義資料を配布します。</p> <p>■参考図書 なお、本講義の参考図書としては、以下のものが挙げられます。 ・砂原庸介・稗田健志・多胡淳（2020）『新版 政治学の第一歩』有斐閣ストゥディア。 ・田村哲樹・松元雅和・乙部延剛・山崎望（2017）『ここから始める政治理論』有斐閣ストゥディア。 ・田中拓道・近藤正基・矢内勇生・上川龍之進（2020）『政治経済学——グローバル化時代の国家と市場』有斐閣ストゥディア。</p>
成績評価	<p>■基本的な考え方 大学の規程に従って、60点以上を合格とし、総合評価によって判定します。</p> <p>■平常評価（30%）：通年で合計3回程度（予定）の書評レポートを課し、これによって平常評価を行います。 なお、成績評価の方法と基準は、以下の通りです。 ・先進国の政治に関する課題文献への適切な理解が出来ているのか ・論拠を示した上で、自分なりの意見を論じているのか ・学術的なレポートとしての、所定の形式が守られているのか</p> <p>■筆記試験（70%）：通年で合計2回（予定）——前期と後期の試験期間中に各1回——の筆記試験を行い、これによって受講生の到達度を確認します。 なお、成績評価の基準と方法は、以下の通りです。 ・先進国の政治に関する基本的な理解ができているのか ・上記の理解を活用して、自分なりの考え方を展開することができるのか</p> <p>■その他 ・出席点は設けません ・単位取得を行うためには、すべての書評レポートを提出する必要があります ・筆記試験の際には、持ち込み許可物件はなし、ということをご予定ください</p>
実務経験	
その他特記事項	<p>■開講時期について ・本講義は、通年で行います。そのため、前期だけの受講、もしくは後期からの受講は認められないので、ご注意ください。</p> <p>■受講生への要望など ・講義内容やレポート課題などは、受講生と相談して、適宜変更する可能性があります。 ・受講に当たって特別な制限は設けませんが、意欲的な受講態度が期待されます。 ・現実の政治経済社会問題とも関わるので、ニュースや新聞などに目を通すことを推奨します。 ・遅刻や早退、途中退席などは、他の受講生の皆さんへのご迷惑になりますので、お控えください。 ・講義中の写真撮影や動画撮影、録音等は厳禁です。また、講義資料などをインターネットにアップロードすることも、一切認めません。</p> <p>■初回の講義について ・初回の講義に限って、印刷した講義資料を配布します。なお、第二回目以降の講義資料については、大学指定の学習管理システムLMSにおいて、共有を行います。</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	全学年	4	選択
担当教員			
川上 哲			
	講義		
添付ファイル			

ディプロマ・ポリシー	<p>大学DP</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 1. 創造性豊かな人間性と優れた専門性を身につけた学生 □ 2. 実社会で活躍できる知的・人間的資質を身につけた学生 □ 3. 地域社会を主体的に担う態度を身につけた学生 □ 4. 国際社会に対する理解とコミュニケーション能力や情報社会に対応できる能力を身につけた学生 <p>法経科第1部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 法律・政治・経済・経営など社会科学の基幹分野に関する基本的な知識を修得し、最新の学問的到達についても一定の理解をもっている。 □ 2. 現代社会の諸問題について、専門的知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 □ 3. 修得した学識を職業生活上の実践的課題に適用することができる。 □ 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 □ 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>法経科第2部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 1. 社会科学について広く基礎的な素養を身につけている。 ■ 2. 現代社会の諸問題について、学修した知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 □ 3. 多様な目的意識を持つ幅広い年齢層の学生がともに学生生活を送ることを通じて、豊かな人間関係を構築できるコミュニケーション能力を身につけている。 □ 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 ■ 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>食物栄養学科食物栄養学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 栄養士として必要な食に関する幅広い専門知識と技能を有している。 □ 2. 食と健康に関する様々な課題に対して、科学的根拠に基づいた多面的・総合的な理解及び判断ができる。 □ 3. 豊かな教養、高い倫理観、優れたコミュニケーション力を備え、栄養士として適切な栄養管理・指導を実践できる。 □ 4. 習得した専門知識と技能を基に、地域社会と連携して食と健康の分野で主体的に活躍できる能力を備えている。 <p>生活科学科生活科学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 「いのち」と「暮らし」に関わるニーズが多様化する社会にあって、それらについての基礎的な教養を身につけている。 □ 2. 生活福祉・心理コースにあっては、社会福祉学と心理学を総合した視点に立って、社会や人間に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 □ 3. 居住環境コースにあっては、住生活や環境という視点に立って、生活環境に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 □ 4. 高い公共性と倫理性を備え、地域や社会に主体的、積極的に貢献していこうとする態度が身につけている。 <p>※■が該当項目</p>
------------	---

授業概要/授業目的	本講義では行政学の主要な理論と日本の行政の仕組みを解説していく。その際、単に現在の制度がどのような仕組みになっているのかを説明するだけでなく、歴史的にどのような過程を経て現在の制度が形成されてきたのかを重視しながら授業を進めていく。本講義の目的は受講生が行政の理論や制度に対する理解を深め、主権者として地域社会を担っていく基礎的な素養を身に付けることである。また公務員を目指す学生が行政に関する基本的な知識を習得することも目的とする。
授業計画	<p>1 導入と講義概要及び評価方法ー行政学とは何か</p> <p>2 行政学の歴史とその背景</p>

	3	行政学の発展ーアメリカ行政学
	4	組織論① 古典的組織論
	5	組織論② 現代組織論
	6	官僚制論① 近代官僚制と官僚制の逆機能
	7	官僚制論② 官僚制の演繹的モデル
	8	官僚制論③ 官僚制の機能的モデル
	9	大統領制と議員内閣制① アメリカの大統領制
	10	大統領制と議院内閣制② 諸外国の議院内閣制・大統領制
	11	大統領制と議院内閣制③ 日本の議院内閣制
	12	日本の行政組織① 内閣の補佐機関
	13	日本の行政組織② 中央省庁の組織
	14	日本の行政組織③ 中央省庁の編制
	15	日本の公務員制度
	16	国家公務員の任用 入口選抜制度
	17	国家公務員の昇任 キャリアとノンキャリア
	18	国家公務員の退職 天下りとグレーゾーン組織
	19	行政改革① NPMとガバナンス
	20	行政改革② 日本の行政改革
	21	政策過程論① 政策過程とは何か
	22	政策過程論② 政策過程の理論
	23	政策過程論③ 政策評価と評価指標
	24	E B P M (根拠に基づいた政策形成)
	25	E B P Mの問題点と課題
	26	予算の編成過程と決算
	27	法案の形成過程
	28	行政責任
	29	行政統制
	30	講義のまとめ
到達目標		①行政学の主要な理論を理解する。 ②行政制度や公務員制度の基本的な仕組みについて理解する。 ③政策立案の理論や政策過程について理解する。
予習内容/復習内容		初回までに高等学校レベルの政治・経済の内容を復習しておく。2回目以降の予習・復習は講義内で指示する。

教科書	教科書は使用せず、レジメと資料を配布する。必要に応じて参考文献を紹介する。
成績評価	毎回の講義時に提出するコメントシート：30%、試験：70%で評価する。
実務経験	
その他特記事項	受講生の理解度に応じて内容や順番を見直すこともあり得る。正当な理由のない遅刻は出席扱いとしない。また1/3を超えて欠席した場合は単位認定しない（試験の受験資格を与えない）。

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	全学年	2	選択
担当教員			
岡田 一郎			
		講義	
添付ファイル			

ディプロマ・ポリシー	<p>大学DP</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 1. 創造性豊かな人間性と優れた専門性を身につけた学生 □ 2. 実社会で活躍できる知的・人間的資質を身につけた学生 □ 3. 地域社会を主体的に担う態度を身につけた学生 □ 4. 国際社会に対する理解とコミュニケーション能力や情報社会に対応できる能力を身につけた学生 <p>法経科第1部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 法律・政治・経済・経営など社会科学の基幹分野に関する基本的な知識を修得し、最新の学問的到達についても一定の理解をもっている。 □ 2. 現代社会の諸問題について、専門的知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 □ 3. 修得した学識を職業生活上の実践的課題に適用することができる。 □ 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 □ 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>法経科第2部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 1. 社会科学について広く基礎的な素養を身につけている。 ■ 2. 現代社会の諸問題について、学修した知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 □ 3. 多様な目的意識を持つ幅広い年齢層の学生がともに学生生活を送ることを通じて、豊かな人間関係を構築できるコミュニケーション能力を身につけている。 □ 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 ■ 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>食物栄養学科食物栄養学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 栄養士として必要な食に関する幅広い専門知識と技能を有している。 □ 2. 食と健康に関する様々な課題に対して、科学的根拠に基づいた多面的・総合的な理解及び判断ができる。 □ 3. 豊かな教養、高い倫理観、優れたコミュニケーション力を備え、栄養士として適切な栄養管理・指導を実践できる。 □ 4. 習得した専門知識と技能を基に、地域社会と連携して食と健康の分野で主体的に活躍できる能力を備えている。 <p>生活科学科生活科学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 「いのち」と「暮らし」に関わるニーズが多様化する社会にあって、それらについての基礎的な教養を身につけている。 □ 2. 生活福祉・心理コースにあっては、社会福祉学と心理学を総合した視点に立って、社会や人間に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 □ 3. 居住環境コースにあっては、住生活や環境という視点に立って、生活環境に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 □ 4. 高い公共性と倫理性を備え、地域や社会に主体的、積極的に貢献していこうとする態度が身につけている。 <p>※■が該当項目</p>
------------	---

授業概要/授業目的	1970年代後半を境に先進諸国は政治経済運営の大きな転換を経験しました。それは福祉国家からポスト福祉国家への転換と言われます。その中で、日本では地方分権改革が進みました。国の自治体への関与が縮小し、自治体は自分たちで決定できる仕事が増えましたが、そのための財源は限られています。このような状況の下、自治体の行政機構、住民団体、NPO、ボランティア、企業など様々な団体が連携する動きが広がっています。地方政治の分野ではこういった動向を「ローカルガバナンス」という用語を使って説明してきました。この科目では、この「ローカルガバナンス」の議論を学びます。それを通じて、ポスト福祉国家の次が来るのかどうか、来るとすればどのような政治経済運営がありうるか、を考察する糸口をつかむことを目的にします。
授業計画	1 オリエンテーション：地方政治論の対象と方法。学習の進め方（資料の探し方、ノートの取り方）

	2	統治構造：国と地方との関係、二元代表制
	3	第2次大戦後の経済と国家：福祉国家、新自由主義
	4	労働、社会保障分野における地方自治体の役割
	5	地方分権改革の経過
	6	大都市圏におけるガバナンスの難しさ
	7	産業振興におけるデモクラシーの役割
	8	広域行政：一層の合併か合併なしの連携か
	9	コミュニティー活動：過疎地域の地域振興を題材
	10	住民投票：賛否表明から対案提示へ
	11	中央地方関係の変化：法律と条令をめぐる変遷
	12	ローカルガバナンス：思想的考察
	13	資本蓄積と都市政治：アメリカ発の生活賃金運動を題材に
	14	まとめ：基本用語の再確認、今後の学習の手引き
	15	討論会：講義内容を踏まえて身の回りの事例について討論
到達目標		(1) 二元代表制、代議制民主主義について説明できる。 (2) ポスト福祉国家の時代に、地方自治体、地域社会がどのように変化してきたかを理解できる。 (3) 「ローカルガバナンス」の意味を説明できる。
予習内容/復習内容		予習： 授業の前に、テキストに目を通す。テキストに疑問点があればノートにメモしておく。 復習： ノートを整理する。予習の際の疑問点が解決したか振り返る。
教科書		石田徹、伊藤恭彦、上田道明編『ローカルガバナンスとデモクラシー』（法律文化社、2016年）
成績評価		授業ごとに提出する小レポート（40%）、期末レポート（60%）
実務経験		
その他特記事項		政治というと国民国家のあるべき姿や方向について語るものだという印象をおもちの方が多いかもしれません。この講義では、それとは別の視座を提示していく予定です。地域、つまり人々が日々往来、交流する地理的な広がりの中で、政治がどういう役割も担うかを考えていきます。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	全学年	2	選択
担当教員			
宮川 一夫			
		講義	
添付ファイル			

ディプロマ・ポリシー	<p>大学DP</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 1. 創造性豊かな人間性と優れた専門性を身につけた学生 □ 2. 実社会で活躍できる知的・人間的資質を身につけた学生 □ 3. 地域社会を主体的に担う態度を身につけた学生 □ 4. 国際社会に対する理解とコミュニケーション能力や情報社会に対応できる能力を身につけた学生 <p>法経科第1部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 法律・政治・経済・経営など社会科学の基幹分野に関する基本的な知識を修得し、最新の学問的到達についても一定の理解をもっている。 □ 2. 現代社会の諸問題について、専門的知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 □ 3. 修得した学識を職業生活上の実践的課題に適用することができる。 □ 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 □ 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>法経科第2部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 1. 社会科学について広く基礎的な素養を身につけている。 ■ 2. 現代社会の諸問題について、学修した知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 □ 3. 多様な目的意識を持つ幅広い年齢層の学生がともに学生生活を送ることを通じて、豊かな人間関係を構築できるコミュニケーション能力を身につけている。 □ 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 ■ 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>食物栄養学科食物栄養学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 栄養士として必要な食に関する幅広い専門知識と技能を有している。 □ 2. 食と健康に関する様々な課題に対して、科学的根拠に基づいた多面的・総合的な理解及び判断ができる。 □ 3. 豊かな教養、高い倫理観、優れたコミュニケーション力を備え、栄養士として適切な栄養管理・指導を実践できる。 □ 4. 習得した専門知識と技能を基に、地域社会と連携して食と健康の分野で主体的に活躍できる能力を備えている。 <p>生活科学科生活科学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 「いのち」と「暮らし」に関わるニーズが多様化する社会にあつて、それらについての基礎的な教養を身につけている。 □ 2. 生活福祉・心理コースにあつては、社会福祉学と心理学を総合した視点に立って、社会や人間に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 □ 3. 居住環境コースにあつては、住生活や環境という視点に立って、生活環境に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 □ 4. 高い公共性と倫理性を備え、地域や社会に主体的、積極的に貢献していこうとする態度が身につけている。 <p>※■が該当項目</p>
------------	---

授業概要/授業目的	<p>・日本の総人口が減少する中、少子化が進むとともに、急速に高齢化が進んでいる。このような状況の中、保健福祉サービスのニーズの増大、社会福祉の担い手の減少、社会保障関係費の増嵩など著しく変化していく社会情勢を知り理解することは生活するうえで大変重要である。</p> <p>・以下の計画で進めていくが、講師自身が、三重県職員として実際の社会福祉行財政現場においてやってきたこと、経験してきたこと、どのように社会環境の変化に対応してきたかということ等を話すとともに、ゲストスピーカーにも来てもらう等分かりやすい講義にしたい。</p>
授業計画	<p>1 オリエンテーション ～ 世の中には色々な人がいる</p> <p>2 社会福祉の概念とその変遷 ～ 福祉と社会福祉、幸せと幸せな社会、個人の尊厳が保持される社</p>

	会
3	ユニバーサルデザインのまちづくり ～ すべての人が自由に暮らせるまちづくり
4	社会福祉制度の展開 ～ 戦後復興・超高齢社会への対応
5	財政の基礎講座 ～ 金持ちの市町・そうでない市町
6	福祉財政の動向 ～ 福祉を進めるためのお金
7	福祉行政の構造 ～ 福祉サービスは身近なところで提供する
8	社会福祉基礎構造改革 ～ その人らしく暮らせるようにするための改革
9	福祉援助の実施・提供機関 ～ 児童相談所はこんなところ
10	続・福祉の実施・提供機関 ～ 社会福祉協議会は民間
11	福祉計画の目的と意義 ～ 目標を持って展開する
12	高齢者福祉と老人福祉計画・介護保険事業計画 ～ 2025年
13	障害福祉と障害者計画・障害福祉計画 ～ 私たち抜きで決めないで
14	児童福祉と次世代育成支援行動計画 ～ 子どもは社会の宝
15	母子父子寡婦福祉とDV防止法 ～ デートDV知ってますか
到達目標	社会福祉の基礎となる考え方や法制度、財政等の仕組みを知っておくことにより、今後の社会環境の変化に的確に順応していけるようになることを目標にする。
予習内容/復習内容	<ul style="list-style-type: none"> ・授業は、講師作成のレジュメにより進める。予習は学習内容から自分なりの考察を行うこと。 ・復習は授業で配付された資料から自分なりの考えを持つこと。
教科書	<ul style="list-style-type: none"> ・参考文献等は、行政組織のホームページのほか、授業において別途紹介する。
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート（40%）及び出席回数（60%）として評価する。 ・10回以上授業に出席しないと評価の対象外とする。
実務経験	
その他特記事項	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	全学年	2	選択
担当教員			
南 有哲			
		講義	
添付ファイル			

ディプロマ・ポリシー	<p>大学DP</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 1. 創造性豊かな人間性と優れた専門性を身につけた学生 □ 2. 実社会で活躍できる知的・人間的資質を身につけた学生 ■ 3. 地域社会を主体的に担う態度を身につけた学生 □ 4. 国際社会に対する理解とコミュニケーション能力や情報社会に対応できる能力を身につけた学生 <p>法経科第1部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 1. 法律・政治・経済・経営など社会科学の基幹分野に関する基本的な知識を修得し、最新の学問的到達についても一定の理解をもっている。 ■ 2. 現代社会の諸問題について、専門的知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 □ 3. 修得した学識を職業生活上の実践的課題に適用することができる。 □ 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 ■ 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>法経科第2部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 1. 社会科学について広く基礎的な素養を身につけている。 ■ 2. 現代社会の諸問題について、学修した知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 □ 3. 多様な目的意識を持つ幅広い年齢層の学生がともに学生生活を送ることを通じて、豊かな人間関係を構築できるコミュニケーション能力を身につけている。 □ 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 ■ 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>食物栄養学科食物栄養学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 栄養士として必要な食に関する幅広い専門知識と技能を有している。 □ 2. 食と健康に関する様々な課題に対して、科学的根拠に基づいた多面的・総合的な理解及び判断ができる。 □ 3. 豊かな教養、高い倫理観、優れたコミュニケーション力を備え、栄養士として適切な栄養管理・指導を実践できる。 □ 4. 習得した専門知識と技能を基に、地域社会と連携して食と健康の分野で主体的に活躍できる能力を備えている。 <p>生活科学科生活科学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 「いのち」と「暮らし」に関わるニーズが多様化する社会にあって、それらについての基礎的な教養を身につけている。 □ 2. 生活福祉・心理コースにあっては、社会福祉学と心理学を総合した視点に立って、社会や人間に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 ■ 3. 居住環境コースにあっては、住生活や環境という視点に立って、生活環境に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 □ 4. 高い公共性と倫理性を備え、地域や社会に主体的、積極的に貢献していこうとする態度が身につけている。 <p>※■が該当項目</p>
------------	---

授業概要/授業目的	農業・林業・水産業といった第一次産業は人間社会の基盤であるとともに、地域経済の基軸でもあるのであって、特に、長大で複雑な海岸線と広大な山林を抱えている三重県のような地域にとっては、特にそのことが当てはまる。第一次産業は自然環境とのかかわりが深いだけに、その在り方によっては自然と人間社会の双方に深刻な問題を引き起こすのであって、その実情と背景について認識することが本講義の目的である。
授業計画	<p>1 はじめに一生物多様性とは何か</p> <p>2 生態系サービスとその重要性について</p>

	3	外来生物問題について一現状の概観
	4	外来生物問題について一政府の政策と求められる対策
	5	獣害問題について一現状の概観、特に三重県について
	6	獣害問題について一背景と対策
	7	「動物への配慮」をめぐって
	8	林業を考える一日本林業の現状
	9	林業を考える一生物多様性保全における林業の役割
	10	土とは何か。そしてその重要性について
	11	土壌破壊の現状と課題
	12	水産業の問題、特に乱獲について
	13	工業型農業の光と影
	14	日本の食料政策と食料自給率
	15	農業の多面的機能と生物多様性
到達目標	「生物多様性」および「持続可能性」の観点から、日本の第一次産業の現状と問題点について理解を深めていくことを目標とする。	
予習内容/復習内容	予習に関しては、あらかじめ配布した資料の次回該当部分の提示を受け、事前学習を行う。復習に関しては、毎回小レポートで当日の講義の振り返りを行い、疑問・質問について次回講義で回答を受ける。	
教科書		
成績評価	毎回小レポート…50% 定期試験…50%	
実務経験		
その他特記事項	毎回小レポートに内容の記載がない場合、その回のレポートについては「不可」扱いとする。	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	全学年	2	選択
担当教員			
南 有哲			
		講義	
添付ファイル			

ディプロマ・ポリシー	<p>大学DP</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 1. 創造性豊かな人間性と優れた専門性を身につけた学生 □ 2. 実社会で活躍できる知的・人間的資質を身につけた学生 □ 3. 地域社会を主体的に担う態度を身につけた学生 □ 4. 国際社会に対する理解とコミュニケーション能力や情報社会に対応できる能力を身につけた学生 <p>法経科第1部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 法律・政治・経済・経営など社会科学の基幹分野に関する基本的な知識を修得し、最新の学問的到達についても一定の理解をもっている。 □ 2. 現代社会の諸問題について、専門的知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 □ 3. 修得した学識を職業生活上の実践的課題に適用することができる。 □ 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 □ 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>法経科第2部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 1. 社会科学について広く基礎的な素養を身につけている。 ■ 2. 現代社会の諸問題について、学修した知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 □ 3. 多様な目的意識を持つ幅広い年齢層の学生がともに学生生活を送ることを通じて、豊かな人間関係を構築できるコミュニケーション能力を身につけている。 □ 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 ■ 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>食物栄養学科食物栄養学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 栄養士として必要な食に関する幅広い専門知識と技能を有している。 □ 2. 食と健康に関する様々な課題に対して、科学的根拠に基づいた多面的・総合的な理解及び判断ができる。 □ 3. 豊かな教養、高い倫理観、優れたコミュニケーション力を備え、栄養士として適切な栄養管理・指導を実践できる。 □ 4. 習得した専門知識と技能を基に、地域社会と連携して食と健康の分野で主体的に活躍できる能力を備えている。 <p>生活科学科生活科学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 「いのち」と「暮らし」に関わるニーズが多様化する社会にあって、それらについての基礎的な教養を身につけている。 □ 2. 生活福祉・心理コースにあっては、社会福祉学と心理学を総合した視点に立って、社会や人間に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 □ 3. 居住環境コースにあっては、住生活や環境という視点に立って、生活環境に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 □ 4. 高い公共性と倫理性を備え、地域や社会に主体的、積極的に貢献していこうとする態度が身につけている。 <p>※■が該当項目</p>
------------	---

授業概要/授業目的	21世紀の市民にとっては、環境問題について生活者の立場から発言し行動するだけでは不十分であり、政治に参加する権利を持つ者として環境政策に積極的にかかわっていくことが求められるものと考えられる。本講義の目標は、環境政策を考える上での基本的な概念となる「環境問題」「市場経済」「国家」について概観した後、現代における環境政策の核心ともいえる「気候政策」およびこれと関連して言及されることの多い「原子力」について説明し、あるべき環境政策のあり方について考察する予定である。
授業計画	<p>1 はじめにー「人新世」としての現代① 人新世とは何か</p> <p>2 「人新世」としての現代② 大量絶滅について</p>

	3	「人新世」とは何か③ 第6次大量絶滅と人類の未来
	4	「人新世」の背景としての工業化① 工業化とは何か
	5	「人新世」の背景としての工業化② 産業革命と工業化の展開
	6	市場経済と共同体
	7	市場経済の必然的所産としての環境問題・環境政策の必要性と国家
	8	南北問題と環境破壊
	9	気候政策の国際的展開①—気候変動枠組条約と京都議定書
	10	気候政策の国際的展開②—パリ協定とそれ以降
	11	日本の気候政策① 旧自公政権期と民主党政権期
	12	日本の気候政策② 民主党政権期から新自公政権期
	13	原子力発電について① 原子力発電の原理と仕組み
	14	原子力発電について② 日本における原発政策—安全神話の散布と原発交付金
	15	講義のまとめ～「人新世」を乗り越えていくために
到達目標		「環境政策」が必要とされる根本的な原理的・歴史的・社会的背景について理解を深める。特に、現代において最重要とされる「気候政策」については、報道される内容をよく理解し、自らの頭で生活者・主権者として思考し行動できるようになることを目標とする。
予習内容/復習内容		予習に関しては、あらかじめ配布した資料の次回該当部分の提示を受け学習する。復習に関しては、毎回小レポートで当日の講義の振り返りを行い、疑問・質問について次回講義にて回答を受ける。
教科書		特に指定せず。独自に作成したレジュメや図表など資料を配布する。
成績評価		毎回小レポート…50% 定期試験…50%
実務経験		なし
その他特記事項		毎回小レポートに内容の記載がない場合、その回のレポートについては「不可」扱いとする。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	全学年	2	選択
担当教員			
熊澤 大輔			
	講義		
添付ファイル			

ディプロマ・ポリシー	<p>大学DP</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 1. 創造性豊かな人間性と優れた専門性を身につけた学生 □ 2. 実社会で活躍できる知的・人間的資質を身につけた学生 □ 3. 地域社会を主体的に担う態度を身につけた学生 □ 4. 国際社会に対する理解とコミュニケーション能力や情報社会に対応できる能力を身につけた学生 <p>法経科第1部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 法律・政治・経済・経営など社会科学の基幹分野に関する基本的な知識を修得し、最新の学問的到達についても一定の理解をもっている。 □ 2. 現代社会の諸問題について、専門的知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 □ 3. 修得した学識を職業生活上の実践的課題に適用することができる。 □ 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 □ 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>法経科第2部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 1. 社会科学について広く基礎的な素養を身につけている。 ■ 2. 現代社会の諸問題について、学修した知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 □ 3. 多様な目的意識を持つ幅広い年齢層の学生がともに学生生活を送ることを通じて、豊かな人間関係を構築できるコミュニケーション能力を身につけている。 □ 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 ■ 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>食物栄養学科食物栄養学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 栄養士として必要な食に関する幅広い専門知識と技能を有している。 □ 2. 食と健康に関する様々な課題に対して、科学的根拠に基づいた多面的・総合的な理解及び判断ができる。 □ 3. 豊かな教養、高い倫理観、優れたコミュニケーション力を備え、栄養士として適切な栄養管理・指導を実践できる。 □ 4. 習得した専門知識と技能を基に、地域社会と連携して食と健康の分野で主体的に活躍できる能力を備えている。 <p>生活科学科生活科学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 「いのち」と「暮らし」に関わるニーズが多様化する社会にあって、それらについての基礎的な教養を身につけている。 □ 2. 生活福祉・心理コースにあっては、社会福祉学と心理学を総合した視点に立って、社会や人間に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 □ 3. 居住環境コースにあっては、住生活や環境という視点に立って、生活環境に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 □ 4. 高い公共性と倫理性を備え、地域や社会に主体的、積極的に貢献していこうとする態度が身につけている。 <p>※■が該当項目</p>
------------	---

授業概要/授業目的	産業連関表を用いた経済波及効果の計算方法を学びます。産業連関表は社会全体の投入-産出関係を表したもので、様々な経済分析に応用することができます。本講義では、投下労働量（雇用の波及効果）に着目することで、たとえば、少子高齢化が進む中で十分な医療・介護を受けるためにはどれだけの労働人数が必要かといった問題に対して、具体的な推計方法を学びます。授業では世の中に財・サービスが2種類しかないケースの数値計算から始まり、授業後半ではExcelを用いて実際に投下労働量の計算を行う予定です。
授業計画	<p>1 インTRODクシヨン（講義の射程、成績評価、経済波及効果とは？）</p> <p>2 産業連関表の読み方①（取引基本表、投入係数表）</p>

	3	産業連関表の読み方②（逆行列係数表、雇用表、経済波及効果）
	4	練習問題①（逆行列係数の計算、投下労働量の計算）
	5	練習問題②（逆行列係数の計算、投下労働量の計算）
	6	代数を用いた産業連関分析(2部門モデル)
	7	総労働の配分（第6回の復習、純生産の取り替え比率）
	8	労働の搾取（第7回の復習、代数を用いた総労働配分、階級社会における分配）
	9	マルクスの基本定理の証明(2部門モデル、多部門モデルの図解)
	10	練習問題③(投下労働量、搾取率、投下労働量単位の取引基本表)
	11	練習問題④(投下労働量単位の取引基本表、貨幣単位の取引基本表)
	12	中間テスト
	13	Excelを用いた産業連関分析①(データのダウンロード、データの整理、Excelでの数値計算)
	14	Excelを用いた産業連関分析②(行列の演算、Excelの関数、経済波及効果)
	15	Excelを用いた産業連関分析③(投下労働量、グラフの作成)
到達目標		<ul style="list-style-type: none"> 産業連関表の読み方を理解する。 産業連関表を用いて経済波及効果や投下労働量が計算できるようになる。 Excelを用いて投下労働量を計算してみる。
予習内容/復習内容		予習は授業用資料を読み込むこと。特に、練習問題を解いた場合には自身で解けるよう復習すること。
教科書		なし。アップロードした授業用資料を用いる。
成績評価		<ul style="list-style-type: none"> 授業内中間テスト(50%) 期末レポート(50%)
実務経験		なし。
その他特記事項		授業用資料の配布や出欠管理、レポートの提出などすべてGoogle Classroomを用いて行います。Excelの基本操作ができることを前提にして13回及び14回の授業は行われますので注意して下さい。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	全学年	4	選択
担当教員			
田添 篤史			
	講義		
添付ファイル			

ディプロマ・ポリシー	<p>大学DP</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 1. 創造性豊かな人間性と優れた専門性を身につけた学生 □ 2. 実社会で活躍できる知的・人間的資質を身につけた学生 □ 3. 地域社会を主体的に担う態度を身につけた学生 □ 4. 国際社会に対する理解とコミュニケーション能力や情報社会に対応できる能力を身につけた学生 <p>法経科第1部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 法律・政治・経済・経営など社会科学の基幹分野に関する基本的な知識を修得し、最新の学問的到達についても一定の理解をもっている。 □ 2. 現代社会の諸問題について、専門的知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 □ 3. 修得した学識を職業生活上の実践的課題に適用することができる。 □ 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 □ 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>法経科第2部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 1. 社会科学について広く基礎的な素養を身につけている。 ■ 2. 現代社会の諸問題について、学修した知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 □ 3. 多様な目的意識を持つ幅広い年齢層の学生がともに学生生活を送ることを通じて、豊かな人間関係を構築できるコミュニケーション能力を身につけている。 □ 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 ■ 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>食物栄養学科食物栄養学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 栄養士として必要な食に関する幅広い専門知識と技能を有している。 □ 2. 食と健康に関する様々な課題に対して、科学的根拠に基づいた多面的・総合的な理解及び判断ができる。 □ 3. 豊かな教養、高い倫理観、優れたコミュニケーション力を備え、栄養士として適切な栄養管理・指導を実践できる。 □ 4. 習得した専門知識と技能を基に、地域社会と連携して食と健康の分野で主体的に活躍できる能力を備えている。 <p>生活科学科生活科学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 「いのち」と「暮らし」に関わるニーズが多様化する社会にあって、それらについての基礎的な教養を身につけている。 □ 2. 生活福祉・心理コースにあっては、社会福祉学と心理学を総合した視点に立って、社会や人間に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 □ 3. 居住環境コースにあっては、住生活や環境という視点に立って、生活環境に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 □ 4. 高い公共性と倫理性を備え、地域や社会に主体的、積極的に貢献していこうとする態度が身につけている。 <p>※■が該当項目</p>
------------	---

授業概要/授業目的	現在主流となっている経済学には、個別企業や消費主体の最適化に基づく選択とその結果に焦点をあてるミクロ経済学と、経済を個別の経済主体の単純な合成としては把握せず、独立した一つの総体として取り扱い、経済全体での動きを考えるマクロ経済学が存在している。本講義では前半でミクロ経済学を、後半でマクロ経済学を取り扱い、その基本的な考え方を理解することを目的とする。
授業計画	<p>1 オリエンテーションー経済学の考え方</p> <p>2 経済に関する統計について</p>

	3	国民経済計算
	4	ミクロ経済学とはどのような学問であるかについて
	5	限界効用理論
	6	無差別曲線とは何か
	7	予算線概念と最適消費点の決定方法
	8	所得変化と最適消費点の変化
	9	代替効果と所得効果
	10	供給側の理論の目的、短期と長期の違い
	11	各種の費用概念について
	12	利潤最大化と生産量の決定
	13	損益分岐点と操業停止点
	14	独占企業とは何か、その生産量決定の方法
	15	市場均衡とその安定性
	16	完全競争市場における余剰分析
	17	独占企業はどのような問題をもたらすのか
	18	マクロ経済学の考え方
	19	総供給の決定方法
	20	ケインズ型消費関数と総需要の大きさ
	21	財市場の均衡と国民所得の決定
	22	債券の価格と利子率
	23	貨幣を需要する動機
	24	貨幣市場の均衡
	25	投資量の決定
	26	IS曲線の導出
	27	LM曲線の導出
	28	財政政策の効果
	29	金融政策の効果
	30	景気変動とその主要因
到達目標	①ミクロ経済学・マクロ経済学の基本的な考え方、分析手法を理解し説明できるようになる。 ②実際に生じている経済問題について、経済学的な分析に基づき自分の意見を持つことができるようになる。	
予習内容/復習内容	予習については事前に教科書の該当する箇所を読んでおくこと。復習については配布された資料、授業内容をまとめたノートなどを用いて理解を深めておくこと。	

教科書	石川秀樹（著）中央経済社『試験攻略 新・経済学入門塾1 マクロ編』 石川秀樹（著）中央経済社『試験攻略 新・経済学入門塾2 ミクロ編』
成績評価	毎回の授業終了後に提出するコメントシート:30% 期末試験:70%
実務経験	
その他特記事項	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	全学年	4	選択
担当教員			
千枝 大志			
	講義		
添付ファイル			

ディプロマ・ポリシー	<p>大学DP</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 1. 創造性豊かな人間性と優れた専門性を身につけた学生 □ 2. 実社会で活躍できる知的・人間的資質を身につけた学生 □ 3. 地域社会を主体的に担う態度を身につけた学生 □ 4. 国際社会に対する理解とコミュニケーション能力や情報社会に対応できる能力を身につけた学生 <p>法経科第1部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 法律・政治・経済・経営など社会科学の基幹分野に関する基本的な知識を修得し、最新の学問的到達についても一定の理解をもっている。 □ 2. 現代社会の諸問題について、専門的知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 □ 3. 修得した学識を職業生活上の実践的課題に適用することができる。 □ 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 □ 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>法経科第2部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 1. 社会科学について広く基礎的な素養を身につけている。 ■ 2. 現代社会の諸問題について、学修した知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 □ 3. 多様な目的意識を持つ幅広い年齢層の学生がともに学生生活を送ることを通じて、豊かな人間関係を構築できるコミュニケーション能力を身につけている。 □ 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 ■ 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>食物栄養学科食物栄養学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 栄養士として必要な食に関する幅広い専門知識と技能を有している。 □ 2. 食と健康に関する様々な課題に対して、科学的根拠に基づいた多面的・総合的な理解及び判断ができる。 □ 3. 豊かな教養、高い倫理観、優れたコミュニケーション力を備え、栄養士として適切な栄養管理・指導を実践できる。 □ 4. 習得した専門知識と技能を基に、地域社会と連携して食と健康の分野で主体的に活躍できる能力を備えている。 <p>生活科学科生活科学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 「いのち」と「暮らし」に関わるニーズが多様化する社会にあって、それらについての基礎的な教養を身につけている。 □ 2. 生活福祉・心理コースにあっては、社会福祉学と心理学を総合した視点に立って、社会や人間に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 □ 3. 居住環境コースにあっては、住生活や環境という視点に立って、生活環境に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 □ 4. 高い公共性と倫理性を備え、地域や社会に主体的、積極的に貢献していこうとする態度が身につけている。 <p>※■が該当項目</p>
------------	---

授業概要/授業目的	<p>本科目では、経済史的視点から日本の歴史的変遷過程を概観した上で、現代社会の構造を俯瞰できるようになることを目的とする。具体的には、旧石器時代から令和の時代まで、とりわけ7世紀から21世紀初頭までの経済史を概説していく。その際、三重県を含む東海地方を地域経済史の事例対象地として捉え、それを適宜取り上げていく予定である。それは、東海地方の経済史には日本全体に影響を及ぼす史的特質が認められ、また、そのような特質は現代まで連続と繋がる東海地方の社会経済面での史的土壌の形成にも深く結びついていると考えるからである。</p>
授業計画	<p>1 授業を始めるにあたって</p> <p>2 経済史的視点からみた古代以前の日本</p>

	3	貨幣と文字からみた古代の日本経済
	4	荘園公領制と中世前期の日本経済
	5	中世の貨幣と信用
	6	中世経済の構造変化
	7	大名領国制と中世後期の日本経済
	8	近世経済の成立
	9	近世前期から中期の貨幣と信用
	10	近世前期の経済動向
	11	近世経済の成熟
	12	近世経済の構造変化
	13	近世後期から末期の貨幣と信用
	14	近世経済の終焉
	15	前近代における日本経済（まとめと確認）
	16	開港と日本経済の近代化
	17	明治政府の殖産興業政策と民間企業
	18	近代産業の勃興
	19	鉄道業の発展
	20	「明治啓蒙」の思想
	21	近代における企業家の動向
	22	日清・日露戦争と日本経済
	23	第一次世界大戦と日本経済
	24	世界恐慌と関東大震災
	25	アジア・太平洋戦争と日本経済
	26	日本の敗戦と戦後復興
	27	日本の高度経済成長
	28	経済大国への道と貿易摩擦
	29	バブル経済とその後の日本経済
	30	近・現代における日本経済（まとめと確認）
到達目標	経済の視点からみた日本が歩んだ歴史に関する基本的知識を習得し、その史的潮流を理解することができる。	
予習内容/復習内容	予習：授業中に紹介する参考文献等を通読することなど。 復習：配布資料やノートの整理を行なうことなど。	

教科書	教科書は指定しない。
成績評価	評価は、中間試験（35%）、定期試験（35%）、出席時に提出するレポート内容（複数回）及び、積極的な修学姿勢（30%）の合計で行う。合計が、60%以上で可、70%以上で良、80%以上で優とする。また、公欠を除き1/3を超える欠席をした者は評価の対象外とする。
実務経験	
その他特記事項	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	全学年	4	選択
担当教員			
石原 洋介			
		講義	
添付ファイル			

ディプロマ・ポリシー	<p>大学DP</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 1. 創造性豊かな人間性と優れた専門性を身につけた学生 □ 2. 実社会で活躍できる知的・人間的資質を身につけた学生 □ 3. 地域社会を主体的に担う態度を身につけた学生 □ 4. 国際社会に対する理解とコミュニケーション能力や情報社会に対応できる能力を身につけた学生 <p>法経科第1部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 法律・政治・経済・経営など社会科学の基幹分野に関する基本的な知識を修得し、最新の学問的到達についても一定の理解をもっている。 □ 2. 現代社会の諸問題について、専門的知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 □ 3. 修得した学識を職業生活上の実践的課題に適用することができる。 □ 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 □ 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>法経科第2部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 1. 社会科学について広く基礎的な素養を身につけている。 ■ 2. 現代社会の諸問題について、学修した知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 □ 3. 多様な目的意識を持つ幅広い年齢層の学生がともに学生生活を送ることを通じて、豊かな人間関係を構築できるコミュニケーション能力を身につけている。 □ 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 ■ 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>食物栄養学科食物栄養学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 栄養士として必要な食に関する幅広い専門知識と技能を有している。 □ 2. 食と健康に関する様々な課題に対して、科学的根拠に基づいた多面的・総合的な理解及び判断ができる。 □ 3. 豊かな教養、高い倫理観、優れたコミュニケーション力を備え、栄養士として適切な栄養管理・指導を実践できる。 □ 4. 習得した専門知識と技能を基に、地域社会と連携して食と健康の分野で主体的に活躍できる能力を備えている。 <p>生活科学科生活科学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 「いのち」と「暮らし」に関わるニーズが多様化する社会にあって、それらについての基礎的な教養を身につけている。 □ 2. 生活福祉・心理コースにあっては、社会福祉学と心理学を総合した視点に立って、社会や人間に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 □ 3. 居住環境コースにあっては、住生活や環境という視点に立って、生活環境に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 □ 4. 高い公共性と倫理性を備え、地域や社会に主体的、積極的に貢献していこうとする態度が身につけている。 <p>※■が該当項目</p>
------------	---

授業概要/授業目的	日本の金融システム、金融市場、金融商品、金融政策及び過去の金融危機の背景などについて、最新のデータを示しながら概要を解説し、現代社会で必要とされる金融に関するリテラシーを身につけられるようにする。また、レポート課題を通じて、金融に関する今日的な課題に対して専門的な知識に基づき考察する力を伸ばす。
授業計画	<p>1 ガイダンス、貨幣の歴史①、貨幣の起源</p> <p>2 貨幣の歴史②、日本の貨幣史</p>

	3	商品と貨幣①、商品交換と貨幣の発生
	4	商品と貨幣②、貨幣の発展段階と金本位制
	5	貨幣の機能①、貨幣の機能
	6	貨幣の機能②、信用創造とマネーストック
	7	資金循環①、資金循環と企業の資金調達方法
	8	資金循環②、間接金融と直接金融
	9	日本の金融機関①、日本の銀行
	10	日本の金融機関②、協同組合系金融機関など
	11	日本の金融機関③、保険業、ノンバンク
	12	日本の金融機関④、証券業、政府系金融機関
	13	銀行融資と金利①、プライムレートと金利
	14	銀行融資と金利②、金利の構成要素と変動要因
	15	国債①、国債の種類
	16	国債②、国債価格、国債格付け、発行の仕組み
	17	短期金融市場①、インターバンク市場
	18	短期金融市場②、オープン市場
	19	長期金融市場①、証券取引所、債券市場
	20	長期金融市場②、株式市場
	21	日本銀行と金融政策①、沿革、3つの機能
	22	日本銀行と金融政策②、伝統的金融政策
	23	日本銀行と金融政策③、非伝統的金融政策
	24	国際収支と外為市場①、国際収支
	25	国際収支と外為市場②、外国為替取引、為替相場
	26	国際収支と外為市場③、外国為替市場
	27	デリバティブ市場①、取引の概要、先物取引
	28	デリバティブ市場②、スワップ、オプション
	29	サブプライム危機①、危機発生の背景
	30	サブプライム危機②、今後の教訓
到達目標		<ul style="list-style-type: none"> ・金融リテラシーを身につけ、今後の人生において金融を適切に利用できるようになる。 ・金融に関する社会問題について専門知識に基づいて考察し、自分の考えを論理的に展開できる。
予習内容/復習内容		予習：事前配布するレジュメに目を通し、問題意識を持って講義に臨むこと。 復習：質問カードへのコメント集を配布するのでよく読んで復習すること。
教科書		特定のテキストは使用しない。単元ごとにレジュメを配布する。

成績評価	毎回提出する質問カードの内容（30%）、課題レポート（70%）
実務経験	
その他特記事項	経商コースの学生は、関連講義として「統計学」、「経済原論」、「経済政策」、「簿記原理」、「財政学」、「国際経済論」等を履修することが望ましい。また、新聞を毎日読むように。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	全学年	4	選択
担当教員			
大畑 智史			
	講義		
添付ファイル			

ディプロマ・ポリシー	<p>大学DP</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 1. 創造性豊かな人間性と優れた専門性を身につけた学生 □ 2. 実社会で活躍できる知的・人間的資質を身につけた学生 □ 3. 地域社会を主体的に担う態度を身につけた学生 □ 4. 国際社会に対する理解とコミュニケーション能力や情報社会に対応できる能力を身につけた学生 <p>法経科第1部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 法律・政治・経済・経営など社会科学の基幹分野に関する基本的な知識を修得し、最新の学問的到達についても一定の理解をもっている。 □ 2. 現代社会の諸問題について、専門的知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 □ 3. 修得した学識を職業生活上の実践的課題に適用することができる。 □ 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 □ 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>法経科第2部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 1. 社会科学について広く基礎的な素養を身につけている。 ■ 2. 現代社会の諸問題について、学修した知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 □ 3. 多様な目的意識を持つ幅広い年齢層の学生がともに学生生活を送ることを通じて、豊かな人間関係を構築できるコミュニケーション能力を身につけている。 □ 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 ■ 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>食物栄養学科食物栄養学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 栄養士として必要な食に関する幅広い専門知識と技能を有している。 □ 2. 食と健康に関する様々な課題に対して、科学的根拠に基づいた多面的・総合的な理解及び判断ができる。 □ 3. 豊かな教養、高い倫理観、優れたコミュニケーション力を備え、栄養士として適切な栄養管理・指導を実践できる。 □ 4. 習得した専門知識と技能を基に、地域社会と連携して食と健康の分野で主体的に活躍できる能力を備えている。 <p>生活科学科生活科学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 「いのち」と「暮らし」に関わるニーズが多様化する社会にあって、それらについての基礎的な教養を身につけている。 □ 2. 生活福祉・心理コースにあっては、社会福祉学と心理学を総合した視点に立って、社会や人間に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 □ 3. 居住環境コースにあっては、住生活や環境という視点に立って、生活環境に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 □ 4. 高い公共性と倫理性を備え、地域や社会に主体的、積極的に貢献していこうとする態度が身につけている。 <p>※■が該当項目</p>
------------	---

授業概要/授業目的	現在、日本をみても、国や地方自治体は、災害対応、教育、などの面において重要な存在です。本講義では、主として、そうした主体は現在どのような形で運営されているのか、その状況はどうか、などの点を、とりわけ国家の場合（日本）に焦点をあてて説明します。本講義は、そうしたことにより、受講生が、我々の日常生活に身近な国家財政について専門的に考察できることを目標とします。
授業計画	1 オリエンテーション：財政とは 2 財政学の歴史：ワグナーまで

	3	財政学の歴史：現代まで
	4	財政の範囲
	5	財政の機能：資源配分、所得再分配
	6	財政の機能：経済安定化
	7	公共財：定義
	8	公共財：政治的側面から
	9	予算：予算原則
	10	予算：予算の内容
	11	予算：特別会計、決算、他
	12	租税の基礎：租税の基礎用語
	13	租税の基礎：租税原則
	14	個人所得課税：理論
	15	個人所得課税：制度
	16	法人課税：理論
	17	法人課税：制度
	18	中間テスト：日本財政を考える
	19	消費課税：理論
	20	消費課税：制度
	21	資産課税：理論
	22	資産課税：制度
	23	国際課税：理論
	24	国際課税：制度
	25	公債：理論
	26	公債：制度
	27	国と地方との財政関係：特定補助金
	28	国と地方との財政関係：一般補助金
	29	社会保障：理論
	30	社会保障：制度
到達目標	①国家財政の基本的な仕組みを理解することができる。 ②国家財政の現状について専門的に理解することができる。 ③国家財政の課題解決策について専門的に考察することができる。	
予習内容/復習内容	予習：次回の講義のテーマに関する新聞などの記事を読む。 復習：今回の講義内容を確認した上で、疑問点を解決する。	

教科書	教科書は特に指定しません。適宜、講義中に参考資料を紹介します。
成績評価	中間テスト：20% 講義内容についての感想（4回）：20% 定期試験：60%
実務経験	
その他特記事項	初回に配布する「シラバス補足事項」もよく読んでください。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	全学年	2	選択
担当教員			
田添 篤史			
		講義	
添付ファイル			

ディプロマ・ポリシー	<p>大学DP</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 1. 創造性豊かな人間性と優れた専門性を身につけた学生 □ 2. 実社会で活躍できる知的・人間的資質を身につけた学生 □ 3. 地域社会を主体的に担う態度を身につけた学生 □ 4. 国際社会に対する理解とコミュニケーション能力や情報社会に対応できる能力を身につけた学生 <p>法経科第1部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 法律・政治・経済・経営など社会科学の基幹分野に関する基本的な知識を修得し、最新の学問的到達についても一定の理解をもっている。 □ 2. 現代社会の諸問題について、専門的知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 □ 3. 修得した学識を職業生活上の実践的課題に適用することができる。 □ 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 □ 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>法経科第2部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 1. 社会科学について広く基礎的な素養を身につけている。 ■ 2. 現代社会の諸問題について、学修した知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 □ 3. 多様な目的意識を持つ幅広い年齢層の学生がともに学生生活を送ることを通じて、豊かな人間関係を構築できるコミュニケーション能力を身につけている。 □ 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 ■ 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>食物栄養学科食物栄養学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 栄養士として必要な食に関する幅広い専門知識と技能を有している。 □ 2. 食と健康に関する様々な課題に対して、科学的根拠に基づいた多面的・総合的な理解及び判断ができる。 □ 3. 豊かな教養、高い倫理観、優れたコミュニケーション力を備え、栄養士として適切な栄養管理・指導を実践できる。 □ 4. 習得した専門知識と技能を基に、地域社会と連携して食と健康の分野で主体的に活躍できる能力を備えている。 <p>生活科学科生活科学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 「いのち」と「暮らし」に関わるニーズが多様化する社会にあって、それらについての基礎的な教養を身につけている。 □ 2. 生活福祉・心理コースにあっては、社会福祉学と心理学を総合した視点に立って、社会や人間に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 □ 3. 居住環境コースにあっては、住生活や環境という視点に立って、生活環境に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 □ 4. 高い公共性と倫理性を備え、地域や社会に主体的、積極的に貢献していこうとする態度が身につけている。 <p>※■が該当項目</p>
------------	---

授業概要/授業目的	この授業では現在の日本経済における課題がどのようなものであるか、そしてそれはどのような歴史的変化の中で生み出されてきたのかを学んでいく。現在の日本経済は多くの課題を抱えているが、それは突然出現したものではなく過去の歴史からの連続の中でつくられてきたものである。そのため日本経済を歴史的な観点から把握していく。また現在の日本経済は国際的な関係の中に緊密に埋め込まれている。そのため国際的な視点も取り入れながら現在の日本経済を理解していく。
授業計画	<p>1 ガイダンス：転換期にある日本経済</p> <p>2 世界経済はどこで「歪んだ」のか</p>

	3	日本経済の歴史
	4	失われた30年と日本経済の構造変化
	5	キャッシュレス経済の現状と変化
	6	グローバル化は国民を豊かにするのか
	7	自由貿易の後退と日本経済
	8	劣化する労働環境と働き方改革
	9	ベーシック・インカムは社会保障の核となりうるか
	10	国民皆保険制度とその持続可能性
	11	農山村の内発的発展
	12	民間非営利組織の営利化、営利組織の非営利化、労働者協同組合
	13	情報化、IoT化がもたらす未来社会の姿
	14	プラットフォーム資本主義と日本経済
	15	日本の経済成長戦略
到達目標	①日本経済が抱える課題を理解し、それに対して自己の意見を持つことができるようになる。 ②日本経済の歴史を理解し、それが現在の日本経済とどのように違うのか、現在の日本経済にどのように影響を与えているのかを理解する。	
予習内容/復習内容	予習については、教科書の該当箇所を事前に読んでおくこと。復習については授業で追加的に配布された資料、ノートなどを見直し復習しておくこと。	
教科書	小山大介・森本壮亮編著『変容する日本経済：真に豊かな経済・社会への課題と展望』鉾脈社	
成績評価	毎回の授業でのコメントシート：30% 期末の課題レポート：70%	
実務経験		
その他特記事項		

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	全学年	2	選択
担当教員			
三瀬 貴弘			
	講義		
添付ファイル			

ディプロマ・ポリシー	<p>大学DP</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 1. 創造性豊かな人間性と優れた専門性を身につけた学生 □ 2. 実社会で活躍できる知的・人間的資質を身につけた学生 □ 3. 地域社会を主体的に担う態度を身につけた学生 ■ 4. 国際社会に対する理解とコミュニケーション能力や情報社会に対応できる能力を身につけた学生 <p>法経科第1部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 法律・政治・経済・経営など社会科学の基幹分野に関する基本的な知識を修得し、最新の学問的到達についても一定の理解をもっている。 □ 2. 現代社会の諸問題について、専門的知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 □ 3. 修得した学識を職業生活上の実践的課題に適用することができる。 □ 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 □ 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>法経科第2部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 1. 社会科学について広く基礎的な素養を身につけている。 ■ 2. 現代社会の諸問題について、学修した知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 □ 3. 多様な目的意識を持つ幅広い年齢層の学生がともに学生生活を送ることを通じて、豊かな人間関係を構築できるコミュニケーション能力を身につけている。 □ 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 ■ 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>食物栄養学科食物栄養学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 栄養士として必要な食に関する幅広い専門知識と技能を有している。 □ 2. 食と健康に関する様々な課題に対して、科学的根拠に基づいた多面的・総合的な理解及び判断ができる。 □ 3. 豊かな教養、高い倫理観、優れたコミュニケーション力を備え、栄養士として適切な栄養管理・指導を実践できる。 □ 4. 習得した専門知識と技能を基に、地域社会と連携して食と健康の分野で主体的に活躍できる能力を備えている。 <p>生活科学科生活科学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 「いのち」と「暮らし」に関わるニーズが多様化する社会にあって、それらについての基礎的な教養を身につけている。 □ 2. 生活福祉・心理コースにあっては、社会福祉学と心理学を総合した視点に立って、社会や人間に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 □ 3. 居住環境コースにあっては、住生活や環境という視点に立って、生活環境に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 □ 4. 高い公共性と倫理性を備え、地域や社会に主体的、積極的に貢献していこうとする態度が身につけている。 <p>※■が該当項目</p>
------------	---

授業概要/授業目的	<p>国際経済論は、国と国の間を移動する経済要素に焦点を当てた学問です。講義では、以下の3つの小テーマについて学びます。</p> <ol style="list-style-type: none"> ①国際経済論の基礎知識 ②「リーマンショック」とその意義 ③国際経済の基礎理論 <p>最終的には、現在の世界経済の仕組み（戦後資本主義世界体制の危機の構図）を理解することを目的とします。</p> <p>講義の特徴は、以下の3点です。</p>
-----------	---

	<p>①主流派経済学だけでなく、非主流派経済学も同程度の分量で取り扱う ②現実具体的な内容だけでなく、抽象的な理論の講義も並行して行う ③経済と政治の相互作用に注目する</p> <p>講義では、詳細なレジュメを配布しそれに基づいて進めます。また以下のような工夫を取り入れ、受講生が退屈せずに主体的に学べるようにします。 ①面白おかしいクイズ問題に取り組むことで、講義内容を身近なテーマと関連付けての理解する「頭の体操」 ②知識の定着などを目的とした速記のスピードを競う「速記バトル」 ③居眠り防止のために講義中に突然クイズを出す「○突クイズ」</p>
授業計画	<p>1 国際経済論とは何か？</p> <p>2 ドラゴンクエストから始める国際経済論入門</p> <p>3 日経平均株価から始める国際経済論入門</p> <p>4 「リーマンショック」の定義</p> <p>5 サブプライムローンと住宅価格の高騰</p> <p>6 債権の証券化、CDS</p> <p>7 レポ市場とシステミックリスクの顕在化</p> <p>8 「リーマンショック」の評価</p> <p>9 ドラえもんで学ぶタックスヘイブン</p> <p>10 アジア通貨危機</p> <p>11 リーマンショック後の政策協調</p> <p>12 戦後資本主義世界体制</p> <p>13 総余剰分析</p> <p>14 比較優位と絶対優位</p> <p>15 ヘクシャーオリーン定理、マンデルフレミングモデル</p>
到達目標	<p>①学生は、国際経済論の概要や基礎知識を理解できる。 ②学生は、「リーマンショック」のメカニズムとその歴史的意義を理解できる。 ③学生は、国際経済に関する標準的な理論を理解できる。 ④学生は、日常の国際経済ニュースをより身近なものに感じ、深く理解できるようになる。</p>
予習内容/復習内容	<ul style="list-style-type: none"> ・予習；新聞やテレビのニュース、インターネットを通じて、国際社会で今何が起きているかを把握する。 ・復習；配布されたレジュメや資料を再度読み直す。
教科書	特になし
成績評価	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート100%。授業への積極的参加などを加点要素とする（最大3%）。 ・6回以上欠席した場合は、レポートの提出資格がありません。
実務経験	
その他特記事項	<ul style="list-style-type: none"> ・メリハリのある、面白くて楽しい講義を心がけます。 ・学生を指名することは、絶対にしませんので、気軽に受講してください。 ・授業を難しく感じた場合は復習が必要です。 ・講義内容については、受講生の学習の進捗度に応じて、適宜調整します。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	全学年	2	選択
担当教員			
熊澤 大輔			
	講義		
添付ファイル			

ディプロマ・ポリシー	<p>大学DP</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 1. 創造性豊かな人間性と優れた専門性を身につけた学生 □ 2. 実社会で活躍できる知的・人間的資質を身につけた学生 □ 3. 地域社会を主体的に担う態度を身につけた学生 □ 4. 国際社会に対する理解とコミュニケーション能力や情報社会に対応できる能力を身につけた学生 <p>法経科第1部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 法律・政治・経済・経営など社会科学の基幹分野に関する基本的な知識を修得し、最新の学問的到達についても一定の理解をもっている。 □ 2. 現代社会の諸問題について、専門的知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 □ 3. 修得した学識を職業生活上の実践的課題に適用することができる。 □ 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 □ 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>法経科第2部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 1. 社会科学について広く基礎的な素養を身につけている。 ■ 2. 現代社会の諸問題について、学修した知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 □ 3. 多様な目的意識を持つ幅広い年齢層の学生がともに学生生活を送ることを通じて、豊かな人間関係を構築できるコミュニケーション能力を身につけている。 □ 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 ■ 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>食物栄養学科食物栄養学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 栄養士として必要な食に関する幅広い専門知識と技能を有している。 □ 2. 食と健康に関する様々な課題に対して、科学的根拠に基づいた多面的・総合的な理解及び判断ができる。 □ 3. 豊かな教養、高い倫理観、優れたコミュニケーション力を備え、栄養士として適切な栄養管理・指導を実践できる。 □ 4. 習得した専門知識と技能を基に、地域社会と連携して食と健康の分野で主体的に活躍できる能力を備えている。 <p>生活科学学科生活科学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 「いのち」と「暮らし」に関わるニーズが多様化する社会にあって、それらについての基礎的な教養を身につけている。 □ 2. 生活福祉・心理コースにあっては、社会福祉学と心理学を総合した視点に立って、社会や人間に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 □ 3. 居住環境コースにあっては、住生活や環境という視点に立って、生活環境に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 □ 4. 高い公共性と倫理性を備え、地域や社会に主体的、積極的に貢献していこうとする態度が身につけている。 <p>※■が該当項目</p>
------------	--

授業概要/授業目的	本科目は、資本主義経済の特徴を理解することで、現代的な諸問題（不況、物価変動、格差、財政赤字、少子高齢化）の解決方法を学ぶことを目的としています。授業前半では、資本主義経済の運動（成長と景気循環）、市場を通じた分配のメリットとデメリットについて理論的な解説を行います。授業後半では、前半の内容を踏まえて、1980年以降の日本経済について統計資料を用いて分析します。数学的な手法を用いる場合がありますが、図解してなるべく平易に説明するよう努めています。
授業計画	<p>1 イントロダクション（講義の射程、成績評価、経済学説史）</p> <p>2 本主義経済の特徴（成長と分配）</p>

	3	資本主義経済の長期的運動（蓄積、拡大再生産、労働生産性の上昇）
	4	市場を通じた分配①（生産可能性集合、交換の利益、比較優位）
	5	市場を通じた分配②（生産手段の所有、労働力の商品化、労働の搾取）
	6	市場を通じた分配③（本源的蓄積、マルクスの基本定理、利潤最大化）
	7	資本主義経済の短期的運動（景気循環のメカニズム）
	8	景気のコントロール①金融政策（利率の決定、買いオペ、売りオペ、インフレ目標政策）
	9	景気のコントロール②財政政策（限界消費性向、租税、乗数効果）
	10	景気のコントロール③一般均衡モデル（労働市場と財市場の関係）
	11	日本経済①1981-1993 バブル形成と崩壊
	12	日本経済②1994-2002 長期不況と財政赤字
	13	日本経済③2003-2012 構造改革と雇用環境の変化
	14	日本経済④2013-現在 アベノミクスとコロナショック
	15	総論（復習、まとめ）
到達目標		<ul style="list-style-type: none"> ・資本主義経済の運動について理解する。 ・市場を通じた分配のメリットとデメリットを理解する。 ・景気に応じた適切な経済政策を考えられるようになる。
予習内容/復習内容		事前にアップロードされる授業用資料で予習して下さい。授業内容は連続していますので、各回毎に不明な点が無いよう資料を読み直して下さい。また、質問や要望についてはGoogle Classroomを用いて毎回アンケートを取り、次回授業の冒頭に答えます。
教科書		なし。アップロードした授業用資料を用いる。
成績評価		<ul style="list-style-type: none"> ・出席時に提出する質問・要望・感想（10%） ・中間レポート(40%) ・期末レポート(50%)
実務経験		なし。
その他特記事項		授業用資料の配布や出欠管理・レポート提出などすべてGoogleのClassroomを用いて行います。授業内容は簡単ではありませんが、日々の生活と経済がどのように関係しているかを理解出来る内容になっています。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	全学年	2	選択
担当教員			
大畑 智史			
	講義		
添付ファイル			

ディプロマ・ポリシー	<p>大学DP</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 1. 創造性豊かな人間性と優れた専門性を身につけた学生 □ 2. 実社会で活躍できる知的・人間的資質を身につけた学生 ■ 3. 地域社会を主体的に担う態度を身につけた学生 □ 4. 国際社会に対する理解とコミュニケーション能力や情報社会に対応できる能力を身につけた学生 <p>法経科第1部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 法律・政治・経済・経営など社会科学の基幹分野に関する基本的な知識を修得し、最新の学問的到達についても一定の理解をもっている。 □ 2. 現代社会の諸問題について、専門的知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 □ 3. 修得した学識を職業生活上の実践的課題に適用することができる。 □ 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 □ 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>法経科第2部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 1. 社会科学について広く基礎的な素養を身につけている。 ■ 2. 現代社会の諸問題について、学修した知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 □ 3. 多様な目的意識を持つ幅広い年齢層の学生がともに学生生活を送ることを通じて、豊かな人間関係を構築できるコミュニケーション能力を身につけている。 □ 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 ■ 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>食物栄養学科食物栄養学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 栄養士として必要な食に関する幅広い専門知識と技能を有している。 □ 2. 食と健康に関する様々な課題に対して、科学的根拠に基づいた多面的・総合的な理解及び判断ができる。 □ 3. 豊かな教養、高い倫理観、優れたコミュニケーション力を備え、栄養士として適切な栄養管理・指導を実践できる。 □ 4. 習得した専門知識と技能を基に、地域社会と連携して食と健康の分野で主体的に活躍できる能力を備えている。 <p>生活科学科生活科学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 「いのち」と「暮らし」に関わるニーズが多様化する社会にあって、それらについての基礎的な教養を身につけている。 □ 2. 生活福祉・心理コースにあっては、社会福祉学と心理学を総合した視点に立って、社会や人間に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 □ 3. 居住環境コースにあっては、住生活や環境という視点に立って、生活環境に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 □ 4. 高い公共性と倫理性を備え、地域や社会に主体的、積極的に貢献していこうとする態度が身につけている。 <p>※■が該当項目</p>
------------	---

授業概要/授業目的	現在、日本をみても、国や地方自治体は、災害対応、教育、などの面で重要な存在です。本講義では、主として、そうした主体は現在どのような形で運営されているのか、その状況はどうか、などの点を、特に日本の地方自治体の場合に焦点をあてて説明します。本講義は、そうしたことにより、受講生が、我々の日常生活に身近な地方自治体の財政に関し専門的に考察できることを目標とします。
授業計画	1 オリエンテーション：地方財政とは 2 地方自治体の役割

	3	地方分権
	4	公共財
	5	予算制度
	6	地方税：理論
	7	地方税：制度
	8	国と地方との財政関係：特定補助金
	9	国と地方との財政関係：一般補助金
	10	地方債：理論
	11	地方債：制度
	12	地方財政健全化
	13	地方公営企業と第三セクター
	14	公会計
	15	地方財政改革、まとめ
到達目標	①地方財政の基本的な仕組みを理解することができる。 ②地方財政の現状について専門的に理解することができる。 ③地方財政の課題解決策について専門的に考察することができる。	
予習内容/復習内容	予習：次回の講義のテーマに関する新聞などの記事を読む。 復習：今回の講義内容を確認した上で、疑問点を解決する。	
教科書	教科書は特に指定しません。適宜、講義中に参考資料を紹介します。	
成績評価	定期試験：70% 講義内容についての感想（3回）：30%	
実務経験		
その他特記事項	初回に配布する「シラバス補足事項」もよく読んでください。	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	全学年	4	選択
担当教員			
浅野 和也			
	講義		
添付ファイル			

ディプロマ・ポリシー	<p>大学DP</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 1. 創造性豊かな人間性と優れた専門性を身につけた学生 □ 2. 実社会で活躍できる知的・人間的資質を身につけた学生 □ 3. 地域社会を主体的に担う態度を身につけた学生 □ 4. 国際社会に対する理解とコミュニケーション能力や情報社会に対応できる能力を身につけた学生 <p>法経科第1部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 法律・政治・経済・経営など社会科学の基幹分野に関する基本的な知識を修得し、最新の学問的到達についても一定の理解をもっている。 □ 2. 現代社会の諸問題について、専門的知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 □ 3. 修得した学識を職業生活上の実践的課題に適用することができる。 □ 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 □ 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>法経科第2部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 1. 社会科学について広く基礎的な素養を身につけている。 ■ 2. 現代社会の諸問題について、学修した知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 □ 3. 多様な目的意識を持つ幅広い年齢層の学生がともに学生生活を送ることを通じて、豊かな人間関係を構築できるコミュニケーション能力を身につけている。 □ 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 ■ 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>食物栄養学科食物栄養学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 栄養士として必要な食に関する幅広い専門知識と技能を有している。 □ 2. 食と健康に関する様々な課題に対して、科学的根拠に基づいた多面的・総合的な理解及び判断ができる。 □ 3. 豊かな教養、高い倫理観、優れたコミュニケーション力を備え、栄養士として適切な栄養管理・指導を実践できる。 □ 4. 習得した専門知識と技能を基に、地域社会と連携して食と健康の分野で主体的に活躍できる能力を備えている。 <p>生活科学科生活科学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 「いのち」と「暮らし」に関わるニーズが多様化する社会にあって、それらについての基礎的な教養を身につけている。 □ 2. 生活福祉・心理コースにあっては、社会福祉学と心理学を総合した視点に立って、社会や人間に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 □ 3. 居住環境コースにあっては、住生活や環境という視点に立って、生活環境に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 □ 4. 高い公共性と倫理性を備え、地域や社会に主体的、積極的に貢献していこうとする態度が身につけている。 <p>※■が該当項目</p>
------------	---

授業概要/授業目的	本講義では、経営学の基本学説や諸理論について学び、企業経営に必要なこととは何かを考えていきます。あわせて、企業が抱える諸問題について考察することで様々なものの見方・考え方を培っていきます。
授業計画	<p>1 ガイダンス：授業の進め方</p> <p>2 企業の基本形態と特徴</p> <p>3 株式会社制度</p>

	4	管理の役割と目的
	5	経営組織とは何か
	6	経営戦略とは何か
	7	アンゾフ・ポーターの戦略論
	8	コンビニ：ビジネスモデル
	9	コンビニ：新たな成長と諸問題
	10	ゲーム産業：市場の創造
	11	ゲーム産業：市場の変化
	12	携帯電話：ガラケーの成長
	13	携帯電話：スマホの急成長
	14	科学的管理法と大量生産方式
	15	人間関係論の生成と展開
	16	行動科学論：モチベーション
	17	日本的経営の特質の制度
	18	日本的経営の短所・諸問題
	19	事例分析：自動車（生産）
	20	事例分析：自動車（労働）
	21	戦前の日本企業の特徴
	22	財閥の展開：総合財閥
	23	財閥の展開：新興財閥
	24	ビッグビジネス：鉄鋼
	25	ビッグビジネス：石油
	26	ビッグビジネス：化学
	27	ワークライフバランス
	28	ダイバーシティ
	29	グローバル化の功罪
	30	総括：企業経営の諸課題
到達目標	経営学の基本学説や諸理論について理解・説明できる。 企業における人・モノ・お金・情報の各経営資源の特質をふまえて、企業が抱える諸問題について理解・説明できる。	
予習内容/復習内容	予習：講義中に示すキーワードについて調べておく。 復習：予習したことをふまえてプリントと講義内容についてまとめる。	
教科書	プリント教材を配布、テキストは指定しません。参考文献は必要に応じて紹介します。	
成績評価	最終レポート：50%、講義内での課題レポート：30%、平常評価（コメントシート）20%	

実務経験	
その他特記事項	一部分の考察ではなく、毎回の積み重ねによる論理的考察が非常に重要ですので欠席過多に注意してください。 新聞、ビジネス雑誌、テレビ・ネット等のニュース報道からの情報収集を心がけてください。 対象領域が広い学問であることから自主学習が不可欠です。したがって、編入学を考えている人は1年次での履修を強く推奨します。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	全学年	2	選択
担当教員			
浅野 和也			
	講義		
添付ファイル			

ディプロマ・ポリシー	<p>大学DP</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 1. 創造性豊かな人間性と優れた専門性を身につけた学生 □ 2. 実社会で活躍できる知的・人間的資質を身につけた学生 □ 3. 地域社会を主体的に担う態度を身につけた学生 □ 4. 国際社会に対する理解とコミュニケーション能力や情報社会に対応できる能力を身につけた学生 <p>法経科第1部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 法律・政治・経済・経営など社会科学の基幹分野に関する基本的な知識を修得し、最新の学問的到達についても一定の理解をもっている。 □ 2. 現代社会の諸問題について、専門的知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 □ 3. 修得した学識を職業生活上の実践的課題に適用することができる。 □ 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 □ 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>法経科第2部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 1. 社会科学について広く基礎的な素養を身につけている。 ■ 2. 現代社会の諸問題について、学修した知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 □ 3. 多様な目的意識を持つ幅広い年齢層の学生がともに学生生活を送ることを通じて、豊かな人間関係を構築できるコミュニケーション能力を身につけている。 □ 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 ■ 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>食物栄養学科食物栄養学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 栄養士として必要な食に関する幅広い専門知識と技能を有している。 □ 2. 食と健康に関する様々な課題に対して、科学的根拠に基づいた多面的・総合的な理解及び判断ができる。 □ 3. 豊かな教養、高い倫理観、優れたコミュニケーション力を備え、栄養士として適切な栄養管理・指導を実践できる。 □ 4. 習得した専門知識と技能を基に、地域社会と連携して食と健康の分野で主体的に活躍できる能力を備えている。 <p>生活科学科生活科学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 「いのち」と「暮らし」に関わるニーズが多様化する社会にあって、それらについての基礎的な教養を身につけている。 □ 2. 生活福祉・心理コースにあっては、社会福祉学と心理学を総合した視点に立って、社会や人間に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 □ 3. 居住環境コースにあっては、住生活や環境という視点に立って、生活環境に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 □ 4. 高い公共性と倫理性を備え、地域や社会に主体的、積極的に貢献していこうとする態度が身につけている。 <p>※■が該当項目</p>
------------	---

授業概要/授業目的	「企業は人なり」「人材＝人財」といった言葉からもわかるように、人（人材）の存在を考えない企業経営はありえません。どのような人材を確保し育てていくかは企業の命運を左右します。同時に、企業の思いばかりが先行すると、従業員のモチベーションは低下し企業の持ち味も失われてしまいます。本講義では、日本企業の人材育成とその管理の方法を考察します。あわせて、その施策は働く側にどのような影響を及ぼすか、そして日本企業での働き方・働かせ方の問題を考えつつ、生活や社会への課題も考察します。
授業計画	<p>1 ガイダンス：授業の進め方</p> <p>2 企業経営と人材育成</p>

	3	雇用管理 1 : 雇用慣行と採用の流れ
	4	雇用管理 2 : 組織設計と職務設計、配置
	5	人事制度 1 : 職能資格制度
	6	人事制度 2 : 人事考課 (査定)
	7	賃金管理 1 : 賃金体系と項目
	8	賃金管理 2 : 賃金額と決まり方
	9	労働時間管理 1 : 労働時間の長さとは制度
	10	労働時間管理 2 : 長さではない働き方の展開
	11	能力開発 1 : 新入社員教育、自己啓発
	12	能力開発 2 : 異動と成長
	13	雇用の多様化
	14	労使関係と労働組合
	15	総括 : 課題解決への道筋
到達目標	日本企業における人材育成の特徴について系統立てて理解・説明できること。 日本企業が抱える労働問題について政策の内容をふまえて問題点を抽出し解決策への道筋を理解・説明できること。	
予習内容/復習内容	予習 : 講義中に示すキーワードについて調べておく。 復習 : 予習したことをふまえてプリントと講義内容についてまとめる。	
教科書	佐藤飛鳥・浅野和也・橋場俊展編著『入門 人的資源管理論』法律文化社、2024年	
成績評価	最終レポート : 50%、講義内での課題レポート : 30%、平常評価 (コメントシート) : 20%	
実務経験		
その他特記事項	一部分の考察ではなく、毎回の積み重ねによる論理的考察が非常に重要ですので欠席過多に注意してください。 新聞、ビジネス雑誌、テレビ・ネット等のニュース報道からの情報収集を心がけてください。 経営学修得後に履修するのが望ましい。労働法、ジェンダー論を履修するとより理解が深まります。	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	全学年	4	選択
担当教員			
田中里美			
		講義	
添付ファイル			

ディプロマ・ポリシー	<p>大学DP</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 1. 創造性豊かな人間性と優れた専門性を身につけた学生 □ 2. 実社会で活躍できる知的・人間的資質を身につけた学生 □ 3. 地域社会を主体的に担う態度を身につけた学生 □ 4. 国際社会に対する理解とコミュニケーション能力や情報社会に対応できる能力を身につけた学生 <p>法経科第1部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 法律・政治・経済・経営など社会科学の基幹分野に関する基本的な知識を修得し、最新の学問的到達についても一定の理解をもっている。 □ 2. 現代社会の諸問題について、専門的知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 □ 3. 修得した学識を職業生活上の実践的課題に適用することができる。 □ 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 □ 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>法経科第2部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 1. 社会科学について広く基礎的な素養を身につけている。 ■ 2. 現代社会の諸問題について、学修した知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 □ 3. 多様な目的意識を持つ幅広い年齢層の学生がともに学生生活を送ることを通じて、豊かな人間関係を構築できるコミュニケーション能力を身につけている。 □ 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 ■ 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>食物栄養学科食物栄養学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 栄養士として必要な食に関する幅広い専門知識と技能を有している。 □ 2. 食と健康に関する様々な課題に対して、科学的根拠に基づいた多面的・総合的な理解及び判断ができる。 □ 3. 豊かな教養、高い倫理観、優れたコミュニケーション力を備え、栄養士として適切な栄養管理・指導を実践できる。 □ 4. 習得した専門知識と技能を基に、地域社会と連携して食と健康の分野で主体的に活躍できる能力を備えている。 <p>生活科学科生活科学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 「いのち」と「暮らし」に関わるニーズが多様化する社会にあって、それらについての基礎的な教養を身につけている。 □ 2. 生活福祉・心理コースにあっては、社会福祉学と心理学を総合した視点に立って、社会や人間に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 □ 3. 居住環境コースにあっては、住生活や環境という視点に立って、生活環境に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 □ 4. 高い公共性と倫理性を備え、地域や社会に主体的、積極的に貢献していこうとする態度が身につけている。 <p>※■が該当項目</p>
------------	---

授業概要/授業目的	<p>会計学では、企業が公表する決算書を市民の視点から読み解けるように学習する。決算書とは、財務諸表とも呼ばれ、貸借対照表、損益計算書、キャッシュ・フロー計算書等から構成される。これらの決算書が読めるようになると、企業の財産や利益、資金の流れがわかり、企業の業績を評価することができる。</p> <p>本講義では、貸借対照表、損益計算書、キャッシュ・フロー計算書の基本的な構成を学習し、決算書が読めると付加価値や内部留保、粉飾決算等、さまざまな事が分析できるという事を学習する。</p>
授業計画	<p>1 ガイダンスー会計学とは</p> <p>2 決算書とはなにか</p>

	3	貸借対照表
	4	減価償却
	5	資金バランス
	6	流動固定分類
	7	中小企業の決算書流動固定分類
	8	公認会計士監査 まとめとおさらい 小テスト①
	9	損益計算書
	10	各種利益
	11	キャッシュフロー計算書
	12	資金収支
	13	キャッシュフロー計算書の読み方
	14	キャッシュフロー計算書のタイプ
	15	キャッシュ まとめとおさらい 小テスト②
	16	経営分析の基礎
	17	総資本経常利益率と当座比率
	18	固定比率と自己資本比率
	19	資本利益率
	20	総資本回転率
	21	回転率 まとめとおさらい 小テスト③
	22	生産性分析
	23	流動比率と当座比率
	24	固定比率と固定長期適合率
	25	決算書の構造
	26	EDINET まとめとおさらい 小テスト④
	27	実際の企業を分析してみよう 実践編
	28	実際の企業を分析してみよう 検証編
	29	実際の企業を分析してみよう まとめ 期末レポート課題
	30	総まとめ おさらい
到達目標	①	貸借対照表、損益計算書、キャッシュ・フロー計算書の基本的な構成を学ぶ
	②	各種比率分析について学ぶ
	③	粉飾決算がどのようにして生じるのかを学ぶ
予習内容/復習内容		予習：教科書に目を通しておく 復習：ノートの整理、教科書をもう一度目を通す

教科書	初回の授業で指定する。
成績評価	出席と毎回のコメントペーパーの内容30%、小テスト（4回）40%、期末レポート30%。
実務経験	
その他特記事項	電卓の用意が必要。

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	全学年	4単位	選択
担当教員			
田中里美			
		講義	
添付ファイル			

ディプロマ・ポリシー	<p>大学DP</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 創造性豊かな人間性と優れた専門性を身につけた学生 <input checked="" type="checkbox"/> 2. 実社会で活躍できる知的・人間的資質を身につけた学生 <input type="checkbox"/> 3. 地域社会を主体的に担う態度を身につけた学生 <input type="checkbox"/> 4. 国際社会に対する理解とコミュニケーション能力や情報社会に対応できる能力を身につけた学生 <p>法経科第1部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 法律・政治・経済・経営など社会科学の基幹分野に関する基本的な知識を修得し、最新の学問的到達についても一定の理解をもっている。 <input type="checkbox"/> 2. 現代社会の諸問題について、専門的知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 <input type="checkbox"/> 3. 修得した学識を職業生活上の実践的課題に適用することができる。 <input type="checkbox"/> 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 <input type="checkbox"/> 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>法経科第2部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input checked="" type="checkbox"/> 1. 社会科学について広く基礎的な素養を身につけている。 <input checked="" type="checkbox"/> 2. 現代社会の諸問題について、学修した知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 <input type="checkbox"/> 3. 多様な目的意識を持つ幅広い年齢層の学生がともに学生生活を送ることを通じて、豊かな人間関係を構築できるコミュニケーション能力を身につけている。 <input type="checkbox"/> 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 <input checked="" type="checkbox"/> 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>食物栄養学科食物栄養学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 栄養士として必要な食に関する幅広い専門知識と技能を有している。 <input type="checkbox"/> 2. 食と健康に関する様々な課題に対して、科学的根拠に基づいた多面的・総合的な理解及び判断ができる。 <input type="checkbox"/> 3. 豊かな教養、高い倫理観、優れたコミュニケーション力を備え、栄養士として適切な栄養管理・指導を実践できる。 <input type="checkbox"/> 4. 習得した専門知識と技能を基に、地域社会と連携して食と健康の分野で主体的に活躍できる能力を備えている。 <p>生活科学科生活科学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> <input type="checkbox"/> 1. 「いのち」と「暮らし」に関わるニーズが多様化する社会にあって、それらについての基礎的な教養を身につけている。 <input type="checkbox"/> 2. 生活福祉・心理コースにあっては、社会福祉学と心理学を総合した視点に立って、社会や人間に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 <input type="checkbox"/> 3. 居住環境コースにあっては、住生活や環境という視点に立って、生活環境に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 <input type="checkbox"/> 4. 高い公共性と倫理性を備え、地域や社会に主体的、積極的に貢献していこうとする態度が身につけている。 <p>※■が該当項目</p>
------------	---

授業概要/授業目的	簿記原理では、日商簿記検定3級の内容を学習する。簿記の初学者でも学習できるよう、基礎的な内容から学習する。取引や仕訳からはじまり、精算表、試算表を経て、損益計算書と貸借対照表の作成の仕方を学ぶ。この講義を受講することで、簿記一巡の手続きを学ぶことができ、簿記の知識を身に着けることができる。
授業計画	<p>1 ガイダンス 簿記原理で学ぶ事</p> <p>2 簿記の基礎</p> <p>3 商品売買 三分法</p>

	4	商品売買 掛売上 返品
	5	現金
	6	当座預金
	7	当座借越 おさらいとまとめ 小テスト①
	8	小口現金
	9	約束手形
	10	貸付金・借入金
	11	その他債権債務 未払金・未収入金
	12	その他債権債務 前払金・前受金
	13	立替金・預り金 おさらいとまとめ小テスト②
	14	その他費用
	15	貸し倒れと貸倒引当金
	16	有形固定資産と減価償却
	17	株式の発行・剰余金の配当
	18	法人税等と消費税
	19	費用収益の前払いと前受け
	20	未払い・未収 おさらいとまとめ 小テスト③
	21	帳簿への記入
	22	商品在高帳
	23	試算表
	24	決算整理 現金過不足
	25	決算整理 売上原価
	26	精算表
	27	財務諸表の作成
	28	帳簿の締め切り おさらいとまとめ 小テスト④
	29	各勘定の締め切り 期末課題の提示
	30	総まとめ おさらい
到達目標	簿記原理を受講することで、簿記一巡の手続きを学び習得することを目標とする。簿記の仕組みを知る事で、企業を数値化してとらえることができる。会計学等の関連科目の基礎知識を習得することを目標にする。	
予習内容/復習内容	テキストの内容を事前に読み、授業後に繰り返し問題を解くと、効果的に学習できる。	
教科書	初回授業の時に指定する。	
成績評価	毎回の出席と授業への参加度30%、小テスト4回40%、期末課題30%	

実務経験	
その他特記事項	

英文科目名称：

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2年	4	必修
担当教員			
柏崎 早陽子			
		演習	
添付ファイル			

ディプロマ・ポリシー	<p>大学DP</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 1. 創造性豊かな人間性と優れた専門性を身につけた学生 □ 2. 実社会で活躍できる知的・人間的資質を身につけた学生 □ 3. 地域社会を主体的に担う態度を身につけた学生 ■ 4. 国際社会に対する理解とコミュニケーション能力や情報社会に対応できる能力を身につけた学生 <p>法経科第1部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 法律・政治・経済・経営など社会科学の基幹分野に関する基本的な知識を修得し、最新の学問的到達についても一定の理解をもっている。 □ 2. 現代社会の諸問題について、専門的知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 □ 3. 修得した学識を職業生活上の実践的課題に適用することができる。 □ 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 □ 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>法経科第2部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 1. 社会科学について広く基礎的な素養を身につけている。 ■ 2. 現代社会の諸問題について、学修した知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 ■ 3. 多様な目的意識を持つ幅広い年齢層の学生がともに学生生活を送ることを通じて、豊かな人間関係を構築できるコミュニケーション能力を身につけている。 □ 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 ■ 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>食物栄養学科食物栄養学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 栄養士として必要な食に関する幅広い専門知識と技能を有している。 □ 2. 食と健康に関する様々な課題に対して、科学的根拠に基づいた多面的・総合的な理解及び判断ができる。 □ 3. 豊かな教養、高い倫理観、優れたコミュニケーション力を備え、栄養士として適切な栄養管理・指導を実践できる。 □ 4. 習得した専門知識と技能を基に、地域社会と連携して食と健康の分野で主体的に活躍できる能力を備えている。 <p>生活科学科生活科学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 「いのち」と「暮らし」に関わるニーズが多様化する社会にあって、それらについての基礎的な教養を身につけている。 □ 2. 生活福祉・心理コースにあっては、社会福祉学と心理学を総合した視点に立って、社会や人間に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 □ 3. 居住環境コースにあっては、住生活や環境という視点に立って、生活環境に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 □ 4. 高い公共性と倫理性を備え、地域や社会に主体的、積極的に貢献していこうとする態度が身につけている。 <p>※■が該当項目</p>
------------	---

授業概要/授業目的	本演習では、受講生を主体として、文献や判例の研究・報告を通じて刑法の諸問題について検討し、理解を深めます。前期は、興味を持つ研究テーマを選択してもらい、そのテーマについての報告をおこなってもらいます。後期は、前期に選択したテーマについての研究を深め、その内容について報告をおこなってもらいます。本演習の総まとめとして卒業論文の執筆を目指します。
授業計画	<p>1 前期ガイダンスー本演習の進め方、評価方法等</p> <p>2 法律文献の探し方</p>

	3	判例の探し方
	4	構成要件該当性について再確認する (※)
	5	違法性について再確認する (※)
	6	有責性について再確認する (※)
	7	興味のある研究テーマを選択&テーマ報告
	8	卒業論文の執筆方法と研究倫理
	9	報告レジュメの作成方法
	10	卒業論文の中間報告①：文献の報告
	11	卒業論文の中間報告②：判例の報告
	12	卒業論文の中間報告③：学説の報告
	13	卒業論文の中間報告④：結論の仮報告
	14	夏期休暇中の卒業論文の進め方
	15	前期のまとめ
	16	後期ガイダンスー卒業論文の執筆に向けて
	17	卒業論文の進捗報告
	18	卒業論文の構成を練る
	19	卒業論文の文献の収集
	20	卒業論文の判例の収集
	21	卒論報告用の資料作成①：文献の整理
	22	卒論報告用の資料作成②：判例の整理
	23	卒論報告用の資料作成③：学説の整理
	24	卒論報告用の資料作成④：結論の整理
	25	卒業論文を形にする
	26	卒業論文の最終報告①：個別報告&質疑応答
	27	卒業論文の最終報告②：個別報告&質疑応答
	28	卒業論文の最終報告③：個別報告&質疑応答
	29	卒業論文の最終報告④：個別報告&質疑応答
	30	後期のまとめ
到達目標	報告や議論、卒業論文の執筆等を通じて、①法的な問題点を発見することができる、②他者を納得させる形で自己の意見を主張することができる、③物事を論理的に説明する力を身につけることができる。	
予習内容/復習内容	報告用資料の作成等を通じて予習し、演習内で扱った用語や論点等をふり返ることで復習する。新聞などを通じて時事問題にも触れるのが望ましい。	
教科書	教科書は特に指定しない。ただし、最新の六法を毎回必ず持参すること。その他、演習内で適宜紹介する。	

成績評価	①報告・報告用資料の作成（50%）、②授業への参加態度（50%）とし、①・②をもとに総合評価する。
実務経験	
その他特記事項	演習では、学生の積極的な参加（発言など）を求めます。友人や教員の意見に迎合しないとマズイ・・・なんてことはありません。間違いをおそれず、素朴な疑問でも何でもぶつけて楽しく演習を進めましょう。※マーク＝演習内で扱う内容や判例等については、適宜変更する可能性があります。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2年	4	必修
担当教員			
鎌塚 有貴			
		演習	
添付ファイル			

ディプロマ・ポリシー	<p>大学DP</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 1. 創造性豊かな人間性と優れた専門性を身につけた学生 □ 2. 実社会で活躍できる知的・人間的資質を身につけた学生 □ 3. 地域社会を主体的に担う態度を身につけた学生 ■ 4. 国際社会に対する理解とコミュニケーション能力や情報社会に対応できる能力を身につけた学生 <p>法経科第1部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 法律・政治・経済・経営など社会科学の基幹分野に関する基本的な知識を修得し、最新の学問的到達についても一定の理解をもっている。 □ 2. 現代社会の諸問題について、専門的知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 □ 3. 修得した学識を職業生活上の実践的課題に適用することができる。 □ 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 □ 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>法経科第2部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 1. 社会科学について広く基礎的な素養を身につけている。 ■ 2. 現代社会の諸問題について、学修した知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 ■ 3. 多様な目的意識を持つ幅広い年齢層の学生がともに学生生活を送ることを通じて、豊かな人間関係を構築できるコミュニケーション能力を身につけている。 □ 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 ■ 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>食物栄養学科食物栄養学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 栄養士として必要な食に関する幅広い専門知識と技能を有している。 □ 2. 食と健康に関する様々な課題に対して、科学的根拠に基づいた多面的・総合的な理解及び判断ができる。 □ 3. 豊かな教養、高い倫理観、優れたコミュニケーション力を備え、栄養士として適切な栄養管理・指導を実践できる。 □ 4. 習得した専門知識と技能を基に、地域社会と連携して食と健康の分野で主体的に活躍できる能力を備えている。 <p>生活科学科生活科学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 「いのち」と「暮らし」に関わるニーズが多様化する社会にあって、それらについての基礎的な教養を身につけている。 □ 2. 生活福祉・心理コースにあっては、社会福祉学と心理学を総合した視点に立って、社会や人間に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 □ 3. 居住環境コースにあっては、住生活や環境という視点に立って、生活環境に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 □ 4. 高い公共性と倫理性を備え、地域や社会に主体的、積極的に貢献していこうとする態度が身につけている。 <p>※■が該当項目</p>
------------	---

授業概要/授業目的	「憲法Ⅰ・Ⅱ」の講義中では詳細に扱うことのできなかつた事柄について、より詳細に検討することに加え、憲法学が直面している時事問題についても理解を深めることを目標とする。各回担当者による報告形式とし、卒業論文の執筆を最終目標とする。
授業計画	<p>1 ガイダンス：ゼミの進め方、研究倫理について</p> <p>2 文献の探し方</p> <p>3 判例の調べ方</p>

	4	報告準備の方法
	5	幸福追求権
	6	法の下での平等
	7	思想・良心の自由
	8	信教の自由
	9	表現の自由
	10	身体的自由権
	11	経済的自由権
	12	生存権
	13	教育を受ける権利
	14	婚姻の自由
	15	国籍
	16	選挙権
	17	選挙制度
	18	統治総論
	19	国会の仕組み
	20	委員会制度
	21	国政調査権
	22	議院内閣制
	23	外交
	24	裁判所の組織
	25	司法権の独立
	26	違憲審査権
	27	地方自治
	28	財政
	29	平和主義
	30	天皇制
到達目標	一つのテーマに沿って、自分の意見を発表できるようになること。 時事問題を含む実際の社会問題と憲法を関連付けて考えられるようになること。	
予習内容/復習内容	発表用資料作成、ニュース等のチェックなど	
教科書		
成績評価	報告50%、授業への参加態度50%	

実務経験	
その他特記事項	授業計画は変更の可能性があります。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2年	4	必修
担当教員			
川上 哲			
	演習		
添付ファイル			

ディプロマ・ポリシー	<p>大学DP</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 1. 創造性豊かな人間性と優れた専門性を身につけた学生 □ 2. 実社会で活躍できる知的・人間的資質を身につけた学生 □ 3. 地域社会を主体的に担う態度を身につけた学生 ■ 4. 国際社会に対する理解とコミュニケーション能力や情報社会に対応できる能力を身につけた学生 <p>法経科第1部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 法律・政治・経済・経営など社会科学の基幹分野に関する基本的な知識を修得し、最新の学問的到達についても一定の理解をもっている。 □ 2. 現代社会の諸問題について、専門的知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 □ 3. 修得した学識を職業生活上の実践的課題に適用することができる。 □ 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 □ 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>法経科第2部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 1. 社会科学について広く基礎的な素養を身につけている。 ■ 2. 現代社会の諸問題について、学修した知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 ■ 3. 多様な目的意識を持つ幅広い年齢層の学生がともに学生生活を送ることを通じて、豊かな人間関係を構築できるコミュニケーション能力を身につけている。 □ 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 ■ 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>食物栄養学科食物栄養学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 栄養士として必要な食に関する幅広い専門知識と技能を有している。 □ 2. 食と健康に関する様々な課題に対して、科学的根拠に基づいた多面的・総合的な理解及び判断ができる。 □ 3. 豊かな教養、高い倫理観、優れたコミュニケーション力を備え、栄養士として適切な栄養管理・指導を実践できる。 □ 4. 習得した専門知識と技能を基に、地域社会と連携して食と健康の分野で主体的に活躍できる能力を備えている。 <p>生活科学科生活科学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 「いのち」と「暮らし」に関わるニーズが多様化する社会にあって、それらについての基礎的な教養を身につけている。 □ 2. 生活福祉・心理コースにあっては、社会福祉学と心理学を総合した視点に立って、社会や人間に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 □ 3. 居住環境コースにあっては、住生活や環境という視点に立って、生活環境に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 □ 4. 高い公共性と倫理性を備え、地域や社会に主体的、積極的に貢献していこうとする態度が身につけている。 <p>※■が該当項目</p>
------------	---

授業概要/授業目的	この演習では、政治学や行政学の立場から現代日本の政治・行政の諸問題を扱っていく。前期は主に公共政策や公務員に関わる文献輪読を通じて議論を行い、自らの問題関心を深める。後期は文献輪読を引き続き行うと同時に、卒業論文を仕上げる。また校外学習も行う。適切な質問や議論は自らの問題意識を深める格好の機会であることを学んで欲しい。シラバスに記載した文献は参考であり、実際に取り上げる文献は受講生と相談して決める。
授業計画	<p>1 ゼミ概要と評価方法並びに研究倫理に関する講義</p> <p>2 『入門 公共政策学』① なぜ公共政策学か</p>

3	『入門 公共政策学』② 問題
4	『入門 公共政策学』③ 設計
5	『入門 公共政策学』④ 決定
6	『入門 公共政策学』⑤ 実施
7	『入門 公共政策学』⑥ 評価
8	『入門 公共政策学』⑦ 公共政策の改善
9	『職業としての官僚』① 日本の官僚の実像
10	『職業としての官僚』② 平成期公務員制度改革
11	『職業としての官僚』③ 英米独仏4か国からの示唆
12	『職業としての官僚』④ 官僚論から現代への示唆
13	『職業としての官僚』⑤ 結び
14	卒業研究のテーマ報告
15	卒業研究の方法論報告
16	『四大公害病』① 水俣病
17	『四大公害病』② 新潟水俣病
18	『四大公害病』③ イタイイタイ病
19	『四大公害病』④ 四日市公害
20	『四大公害病』⑤ 公害病と二一世紀
21	四日市公害と環境未来館の見学前準備
22	四日市公害と環境未来館の見学
23	卒業研究の内容についての個別報告
24	資料の収集状況についての個別報告
25	卒業研究の構成についての個別報告
26	卒業研究についての個別指導
27	卒業研究についての個別相談
28	卒業研究—研究内容の個別報告
29	卒業研究—質問と討議
30	全体のまとめ
到達目標	①日本の政治や行政への問題関心を深める。 ②自らの見解を分かりやすく伝えることができる。 ③卒論作成を通じ、科学的な態度を身に付ける。
予習内容/復習内容	毎回の授業で扱う文献の指定箇所を事前に読み、疑問点を整理しておくこと。授業後に議論の内容を整理し、疑問点を解消しておくこと。

教科書	受講生と相談して決める。
成績評価	出席時の発言内容（50％）と報告内容（50％）で評価する。
実務経験	
その他特記事項	本科目は演習科目であるので、毎回の出席は当然のこととして参加すること（無断欠席は大きく評価を下げる）。また受講生には議論への積極的な参加＝発言を求める。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2年	4	必修
担当教員			
杉田 和正			
		演習	
添付ファイル			

ディプロマ・ポリシー	<p>大学DP</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 1. 創造性豊かな人間性と優れた専門性を身につけた学生 □ 2. 実社会で活躍できる知的・人間的資質を身につけた学生 □ 3. 地域社会を主体的に担う態度を身につけた学生 ■ 4. 国際社会に対する理解とコミュニケーション能力や情報社会に対応できる能力を身につけた学生 <p>法経科第1部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 法律・政治・経済・経営など社会科学の基幹分野に関する基本的な知識を修得し、最新の学問的到達についても一定の理解をもっている。 □ 2. 現代社会の諸問題について、専門的知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 □ 3. 修得した学識を職業生活上の実践的課題に適用することができる。 □ 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 □ 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>法経科第2部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 1. 社会科学について広く基礎的な素養を身につけている。 ■ 2. 現代社会の諸問題について、学修した知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 ■ 3. 多様な目的意識を持つ幅広い年齢層の学生がともに学生生活を送ることを通じて、豊かな人間関係を構築できるコミュニケーション能力を身につけている。 □ 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 ■ 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>食物栄養学科食物栄養学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 栄養士として必要な食に関する幅広い専門知識と技能を有している。 □ 2. 食と健康に関する様々な課題に対して、科学的根拠に基づいた多面的・総合的な理解及び判断ができる。 □ 3. 豊かな教養、高い倫理観、優れたコミュニケーション力を備え、栄養士として適切な栄養管理・指導を実践できる。 □ 4. 習得した専門知識と技能を基に、地域社会と連携して食と健康の分野で主体的に活躍できる能力を備えている。 <p>生活科学科生活科学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 「いのち」と「暮らし」に関わるニーズが多様化する社会にあって、それらについての基礎的な教養を身につけている。 □ 2. 生活福祉・心理コースにあっては、社会福祉学と心理学を総合した視点に立って、社会や人間に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 □ 3. 居住環境コースにあっては、住生活や環境という視点に立って、生活環境に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 □ 4. 高い公共性と倫理性を備え、地域や社会に主体的、積極的に貢献していこうとする態度が身につけている。 <p>※■が該当項目</p>
------------	---

授業概要/授業目的	本演習は、二つのパートを織りなすことで展開する。一つは、参加者全員で、論文執筆の技法や法律文献の読み方を学ぶことである。もう一つは、それを基礎に、参加者各人が、民法を中心とした自らの興味関心と向き合い、テーマを選択し、それについて調べ、報告することである。これらを通じ、最終的に、各人がそれぞれの卒業論文を執筆することを目標とする。
授業計画	<p>1 前期ガイダンス、自己紹介</p> <p>2 卒業研究の進め方</p>

	3	研究倫理
	4	法令、判例、文献の探し方
	5	報告レジュメの作成方法
	6	文献講読：総則に関して
	7	文献講読：物権に関して
	8	文献講読：債権に関して
	9	興味のある研究テーマの報告
	10	テーマに関連する法令の報告
	11	テーマに関連する判例の報告
	12	テーマに関連する学説の報告
	13	卒業論文で扱う研究テーマの決定
	14	夏休み中の研究計画の報告
	15	前期まとめ
	16	後期ガイダンス
	17	夏休み中の研究進捗の報告
	18	文献講読：親族に関して
	19	文献講読：相続に関して
	20	卒業論文の目次の作成
	21	卒業論文の序論の作成
	22	卒業論文で扱う判例の整理
	23	卒業論文で扱う学説の整理
	24	卒業論文の結論の作成
	25	卒業論文の参考文献表の作成と仕上げ
	26	卒業論文の最終報告と質疑応答①
	27	卒業論文の最終報告と質疑応答②
	28	卒業論文の最終報告と質疑応答③
	29	卒業論文の最終報告と質疑応答④
	30	後期まとめ
到達目標	(1) 授業準備と報告を通じ、自ら調べ、まとめ、他者に伝えることができるようになる。 (2) 卒業論文執筆を通じ、学術的文章を書けるようになる。	
予習内容/復習内容	予習：報告用資料の作成。 復習：配布資料やノートの振り返り。	
教科書	最新の六法。	

成績評価	授業への参加態度（発言の有無など）50%と成果物（報告レジュメや卒業論文）50%から総合的に評価する。
実務経験	
その他特記事項	授業計画は適宜変更の可能性がある。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2年	4	必修
担当教員			
西川 昇吾			
		演習	
添付ファイル			

ディプロマ・ポリシー	<p>大学DP</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 1. 創造性豊かな人間性と優れた専門性を身につけた学生 □ 2. 実社会で活躍できる知的・人間的資質を身につけた学生 □ 3. 地域社会を主体的に担う態度を身につけた学生 ■ 4. 国際社会に対する理解とコミュニケーション能力や情報社会に対応できる能力を身につけた学生 <p>法経科第1部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 法律・政治・経済・経営など社会科学の基幹分野に関する基本的な知識を修得し、最新の学問的到達についても一定の理解をもっている。 □ 2. 現代社会の諸問題について、専門的知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 □ 3. 修得した学識を職業生活上の実践的課題に適用することができる。 □ 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 □ 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>法経科第2部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 1. 社会科学について広く基礎的な素養を身につけている。 ■ 2. 現代社会の諸問題について、学修した知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 ■ 3. 多様な目的意識を持つ幅広い年齢層の学生がともに学生生活を送ることを通じて、豊かな人間関係を構築できるコミュニケーション能力を身につけている。 □ 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 ■ 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>食物栄養学科食物栄養学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 栄養士として必要な食に関する幅広い専門知識と技能を有している。 □ 2. 食と健康に関する様々な課題に対して、科学的根拠に基づいた多面的・総合的な理解及び判断ができる。 □ 3. 豊かな教養、高い倫理観、優れたコミュニケーション力を備え、栄養士として適切な栄養管理・指導を実践できる。 □ 4. 習得した専門知識と技能を基に、地域社会と連携して食と健康の分野で主体的に活躍できる能力を備えている。 <p>生活科学科生活科学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 「いのち」と「暮らし」に関わるニーズが多様化する社会にあって、それらについての基礎的な教養を身につけている。 □ 2. 生活福祉・心理コースにあっては、社会福祉学と心理学を総合した視点に立って、社会や人間に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 □ 3. 居住環境コースにあっては、住生活や環境という視点に立って、生活環境に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 □ 4. 高い公共性と倫理性を備え、地域や社会に主体的、積極的に貢献していこうとする態度が身につけている。 <p>※■が該当項目</p>
------------	---

授業概要/授業目的	<p>本演習では、社会科学、とりわけ労働法に関する争点・課題について、教員からの情報提供や発問等のもと、学生が一同となって研究・討議し、それらを成果として最終的に文章化する。具体的には、毎回、原則として学生1名が、自ら決定した主題に関する判例や法律文献等について報告し、それを受けて、教員と学生が、それぞれの立場から評価や疑問、意見を述べ、さらに他者が発言を積み重ねていく。それにより、労働法に関する諸問題について調査・考察しうる力を養うとともに、自説の打ち立てられた卒業論文を作成することが、本演習の目的である。</p>
授業計画	<p>1 研究倫理の確認／検討判例の選定・報告順の決定</p> <p>2 書面性を欠く労使合意と労働協約に関する判例の研究</p>

	3	労働時間規制の管理監督者に対する適用除外に関する判例の事実研究
	4	労働時間規制の管理監督者に対する適用除外に関する判例の要旨研究
	5	障害者雇用における合理的配慮に関する判例の事実研究
	6	パワー・ハラスメントに関する判例の事実研究
	7	パワー・ハラスメントに関する判例の要旨研究
	8	時間外労働義務に関する判例の事実研究
	9	時間外労働義務に関する判例の要旨研究
	10	変更就業規則への同意に関する判例の事実研究
	11	変更就業規則への同意に関する判例の要旨研究
	12	個別的労働関係における労働者に関する判例の事実研究
	13	個別的労働関係における労働者に関する判例の要旨研究
	14	法律文献の研究方法
	15	平和義務違反の争議行為に関する判例の研究
	16	労働時間規制の管理監督者に対する適用除外に関する法律文献の研究
	17	障害者雇用における合理的配慮に関する法律文献の研究
	18	パワー・ハラスメントに関する法律文献の研究
	19	時間外労働義務に関する法律文献の研究
	20	変更就業規則への同意に関する法律文献の研究
	21	個別的労働関係における労働者に関する法律文献の研究
	22	労働基本権の制限に関する判例の研究
	23	卒業論文の執筆方法
	24	労働時間規制の管理監督者に対する適用除外に関する卒業論文の報告
	25	障害者雇用における合理的配慮に関する卒業論文の研究
	26	パワー・ハラスメントに関する卒業論文の研究
	27	時間外労働義務に関する卒業論文の報告
	28	変更就業規則への同意に関する卒業論文の報告
	29	個別的労働関係における労働者に関する卒業論文の報告
	30	総括・講評
到達目標	①裁判所的事实認定・判旨を正確に把握でき、それらを他者へ段階的に説明することができる。 ②自己や他者の主題に対して、直感的立場や分析視角をもつことができる。 ③自己の主題に対する自説を構想し、それを文章で表現・説明しうる力を獲得する。	
予習内容/復習内容	ゼミ生自らが、教科書の該当頁を事前に一読すること等により予習し、自己の報告・発言でよかった点と足	

	りなかった点を自己評価すること等により復習する。
教科書	別冊ジュリストNo.257『労働判例百選 [第10版] 』（有斐閣、2022年）、および『六法』が必要である。
成績評価	平常点（演習に臨む意欲・態度、議論への参加度）50%、卒業論文（調査結果の整理、論点の解明、自説の展開等の可否）50%により、成績評価を行う。
実務経験	
その他特記事項	本演習では、学生の積極的な発言が期待されており、それゆえ、各ゼミ生は、自己の主題だけでなく、他者の主題に関する基本的な知識についても、事前に理解したうえで、演習に臨んでほしい。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2年	4	必修
担当教員			
浅野 和也			
	演習		
添付ファイル			

ディプロマ・ポリシー	<p>大学DP</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 1. 創造性豊かな人間性と優れた専門性を身につけた学生 □ 2. 実社会で活躍できる知的・人間的資質を身につけた学生 □ 3. 地域社会を主体的に担う態度を身につけた学生 ■ 4. 国際社会に対する理解とコミュニケーション能力や情報社会に対応できる能力を身につけた学生 <p>法経科第1部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 法律・政治・経済・経営など社会科学の基幹分野に関する基本的な知識を修得し、最新の学問的到達についても一定の理解をもっている。 □ 2. 現代社会の諸問題について、専門的知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 □ 3. 修得した学識を職業生活上の実践的課題に適用することができる。 □ 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 □ 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>法経科第2部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 1. 社会科学について広く基礎的な素養を身につけている。 ■ 2. 現代社会の諸問題について、学修した知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 ■ 3. 多様な目的意識を持つ幅広い年齢層の学生がともに学生生活を送ることを通じて、豊かな人間関係を構築できるコミュニケーション能力を身につけている。 □ 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 ■ 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>食物栄養学科食物栄養学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 栄養士として必要な食に関する幅広い専門知識と技能を有している。 □ 2. 食と健康に関する様々な課題に対して、科学的根拠に基づいた多面的・総合的な理解及び判断ができる。 □ 3. 豊かな教養、高い倫理観、優れたコミュニケーション力を備え、栄養士として適切な栄養管理・指導を実践できる。 □ 4. 習得した専門知識と技能を基に、地域社会と連携して食と健康の分野で主体的に活躍できる能力を備えている。 <p>生活科学科生活科学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 「いのち」と「暮らし」に関わるニーズが多様化する社会にあって、それらについての基礎的な教養を身につけている。 □ 2. 生活福祉・心理コースにあっては、社会福祉学と心理学を総合した視点に立って、社会や人間に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 □ 3. 居住環境コースにあっては、住生活や環境という視点に立って、生活環境に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 □ 4. 高い公共性と倫理性を備え、地域や社会に主体的、積極的に貢献していこうとする態度が身につけている。 <p>※■が該当項目</p>
------------	---

授業概要/授業目的	本演習では経営学の基礎理論をふまえて、主に経営者と労働者双方の視点から企業経営と社会・生活の関係について考察しグループディスカッション（GD）を通じて理解を深めていきます。同時に、自分の関心のあるテーマで卒業論文の完成をめざします。
授業計画	<p>1 ガイダンス：演習の進め方と研究倫理</p> <p>2 テーマの選定</p> <p>3 問題意識の確認</p>

	4	論文執筆の意義
	5	論文の起承転結
	6	文献通読：雇用
	7	報告：雇用
	8	GD：雇用
	9	文献通読：賃金
	10	報告：賃金
	11	GD：賃金
	12	文献通読：労働時間
	13	報告：労働時間
	14	GD：労働時間
	15	卒業論文の進捗状況報告
	16	卒業論文の進捗状況報告
	17	文献通読：能力開発
	18	報告：能力開発
	19	GD：能力開発
	20	文献通読：ワーク・ライフ・バランス
	21	報告：ワーク・ライフ・バランス
	22	GD：ワーク・ライフ・バランス
	23	文献通読：労使関係
	24	報告：労使関係
	25	GD：労使関係
	26	文献通読：ブラック企業
	27	報告：ブラック企業
	28	GD：ブラック企業
	29	卒業論文の最終確認
	30	総括：卒業論文の発表
到達目標	経営者と労働者の視点双方から企業経営・労働に関する制度や政策の分析に取り組み、自分の考えをまとめることができるようになること。また、企業の施策が社会に何をもたらすのか、課題を抽出し自分の考えを卒業論文にまとめること。	
予習内容/復習内容	予習：資料・GDのテーマについて自分の考えをまとめておく。 復習：ゼミ内で議論したことをふまえて卒業論文のブラッシュアップを進める。	
教科書	未定、卒業論文のテーマ等に合わせて紹介・決定します。	

成績評価	毎回の出席は必須。通読のレジメや報告：30%、卒業論文：70%
実務経験	
その他特記事項	やむを得ず遅刻・欠席する場合は必ず連絡してください。 演習の主役は学生の皆さんです。積極的な発言・主体的な行動を期待します。 経営学・人的資源管理論・労働法・ジェンダー論などを受講・受講予定であることが望ましい。

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
通年	2年	4	必修
担当教員			
大畑 智史			
	演習		
添付ファイル			

ディプロマ・ポリシー	<p>大学DP</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 1. 創造性豊かな人間性と優れた専門性を身につけた学生 □ 2. 実社会で活躍できる知的・人間的資質を身につけた学生 □ 3. 地域社会を主体的に担う態度を身につけた学生 ■ 4. 国際社会に対する理解とコミュニケーション能力や情報社会に対応できる能力を身につけた学生 <p>法経科第1部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 法律・政治・経済・経営など社会科学の基幹分野に関する基本的な知識を修得し、最新の学問的到達についても一定の理解をもっている。 □ 2. 現代社会の諸問題について、専門的知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 □ 3. 修得した学識を職業生活上の実践的課題に適用することができる。 □ 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 □ 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>法経科第2部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 1. 社会科学について広く基礎的な素養を身につけている。 ■ 2. 現代社会の諸問題について、学修した知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 ■ 3. 多様な目的意識を持つ幅広い年齢層の学生がともに学生生活を送ることを通じて、豊かな人間関係を構築できるコミュニケーション能力を身につけている。 □ 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 ■ 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>食物栄養学科食物栄養学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 栄養士として必要な食に関する幅広い専門知識と技能を有している。 □ 2. 食と健康に関する様々な課題に対して、科学的根拠に基づいた多面的・総合的な理解及び判断ができる。 □ 3. 豊かな教養、高い倫理観、優れたコミュニケーション力を備え、栄養士として適切な栄養管理・指導を実践できる。 □ 4. 習得した専門知識と技能を基に、地域社会と連携して食と健康の分野で主体的に活躍できる能力を備えている。 <p>生活科学科生活科学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 「いのち」と「暮らし」に関わるニーズが多様化する社会にあって、それらについての基礎的な教養を身につけている。 □ 2. 生活福祉・心理コースにあっては、社会福祉学と心理学を総合した視点に立って、社会や人間に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 □ 3. 居住環境コースにあっては、住生活や環境という視点に立って、生活環境に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 □ 4. 高い公共性と倫理性を備え、地域や社会に主体的、積極的に貢献していこうとする態度が身につけている。 <p>※■が該当項目</p>
------------	---

授業概要/授業目的	地方創生は、現在の日本における重要な論点の一つです。本演習では、地方創生に関する議論などの取組みを通じ、履修生が、日本の地方が抱える問題の解決策を専門的に考えられるようになることを目標とします。
授業計画	<p>1 オリエンテーション：地方創生概観、研究倫理</p> <p>2 文献講読、卒論テーマ、国家財政</p> <p>3 文献講読、卒論テーマ、地方財政</p>

	4	文献講読、卒論経過報告、人口減少
	5	文献講読、卒論経過報告、少子高齢化
	6	文献講読、卒論経過報告、人口移動
	7	文献講読、卒論経過報告、移民
	8	文献講読、卒論経過報告、ICT活用
	9	文献講読、卒論経過報告、産業集積
	10	文献講読、卒論経過報告、まちづくり
	11	文献講読、卒論経過報告、地域資源
	12	文献講読、卒論経過報告、観光
	13	文献講読、卒論経過報告、農業
	14	文献講読、卒論経過報告、六次産業化
	15	卒論経過報告会：地方創生策
	16	文献講読、卒論経過報告、地方分権
	17	文献講読、卒論経過報告、公民連携
	18	文献講読、卒論経過報告、公共財
	19	文献講読、卒論経過報告、予算
	20	文献講読、卒論経過報告、社会保障
	21	文献講読、卒論経過報告、ふるさと納税
	22	文献講読、卒論経過報告、租税原則
	23	文献講読、卒論経過報告、国税
	24	文献講読、卒論経過報告、地方税
	25	文献講読、卒論経過報告、国債
	26	文献講読、卒論経過報告、地方債
	27	文献講読、卒論経過報告、特定補助金
	28	文献講読、卒論経過報告、一般補助金
	29	文献講読、卒論経過報告、財政健全化
	30	卒論最終報告会：地方創生策の効果
到達目標	①地方創生の基礎的概念を理解できる。 ②地方創生の取組みなどの現状を理解できる。 ③地方創生策について専門的に考察することができる。	
予習内容/復習内容	予習：次回の報告テーマについて調べる。 復習：今回の議論の内容と自分の卒業論文の内容との関連性について考え、これを整理する。	
教科書	教科書は特に指定しません。本演習関連の文献については、適宜紹介します。	
成績評価	出席（演習時の発言）：20%	

	卒業論文関係（報告・議論・提出）：80%
実務経験	
その他特記事項	<ul style="list-style-type: none">・できるだけ、財政学関連の講義を受講して下さい。・学外学習を実施する予定です。 <p>（参考）2024年度訪問先：吉野町、松阪市（2024年11月時点の予定） 2023年度訪問先：明和町、鳥羽市</p>

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	全学年	2	選択
担当教員			
小野寺一成			
	講義		
添付ファイル			

ディプロマ・ポリシー	<p>大学DP</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 1. 創造性豊かな人間性と優れた専門性を身につけた学生 □ 2. 実社会で活躍できる知的・人間的資質を身につけた学生 ■ 3. 地域社会を主体的に担う態度を身につけた学生 □ 4. 国際社会に対する理解とコミュニケーション能力や情報社会に対応できる能力を身につけた学生 <p>法経科第1部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 1. 法律・政治・経済・経営など社会科学の基幹分野に関する基本的な知識を修得し、最新の学問的到達についても一定の理解をもっている。 ■ 2. 現代社会の諸問題について、専門的知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 □ 3. 修得した学識を職業生活上の実践的課題に適用することができる。 □ 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 ■ 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>法経科第2部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 社会科学について広く基礎的な素養を身につけている。 □ 2. 現代社会の諸問題について、学修した知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 □ 3. 多様な目的意識を持つ幅広い年齢層の学生がともに学生生活を送ることを通じて、豊かな人間関係を構築できるコミュニケーション能力を身につけている。 □ 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 □ 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>食物栄養学科食物栄養学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 栄養士として必要な食に関する幅広い専門知識と技能を有している。 □ 2. 食と健康に関する様々な課題に対して、科学的根拠に基づいた多面的・総合的な理解及び判断ができる。 □ 3. 豊かな教養、高い倫理観、優れたコミュニケーション力を備え、栄養士として適切な栄養管理・指導を実践できる。 □ 4. 習得した専門知識と技能を基に、地域社会と連携して食と健康の分野で主体的に活躍できる能力を備えている。 <p>生活科学科生活科学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 「いのち」と「暮らし」に関わるニーズが多様化する社会にあって、それらについての基礎的な教養を身につけている。 □ 2. 生活福祉・心理コースにあっては、社会福祉学と心理学を総合した視点に立って、社会や人間に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 □ 3. 居住環境コースにあっては、住生活や環境という視点に立って、生活環境に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 ■ 4. 高い公共性と倫理性を備え、地域や社会に主体的、積極的に貢献していこうとする態度が身につけている。 <p>※■が該当項目</p>
------------	---

授業概要/授業目的	地域政策とは、地域問題を把握し、その解決を図る政策のことである。人口の減少・超高齢化、経済等の国際化、財政の困難等多くの課題に直面しながらも、その地域をより良くしていくよう、活性化の手法やあり方などを理解することが、本講義の目的となる。本講義では、豊かな地域を実現するために必要な社会資本などの国土政策を中心として、三重県及び県内市町村などの具体例をあげながら講義する。
授業計画	<p>1 ガイダンス：地域政策とは、国土のグランドデザイン</p> <p>2 社会資本の歴史とその役割</p>

	3	社会資本を取り巻く社会の状況
	4	今後の社会資本のあり方 ー維持管理ー
	5	今後の社会資本のあり方 ー将来を見越した取り組みー
	6	社会資本に関する国土交通行政の方向
	7	観光立国と美しい国づくり
	8	講義前半のまとめと中間試験
	9	東日本大震災からの復興に向けた取り組み
	10	美しく良好な環境の保全と創造
	11	安全・安心社会
	12	競争力のある社会
	13	心地よい生活空間づくり
	14	地域活性化の推進
	15	全講義のまとめ
到達目標	我が国、特に地方都市において、地域の活性化を考えていく基礎知識を身につけられるようになる。	
予習内容/復習内容	予習：各講義のテーマに関連した文献や講義中に示した参考文献などに目を通しておくこと。 復習：毎回配布する資料を復習するとともに、講義の重要なキーワードを理解しておくこと。	
教科書	テキストは使用しない。基本的には、Power Point を使用した講義。ppt資料などを配布。 テーマによっては、DVD 教材などの視聴覚教材の利用。参考文献などは講義中に提示。	
成績評価	中間試験(40%)、定期試験(50%)、講義後小レポート(10%)をあわせて評価。 1/3を超えて欠席した場合は評価の対象外、遅刻3回で1回の欠席とみなす。	
実務経験	都市計画事務所に勤務し、市町村総合計画、都市計画マスタープラン、住環境整備計画、地区計画、公営住宅統廃合計画などを策定したほか、住環境整備事業や公営住宅建替事業等に参画。授業では、これらの実務経験を活かした実践的な調査研究、計画・設計力の養成に努める。	
その他特記事項	授業の最後に、当日行った講義の重要なキーワードの回答を求める簡単な講義後小レポート(A6判)を予定。	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	全学年	2	選択
担当教員			
笠 浩一郎			
	講義		
添付ファイル			

ディプロマ・ポリシー	<p>大学DP</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 1. 創造性豊かな人間性と優れた専門性を身につけた学生 □ 2. 実社会で活躍できる知的・人間的資質を身につけた学生 □ 3. 地域社会を主体的に担う態度を身につけた学生 ■ 4. 国際社会に対する理解とコミュニケーション能力や情報社会に対応できる能力を身につけた学生 <p>法経科第1部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 1. 法律・政治・経済・経営など社会科学の基幹分野に関する基本的な知識を修得し、最新の学問的到達についても一定の理解をもっている。 ■ 2. 現代社会の諸問題について、専門的知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 ■ 3. 修得した学識を職業生活上の実践的課題に適用することができる。 □ 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 ■ 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>法経科第2部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 社会科学について広く基礎的な素養を身につけている。 □ 2. 現代社会の諸問題について、学修した知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 □ 3. 多様な目的意識を持つ幅広い年齢層の学生がともに学生生活を送ることを通じて、豊かな人間関係を構築できるコミュニケーション能力を身につけている。 □ 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 □ 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>食物栄養学科食物栄養学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 栄養士として必要な食に関する幅広い専門知識と技能を有している。 □ 2. 食と健康に関する様々な課題に対して、科学的根拠に基づいた多面的・総合的な理解及び判断ができる。 □ 3. 豊かな教養、高い倫理観、優れたコミュニケーション力を備え、栄養士として適切な栄養管理・指導を実践できる。 □ 4. 習得した専門知識と技能を基に、地域社会と連携して食と健康の分野で主体的に活躍できる能力を備えている。 <p>生活科学科生活科学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 「いのち」と「暮らし」に関わるニーズが多様化する社会にあって、それらについての基礎的な教養を身につけている。 □ 2. 生活福祉・心理コースにあっては、社会福祉学と心理学を総合した視点に立って、社会や人間に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 ■ 3. 居住環境コースにあっては、住生活や環境という視点に立って、生活環境に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 □ 4. 高い公共性と倫理性を備え、地域や社会に主体的、積極的に貢献していこうとする態度が身につけている。 <p>※■が該当項目</p>
------------	---

授業概要/授業目的	情報科学から生み出された技術により、人間の生活は大きく変化している。特に、コンピュータの出現は、人間の暮らしを劇変させた。コンピュータの歴史や仕組みを学び、日常的に利用している情報サービスの仕組みを理解することで、情報技術を高度かつ的確に利用できるようになることを目的とする。講義は、情報技術の基本となる内容が中心ではあるが、専門的な知識も多く紹介する。また、ITパスポート試験、及び、基本情報技術者試験の対策にもなる授業内容である。
授業計画	<p>1 コンピュータの歴史、コンピュータの構成</p> <p>2 情報の表現1（2進数）</p>

	3	情報の表現 2 (16進数、文字コード)
	4	論理演算と論理式
	5	論理回路
	6	ネットワーク 1 (LANとWAN、無線LAN)
	7	ネットワーク 2 (ネットワーク機器、TCP/IP)
	8	ネットワーク 3 (WWW、電子メール)
	9	データベース 1 (関係データベース、正規化)
	10	データベース 2 (SQL、排他制御、障害管理)
	11	アルゴリズムとデータ構造 1 (構造化プログラミング)
	12	アルゴリズムとデータ構造 2 (データ構造、ソート)
	13	情報理論 1 (情報量、符号化)
	14	情報理論 2 (オートマトン、形式言語)
	15	機械学習 (ニューラルネットワーク、強化学習)
到達目標	コンピュータの歴史や仕組みを学び、日常的に利用している情報サービスの仕組みを理解することで、情報技術を高度かつ的確に利用できるようになることを本講義の到達目標とする。	
予習内容/復習内容	授業の最後に次回の講義の内容の一部を紹介するので、予習してくる。ほぼ毎回、前回の復習の小テストを実施するので、復習しておくように。	
教科書	資料を毎回配布する。参考文献は講義内で紹介する。	
成績評価	毎回の小テスト (50%)、期末試験 (50%)	
実務経験		
その他特記事項	なし	

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
後期	全学年	2 単位	選択
担当教員			
南 有哲			
添付ファイル			

ディプロマ・ポリシー	<p>大学DP</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 1. 創造性豊かな人間性と優れた専門性を身につけた学生 □ 2. 実社会で活躍できる知的・人間的資質を身につけた学生 □ 3. 地域社会を主体的に担う態度を身につけた学生 □ 4. 国際社会に対する理解とコミュニケーション能力や情報社会に対応できる能力を身につけた学生 <p>法経科第1部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 1. 法律・政治・経済・経営など社会科学の基幹分野に関する基本的な知識を修得し、最新の学問的到達についても一定の理解をもっている。 ■ 2. 現代社会の諸問題について、専門的知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 □ 3. 修得した学識を職業生活上の実践的課題に適用することができる。 □ 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 ■ 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>法経科第2部（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 社会科学について広く基礎的な素養を身につけている。 □ 2. 現代社会の諸問題について、学修した知識に基づいて論理的に考え、自分の意見を的確に表現することができる。 □ 3. 多様な目的意識を持つ幅広い年齢層の学生がともに学生生活を送ることを通じて、豊かな人間関係を構築できるコミュニケーション能力を身につけている。 □ 4. 社会に対する学問的見識と文化や自然についての幅広い教養を基礎として、広い視野と寛容さを身につけている。 □ 5. 地域が抱える諸問題に広く関心を持ち、市民として諸課題解決に向けて積極的に関与することで地域社会の発展に貢献できる。 <p>食物栄養学科食物栄養学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 栄養士として必要な食に関する幅広い専門知識と技能を有している。 □ 2. 食と健康に関する様々な課題に対して、科学的根拠に基づいた多面的・総合的な理解及び判断ができる。 □ 3. 豊かな教養、高い倫理観、優れたコミュニケーション力を備え、栄養士として適切な栄養管理・指導を実践できる。 □ 4. 習得した専門知識と技能を基に、地域社会と連携して食と健康の分野で主体的に活躍できる能力を備えている。 <p>生活科学科生活科学専攻（学科DP）</p> <ul style="list-style-type: none"> □ 1. 「いのち」と「暮らし」に関わるニーズが多様化する社会にあって、それらについての基礎的な教養を身につけている。 □ 2. 生活福祉・心理コースにあっては、社会福祉学と心理学を総合した視点に立って、社会や人間に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 ■ 3. 居住環境コースにあっては、住生活や環境という視点に立って、生活環境に関わる課題に取り組む能力を身につけている。 □ 4. 高い公共性と倫理性を備え、地域や社会に主体的、積極的に貢献していこうとする態度が身につけている。 <p>※■が該当項目</p>
------------	---

授業概要/授業目的	21世紀の市民にとっては、環境問題について生活者の立場から発言し行動するだけでは不十分であり、政治に参加する権利を持つ者として環境政策に積極的にかかわっていくことが求められるものと考えられる。本講義の目標は、環境政策を考える上での基本的な概念となる「環境問題」「市場経済」「国家」について概観した後、現代における環境政策の核心ともいえる「気候政策」およびこれと関連して言及されることの多い「原子力」について説明し、あるべき環境政策のあり方について考察する予定である。
授業計画	<p>1 はじめにー「人新世」としての現代① 人新世とは何か</p> <p>2 「人新世」としての現代② 大量絶滅について</p>

	3	「人新世」とは何か③ 第6次大量絶滅と人類の未来
	4	「人新世」の背景としての工業化① 工業化とは何か
	5	「人新世」の背景としての工業化② 産業革命と工業化の展開
	6	市場経済と共同体
	7	市場経済の必然的所産としての環境問題・環境政策の必要性と国家
	8	南北問題と環境破壊
	9	気候政策の国際的展開①—気候変動枠組条約と京都議定書
	10	気候政策の国際的展開②—パリ協定とそれ以降
	11	日本の気候政策① 旧自公政権期と民主党政権期
	12	日本の気候政策② 民主党政権期から新自公政権期
	13	原子力発電について① 原子力発電の原理と仕組み
	14	原子力発電について② 日本における原発政策—安全神話の散布と原発交付金
	15	講義のまとめ～「人新世」を乗り越えていくために
到達目標		「環境政策」が必要とされる根本的な原理的・歴史的・社会的背景について理解を深める。特に、現代において最重要とされる「気候政策」については、報道される内容をよく理解し、自らの頭で生活者・主権者として思考し行動できるようになることを目標とする。
予習内容/復習内容		予習に関しては、あらかじめ配布した資料の次回該当部分の提示を受け学習する。復習に関しては、毎回小レポートで当日の講義の振り返りを行い、疑問・質問について次回講義にて回答を受ける。
教科書		特に指定せず。独自に作成したレジュメや図表など資料を配布する。
成績評価		毎回小レポート…50% 定期試験…50%
実務経験		なし
その他特記事項		毎回小レポートに内容の記載がない場合、その回のレポートについては「不可」扱いとする。